

2020年度

(令和2年度)

シラバス

(授業概要)

＜スポーツ情報マスメディア学科＞

仙台大学 体育学部

○スポーツ情報マスメディア学科

1. 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

- ・スポーツ情報の関連分野を修得し、多面的な履修を通じて卒業後社会で専門性を発揮できる力と専門的な学修能力を養うとともに、すべての人の健康増進やスポーツ選手の競技力向上に必要な運動・スポーツと情報の活用に関する深い知識と感性を有し、これを実践できる力を身に付けること
- ・その上で、現代社会において運動・スポーツとスポーツ情報に関する専門性が果たすべき役割を深く理解すること
 - i) スポーツ情報戦略・マスメディアに関する専門的・応用的な知識・技術を身につけることができる
 - ii) スポーツ情報の収集、分析・加工（編集）、伝達（提供）の役割、重要性を深く理解することができる
 - iii) スポーツ情報の収集、分析・加工（編集）の場において、知識・技能を相手に的確に伝えることができる
 - iv) 多様な人々と円滑な人間関係を築くことができ、指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて適切にコミュニケーションができる
 - v) 論理的かつ多面的に考え、多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探求し、主体性を持って課題解決に取り組むことができる

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

- ・求められるスポーツ情報を迅速に、かつ効果的に「収集・分析・加工（編集）して伝える」ことを学べるよう「情報戦略」と「マスメディア」の二つの履修モデルを設け、いずれの履修モデルにおいてもスポーツ界の様々な現場で即戦力となれるよう、授業の多くに体験型の学習、演習形式を取り入れると共に、関連資格が取得できるよう配慮したカリキュラムを用意しています。
 - i) 運動・スポーツに関する専門的な知識・技能や学校教育における体育指導についての基礎を修得する科目
 - ii) スポーツ情報に関する専門的な知識・技能を修得する科目
 - iii) 競技現場やメディアでの演習からスポーツ情報の実践・活用法を修得する科目
 - iv) スポーツ情報戦略を専門的に学び、競技力向上を目指した情報の収集・分析・伝達を実際の体験を通じて主体的に修得する科目
 - v) スポーツマスメディアを専門的に学び、スポーツ情報を適切に扱うための取材・編集（加工）・提供を実際の体験を通じて主体的に修得する科目

予習・復習（授業時間外学修）について（注意）

文部科学省の定める「大学設置基準」においては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。

本学においては「講義」、「演習」の科目は一部科目を除き2単位（必要な総学修時間は90時間）としていますが、2時間の授業（90分を2時間と換算）を15回（合計30時間）実施していますので、残りの60時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

また、「実験」、「実習」、「実技」の科目は一部科目を除き1単位（必要な総学修時間は45時間）としていますが、2時間の授業（90分を2時間と換算）を15回（合計30時間）実施していますので、残りの15時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

履修計画を立てる際には、以上のような予習・復習の時間が必要であることを十分に考慮に入れてください。

目 次

1. 基礎科目

《教養基礎科目》

導入演習	2
情報処理	3
学習基礎教養演習	4
総合英語A (含外国語コミュニケーション) <レベル1>…	5
総合英語A (含外国語コミュニケーション) <レベル2>…	6
総合英語A (含外国語コミュニケーション) <レベル3>…	7
総合英語A (含外国語コミュニケーション) <レベル4>…	8
総合英語A (含外国語コミュニケーション) <レベル5>…	9
総合英語B (含外国語コミュニケーション) <レベル2>…	10
総合英語B (含外国語コミュニケーション) <レベル3>…	11
総合英語B (含外国語コミュニケーション) <レベル4>…	12
総合英語B (含外国語コミュニケーション) <レベル5>…	13
総合英語B (含外国語コミュニケーション) <レベル6>…	14
総合英語C (含外国語コミュニケーション) <レベル3>…	15
総合英語C (含外国語コミュニケーション) <レベル4>…	16
総合英語C (含外国語コミュニケーション) <レベル5>…	17
総合英語C (含外国語コミュニケーション) <レベル6>…	18
総合英語C (含外国語コミュニケーション) <レベル7>…	19
総合英語D (含外国語コミュニケーション) <レベル4>…	20
総合英語D (含外国語コミュニケーション) <レベル5>…	21
総合英語D (含外国語コミュニケーション) <レベル6>…	22
総合英語D (含外国語コミュニケーション) <レベル7>…	23
総合英語D (含外国語コミュニケーション) <レベル8>…	24

《教養展開科目》

(人文分野)

スポーツと哲学	26
スポーツと現代思想	27
心理学概論	28
人の心と行動	29
ことばと人間A	30
ことばと人間B (日本語クラス)	31
ことばと人間B (英語クラス)	32

(社会分野)

社会学概論	34
社会構造と人間関係	35
消費経済とスポーツ	36
世界経済・日本経済とスポーツ	37
法学	38
歴史学入門	39
歴史と人間	40

(自然分野)

生物科学	42
エコロジー概論	43
教養数学	44

(教養演習)

体育系大学の基礎教養	46
仙台大学の専門教養演習Ⅰ	17
仙台大学の専門教養演習Ⅱ	48
仙台大学の専門教養演習Ⅲ	49

《海外文化科目》

スポーツに何故英語が必要か	52
英会話A	53
英会話B	54
英会話C	55
スポーツ&イングリッシュ	56
就職のための英語	57
スペイン語Ⅰ	58
中国語Ⅰ	59
中国語Ⅱ	60
韓国語Ⅰ (金賢植クラス)	61
韓国語Ⅰ (金一坤クラス)	62
韓国語Ⅱ (金賢植クラス)	63
韓国語Ⅱ (金一坤クラス)	64

《人生設計科目》

キャリアプランニングⅠ	66
-------------	----

キャリアプランニングⅡ	67
キャリアプランニングⅢ	68

2. 専門基礎科目

《講義》

スポーツ史	70
スポーツ経営学	71
スポーツ社会学	72
スポーツ心理学	73
運動生理学	74
スポーツバイオメカニクス	75
スポーツ指導の基礎（含実習）	76
スポーツマスメディア概論	77
スポーツ情報マスメディア総論	78
スポーツ観戦論	79
映像基礎（演習）	80
文章基礎（演習）	81
データ分析・活用演習Ⅰ	82
ヒューマンリレーション演習Ⅰ	83

《実技》

トレーニングの基礎	86
陸上競技	87
器械運動（男子）	88
器械運動（女子）	89
水泳	90
バレーボール	91
テニス	92
バドミントン	93
卓球	94
バスケットボール	95
ハンドボール	96
サッカー（吉井クラス）	97
サッカー（黒澤クラス）	98
ラグビー	99
柔道	100
剣道	101

ダンスⅠ	102
海浜実習	103
スキーⅠ	104
キャンプ	105
スケート	106

3. 発展科目

スポーツ情報戦略概論	108
スポーツ広報論	109
ヒューマンリレーション演習Ⅱ	110
スポーツ情報戦略論演習A	111
スポーツ情報戦略論演習B	112
スポーツ情報戦略論演習C	113
スポーツ情報戦略論実習Ⅰ	114
スポーツ情報戦略論実習Ⅱ	115
スポーツ報道概論	116
マスメディアジャーナリズム理論	117
スポーツ報道・映像制作論	118
スポーツ取材・報道演習A	119
スポーツ取材・報道演習B	120
スポーツ取材・報道演習C	121
スポーツ取材・報道実習Ⅰ	122
スポーツ取材・報道実習Ⅱ	123
グローバルスポーツ情報論	124
マルチメディア論	125
スポーツ文化論	126
スポーツモラル・規範論	127
スポーツ起業論	128
映像実践論（演習）	129
文章実践論（演習）	130
データ分析・活用演習Ⅱ	131
インタビュー論演習	132

4. 応用科目

日本国憲法	134
体育原理	135
解剖・生理学	136

スポーツ医学概論	137	教育課程論	174
スポーツ計量学	138	保健体育科教育論Ⅰ	175
運動学(含運動方法学)	139	保健体育科教育論Ⅱ	176
運動障害救急法(含実習)	140	保健体育科教育論Ⅲ	177
衛生・公衆衛生学	141	保健体育科教育論Ⅳ	178
スポーツ栄養学	142	教育方法論A	179
学校保健学	143	教育相談	180
トップアスリート論	144	生涯学習概論A	181
スポーツマーケティング論	145	生涯学習概論B	182
スポーツ産業論	146	社会教育計画A	183
地域スポーツ戦略論	147	社会教育計画B	184
企業スポーツ論	148	社会教育演習A	185
スポーツ政策論	149	社会教育演習B	186
レジャー・レクリエーション論	150	教育社会学	187
レクリエーション支援論	151	ボランティア活動実践A	188
体操(含体づくり運動)	152	ボランティア活動実践B	189
レクリエーション実技Ⅰ	153	ボランティア活動実践C	190
レクリエーション実技Ⅱ	154	ボランティア活動実践D	191
エアロビックダンス	155	北米のプロスポーツ事情	192
ニュー・ゲームズ	156	海外短期研修A	193
ソフトボール	157	海外短期研修B	194
新体操	158	海外短期研修C	195
ダンスⅡ	159	海外短期研修D	196
ゴルフ	160		
スキーⅡ	161		
マリンスポーツⅠ	162	5. 教職に関する科目	
マリンスポーツⅡ	163	教職論A	198
社会調査法Ⅰ	164	道徳教育論	199
社会調査法Ⅱ	165	生徒指導論A(含進路指導の理論及び方法)	200
社会統計学Ⅰ	166	特別活動論	201
社会統計学Ⅱ	167	教職総合演習	202
社会調査演習	168	教職総合実技	203
社会調査実習①	169	教職実践演習(教論)	204
社会調査実習②	170	教職キャリア演習Ⅰ	205
教育の基礎理論A	171	教職キャリア演習Ⅱ	206
教育の心理	172	保健体育科授業研究Ⅰ	207
教育の制度A	173	保健体育科授業研究Ⅱ	208
		教育実習Ⅰ	209

教育実習Ⅲ	210
教育実習Ⅳ	211

6. 自由科目

野外教育・活動論	214
野外・レクリエーション・マネジメント論（含演習）	215
スポーツマネジメント実習	216
スポーツクラブ・マネジメント論（含演習）	217
音楽・器楽演奏	218
スポーツターフ管理概論Ⅰ	219
スポーツターフ管理概論Ⅱ	220
アスレティックトレーニング論Ⅰ	221
トレーニング方法論	222
スポーツ医学A	223
スポーツ医学B	224
コンディショニング論	225
コンディショニング実習	226

授業科目と免許・資格（教員免許、国家資格を除く）の対応表QRコード

資格科目対応表・スポーツ情報マスメディア学科(1年生用)



この資格科目対応表は仙台大学ホームページの“取得資格について”にあります。(QRコード読み取りに必要なソフトなどは、各自、注意事項に従って利用して下さい。)なお、資格科目対応表は履修登録の参考になるように作成したもので、あくまで学生便覧“免許・資格”の記載内容が正しいです。万が一、表に誤り等があった場合には、キャリアセンター（事務担当：事業戦略室）まで連絡下さい。

本授業概要各授業科目の“関連資格”欄も同様で、学生便覧と食い違いがあった場合は、学生便覧が正しいです。

1. 基礎科目

《教養基礎科目》

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	導入演習 Seminar of Introduction (P.A.)			担当教員	各担任
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。					iv
授業の一般目標					
修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。				
■ 情意的領域	積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。				
■ 技能表現的領域	修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。				
授業計画(全体)					
実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行います。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。 [授業外学修] 自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。			⑨	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1) [内容] 「いまどきの大学・いまどきの大学生—ユニバーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。 [授業外学修] テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておくこと
②	[テーマ] 親睦 [内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。 [授業外学修] 新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。			⑩	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2) [内容] 「大学で身につけるべきこと—学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。 [授業外学修] テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておくこと
③	[テーマ] 仙台大学の英語カリキュラムについて [内容] 平成29年度後期より始まった英語関連科目の新カリキュラムについて、説明を行う。これからの大学での英語の学習について考える。 [授業外学修] 大学でどのように英語を学習するかについて自分で考えてみる。			⑪	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3) [内容] 「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。 [授業外学修] 授業の復習
④	[テーマ] 英語プレイズメントテスト [内容] 後期科目「総合英語A」のクラス分けのためのプレイズメントテストを行う。 [授業外学修] 自分の英語力について自己評価してみる			⑫	[テーマ] 体育大生とモラル(1) [内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。 [授業外学修] 事前に資料を読んでおくこと
⑤	[テーマ] 修学と生活の設計(1) [内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。 [授業外学修] 卒業までの計画や目標について考えてみる			⑬	[テーマ] 体育大生とモラル(2) [内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。 [授業外学修] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑥	[テーマ] 修学と生活の設計(2) [内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。 [授業外学修] これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみる			⑭	[テーマ] 体育大生とモラル(3) [内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。 [授業外学修] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑦	[テーマ] 大学と大学生Ⅰ [内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。 [授業外学修] 仙台大学の歴史について自分でも調べておくこと			⑮	[テーマ] 体育大生とモラル(4) [内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学修] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑧	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0) [内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。 ※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施 [授業外学修] 大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておくこと			⑯	[テーマ] まとめ及び後期に向けて [内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。 [授業外学修] これまでの資料などに目を通しておくこと
成績評価方法(方針)					
出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。授業内レポート、宿題・授業外レポート等の返却を希望する者に対しては、各担任が解説を交えて返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施しない
授業内レポート		○	○	○	25%
授業外レポート		○	○	○	25%
演習・実技		○	○	○	25%
授業態度		○	○	○	25%
出席		◎	◎	◎	欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない ・自己学習(時間外学習、ボランティア活動等)の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する ・クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する ・実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある 					
関連科目	キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習			関連資格	
教科書	オリエンテーション時に資料を配布			参考書	オリエンテーション時に資料を配布
オフィスアワー	各担任の時間帯を確認すること			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	情報処理 Data Processing (L.)			担当教員	内野秀哲・相場徹
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	ICT関連としてCMC管理運営の実務経験、及び高校での教員経験を有する
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるべきであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
AI利用を視野に置いたICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる、また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	1. ICTに関する基本的な事柄が説明できる。 2. 状況や対象に応じて処理機能を選択できる。			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。			
授業計画(全体)					
本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 情報倫理について [内容] 情報倫理について説明 [授業外学修] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと			⑨	[テーマ] 講義3:論理式と論理回路① [内容] データ処理の仕組みについて、音声や音楽データの処理を例に取り上げて解説を行う [授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること
②	[テーマ] 情報処理の学習について [内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する [授業外学修] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと			⑩	[テーマ] 実習3:表計算アプリケーション2 [内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する [授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
③	[テーマ] ICTスキルの把握(履修前) [内容] ICTスキルについて、受講前の状況を把握するための調査を行い、各々の学修目標の設定を検討する。 [授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること			⑪	[テーマ] 講義4:論理式と論理回路② [内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題とし、論理演算と論理回路について解説する。さらに、AIに繋がるパーセプトロンを紹介。 [授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること
④	[テーマ] 講義1:情報処理を考える [内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する [授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること			⑫	[テーマ] 実習4:プレゼンテーションツール [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う [授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
⑤	[テーマ] 実習1:ワードプロセッサ [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う [授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと			⑬	[テーマ] タイピングのまとめ [内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的現象を紹介(展望を試みる)し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する [授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること
⑥	[テーマ] 講義2:情報について [内容] 情報処理の基本領域にある「サイバネティクス」を紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する [授業外学修] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること			⑭	[テーマ] 学修/履修状況、提示課題のまとめ [内容] 講義部門及び捜査実習部門の全ての課題、学修/履修状況の確認作業の最終期限日として提出を受け付ける。 [授業外学修] これまでの履修状況を確認し、整理しておくこと
⑦	[テーマ] 実習2:表計算アプリケーション1 [内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する [授業外学修] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと			⑮	[テーマ] ICTスキルの把握(履修後) [内容] ICTスキルについて、受講後の状況を把握するための調査を行い、各々の学修成果を検討する。 [授業外学修] 次のステップに向けたPDCAを主体的に検討すること
⑧	[テーマ] タイピング2 [内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学修] 自己流にならないよう復習を継続すること			⑯	[テーマ] 総合テスト [内容] 講義編及び捜査実習編のテストを行う [授業外学修] これまでの提示資料や例題等を整理し、理解を深めておくこと
成績評価方法(方針)					
講義部門と実習部門の最終課題(テスト)によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。レポート等はLMS(アプリ)上で共有し、相互評価なども行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	100%
授業内レポート		○		○	加減点要素
授業外レポート				○	欠格条件
演習・実技					加減点要素
授業態度					加減点要素
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	使用しない(電子媒体の教材をLMSにて運用)				参考書
オフィスアワー	4体1F 内野研究室 火曜14:20-15:50				その他
					連絡先:hd-uchino@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	学習基礎教養演習 Introduction to Academic Writing			担当教員	各担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	—
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
学習において母語の能力はもっとも重要な要素である。その能力は大学入学以前にすでに形成されているはずだが、さらなる醸成が求められている。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もっとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。					i、iv、v
授業の一般目標					
1. 語彙力を上げることができる(日本語力と語彙は強い相関がある)。2. 格の正しい文を書けるようになる。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになる。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収れんする文章(小論文やレポートなど)を書けるようになる。5. 文献検索、引用を適切に付記できる。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションできる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	パラグラフ構造を理解するとともに、ある主題について分節化の重要性を理解できる。				
■ 情意的領域	適切な日本語を用いて課題に熱心に取り組むことができる。				
■ 技能表現的領域	日本語の文章として適切なパラグラフを書くことができる。				
授業計画(全体)					
1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと(評価、コメント)を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4. 教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要と目標を説明した上で、パラグラフとは何かを概説する。 [授業外学修] 配布されたレジュメを読む。			⑨	[テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価 [内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。 [授業外学修] 次回の目標規定文を考えてくる。
②	[テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文を漢字かな混じり文へ変換 [内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落落きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。 [授業外学修] 語彙力に関する課題をこなす。			⑩	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文 [内容] 学生個人の関心にしたがって目標規定文を考える(教員が適切と認めるもの)。それに至るための展開を構想する。 [授業外学修] 目標規定文の問題点を明確にする。
③	[テーマ] パラグラフの構造(2) [内容] パラグラフにおけるトピック、サポート、コンクルーディングセンテンスの再確認し、パラグラフ・アウトラインを作成する。 [授業外学修] パラグラフ・アウトラインに関する課題をこなす。			⑪	[テーマ] 2000字程度のレポートの準備(2)パラグラフアウトライン [内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料とその引用について考える。 [授業外学修] 論文の引用注に関する課題をこなす。
④	[テーマ] 分類のパラグラフを書く [内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類を考える。 [授業外学修] 分類に関する課題をこなす。			⑫	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうることを考えて説明する。 [授業外学修] 語彙力に関する課題をこなす。
⑤	[テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く [内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となることを説明する。 [授業外学修] 比較・対照に関する課題をこなす。			⑬	[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。 [授業外学修] パラグラフ・アウトラインの課題を復習する。
⑥	[テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く [内容] 原因・結果のパラグラフは使用頻度が高いので、とくに習熟する必要があることを念頭において説明する。 [授業外学修] 原因・結果に関する課題をこなす。			⑭	[テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る [内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。 [授業外学修] 他の学生のレポートを読んでくる。
⑦	[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解と展開 [内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するためのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。 [授業外学修] パラグラフ展開に関する課題をこなす。			⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。 [授業外学修] 自身のレポートに対するコメントに回答できるよう準備する。
⑧	[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く [内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。 [授業外学修] 小論文の構成に関する課題をこなす。			⑯	[テーマ] レポート返却、総評 [内容] レポートを返却し、総評を述べる。 [授業外学修] レポートの指摘事項を踏まえ全15回の総復習をする。
成績評価方法(方針)					
毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもっとも成績に関係する。レポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には各担当教員の研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	—	—	—	評価対象外	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない。 ・パラグラフ・ライティングは、授業のレポート、卒論等を書くときに必要となる基礎的なスキルであるため、積極的にこの授業に臨むこと。
授業内レポート	○	○	◎	20%	
授業外レポート	○	◎	○	30%	
演習・実技	—	—	—	評価対象外	
授業態度	◎	○	○	50%	
出席	—	—	—	欠格条件	
関連科目	導入演習、キャリアプランニング1、体育系大学の基礎教養等			関連資格	
教科書	レジュメを配布する			参考書	授業中に指示する
オフィスアワー	各クラスの担当教員に確認すること			その他	各クラスの担当教員に確認すること

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル1 All-round EnglishA level1			担当教員	千田孝彦	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 中学校での教員経験を有する	
	履修の方法	必修	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。					iv	
授業の一般目標						
英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 日常生活の基礎的英単語を習得する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。日常生活の基礎的英単語を習得する。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。⑤中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル1の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]次回の授業の予習「語学学習システム」に取り組む。		⑨	[テーマ] 日本の祝祭日の内容と表し方 [内容]日本の祝祭日の内容の説明と英語での表現とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]アメリカの祝祭日の表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ]アルファベットとブラインドタッチ [内容] アルファベットとブラインドタッチについて学ぶ。 [授業外学修]Self introductionを考える。「語学学習システム」に取り組む。		⑩	[テーマ] アメリカの祝祭日の内容と表し方 [内容]アメリカの祝祭日の内容や表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]日米の年中行事の説明と表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 英会話① [内容] Self-introduction [授業外学修]Personal informationを考える。「語学学習システム」に取り組む。		⑪	[テーマ]日米の年中行事の内容と表し方 [内容] 日米の年中行事の内容や表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]施設や景勝地の表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] 英会話② [内容] Personal information Recycling language [授業外学修]1～99の数字を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		⑫	[テーマ] 施設や景勝地の名称 [内容] 日欧米の施設や景勝地の表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]職業に関する表現を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	[テーマ]1～99の数字の表し方 [内容] 1～99の表し方やスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]序数と大きな数(～10億)を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		⑬	[テーマ] 職業に関する表現 [内容] 職業に関する表現とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]食べ物や栄養に関する表現を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ]序数と大きな数(～10億) [内容] 序数と大きな数(～10億)の表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]曜日、月、年号の表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		⑭	[テーマ] 食べ物や栄養に関する表現 [内容] 食べ物や栄養に関する表現とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]体の各部の名称の表現を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] 曜日、月、年号の表しかた [内容] 曜日、月、年号の表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]季節とスポーツの英語の名称を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		⑮	[テーマ] 体の各部の名称の表現 [内容] 体の各部の名称の表現とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] 季節とスポーツの名称 [内容] 季節とスポーツの名称の表し方とスポーツに関する表現を学ぶ。 [授業外学修]日本の祝祭日の表し方を調べる。「語学学習システム」に取り組む。		⑯	[テーマ] 予備日 [内容]休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート	◎				20%	
授業外レポート	○					
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語B、総合英語C、総合英語D、				関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	水曜日12:40～14:10 (A515)				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル2			担当教員	マイケル・マンキン	
	All-Round English A (including Foreign Language Communication Level 2)					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	小学校・中学校の教員経験を有する	
	履修の方法	必修	単位数			1
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレズメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv	
授業の一般目標						
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 スポーツに用いられる英単語を修得する						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル2の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑨	[テーマ] バスケットボールに関連するイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ] スポーツ全般1関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑩	[テーマ] アメフトに関連するイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] スポーツ全般2関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑪	[テーマ] 水泳に関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] 野球1表現に関連する英単語イディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑫	[テーマ] 陸上競技に関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑬	[テーマ] テニスとカード賭け事に関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑭	[テーマ] 漕艇・ヨットに関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] 野球2表現に関連する英単語イディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑮	[テーマ] 格闘技に関連する単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] サッカーに関連するイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		○				
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語B、総合英語C、総合英語D				関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	木曜日12:40～14:10 (FD A503)				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル3 All-Round English A (including Foreign Language Communication) Level 3			担当教員	鎌田 幸雄・大曾根 眞紀子	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	中学校・高等学校の教員経験を有する	
	履修の方法	必修	単位数			1
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv	
授業の一般目標						
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容			
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル3の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入の練習。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 英文法第6回 現在完了形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
②	[テーマ] 英文法第1回 文の種類 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 英文法第7回 冠詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
③	[テーマ] 英文法第2回 動詞 I (Be動詞) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 英文法第8回 受動態 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
④	[テーマ] 英文法第3回 動詞 II (一般動詞) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 英文法第9回 Itの特別用法 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑤	[テーマ] 英文法第4回 7つの疑問詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 英文法第10回 there is (are)...構文の使い方 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑥	[テーマ] 英文法第5回 進行形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 英文法第11回 命令形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑦	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Self-introductions [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 英文法第12回 感嘆文 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑧	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Personal information, ● Recycling language [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。			
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		○				
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語B、総合英語C、総合英語D				関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	火曜日:14:20～15:50、(金曜日:12:40～14:10)				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル4 All-Round English A (including Foreign Language Communication)			担当教員	志子田 真由子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	高等学校の教員経験を有する
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル4の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 英文法第8回 関係代名詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ] 英文法第1回 前置詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 英文法第9回 比較 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 英文法第2回 助動詞 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Self-introductions [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] 英文法第3回 助動詞 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Personal information, ● Recycling language [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	[テーマ] 英文法第4回 不定詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 英文法第10回 比較 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 英文法第5回 動名詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 英文法第11回 基本語順 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] 英文法第6回 接続詞 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 英文法第12回 時制・否定・疑問 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] 英文法第7回 接続詞 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語B、総合英語C、総合英語D			関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
オフィスアワー				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語A(含む外国語コミュニケーション)レベル5 All-round English A level5			担当教員	宮野 隆
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検準2級レベルの英文法を習得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検準2級レベルの基礎的文法を習得する。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語A」ではレベル1～レベル5の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。④高校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル5の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]助動詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] to不定詞・形容詞的用法、分詞・形容詞的用法 [内容] to不定詞の形容詞的用法と分詞の形容詞的用法の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ]助動詞 [内容] 助動詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]前置詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 関係代名詞 [内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]Meeting for the first timeを考える。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 前置詞 [内容] 前置詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 関係副詞 [内容] 関係副詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] to不定詞・副詞的用法 [内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞・名詞的と動名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 間接疑問文 [内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。 [授業外学修]Self introductionを考える。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	to不定詞・名詞的用法、動名詞 [内容] to不定詞の名詞的用法の例文と動名詞の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 英会話第1回 [内容] Self introduction Recycling language [授業外学修]Personal informationを考える。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 接続詞、名詞節 [内容] 接続詞のと名詞節の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]比較の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 英会話第2回 [内容] Personal information Recycling language [授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] 比較 [内容] 様々な比較の例文を学ぶ。 [授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 分詞構文 [内容] 分詞構文の例文を学ぶ。 [授業外学修]今回までの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ]現在完了 [内容] 現在完了の様々な用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C、総合英語D,				関連資格
教科書	特に指定しない				教員免許
オフィスアワー	金曜日12:40～14:10				参考書
					特に指定しない
					その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語B(含む外国語コミュニケーション)レベル2			担当教員	マイケル・マンキン
	All-Round English B (including Foreign Language Communication)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	小学校・中学校の教員経験を有する
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレズメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 スポーツに用いられる英単語を修得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル2の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。			⑨	[テーマ] バスケットボールに関連するイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。
②	[テーマ] スポーツ全般1に関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。			⑩	[テーマ] アメフトに関連するイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。
③	[テーマ] スポーツ全般2に関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。			⑪	[テーマ] 水泳に関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。
④	[テーマ] 野球1表現に関連する英単語イディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。			⑫	[テーマ] 陸上競技に関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。
⑤	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Self-introductions [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。			⑬	[テーマ] テニスとカード賭け事に関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。
⑥	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Personal information, ● Recycling language [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。			⑭	[テーマ] 漕艇・ヨットに関連する英単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。
⑦	[テーマ] 野球2表現に関連する英単語イディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。			⑮	[テーマ] 格闘技に関連する単語やイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。
⑧	[テーマ] サッカーに関連するイディオムを習得する [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。			⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 ここまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎				80%
授業外レポート	○				20%
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語C、総合英語D			関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	木曜日12:40～14:10 (FD A503)			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語B(含む外国語コミュニケーション)レベル3 All-Round English B (including Foreign Language Communication)			担当教員	志子田 真由子	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 高等学校の教員経験を有する	
	履修の方法	必修	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv	
授業の一般目標						
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検4級レベルの基礎的英文法を修得する						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容			
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル3の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入の練習。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 英文法第6回 現在完了形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
②	[テーマ] 英文法第1回 文の種類 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 英文法第7回 冠詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
③	[テーマ] 英文法第2回 動詞 I (Be動詞) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 英文法第8回 受動態 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
④	[テーマ] 英文法第3回 動詞 II (一般動詞) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 英文法第9回 Itの特別用法 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑤	[テーマ] 英文法第4回 7つの疑問詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 英文法第10回 there is (are)...構文の使い方 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑥	[テーマ] 英文法第5回 進行形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 英文法第11回 命令形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑦	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Meeting for the first time ● Recycling language [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 英文法第12回 感嘆文 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑧	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Asking about sports ● Recycling language [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。			
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		○				
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語C、総合英語D				関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー					その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語B(含む外国語コミュニケーション)レベル4 All-Round English B (including Foreign Language Communication)			担当教員	鎌田 幸雄・大曾根 眞紀子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検3級レベルの基礎的英文法を修得する					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル4の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 英文法第8回 関係代名詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ] 英文法第1回 前置詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 英文法第9回 比較 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 英文法第2回 助動詞 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Meeting for the first time ● Recycling language [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] 英文法第3回 助動詞 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Asking about sports ● Recycling language [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	[テーマ] 英文法第4回 不定詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 英文法第10回 比較 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 英文法第5回 動名詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 英文法第11回 基本語順 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] 英文法第6回 接続詞 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 英文法第12回 時制・否定・疑問 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] 英文法第7回 接続詞 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語C、総合英語D				関連資格
教科書	特に指定しない				教員免許
オフィスアワー	火曜日:14:20～15:50、(金曜日:12:40～14:10)				参考書
					特に指定しない
					その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語B(含む外国語コミュニケーション)レベル5 All-round EnglishB level5			担当教員	宮野 隆
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検準2級レベルの英文法を習得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検準2級レベルの基礎的文法を習得する。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。④高校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル5の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]助動詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] to不定詞・形容詞的用法、分詞・形容詞的用法 [内容] to不定詞の形容詞的用法と分詞の形容詞的用法の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ] 助動詞 [内容] 助動詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]前置詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 関係代名詞 [内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]Meeting for the first timeを考える。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 前置詞 [内容] 前置詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 英会話第1回 [内容] Meeting for the first time Recycling language [授業外学修]Asking about sportsを考える。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] to不定詞・副詞的用法 [内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞・名詞的と動名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 英会話第2回 [内容] Asking for sports Recycling language [授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	to不定詞・名詞的用法、動名詞 [内容] to不定詞の名詞的用法の例文と動名詞の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 関係副詞 [内容] 関係副詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 接続詞、名詞節 [内容] 接続詞のと名詞節の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]比較の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 間接疑問文 [内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。 [授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] 比較 [内容] 様々な比較の例文を学ぶ。 [授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 分詞構文 [内容] 分詞構文の例文を学ぶ。 [授業外学修]今回までの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] 現在完了 [内容] 現在完了の様々な用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C、総合英語D,				関連資格
教科書	特に指定しない				教員免許
オフィスアワー	金曜日:12:40～14:10				参考書
					特に指定しない
					その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語B(含む外国語コミュニケーション)レベル6 All-round EnglishB level6			担当教員	千田孝彦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 中学校での教員経験を有する。
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語B」ではレベル2～レベル6の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。⑤中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル6の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑨	[テーマ] 現在完了 [内容] 現在完了の例文を学ぶ。 [授業外学修]比較の表現の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	
②	[テーマ]分詞構文 [内容] 分詞構文の例文を学ぶ。 [授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑩	[テーマ] 比較の表現 [内容] 比較の例文を学ぶ。 [授業外学修]Meeting for the first timeを考える。「語学学習システム」に取り組む。	
③	[テーマ] 間接疑問文 [内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。 [授業外学修]直接法、仮定法過去の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑪	[テーマ] 接続詞と名詞節 [内容] 接続詞と名詞節の例文を学ぶ。 [授業外学修]動名詞と現在分詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	
④	[テーマ] 直接法、仮定法過去 [内容] 直接法の例文と仮定法の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑫	[テーマ] 動名詞と現在分詞 [内容]動名詞と現在分詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]Meeting for the first timeを考える。「語学学習システム」に取り組む。	
⑤	[テーマ] 関係代名詞 [内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑬	[テーマ] 英会話第1回 [内容] Meeting for the first time Recycling language [授業外学修]Asking about sportsを考える。「語学学習システム」に取り組む。	
⑥	[テーマ] 関係副詞 [内容] 関係副詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑭	[テーマ] 英会話第2回 [内容]Asking about sports Recyclint language [授業外学修]to不定詞副詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	
⑦	[テーマ] to不定詞と分詞の形容詞的用法 [内容] to不定詞と分詞の形容詞的用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]受動態の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑮	[テーマ]to不定詞の副詞的用法 [内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。 これまでの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。	
⑧	[テーマ] 受動態 [内容] 受動態の例文を学ぶ。 [授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑯	補講日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。	
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C、総合英語D,			関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	水曜日12:40～14:10 (A515)			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		総合英語C(含む外国語コミュニケーション)レベル3 All-Round English C (including Foreign Language Communication)			担当教員	鎌田 幸雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	高等学校の教員経験を有する
	履修の方法	必修	単位数	1		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。						iv
授業の一般目標						
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検4級レベルの基礎的英文法を修得する						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検4級レベルの基礎的英文法を修得する。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語C」ではレベル3～レベル7の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル3の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入の練習。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			⑨	[テーマ] 英文法第6回 現在完了形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
②	[テーマ] 英文法第1回 文の種類 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			⑩	[テーマ] 英文法第7回 冠詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
③	[テーマ] 英文法第2回 動詞 I (Be動詞) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			⑪	[テーマ] 英文法第8回 受動態 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
④	[テーマ] 英文法第3回 動詞 II (一般動詞) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			⑫	[テーマ] 英文法第9回 Itの特別用法 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
⑤	[テーマ] 英文法第4回 7つの疑問詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			⑬	[テーマ] 英文法第10回 there is (are)...構文の使い方 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
⑥	[テーマ] 英文法第5回 進行形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			⑭	[テーマ] 英文法第11回 命令形 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
⑦	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Sports training routines ● Frequency adverbs [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			⑮	[テーマ] 英文法第12回 感嘆文 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
⑧	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Sporting aspirations ● Future tense [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。	
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業には必ず英語辞書を持ってくる。 ・その日の授業のテーマについて自分の持っている英文法書で予習しておくこと。 ・授業後は使用した教材や文法書を使って復習を必ず行うこと。 ・「語学学習システム」を積極的に活用し、英語力の向上に努めること。 ・獲得したポイントをマークシートに記入をしなかった場合やミスをした場合は加算されないため、記入にはくれぐれも注意すること。
定期試験					80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		○				
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語B、総合英語D				関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	火曜日14:20～15:50				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語C(含む外国語コミュニケーション)レベル4 All-Round English C (including Foreign Language Communication)			担当教員	大曾根 真紀子	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 中学校の教員経験を有する	
	履修の方法	必修	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv	
授業の一般目標						
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検3級レベルの基礎的英文法を修得する						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語C」ではレベル3～レベル7の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容			
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル4の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 英文法第8回 関係代名詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
②	[テーマ] 英文法第1回 前置詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 英文法第9回 比較 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
③	[テーマ] 英文法第2回 助動詞 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Sports training routines ● Frequency adverbs [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
④	[テーマ] 英文法第3回 助動詞 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Sporting aspirations ● Future tense [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑤	[テーマ] 英文法第4回 不定詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 英文法第10回 比較 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑥	[テーマ] 英文法第5回 動名詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 英文法第11回 基本語順 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑦	[テーマ] 英文法第6回 接続詞 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 英文法第12回 時制・否定・疑問 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑧	[テーマ] 英文法第7回 接続詞 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。			
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		○				
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語B、総合英語D				関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	金曜日:12:40～14:10				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語C(含む外国語コミュニケーション)レベル5 All-round EnglishC level5			担当教員	宮野 隆・志子田 真由子
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	高校での教員経験を有する。
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレイメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検準2級レベルの英文法を習得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検準2級レベルの基礎的文法を習得。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語C」ではレベル3～レベル7の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。⑤高校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル5の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]助動詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑨	[テーマ] 英会話第1回 [内容] Sports training routines Recycling language [授業外学修]Sporting aspirationsを考える。「語学学習システム」に取り組む。	
②	[テーマ]助動詞 [内容] 助動詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]前置詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑩	[テーマ] 英会話第2回 [内容] Sporting aspirations Recycling language [授業外学修]to不定詞と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	
③	[テーマ] 前置詞 [内容] 前置詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑪	[テーマ] to不定詞・形容詞的用法、分詞・形容詞的用法 [内容] to不定詞の形容詞的用法と分詞の形容詞的用法の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	
④	[テーマ] to不定詞・副詞的用法 [内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞・名詞的と動名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑫	[テーマ] 関係代名詞 [内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	
⑤	to不定詞・名詞的用法、動名詞 [内容] to不定詞の名詞的用法の例文と動名詞の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑬	[テーマ] 関係副詞 [内容] 関係副詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	
⑥	[テーマ] 接続詞、名詞節 [内容] 接続詞のと名詞節の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]比較の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑭	[テーマ] 間接疑問文 [内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。 [授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	
⑦	[テーマ] 比較 [内容] 様々な比較の例文を学ぶ。 [授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		⑮	[テーマ] 分詞構文 [内容] 分詞構文の例文を学ぶ。 [授業外学修]今回までの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。	
⑧	[テーマ]現在完了 [内容] 現在完了の様々な用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]Sports training routinesを考える。「語学学習システム」に取り組む。		⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。	
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C、総合英語D,			関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	金曜日 12:40～14:10			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語C(含む外国語コミュニケーション)レベル6 All-round EnglishC level6			担当教員	千田孝彦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	中学校での教員経験を有する。
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語C」ではレベル3～レベル7の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。⑤中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル6の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 現在完了 [内容] 現在完了の例文を学ぶ。 [授業外学修]比較の表現の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ]分詞構文 [内容] 分詞構文の例文を学ぶ。 [授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 比較の表現 [内容] 比較の例文を学ぶ。 [授業外学修]Sports training routinesを考える。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 間接疑問文 [内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。 [授業外学修]直接法、仮定法過去の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 英会話第1回 [内容] Sports training routines Recyclint language [授業外学修]Sporting aspirationsを考える。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] 直接法、仮定法過去 [内容] 直接法の例文と仮定法の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 英会話② [内容] Sports aspirations Recycling language [授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	[テーマ] 関係代名詞 [内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 接続詞と名詞節 [内容] 接続詞と名詞節の例文を学ぶ。 [授業外学修]動名詞と現在分詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 関係副詞 [内容] 関係副詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 動名詞と現在分詞 [内容] 動名詞と現在分詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞副詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] to不定詞と分詞の形容詞的用法 [内容] to不定詞と分詞の形容詞的用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]受動態の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ]to不定詞の副詞的用法 [内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。 これまでの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] 受動態 [内容] 受動態の例文を学ぶ。 [授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	補講日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C、総合英語D,			関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	水曜日12:40～14:10 (A515)			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語C(含む外国語コミュニケーション)レベル7 All-Round English C (including Foreign Language Communication) Level 7			担当教員	マイケル・マンキン
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検準1級レベルの英文法を修得する					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル7の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑨	[テーマ] TOEIC 1 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
②	[テーマ] 仙台大オリジナル1 (MLBロベルト・クレメンテ) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑩	[テーマ] 仙台大オリジナル5(日本人とスポーツ) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
③	[テーマ] 英検準1 A Study on Aging [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑪	[テーマ] TOEIC 2 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
④	[テーマ] 仙台大オリジナル2(肥満治療最前線) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑫	[テーマ] 仙台大オリジナル6(スポーツの存在意義) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
⑤	[テーマ] 英検準1 An Olympic Struggle [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑬	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Self-introductions [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
⑥	[テーマ] 仙台大オリジナル3(英国スポーツの現況) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑭	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Personal information, ● Recycling language [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
⑦	[テーマ] 英検準1 We are all number one [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑮	[テーマ] 仙台大オリジナル7(マラソンの飛躍) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	
⑧	[テーマ] 仙台大オリジナル4(米国スポーツ事情) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑯	[テーマ] 予備日 [内容] 休講した際の補講日 これまで獲得したポイントを確認する。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。	
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	—	—	—	—	—
授業内レポート	◎	—	—	—	—
授業外レポート	○	—	—	—	—
演習・実技	—	—	—	—	—
授業態度	—	—	—	—	—
出席	—	—	—	—	欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語B、総合英語C			関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	木曜日12:40～14:10 (FD A503)			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語D(含む外国語コミュニケーション)レベル4 All-Round English D (including Foreign Language Communication)			担当教員	大曾根 真紀子	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 中学校の教員経験を有する	
	履修の方法	必修	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv	
授業の一般目標						
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検3級レベルの基礎的英文法を修得する						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検3級レベルの基礎的英文法を修得する。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容			
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル4の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修] 受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 英文法第8回 関係代名詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
②	[テーマ] 英文法第1回 前置詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 英文法第9回 比較 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
③	[テーマ] 英文法第2回 助動詞 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Plan a sports activity with friends [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
④	[テーマ] 英文法第3回 助動詞 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Talk about habitual activities [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑤	[テーマ] 英文法第4回 不定詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 英文法第10回 比較 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑥	[テーマ] 英文法第5回 動名詞 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 英文法第11回 基本語順 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑦	[テーマ] 英文法第6回 接続詞 I [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 英文法第12回 時制・否定・疑問 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。			
⑧	[テーマ] 英文法第7回 接続詞 II [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修] 今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] ポストテスト [内容] 1年時に受けたプレイズメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。			
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		○				
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語B、総合英語C				関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	金曜日:12:40～14:10				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語D(含む外国語コミュニケーション)レベル5 All-round EnglishD level5			担当教員	宮野 隆
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレースメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検準2級レベルの英文法を習得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検準2級レベルの基礎的文法を習得する。			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。⑤高校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル5の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。 ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]助動詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 比較 [内容] 様々な比較の例文を学ぶ。 [授業外学修]現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ] 助動詞 [内容] 助動詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]前置詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 現在完了 [内容] 現在完了の様々な用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 前置詞 [内容] 前置詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]to不定詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] to不定詞・形容詞的用法、分詞・形容詞的用法 [内容] to不定詞の形容詞的用法と分詞の形容詞的用法の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] to不定詞・副詞的用法 [内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。 [授業外学修]A sports activityを考える。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 関係代名詞 [内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	[テーマ] 英会話第1回 [内容] Plan a sports activity with friends [授業外学修]Habitual activityを考える。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 関係副詞 [内容] 関係副詞の例文を学ぶ。 [授業外学修]間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 英会話第2回 [内容] Talk about habitual activities [授業外学修]to不定詞名詞的用法と動名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 間接疑問文 [内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。 [授業外学修]分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] to不定詞名詞的用法と動名詞 [内容] to不定詞の名詞的用法の例文と動名詞の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] 分詞構文 [内容] 分詞構文の例文を学ぶ。 [授業外学修]今回までの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] 接続詞、名詞節 [内容] 接続詞のと名詞節の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修]比較の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] ポストテスト [内容] 1年時に受けたプレースメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C、総合英語D,			関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	金曜日:12:40～14:10			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語D(含む外国語コミュニケーション)レベル6 All-round EnglishD level6			担当教員	千田孝彦・志子田真由子	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 中学校での教員経験を有する。	
	履修の方法	必修	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
英語の4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレースメントテストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行う。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは、専用マークシートに各自記入する。期間内に獲得したポイントによって成績が決まる。					iv	
授業の一般目標						
英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。英検2級レベルの基礎的英文法を習得する。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。⑤中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容			
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル6の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修] 分詞構文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] to不定詞と分詞の形容詞的用法 [内容] to不定詞と分詞の形容詞的用法の例文を学ぶ。 [授業外学修] 受動態の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。			
②	[テーマ] 分詞構文 [内容] 分詞構文の例文を学ぶ。 [授業外学修] 間接疑問文の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] 受動態 [内容] 受動態の例文を学ぶ。 [授業外学修] 現在完了の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。			
③	[テーマ] 間接疑問文 [内容] 間接疑問文の例文を学ぶ。 [授業外学修] 直接法、仮定法過去の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 現在完了 [内容] 現在完了の例文を学ぶ。 [授業外学修] 比較の表現の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。			
④	[テーマ] 直接法、仮定法過去 [内容] 直接法の例文と仮定法の例文を比較しながら学ぶ。 [授業外学修] 関係代名詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 比較の表現 [内容] 比較の例文を学ぶ。 [授業外学修] 接続詞と名詞節の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。			
⑤	[テーマ] 関係代名詞 [内容] 関係代名詞の例文を学ぶ。 [授業外学修] 関係副詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 接続詞と名詞節 [内容] 接続詞と名詞節の例文を学ぶ。 [授業外学修] 動名詞と現在分詞の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。			
⑥	[テーマ] 関係副詞 [内容] 関係副詞の例文を学ぶ。 [授業外学修] A sports activityを考える。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 動名詞と現在分詞 [内容] 動名詞と現在分詞の例文を学ぶ。 [授業外学修] to不定詞副詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。			
⑦	[テーマ] 英会話第1回 [内容] Plan a sports activity with friends [授業外学修] Habitual activitiesを考える。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] to不定詞の副詞的用法 [内容] to不定詞の副詞的用法の例文を学ぶ。 これまでの授業内容を復習する。「語学学習システム」に取り組む。			
⑧	[テーマ] 英会話第2回 [内容] Talk about habitual activities [授業外学修] to不定詞と分詞の形容詞的用法の課題を解く。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] ポストテスト [内容] 1年時に受けたプレースメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。 [授業外学修] これまでの授業内容を復習する。			
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行い、累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。Eラーニングでの獲得マイルはポイントとして加算される。なお出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		○				
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か、総合英語B、総合英語C、総合英語D,				関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	水曜日:12:40～14:10、(金曜日:12:40～14:10)				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語D(含む外国語コミュニケーション)レベル7 All-Round English D(including Foreign Language Communication) Level 7			担当教員	マイケル・マンキン	
	開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	
	履修の方法	必修	単位数	1	実務経験の有無	小学校・中学校の教員経験を有する
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。プレズメント・テストを実施する。その結果に基づき5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv	
授業の一般目標						
英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 英検準1級レベルの基礎的英文法を習得する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。				
□	情意的領域					
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容]レベル7の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする「語学学習システム」に取り組む。		⑨	[テーマ] TOEIC 1 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ] 仙台大オリジナル1 (MLBロベルトクレメンテ) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑩	[テーマ] 仙台大オリジナル5(日本人とスポーツ) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 英検準1 A Study on Aging [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑪	[テーマ] TOEIC 2 [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] 仙台大オリジナル2(肥満治療最前線) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑫	[テーマ] 仙台大オリジナル6(スポーツの存在意義) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	[テーマ] 英検準1 An Olympic Struggle [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予「語学学習システム」に取り組む。		⑬	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Self-introductions [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 仙台大オリジナル3(英国スポーツの現況) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑭	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Personal information, ● Recycling language [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] 英検準1 We are all number one [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑮	[テーマ] 仙台大オリジナル7(マラソンの飛躍) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] 仙台大オリジナル4(米国スポーツ事情) [内容] 今回のテーマの講義を聞き、練習を行い、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントをマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		⑯	[テーマ] ポストテスト [内容] 1年時に受けたプレズメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)						
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		○				
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語B、総合英語C			関連資格	教員免許	
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない	
オフィスアワー	木曜日12:40～14:10 (FD A503)			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	総合英語D(含む外国語コミュニケーション)レベル8 All-Round English D (including Foreign Language Communication)			担当教員	鎌田 幸雄
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 高等学校の教員経験を有する
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。5段階の能力別少人数クラス(6クラス)を編成し、各クラスの目標に応じた内容の授業を行なう。毎回確認テストを行い、獲得ポイントは専用マークシートに各自で記入する。期間内に獲得したポイントの合計によって成績が決まる。					iv
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 教員採用試験レベルの英文法を修得する(TOEFL iBT 110以上)					
授業の到達目標					
■	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。教員採用試験レベルの英文法を修得する(TOEFL iBT 110以上)			
□	情意的領域				
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
「総合英語D」ではレベル4～レベル8の授業を行う。 ①毎回小テストを行い、ポイントで評価を行う。②スポーツに関する英文を教材として取り入れる。③すべてのクラスに、英会話の時間を設ける(各クラス期間中2回の英会話中心の授業を実施)。④授業外のEラーニング(「語学学習システム」)を加点する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] レベル8の授業の予定の説明。「語学学習システム」の受講方法の説明。ポイント登録用マークシートの記入法の確認。 [授業外学修]受講方法を理解し、次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑨	[テーマ] 長文読解 第6回 White America [内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
②	[テーマ] 長文読解 第1回 Baseball [内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑩	[テーマ] TOEIC 第3回 [内容] TOEIC練習問題の短文・長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
③	[テーマ] 長文読解 第2回 Love [内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑪	[テーマ] 長文読解 第7回 Sports in US [内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
④	[テーマ] TOEIC 第1回 [内容] TOEIC練習問題の短文・長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑫	[テーマ] 長文読解 第8回 Feminism [内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑤	[テーマ] 長文読解 第3回 Martial Arts [内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑬	[テーマ] 英会話 第1回 [内容] ● Plan a sports activity with friends [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑥	[テーマ] 長文読解 第4回 Helen Keller [内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑭	[テーマ] 英会話 第2回 [内容] ● Talk about habitual activities [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑦	[テーマ] TOEIC 第2回 [内容] TOEIC練習問題の短文・長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑮	[テーマ] TOEIC 第4回 [内容] TOEIC練習問題の短文・長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。		
⑧	[テーマ] 長文読解 第5回 Rugby Football [内容] 長文の内容を理解し、確認テストを受ける。マークシートに確認テストのポイントマークする。 [授業外学修]今回の内容を復習し次回の予習をする。「語学学習システム」に取り組む。	⑯	[テーマ] ポストテスト [内容] 1年時に受けたプレイズメントテストを再受験し、総合英語受講後の英語力の変化を測る。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。		
成績評価方法(方針)					
毎回確認テストを行ない、その累積ポイントによって成績が決定される。300ポイント以上:「秀」、200～299ポイント:「優」、150～199ポイント:「良」、100～149ポイント:「可」、100ポイント未満:「不可」。「語学学習システム」での獲得マイルはこの科目のポイントとして加算される。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート		○			
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツに何故英語が必要か 総合英語A、総合英語B、総合英語C			関連資格	教員免許
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	火曜日14:20～15:50			その他	

《教養展開科目》

(人文分野)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツと哲学 Sports and Philosophy			担当教員	久能和夫 他
開講内容	学年・学期	1～3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
哲学的「問い」を立てるための基礎となる代表的な哲学者の言説について学んだ後、各種スポーツ専門領域の担当者からそれぞれの種目における先達・偉人が発している言葉や言説を基にしてそのスポーツの奥義について触れていく。自ら立てた「問い」と受け止めた内容を融合させスポーツに対する哲学的アプローチを図る。					iv、v
授業の一般目標					
スポーツに対する自らの「問い」を各種スポーツの先達・偉人が残している多くの言説を手がかりにして探究し、スポーツの奥義についての哲学的アプローチを図る。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	「スポーツと哲学」について、取り上げられた人物の言説を基にして考えることができる。				
■ 情意的領域	自らの「問い」を各種スポーツの先達・偉人の言説に重ね合わせながら、解明に向けて主体的に探究する。				
■ 技能表現的領域	自らの「問い」を自らの言葉で表現できる。				
授業計画(全体)					
スポーツに対する様々な価値観・多様性から導かれる自らの「問い」を代表的なスポーツ界における先達・偉人の言説に照らし合わせながら、スポーツに対する本質を考える哲学的アプローチを図っていく。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業ガイダンス(久能) [内容] 身の回りにおける具体例を引きながら、スポーツと哲学との関連性について気づき、考える。 [授業外学修]哲学的な「問い」について学修する。			⑨	[テーマ] 剣道の哲学(斎藤浩) [内容] 剣道界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして剣道と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅢ(武道)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。
②	[テーマ] 哲学とは何か。哲学の始まり。(久能) [内容] 哲学的「問い」を立てるための哲学者が発した言説について考える。(Ⅰ) [授業外学修]登場した哲学者について調べる。			⑩	[テーマ] ダンスの哲学(山梨) [内容] ダンス界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにしてダンスと哲学の関わりについて考える。(スポーツⅣ(ダンス)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。
③	[テーマ] 分かること。分からないこと。(久能) [内容] 哲学的「問い」を立てるための哲学者が発した言説について考える。(Ⅱ) [授業外学修]「スポーツと哲学」の関連性について考える。			⑪	[テーマ] 野外活動の哲学(井上望) [内容] 野外活動における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして野外活動と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅤ(野外活動)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。
④	[テーマ] 体操の哲学(鈴木、山口) [内容] 体操界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして体操と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅠ(採点競技)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。			⑫	[テーマ] 体づくり運動の哲学(溝口、日下) [内容] 体づくりにおける先達・偉人が残した言葉を手がかりにして体づくりと哲学の関わりについて考える。(スポーツⅥ(体づくり運動)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。
⑤	[テーマ] 陸上の哲学(名取) [内容] 陸上界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして陸上と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅠ(測定競技)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。			⑬	[テーマ] 学習指導要領の哲学的アプローチ(田中智) [内容] 中学校学習指導要領解説「保健体育編」に示されている「暗黙知」についての哲学的アプローチを試みる。 [授業外学修]本日の講義について復習をする。
⑥	[テーマ] サッカーの哲学(吉井) [内容] サッカー界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにしてサッカーと哲学の関わりについて考える。(スポーツⅡ(ゴール型)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。			⑭	[テーマ] メディアの哲学(日下) [内容] スポーツ報道に込められている哲学的な視点について触れる。 [授業外学修]本日の講義について復習をする。
⑦	[テーマ] 野球の哲学(入澤、坪井、小野寺) [内容] 野球界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして野球と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅡ(ベースボール型)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。			⑮	[テーマ] 哲学的「問い」についての振り返り(久能) [内容] 各種スポーツ等に見ることができた哲学的な捉え方について自らの「問い」と対比しながら振り返る。 [授業外学修]①～⑮までの講義内容をまとめる。
⑧	[テーマ] 柔道の哲学(南條) [内容] 柔道界における先達・偉人が残した言葉を手がかりにして柔道と哲学の関わりについて考える。(スポーツⅢ(武道)) [授業外学修]本日の講義について復習をする。			⑯	[テーマ] 考査(久能) [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
毎回授業終了時に「課題Ⅰ・・・知」と「課題Ⅱ・・・探究」について振り返りシートに記載して提出する。振り返りシートのポートフォリオ評価資料と筆記試験の結果に、受講態度(出席状況含む)等を加味して評価する。なお、欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○	○	50%
授業内レポート		○	○	○	50%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		
出席					欠格条件
関連科目				関連資格	
教科書	特に定めない			参考書	特に定めない
オフィスアワー	久能研究室(A307) 金(10:20～11:50)			その他	相談・提出は久能研究室(A307)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツと現代思想			担当教員	高橋仁	
	Contemporary Philosophy in Sports					
開講内容	学年・学期	1～3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	高等学校等での実務経験を有する。
	履修の方法	選択必修	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
現代のスポーツをとりあげ、日本のスポーツの特色、グローバル化の現状などについて、学内外の専門家から広く学び、その背景となっている考え方も含めて理解を深める。					ii、v	
授業の一般目標						
スポーツの現状と課題について多角的に学び、その背景となる現代の思想について理解を深める。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	日本のスポーツの特色やグローバル化の現状、アスリートを支えるもの、今後のスポーツの可能性などについて、背景となる考え方も含めて理解している。				
■	情意的領域	現代社会におけるスポーツの価値について考察し、積極的にスポーツに関与しようとする意識を持っている。				
■	技能表現的領域	スポーツの現状と課題及びその背景となる考え方などについて、自らの言葉で表現できる。				
授業計画(全体)						
担当教員は授業全体のコーディネーターとなり、1回目の授業でオリエンテーションを行う。2～15回目の授業では、毎回ゲスト講師を招き、授業の前半はゲストによる講義、授業の後半で講義に関する意見交換や質疑応答、授業の振り返りレポートの作成を行う。各回とも配布される資料等により授業を行い、16回目の授業でそれらの資料等をもとに試験を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、評価の方法、ゲスト講師に関する説明などを行う。 [授業外学修] シラバスをよく読む			⑨	[テーマ] スポーツのグローバル化4 [内容] オリンピックの現状と課題について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする	
②	[テーマ] 日本のスポーツの特色1 [内容] 「体育」から「スポーツ」へと名称が変更されてきた理由について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする			⑩	[テーマ] アスリートを支えるもの1 [内容] メンタルサポートなどをとりあげながら、サポートスタッフの重要性について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする	
③	[テーマ] 日本のスポーツの特色2 [内容] 学校教育における運動部活動の意義と役割、現状と課題について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする。			⑪	[テーマ] アスリートを支えるもの2 [内容] アスリートにとって大切な、「用具」の進歩について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする	
④	[テーマ] 日本のスポーツの特色3 [内容] スポーツ少年団の活動を例にとりあげ、地域スポーツについて考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする			⑫	[テーマ] アスリートを支えるもの3 [内容] 「睡眠」を例に、スポーツをする上で欠かせない「身体」の重要性について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする	
⑤	[テーマ] 日本のスポーツの特色4 [内容] 障害者とスポーツの関係について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする			⑬	[テーマ] スポーツの未来に向けて1 [内容] 先進国であるアメリカ合衆国の現状を例にとりあげ、スポーツビジネスについて考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする	
⑥	[テーマ] スポーツのグローバル化1 [内容] 「剣道」を例にとりあげ、日本の武道の国際化について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする			⑭	[テーマ] スポーツの未来に向けて2 [内容] 「スポーツアナリスト」を例にとりあげ、スポーツにおける「情報」の重要性について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする	
⑦	[テーマ] スポーツのグローバル化2 [内容] 「柔道」を例にとりあげ、日本の武道の国際化について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする			⑮	[テーマ] スポーツの未来に向けて3 [内容] eスポーツを話題の一つとしながら、5Gの社会におけるスポーツの可能性について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする	
⑧	[テーマ] スポーツのグローバル化3 [内容] 中国における「卓球」を例にとりあげ、スポーツの国際化戦略について考える。 [授業外学修] 配布された資料をもとに授業の復習をする			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度、目標の達成度を確認する。 [授業外学修] これまで配布された資料をもとに試験の準備をする	
成績評価方法(方針)						
毎回提出するレポート及び試験の結果等を踏まえて総合的に成績を評価する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。
定期試験		◎	○	◎	40%	
授業内レポート		◎	○	◎	50%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度			◎	○	10%	
出席		—	—	—	欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書	なし				参考書	
オフィスアワー	水曜日14:20～15:50				その他	メール: ht-takahashi@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	心理学概論 Introduction to Psychology			担当教員	加畑／栗木
開講内容	学年・学期	1/2/3・半期	授業方法	講義	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
心理学は人の行動について研究する学問である。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べる。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説する。					v
授業の一般目標					
授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標である。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	さまざまな人の行動の法則性を理解する。				
■ 情意的領域	人の行動を客観的に考える態度を身につける。				
■ 技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。				
授業計画(全体)					
心理学の中の五つの領域－認知、学習、運動学習、動機づけ、臨床、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か [授業外学修]心理学では何を研究するのかを考えてみる			⑨	[テーマ] 動機づけ③ [内容] 快・不快といった情動と動機づけとの関連性について解説を行う。情動が生じるメカニズムから動機づけにつながる機序について解説する。 [授業外学修]自分の感情と動機づけについて考え、その理由を考えてみる
②	[テーマ] 認知① [内容] 情報処理の入口となる感覚について解説するとともに、入力された情報から意味を取り出す過程である知覚について解説する。 [授業外学修]人間とコンピュータとの共通部分と違いについて考えてみる			⑩	[テーマ] 臨床① [内容] 臨床心理学の成り立ちについて概観する。さらに、心理的なアセスメントとはどのようなものかについて概説する。 [授業外学修]心理的なアセスメントについて調べる
③	[テーマ] 認知② [内容]人間の記憶のメカニズムについて解説をする。注意を中心に人間の認知のメカニズムについて具体的な事例を用いた解説を行う。 [授業外学修]記憶に関する知識を整理してみる。			⑪	[テーマ] 臨床② [内容] 心理カウンセリングとはどのような行為であるかについて解説するとともに、心理療法とは何かについて解説をする。 [授業外学修]自分に関する心理的な問題点について分析的に考えてみる
④	[テーマ] 認知③ [内容] 思考、推論、問題解決など高度な認知的な家庭について具体的な事例を用いて解説を行う。 [授業外学修]問題を解決する際の脳の働きについて考える			⑫	[テーマ] 運動学習① [内容]運動技能とはどのようなものかそれを学習することは一般的な学習とどのような違いがあるのかについて解説をする [授業外学修]運動技能にはどのような種類があるのかについて考えてみる
⑤	[テーマ] 学習① [内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える [授業外学修]出生後の行動の変化について考えてみる			⑬	[テーマ] 運動学習② [内容] 代表的な運動学習理論について解説する。それがスポーツにどのように関連しているのかについても解説する。 [授業外学修]自分が親しんできたスポーツとその技能について考える。
⑥	[テーマ] 学習② [内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える。また教育現場での応用事例などについても解説をする。 [授業外学修]条件づけの例を身の回りで探してみる			⑭	[テーマ] 社会心理① [内容] 集団とは何かについて解説する。さらに、グループダイナミクスおよびリーダーシップ理論について解説する。 [授業外学修]グループとはどのようなものか自分なりに定義づけてみる
⑦	[テーマ] 動機づけ① [内容] 欲求と動機づけとの関連性について解説を行う。生理的な欲求から高次の欲求までその種類について解説をする。 [授業外学修]自分の欲求について階層別に整理してみる			⑮	[テーマ] 社会心理② [内容] グループダイナミクスの知見がスポーツ集団をはじめとする人間の集団の中でどのように応用されているのかについて解説する。 [授業外学修]自分の周りのリーダーや集団について考えてみる
⑧	[テーマ] 動機づけ② [内容] 効力予期や結果予期を中心に認知が動機づけにどのように関連しているかについて解説を行う。 [授業外学修]自分の動機づけのメカニズムについて整理してみる			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定する。レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	◎	◎		90%
演習・実技					
授業態度			◎		10%
出席					欠格条件
関連科目	なし			関連資格	社会福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格
教科書	使用しない			参考書	授業の中で指示する。
オフィスアワー	火曜日と水曜日の12:00～12:30			その他	栗木研究室(E棟2階)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	人の心と行動 Human Mind and Behavior			担当教員	氏家靖浩
開講内容	学年・学期	1/2/3・半期	授業方法	講義	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
私たちの「心」のあり方や特徴は、私たちの行動を通じ、さまざまな側面から考えることが可能である。それが「心理学」のもの見かた・考えかたである。ここでは、いくつかのトピックをより具体的に紹介・検討することを通じて、私たちの行動の説明や予測を行う「心理学」の見かた・考えかたをより具体的に知り、自らの行動にも当てはめて考えてゆく。					v
授業の一般目標					
人の行動選択と決定を説明するために要請される諸概念について理解するとともに、それらの説明概念を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、また周囲の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	人の行動の法則性を理解するとともに、それらを用いて行動の予測・説明を行うことができる。				
■ 情意的領域	人の行動を客観的・分析的に考える態度を身につける				
■ 技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。				
授業計画(全体)					
集団・人格・記憶・心理検査・食・人間関係の内容領域を応用心理学的に検討することにより、基盤となる領域共通の心理学的思考方法を明らかにしてゆく。このため、合計6名の担当者によるオムニバス形式で講義を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(全員) [内容] 授業の内容と進め方、担当者についての詳細説明、「心」のありかたとその考え方の必要性について考える。 [授業外学修] 「心」とはどこにあるのかについて、諸理論を調べること		⑨	[テーマ] 心理療法②「スキーマ」(菊地・荒井) [内容] 認知療法的視点から、スキーマと悩みについて解説する。 [授業外学修] 自分が持っているスキーマについて省察してみること	
②	[テーマ] 人の集まりに関する心理学①(井上・荒井) [内容] 人が集まった場合、どのような役割が生まれるか。それぞれの役割とその行動特徴について検討する。 [授業外学修] 自分の所属するさまざまな集団内での役割を考えること		⑩	[テーマ] 食の心理学①(栗木・荒井) [内容] おいしいと感じること、実際の味との関係について検討し、味以外のおいしさを左右する条件を考える。 [授業外学修] 自らの食行動でも条件を操作してみること	
③	[テーマ] 人の集まりに関する心理学②(井上・荒井) [内容] 特に集団の先頭にたち、全体を主導する人(リーダー)の行動特徴や留意点について検討する。 [授業外学修] 自分の所属集団のリーダーの特徴を検討すること		⑪	[テーマ] 食の心理学②(栗木・荒井) [内容] 偏食やダイエットといったことがらを題材に、私たちの食習慣の選択と決定におよぼす情報の影響について考える。 [授業外学修] 自分の周囲の人たちの食習慣を調べてみる	
④	[テーマ] 人の性格・人格に関する心理学①(佐藤周・荒井) [内容] 個々の違いを説明する「人格」という考えかたについて検討するとともに、交流分析で用いられる「エゴグラム」をやってみる。 [授業外学修] 自分のエゴグラムの結果から、自分の人格を考えること		⑫	[テーマ] 人間関係の心理学①(荒井) [内容] 人間関係を改善・調整するための社会的スキルについて紹介し、その効果と限界を検討する。 [授業外学修] 自分の社会的スキルについて改善策を考えること	
⑤	[テーマ] 人の性格・人格に関する心理学②(佐藤周・荒井) [内容] 交流分析の方法を用いて、コミュニケーションを分析することを通じ、期待される立場や自らが望む立場の相違について検討する。 [授業外学修] 通常の会話で自分や相手の立場を考えてみる		⑬	[テーマ] 人間関係の心理学②(荒井) [内容] 初めて会った人々同士のためのアイスブレイクの手法の代表例を紹介し、関係構築に必要なことがらを検討する。 [授業外学修] 紹介された手法の改善を試みてみる	
⑥	[テーマ] 心理テストと心理検査①(山田・荒井) [内容] 心理学で用いられている心理検査について紹介するとともに、実際に自分について実施してみる。 [授業外学修] 自分の検査結果について検討してみる		⑭	[テーマ] 人間関係の心理学③(荒井) [内容] 人間関係の構築を促進する働きがあるとされるグループワークを紹介し、実践してみる。 [授業外学修] 自分自身のグループワークでの行動について反省すること	
⑦	[テーマ] 心理テストと心理検査②(山田・荒井) [内容] 巷間しばしば語られる「心理テスト」を紹介し、心理検査との違いを考えながら、妥当性や信頼性の重要性について検討する。 [授業外学修] 「心理テスト」の欠点についてまとめておく		⑮	[テーマ] まとめ(荒井) これまで扱った各種領域をはじめ、広い分野・領域を対象とする心理学に共通する手法や考えかたについてまとめる。 [授業外学修] 講義の内容を総合して自分自身を振り返ってみる。	
⑧	[テーマ] 心理療法①無意識と症状(菊地・荒井) [内容] 「精神分析的視点から、心理的な内容が症状として顕在化することについて解説する。 [授業外学修] 自分の場合で同様のことがなかったか反省してみる		⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)					
レポートを最低3回課す。その評価(評価割合合計90%)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定する。レポートは評価して返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明する。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	◎	◎		90%
演習・実技					
授業態度		◎			10%
出席					欠格条件
関連科目	なし			関連資格	なし
教科書	使用しない。			参考書	授業の中で指示する。
オフィスアワー				その他	連絡先: 荒井研究室(A309)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ことばと人間A			担当教員	青沼 一民	
	Language and Human Being A					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	小・中学校での教員の実務経験を有する。	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本授業は、「私たちにとってことばは何か」を主題とし、ことばの成立、その理解、知識について解説する。					iv、v	
授業の一般目標						
ことばを理解することで、日常生活の中で言語表現に配慮しながら、よりの確で適切な表現ができるようになる。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	言語表現に対する意識を高める。				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
本授業は、毎回一つのトピックスについて考察し、授業展開を重ねるごとにことばについての多面的な理解ができるよう構成されている。毎回授業ごとに前回の授業を振り返りを行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学修]配布プリントにより次週の予習を行う。			⑨	[テーマ] 比喩的表現について(2) [内容] 比喩的表現の有効性について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。	
②	[テーマ]ことばは人間にとって何か。 [内容] 我々にとってことばとは何を考える。 [授業外学修]配布プリントにより次週の予習を行う。			⑩	[テーマ] 比喩的表現について(3) [内容] 具体例をもとに比喩的表現の有効性について再考する。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。	
③	[テーマ] ことばが意味を持つためには(1) [内容] ある表現が成立するための条件について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。			⑪	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。	
④	[テーマ] ことばが意味を持つためには(2) [内容] ある表現が成立するための条件について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。			⑫	[テーマ] わかるとは(1) [内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。	
⑤	[テーマ] 概念について(1) [内容] ことばと概念の関係について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。			⑬	[テーマ] わかるとは(2) [内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。	
⑥	[テーマ] 振り返り(テストを含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。			⑭	[テーマ] わかるとは(3) [内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える。 [授業外学修]これまでの授業内容を復習する。	
⑦	[テーマ] 概念について(2) [内容] 概念の形式について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。			⑮	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学修]	
⑧	[テーマ] 比喩的表現について(1) [内容] 比喩的表現の構造について考える。 [授業外学修]学習配布プリントにより次週の予習を行う。			⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
授業内レポート及びテストの結果で評価する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎			80%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	なし
教科書	使用しない。				参考書	授業の中で指示する。
オフィスアワー	火曜日10:20～11:50				その他	連絡先: 青沼研究室(A313)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		ことばと人間 B Language and Human Being B			担当教員	鎌田 幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	高等学校の教員経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
人間にとって「ことば」とは如何なるものであるのかについて、言語学的観点からの概説を試みる。言語学にはその研究目標により様々な立場があるが、本講義では、特に一つの立場に偏ることなく、言語学全般に関する基本的概念をわかりやすく解説する。言語が誰にとっても身近で重要なものであることを認識する機会としたい。						iv
授業の一般目標						
言語学全般に関する基本的概念を理解する。 身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	言語学全般に関する基本的概念を理解する。				
■	情意的領域	身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
特定のテキストは使用せず、毎回テーマに沿ったプリントを配布する。講義全体の流れを説明すると、前半では「ことば」の内部構造について「音声」「語」「文」「意味」の4つの側面に分けて考察する。後半では、「ことば」と「社会」との関係について様々な観点から検討する。最後にそれまでの講義内容を前提とし、日本語の歴史について概観する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ことばの様々な研究法 [内容] ことばを研究する際の代表的な研究方法について概説する。 [授業外学修] 講義の内容を復習する			⑨	[テーマ] ことばと社会(2) 言語の多様性 [内容] 言語接触、ピジンとクレオール、多言語社会とその類型、多言語社会とその歴史的起源、単一言語社会等 [授業外学修] 講義の内容を復習する	
②	[テーマ] ことばの構造(1) 言語音の構造 [内容] ことばの音声的構造を概説する。音声器官、音素、異音、音声学と音韻論の立場の違い等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する			⑩	[テーマ] ことばと社会(3) 公用語とは何か [内容] 書きことばと話しことば、方言と標準語、国家と標準語、言語教育、国際語等 [授業外学修] 講義の内容を復習する	
③	[テーマ] ことばの構造(2) 語の構造 [内容] ことばの重要な単位である「語」について、形態論的分析法を概説する。語類、形態素、語形成、語形変化、文法範疇等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する			⑪	[テーマ] ことばと社会(4) 英語史概観 [内容] 被征服言語/征服言語としての英語、英国の階級社会と英語、米国フェミニズム運動と英語等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する	
④	[テーマ] ことばの構造(3) 文の構造 [内容] 文の構造の分析法について概説する。階層構造、直接構成素、句構造、語順、類型論等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する			⑫	[テーマ] ことばの不思議 [内容] 同名のドキュメンタリーを鑑賞し、その感想を提出する。 [授業外学修] ことばとは何かを考える	
⑤	[テーマ] ことばの構造(4) 意味の構造 [内容] ことばの意味的側面についてその分析法を概説する。意味の意味、意味の場、意味の関係等。 [授業外学修] 講義の内容を復習する			⑬	[テーマ] 日本語の歴史(1) 日本語の起源・系統 [内容] 日本語の起源・系統についての諸説を概観する。同祖論と重層論等 [授業外学修] 講義の内容を復習する	
⑥	[テーマ] ことばとその外部(1) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。人名:人名の多様性、英米人の人名等 [授業外学修] 講義の内容を復習する			⑭	[テーマ] 日本語の歴史(2) 上代から近世まで [内容] 上代から近世までの日本語の歴史を概観する。日本語の表記の歴史、借用語・翻訳語等 [授業外学修] 講義の内容を復習する	
⑦	[テーマ] ことばとその外部(2) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。地名:地名の命名法、英米の地名等 [授業外学修] 講義の内容を復習する			⑮	[テーマ] 日本語の歴史(3) 明治維新以降 [内容] 明治維新以降の日本語の歴史を概観する。言文一致運動、植民地の言語政策、戦後の言語政策等 [授業外学修] 講義の内容を復習する	
⑧	[テーマ] ことばと社会(1) 言語の社会的機能 [内容] 文化としての言語、言語の恣意性、サピア・ウォーフの仮説、アイデンティティとしての言語、言語と民族等 [授業外学修] 講義の内容を復習する			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
期末試験(70%)と出席を含む積極的授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 なお、この講義の目的は、普段何気なく無意識的に使用している「ことば」について、一歩下がった位置から客観的・意識的に考察することによって、「ことば」の重要性や奥の深さについて考える機会を与えることにあります。この講義を受講することによってある特定の言語(例えば英語や日本語)の技能が向上するものと誤解しないようしてください。
定期試験		◎	◎		70%	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度			◎		30%	
出席					欠格条件	
関連科目	ことばと人間 A				関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	講義の際にその都度紹介します
オフィスアワー	火曜日14:20~15:50				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ことばと人間B Language and human B			担当教員	千田 孝彦/ジェリー パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 中学校での教員経験を有する。
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
In this class, students think about what sports and health are for human being. For this purpose, this class will examine current topics of sports and health. In the later lessons, students make presentations about sports and health. All lessons are given in English. 中学校での実務経験を活かし、学習者中心の授業を行う。					iv
授業の一般目標					
Students can acquire current knowledges of sports and health. In addition, students can make a brief summary of their opinions in English. Students also make some presentations about sports and health.					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	To acquire current knowledges of sports and health for human being.				
■ 情意的領域	To make summaries, write reports and make presentations voluntarily.				
■ 技能表現的領域	To write summaries and explain about sports and health. To write reports and make presentations about sports and health for human being.				
授業計画(全体)					
One topic is treated per a class. Students make a summary of the topic and write a report of it. Then students make a presentation about sports and health for human being. Through this learning, students are expected to deepen their understanding of sports and health for human being.					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Orientation(Kikuchi) [内容] Explanation of the classes [授業外学修] Read the next topic before class.			⑨	[テーマ] Word list and explanations (Parangi) [内容] Proof reading of English scripts and feedback regarding over presentation content and continuity. [授業外学修] Students must prepare word lists for their presentations. Rehearsal of presentations
②	[テーマ] Vitamin D and our health.(Kikuchi) [内容] Vitamin D helps our bodies in many ways. The latest discovery is how it helps people with breast cancer. V.D also helps other sufferings. [授業外学修] Read the next topic before class			⑩	[テーマ] 1st presentations (Parangi) [内容] Devising questions from presentations [授業外学修] Decide a new topic of research and prepare a pacing plan
③	[テーマ] Age and abilities [内容] French man set a record in the 105-year-old category for his one-hour ride. We should do some excise on a daily basis to stay healthy. [授業外学修] Read the next topic before class.			⑪	[テーマ] Research new topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学修] Prepare power point slides and English scripts.
④	[テーマ] Sports can change the society.(Kikuchi) [内容] Young women train to wrestle in conservative Indian state. Wrestling will improve things for women in patriarchal culture. [授業外学修] Read the next topic before class.			⑫	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations.
⑤	[テーマ] Running in cold weather improves performance.(Kikuchi) [内容] The runners don't let cold temperatures and snow keep them from running outdoors. Running in cold weather has more benefits than one in hot. [授業外学修] Think about the topics you will write about			⑬	[テーマ] 1st presentations (Parangi) [内容] Devising questions from presentations. Introduction of new topic for next lesson [授業外学修] Find a current affairs article that is sports relevant.
⑥	[テーマ] Demonstration Power point presentation(Parangi) [内容] An introduction of Traditional Maori culture & games used for eye-hand coordination, balance, strength and rhythm [授業外学修] Develop a pacing plan for first power point presentation			⑭	[テーマ] Current Affairs sports (Parangi) [内容] Paper cutouts of current sports affairs around the world, presentation and discussion [授業外学修] Research a current sports event to report.
⑦	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations.			⑮	[テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi) [内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article. [授業外学修] Prepare another article for presentation
⑧	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学修] Prepare power point slides, English scripts for presentations.			⑯	[テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi) [内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article. [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
Preparation, summaries, reports of topics, drafts for presentations and performance of presentations are evaluated. Reports and drafts are returned with comments in class.					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎		◎	40%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技		◎	◎	◎	50%
授業態度			◎		10%
出席			◎		欠格条件
関連科目	ことばと人間A,B			関連資格	
教科書	担当教員が準備する			参考書	Dictionary
オフィスアワー	Wednesday 12:40~14:10(A515)			その他	

(社会分野)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会学概論 Introduction to Sociology (L.)				担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。</p>						v
授業の一般目標						
<p>社会における「当たり前」(社会通念や規範)を疑う能力を身につける。自分自身が縛られている「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題を自分自身と関連付けながら、より鮮明に理解できるようになる。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	社会学の基礎的な概念や学説を理解している				
■	情意的領域	社会的な通念や規範を相対化し、客観視することができる				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
<p>毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学修]社会問題にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む</p>			⑨	<p>[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学修]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する</p>	
②	<p>[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>			⑩	<p>[テーマ] ジェンダーとスポーツ文化 [内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>	
③	<p>[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>			⑪	<p>[テーマ] 家族と社会学 [内容] 近代家族の特徴について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>	
④	<p>[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>			⑫	<p>[テーマ] 学校と社会学 [内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>	
⑤	<p>[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>			⑬	<p>[テーマ] スポーツと社会学 [内容] スポーツ社会学の知見について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>	
⑥	<p>[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>			⑭	<p>[テーマ] メディアと社会学 [内容] メディアとコミュニケーションについて解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>	
⑦	<p>[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>			⑮	<p>[テーマ] 現代と社会学 [内容] 現代社会(後期近代社会)がもつ特徴や問題について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>	
⑧	<p>[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする</p>			⑯	<p>[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学修]講義内容を復習し、期末レポートを作成する</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。</p>
定期試験		◎			50%	
授業内レポート					評価対象外	
授業外レポート		○	◎		50%	
演習・実技					評価対象外	
授業態度					評価対象外	
出席					欠格条件	
関連科目	社会構造と人間関係、社会調査法 I			関連資格	社会福祉士・介護福祉士	
教科書	特に指定せず、毎回自作のレジュメを配布する。参考文献はその都度提示する。			参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 奥村隆[編著]『社会学になにができるか』八千代出版、1997	
オフィスアワー	火曜日 14:20～15:50			その他	tk-mitani@sendai-u.ac.jp	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会構造と人間関係 Social Structure and Human Relationship (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、現在問題視されている「社会問題」を取り上げ、社会学の知見を用いて掘り下げていく。					v
授業の一般目標					
社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会(中でも、学校教育や学校外教育＝社生涯学習)が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会学的な概念や学説を理解している			
■	情意的領域	社会的な通念や規範を相対化、客観視することができる。			
■	技能表現的領域	社会問題の問題性を理解し、自分なりの解決策を論理的に提示できる。			
授業計画(全体)					
毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。後半は教育をめぐる社会問題について社会科学的に解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学修]学校運動部活動にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む			⑨	[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学修]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する
②	[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする			⑩	[テーマ] 学校教育の社会学① [内容] 学校を持つ集中性・秩序性・文化性について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする
③	[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする			⑪	[テーマ] 学校教育の社会学② [内容] 学校におけるリスクの問題について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする
④	[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学修]本日の講義について復習をする			⑫	[テーマ] 社会教育・生涯学習の社会学① [内容] 公教育として学校外で展開される教育について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする
⑤	[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする			⑬	[テーマ] 社会教育・生涯学習の社会学② [内容] 学校外教育を組織する専門職のひとつである社会教育主事の仕事をファシリテーターという視点から解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする
⑥	[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする			⑭	[テーマ] 貧困問題の社会学 [内容] 貧困問題と教育との関係(学校教育・社会教育を通じた支援の歴史と現状)について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする
⑦	[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする			⑮	[テーマ] 社会的包摂の社会学 [内容] 学校教育や社会教育における社会的包摂問題への取り組みについて解説する [授業外学修]本日の講義について復習をする
⑧	[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学修]本日の講義について復習をする			⑯	[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学修]講義内容を復習し、期末レポートを作成する
成績評価方法(方針)					
中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			50%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート		○	◎	◎	50%
演習・実技					評価対象外
授業態度					評価対象外
出席					欠格条件
・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。					
関連科目	社会学概論、社会調査法 I			関連資格	社会教育主事任用資格
教科書	特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。			参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 神谷拓『運動部活動の教育学入門』大修館書店、2015
オフィスアワー	火曜日 14:20～15:50			その他	tk-mitani@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	消費経済とスポーツ Economy of Consuming and Sport			担当教員	高成田 享
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。					iv、v
授業の一般目標					
消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する			
■	情意的領域	自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。			
■	技能表現的領域	作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。			
授業計画(全体)					
消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業の概要 [内容] 消費経済とは何かを学ぶ。 [授業外学修] 自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる			⑨	[テーマ] クレジット社会 [内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。 [授業外学修] クレジットで購入したことがあるか考える
②	[テーマ] 消費の歴史 [内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。 [授業外学修] 自分それぞれの消費についてその目的を考える			⑩	[テーマ] 貯蓄と投資 [内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ [授業外学修] どんな貯蓄や投資があるか調べる
③	[テーマ] 万国博からショッピングモールへ [内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。 [授業外学修] 万国博について調べる			⑪	[テーマ] 消費税 [内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。 [授業外学修] 日本の財政を調べる
④	[テーマ] 大衆消費社会とは [内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味 [授業外学修] 自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える			⑫	[テーマ] 消費経済と国家経済 [内容] 消費のマクロ経済的な意味 [授業外学修] マクロ経済の意味を調べる
⑤	[テーマ] 広告の功罪 [内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。 [授業外学修] 自分の生活で広告で購入したのものがあるかどうか考える			⑬	[テーマ] 消費社会を超えて [内容] 消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。 [授業外学修] 人間の価値観について考える
⑥	[テーマ] 記号としての消費 [内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。 [授業外学修] ブランドとは何かを考える			⑭	[テーマ] まとめと小論文の書き方 [内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。 [授業外学修]
⑦	[テーマ] 消費するスポーツ(上) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。 [授業外学修] 自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあるか考える			⑮	[テーマ] 小論文 [内容] これまでの授業を踏まえて小論文を書く。 [授業外学修]
⑧	[テーマ] 消費するスポーツ(下) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察 [授業外学修] 同上			⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					30%
授業内レポート	◎	◎	◎		60%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	○	○		10%
出席	○	○	○		欠格条件
関連科目					関連資格
教科書					参考書
オフィスアワー					その他
					toru@takanarita.com

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	世界経済・日本経済とスポーツ World & Japanese Economy and Sports			担当教員	遠藤保雄	
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	実務経験の有無	担当者が国連等での実務経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。					i、ii、iii、iv	
授業の一般目標						
スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、まず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、これを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。				
■	情意的領域	スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。				
■	技能表現的領域	スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎面についての理解を深める。				
授業計画(全体)						
本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ [内容] 国際経済・日本経済の現状とそこにおけるスポーツの位置づけを考察する。 [授業外学修] GDPに着眼し国際経済・日本経済の規模を調べる			⑨	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟① [内容] 第二次大戦後の東西冷戦下の国際経済の発展と、世界のスポーツの展開過程を考察するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する [授業外学修] 第二次大戦後の現代史を予習しておくこと	
②	[テーマ] 資本主義経済の考察① [内容] 資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。 [授業外学修] 資本主義経済とは何かをあらかじめ調べてく			⑩	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟② [内容] 冷戦崩壊後の世界経済の変化とスポーツのする、見る、支えるスポーツの展開を考察 [授業外学修] スポーツ産業論参照	
③	[テーマ] 資本主義経済の考察② [内容] ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動 [授業外学修] 生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと			⑪	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟③ [内容] 第二次大戦後の近代スポーツの二つの流れ、スポーツの商業化、欧米でのプロスポーツの全盛、欧州での多様なスポーツの展開 [授業外学修] スポーツ産業論参照	
④	[テーマ] 資本主義経済の考察③ [内容] ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占 [授業外学修] 需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと			⑫	[テーマ] 日本経済の発展とスポーツ① [内容] 我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。 [授業外学修] 明治期から現代までの経済史を学習すること	
⑤	[テーマ] 資本主義経済の考察④ [内容] マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場・貨幣市場の関係、マクロ経済を構成要素(家計・企業・政府) [授業外学修] GDPを構成する要素を調べておくこと			⑬	[テーマ] 日本経済の発展とスポーツ② [内容] 経済のグローバル化、ソフト化、情報化社会化、少子高齢化等の下での、する、見る、支えるスポーツ経済の効果、スポーツの発展について考察 [授業外学修] 2000年代の日本経済の特徴を予習すること	
⑥	[テーマ] 資本主義経済の考察⑤ [内容] マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレ・デフレ、財政・金融政策、国際経済(貿易、比較優位、国際収支と円高・円安) [授業外学修] マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと			⑭	[テーマ] 世界経済の発展とオリンピック① [内容] 近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する [授業外学修] 近代オリンピックの歴史を予習すること	
⑦	[テーマ] 世界経済の形成とスポーツの概観 [内容] 古代、中世、資本主義成立、近代、現代の世界経済社会の発展と伝統的スポーツ・近代的スポーツを概観 [授業外学修] 古代から現代までの世界史を予習しておくこと			⑮	[テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学 [内容] 2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。 [授業外学修] 東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと	
⑧	[テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ [内容] 英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する [授業外学修] 英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと			⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験		◎	○	○	90%	
授業内レポート		◎	○	○	10%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目				関連資格		
教科書				参考書	スポーツの経済学(マイケル・A・リーズ) スポーツ産業論(原田宗彦)	
オフィスアワー	金曜日13～15時			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	法学 Jurisprudence			担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。					v
授業の一般目標					
日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事実を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。			
■	情意的領域	法的観点から社会問題を考え、意見を述べることができるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘		⑨	[テーマ] 使用者責任と国家賠償責任 [内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘	
②	[テーマ] 親族関係と法 [内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘		⑩	[テーマ] 土地工作物責任、営造物責任、動物占有者責任 [内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘	
③	[テーマ] 婚姻と離婚(1) [内容] 婚姻の成立、無効・取消、 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘		⑪	[テーマ] 契約を結ぶことができるのは [内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項・ [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘	
④	[テーマ] 婚姻と離婚(2) [内容] 夫婦の権利義務、離婚、財産分与等 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘		⑫	[テーマ] 制限行為能力者 [内容] 未成年者、成年後見制度 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告	
⑤	[テーマ] 親子関係、私的扶養 [内容] 親子関係で現れる法的諸事項 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘		⑬	[テーマ] 予備、または、中間考査 [内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。 [授業外学修]	
⑥	[テーマ] 遺言と法定相続 [内容] 遺言と相続の基本的な事項 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘		⑭	[テーマ] お役所とお役所の仕事 [内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的な事項 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘	
⑦	[テーマ] 損害の賠償 [内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘		⑮	[テーマ] お役所の処分を争う [内容] 行政救済の基本事項 [授業外学修]	
⑧	[テーマ] 不法行為 [内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力 [授業外学修] 次回のテキスト箇所の指摘		⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)					
成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間考査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	谷口・松原編著、基礎からわかる法学(成文堂)				参考書
オフィスアワー					その他
					非常勤講師のため連絡は教育企画室を通すこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	歴史学入門 Introduction to History				担当教員	伊達宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
1コマを2部構成とし視聴覚教材を駆使して、(1)通史としての日本史を紹介する。(2)紹介した時代を代表する人物に的を当て、困難や危機に直面した時、先人はそれをどのように乗り切ったかを紹介する。紹介する人物は次の通り。聖徳太子。中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など14名。						iv
授業の一般目標						
国際化・情報化など激しく移り変わる変化の中で、(1)日本の素晴らしい歴史や文化について理解を深め(2)それぞれの時代を生きた先人の生き方を通して自信と誇りを持って生き、堂々と世界に伍していくことのできる人材となることを目指す。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語るができる。					
■ 情意的領域	身の回りのものを優しく謙虚な気持ちで見て、いつも高い志を持って生きることができる。					
■ 技能表現的領域	言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。					
授業計画(全体)						
歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得てまた興味を持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料として生徒手元において役立つオリジナルな資料を作成配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 旧石器時代から飛鳥時代 [内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑨	[テーマ] 道を起こし教を布く・徳川家康 [内容] いまの日本の形を整える礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑していた覇者の哲学を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。	
②	[テーマ] 大化の改新と大宝律令の制定 [内容] 聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令の制定など国のかたちが整っていく過程を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑩	[テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり [内容] 秀吉から領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても掛けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の壮大な夢と国づくりを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。	
③	[テーマ] 奈良の都と京の都 [内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって花開いた国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑪	[テーマ] 『五輪書』に見る宮本武蔵の生き方 [内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていく上においてのヒントを提供。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。	
④	[テーマ] 平安時代の光と影 [内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑫	[テーマ] 多彩な人材を育てた吉田松陰 [内容] 新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き方を紹介し、生きていく上にヒントとなる情報を提供。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。	
⑤	[テーマ] 鎌倉幕府の成立と建武中興 [内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応じて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの在り方を考える。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑬	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し、新しい日本の国づくりに危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識と悲壮な決断を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。	
⑥	[テーマ] 応仁の乱と戦国乱世 [内容] 戦国時代を生きた武将の名言を紹介し、その中で「地を拓き水を治める」ために腐心した武田信玄の国づくりを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑭	[テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助 [内容] 国民主体の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の功績を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。	
⑦	[テーマ] 織田信長、天下統一への道 [内容] 卓抜な発想と情悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を造り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑮	[テーマ] 私の履歴書 [内容] 自身が失敗と挫折の連続の中で夢を実現するために歩んだ半生を紹介し、学生が生きていく上でのヒントになる情報を提供。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。	
⑧	[テーマ] 短期間で天下を統一した豊臣秀吉 [内容] 一介の農民から天下統一した秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
毎回提出させるレポートとテストを踏まえて総合的に判断する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 毎回配布する「世界の名言」「抜粋のつづり」は必ず読んで自己研鑽の一助とし、加えて配布するその時々話題になっている事項を解説した資料にも目を通し、決して疑問を残さないようにして欲しい。例示 その時々資料「裁判員裁判と検察審査会」「皇族と皇位継承」「元号」「オリンピックの歴史」「自衛隊の災害派遣」「激甚災害指定」「選挙権」「革命とクーデタ」「変と乱」「懲役と禁固、執行猶予と実刑判決」「訴訟手続きと弁護士、検事、裁判官」など。
定期試験					50%	
授業内レポート		20%	20%	10%	50%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書	手作り教科書(34頁)と四字熟語(20頁)を配布				参考書	
オフィスアワー					その他	図書館専用電話0224-55-2052

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	歴史と人間 Individual Elements in History			担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
通史としての日本史と、時代を大きく変えて行くために大きな役割を果たした先人の生き方、また名言や四字熟語等を通して、これからの先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する講座とする。					iv
授業の一般目標					
(1) 世界に冠たる日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識する。(2) 社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語ることができる。				
■ 情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちと謙虚な気持ちで見、いつも高い志を持って生き力を養う。				
■ 技能表現的領域	言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になる。				
授業計画(全体)					
歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得て、また興味も持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料として生涯手元において役立つオリジナルな資料を作成配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 聖徳太子、理想国家実現の夢 [内容] 天皇を中心とした中央集権国家づくりに腐心した、聖徳太子の生き方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑨	[テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学 [内容] 我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切なのかを考える。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。
②	[テーマ] 聖徳太子の意思を継承、大化の改新 [内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑩	[テーマ] 伊達政宗の国づくり [内容] 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦慮の中で大穀倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。
③	[テーマ] 天平文化、国風文化花開く [内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止の建言によって育った日本独自の国風文化を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑪	[テーマ] 兵法の道は人の道 [内容] 剣一筋に生きた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていく上で何が大切かを学ぶ。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。
④	[テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛 [内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢実現に腐心した平清盛とその生きた時代を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑫	[テーマ] 志のある者よ、立ち上がれー吉田松陰ー [内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。
⑤	[テーマ] 乱世を制するリーダーの条件 [内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑬	[テーマ] 日本の近代化実現のため殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し、郷里鹿児島の人びとの怨嗟の声にもめげず、命がけて新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。
⑥	[テーマ] 水を治め地を開く [内容] 戦国末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の全体を見て将来を見据えた国づくりを紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑭	[テーマ] 板垣死すとも自由は死せず [内容] 身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけて全国遊説し国会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。
⑦	[テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ [内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き方を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑮	[テーマ] 私の履歴書 [内容] 日本の戦後の歴史に自身の半生を重ね合わせ、生きていく上で何が大切であるかを考えるヒントを提供する。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。
⑧	[テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策 [内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の知謀と策略、今に通じる人心掌握術を紹介。 [授業外学修]「世界の名言」「抜粋のつづり」から選択した資料を配付。			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
毎回提出させるレポートとテストを踏まえて総合的に判断する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					50%
授業内レポート		20%	20%	10%	50%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 毎回配布する「世界の名言」「抜粋のつづり」は必ず読んで自己研鑽の一助とし、加えて配布するその時々話題になっている事項を解説した資料にも目を通し、決して疑問を残さないようにして欲しい。例示 その時々資料「裁判員裁判と検察審査会」「皇族と皇位継承」「元号」「オリンピックの歴史」「自衛隊の災害派遣」「激甚災害指定」「選挙権」「革命とクーデタ」「変と乱」「懲役と禁固、執行猶予と実刑判決」「訴訟手続きと弁護士、検事、裁判官」など。					
関連科目					関連資格
教科書	手作り教科書(34頁)と四字熟語(20頁)を配布				参考書
オフィスアワー					その他
					非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。

(自然分野)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	生物科学 Biological Science			担当教員	千葉 研一
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
毎回各講義内容(テーマ)に応じた資料を配布し、適宜視聴覚機器も活用しながら、講義及び対話形式で授業を行う。ミニレポートの提出や小テストも随時実施する。更に問題解決能力の向上を目指し、ディスカッションやディベート形式での授業も行う。					iv
授業の一般目標					
現代社会に於けるバイオサイエンスの進歩は目覚ましく、体育学や栄養学、医学の基盤領域として生物科学を修得することは必須条件である。本講義では、人生を歩んでいく上で必要となる基礎的な知識を身につけるとともに、バイオサイエンス分野のキーワードを具体的に説明でき、更に今後の自己の行動を決定するための判断基準を獲得することを目標とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	教養としてのバイオサイエンスを十分理解し、基本的な用語(キーワード)を説明できる。				
■ 情意的領域	人間とは何かを深く考え、自己の人生に役立たせることができる。				
■ 技能表現的領域	ディスカッションやディベート能力を向上させ、科学的な問題解決能力を身につけることができる。				
授業計画(全体)					
現代のライフサイエンス(特に生物学・医学)は驚くべき速さで進展しており、日々新しい発見と研究成果が生まれている。本講義では、生物の進化やヒトの体内の代謝を中心に人間をミクロ・マクロ両面から捉え、更に最新の生物学についても概要を解説する。また理解をより深化させるために、高校での実務経験を活かし「ディスカッション・グループワーク・ディベート」等も展開し、科学的課題解決法を身につけるとともに、自己の人生における判断力向上を目指す。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス&科学の方法 [内容] この授業の目的と講義の進め方を説明し、導入として「科学の方法」による「論理的思考」について詳しく解説する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト			⑨	[テーマ] タンパク質合成のしくみと筋肉活動のメカニズム [内容] DNA・RNAの構造を理解し、それらがアミノ酸・ペプチドを経て、タンパク質まで合成していくつながりを系統的に考察する。 [授業外学修]配布資料による内容理解
②	[テーマ] 生物の進化と人類の誕生 [内容] 生命の起源、生物の特徴、地質時代の区分、霊長類・人類の進化、人類の分類学上の位置について系統的に学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑩	[テーマ] なぜガンはできるのか？ [内容] DNAの損傷のしくみを活性酸素を通して学習し、それを予防する抗酸化物質についても学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト
③	[テーマ] 進化論と日本人のルーツ [内容] 主な進化説の変遷を確認し、ホモ・サピエンスの地理的拡散の歴史とミトコンドリアDNAの分析から日本人のルーツを考察する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、視聴覚教材利用学習			⑪	[テーマ] 免疫システムのしくみ [内容] 人間が外敵から身を守るしくみと、免疫と病気の因果関係についても細胞レベルで理解する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト
④	[テーマ] 課題解決演習(I) [内容] 脳科学と学習・記憶の関係について理解し、実践できるような姿勢を身につける。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑫	[テーマ] ES細胞とiPS細胞 [内容] 現代分子生物学の最先端の研究の成果であるES細胞とiPS細胞について学習し説明できる能力を養う。 [授業外学修]配布資料による内容理解
⑤	[テーマ] 人が生きていくしくみ(I) [内容] 代謝の意味を把握し、消化と吸収について分子レベルで学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト			⑬	[テーマ] 再生医療とは [内容] 再生医療の内容を把握し、その未来における様々な有効利用と問題点を把握する。 [授業外学修]配布資料による内容理解
⑥	[テーマ] 人が生きていくしくみ(II) [内容] 三大栄養素である炭水化物・タンパク質・脂肪を分解する体内のしくみについて分子レベルで学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑭	[テーマ] 課題解決演習(III) [内容] 科学技術の進歩と生命倫理に関わる重要なテーマを深く考察する(ディスカッション・グループワーク・ディベート)。 [授業外学修]配布資料による内容理解
⑦	[テーマ] 人が生きていくしくみ(III) [内容] 呼吸の本質的な意味についてATPとADPの関係、解糖系・TCA回路・電子伝達系を通して理解する(アスリート対象の考察も) [授業外学修]配布資料による内容理解			⑮	[テーマ] 科学技術の進歩と生命倫理 [内容] これまでの授業を総括し、今後の人生に役立つ科学的判断力・道徳観、倫理観を身に着ける。 [授業外学修]配布資料による内容理解
⑧	[テーマ] 課題解決演習(II) [内容] ディスカッションの重要性を把握し、ディベート力とグループ活動力の向上を目指すとともに、考察することの大切さを学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑯	[テーマ] 総合テスト [内容] 「生物学的キーワード」「生体内の重要なしくみや繋がり」「生物科学についての幅広い考察」を文章として論述できる力が必要。 [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
定期試験の評価60%、授業内提出物20%、授業態度(演習を含む)20%として評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎	◎	60%
授業内レポート		○	○	○	20%
授業外レポート					
演習・実技		○	○	○	(下記に含有)
授業態度				○	20%
出席					欠格条件
関連科目	エコロジー概論				関連資格
教科書	特になし。配布資料提供。				参考書
オフィスアワー					その他
					非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		エコロジー概論 An Introduction to Ecology			担当教員	千葉 研一
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
毎回各講義内容(テーマ)に応じた資料を配布し、講義及び対話形式で授業を行う。ミニレポートの提出や小テストも随時実施する。更に課題解決能力の向上を目指し、ディスカッションやディベート形式での授業も行う。						iv
授業の一般目標						
現在私達が生活している自然環境は、非常に長い年月をかけて地球と生物がつくり上げてきたものである。しかしその反面、人間の経済活動は、私達自らの未来を奪うかもしれないほどの地球環境破壊を行ってきたことも事実である。本授業では、人間を含めたすべての生物(生態系)と地球環境との関わりを中心に、主に環境化学からの視点で分析し、人生を歩んでいく上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目標とする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	教養としてのエコロジーとエコシステムを十分理解し、基本的な用語(キーワード)を説明できる。また、これまで人間活動が引き起こしてきた主要な環境破壊の例やメカニズムについても説明することができる。				
■	情意的領域	地球環境保全と人間活動のあり方について深く考えることができ、自己の人生に役立たせることができる。				
■	技能表現的領域	ディスカッションやディベート能力を向上させ、科学的な問題解決能力を身につけることができる。				
授業計画(全体)						
未来の地球環境をよりよく保全する方策を考えるためには、生態系の基礎知識とともに、人間によるこれまでの環境破壊の歴史とメカニズムを理解することは大変重要なことである。そのためにも基本的な化学式・化学反応式の理解は必須である。更に考察をより深化させるために、高校での実務経験を活かし「ディスカッション・ディベート」等も展開し、科学的課題解決法を身につけるとともに、自己の人生における判断力向上を目指す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] この授業の目的と講義の進め方を説明し、エコロジーとエコシステムについて解説する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト			⑨	[テーマ] 新素材と生活環境 [内容] ファインセラミックや形状記憶合金、水素吸着合金等が人間生活と環境にどのように影響を与えていくかを系統的に考察する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト	
②	[テーマ] 水と生命 [内容] 水の惑星である地球と水の特性がどのように生物に影響を及ぼしているかを学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト			⑩	[テーマ] 課題解決演習(II) [内容] 人間生活の向上と環境破壊という相反するテーマに、自己の考えをまとめた確かなディスカッションとディベートができることを目指す [授業外学修]配布資料による内容理解	
③	[テーマ] 課題解決演習(I) [内容] 生態系が地球環境の中で大きな危機に瀕していることをテーマに、的確なディスカッションとディベートができることを目指す。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑪	[テーマ] 生物と環境 [内容] 生物多様性の本質的な意味と環境保全の重要性について学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト	
④	[テーマ] 地球環境と人間活動(I) [内容] グローバルな地球環境の中で、特に地球温暖化とオゾン層の破壊についてのメカニズムを理解する。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑫	[テーマ] 絶滅危惧種と外来種 [内容] 動植物における主要な絶滅危惧種と外来種を把握し、保護していく姿勢を身につける。 [授業外学修]配布資料による内容理解	
⑤	[テーマ] 地球環境と人間活動(II) [内容] 地球大気について、特に酸性雨と大気汚染(光化学スモッグ、PM2.5等)についてのメカニズムについて理解する。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑬	[テーマ] 環境問題と国際条約 [内容] これまでの国際的な環境問題を歴史的に捉え、それと関わる主要な国際条約を系統的に学習する。 [授業外学修]配布資料による内容理解	
⑥	[テーマ] 地球環境と人間活動(III) [内容] 地球上の海や河川について、特に重金属や残留有機物、内分泌かく乱物質(環境ホルモン)の汚染について把握する。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑭	[テーマ] 課題解決演習(III) [内容] 科学技術の進歩と地球環境保全に関わるテーマを深く考察する(ディスカッション・グループワーク・ディベート)。 [授業外学修]配布資料による内容理解	
⑦	[テーマ] エネルギーの諸問題 [内容] 人間活動と密接な関係にある石炭・石油・LNG・原子力のエネルギー利用における功罪について比較対象できる能力を養う。 [授業外学修]配布資料による内容理解			⑮	[テーマ] 私たちの地球環境を守るためには [内容] これまでの授業を総括し、今後の人生に役立つ科学的判断力・道徳観、環境保護意識を身につける。 [授業外学修]配布資料による内容理解	
⑧	[テーマ] 化学物質と生活環境 [内容] 日常生活の身の回りにおける食品添加物、医薬品、農薬、合成洗剤、合成樹脂等が生物体や環境に与える影響を考察する。 [授業外学修]配布資料による内容理解、確認テスト			⑯	[テーマ] 総合テスト [内容] 「生物・化学のキーワード」「地球環境における人間活動の諸弊害」「環境保全の方策」等を文章として論述できる力が必要。 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
定期試験の評価60%、授業内提出物20%、授業態度(演習を含む)20%として評価する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・必要に応じて高校生物・化学の復習をしておくこと(特に基本的な無機化合物は化学式で書けることが望ましい)。 ・「ディスカッション・グループワーク・ディベート」については、より積極的な授業態度が必要である。
定期試験		◎	◎	◎	60%	
授業内レポート		○	○	○	20%	
授業外レポート						
演習・実技		○	○	○	(下記に含有)	
授業態度				○	20%	
出席					欠格条件	
関連科目	生物科学			関連資格		
教科書	特になし。配布資料提供。			参考書	生態学関連書籍、高校生物教科書、高校化学教科書	
オフィスアワー				その他	非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教養数学 Basic Mathematics			担当教員	大内 悦夫
開講内容	学年・学期	1・2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無 高等学校の数学の教員の経験を持つ。
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
小学校の算数、中学数学の基礎と応用事項、高等学校での既習事項における解法の研究および卒論等で使われる統計学の基礎を履修する、					i、iv
問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりとものにす。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に活用できる統計学の基礎を習得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	小・中・高等学校で学んだ算数・数学の基礎を基にして、特徴的である数学的な考え方を体得する。				
■ 情意的領域	他の人の意見を自分のものと対比しながら検討し、自分の考えを確かなものとしてまとめることができる。				
■ 技能表現的領域	情意的領域でまとめた自分の考えが発表できる。				
授業計画(全体)					
配付資料(プリント)による講義、問題演習、そしてその解法の発表という手順により授業を展開していく。算数・数学の内容に加えて、公務員試験の演習やSPIの対策にも触れる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価の方法等の説明 [授業外学修]			⑨	[テーマ] 公務員試験・SPI試験内容の研究 [内容] 実際に出題された問題の研究 I [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習
②	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習			⑩	[テーマ] 公務員試験・SPI試験内容の研究 [内容] 実際に出題された問題の研究 II [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習
③	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 図形・割合 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習			⑪	[テーマ] 公務員試験・SPI試験内容の研究 [内容] 実際に出題された問題の研究 III [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習
④	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 文章題 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習			⑫	[テーマ] 公務員試験・SPI試験内容の研究 [内容] 実際に出題された問題の研究 IV [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習
⑤	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 正負の数、文字式 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習			⑬	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 正規分布・偏差値 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習
⑥	[テーマ] 中学校・高校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習			⑭	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 相関係数 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習
⑦	[テーマ] 中学校・高校数学の指導内容の研究 [内容] 関数 [授業外学修] 本日の講義内容の復習			⑮	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 検定 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習
⑧	[テーマ] 中学校・高校数学の指導内容の研究 [内容] 場合の数、順列、組み合わせ、確率 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、講義内容の復習			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 既習内容の確認 [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。授業内外のレポートについては点検し、次の授業に於いてその内容を検討する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート		○			10%
授業外レポート		△			5%
演習・実技		○			20%
授業態度				△	5%
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	なし				参考書
オフィスアワー	火曜日 11:50~12:40				その他
					問い合わせ先 A303 大内研究室

(教養演習)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	体育系大学の基礎教養				担当教員	全専任教員
	Liberal Arts for Sport-oriented Students					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	—
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。						i、iv、v
授業の一般目標						
体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体—他の科目—との関わりの中で行えるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。				
■	情意的領域	所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。				
■	技能表現的領域	卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。				
授業計画(全体)						
全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う(そのため、回ごとに担当教員が変わることになる)。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、カリキュラムの体系 [内容] 本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。 [授業外学修]各学科のカリキュラムを『学生便覧』で確認する。				⑨	[テーマ] 健康福祉学科の体系 [内容] 健康福祉学科のカリキュラム体系および福祉関連資格の意義と重要性について概説する。 [授業外学修]福祉関連資格の基本書を横断的に読む。
②	[テーマ] 学士力(1) [内容] 導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学のカリキュラム上の位置づけと各分野の概説。 [授業外学修]中教審の答申を読み、基礎科目の位置づけを確認する。				⑩	[テーマ] 運動栄養学科の体系 [内容] 運動栄養学科のカリキュラム体系および栄養関連資格の意義と重要性について概説する。 [授業外学修]栄養関連資格の基本書を横断的に読む。
③	[テーマ] 学士力(2) [内容] 学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎の概説。 [授業外学修]スポーツ科学入門の基本書を横断的に読む。				⑪	[テーマ] スポーツ情報マスメディア学科の体系 [内容] スポーツ情報マスメディア学科のカリキュラム体系およびスポーツにおける情報の重要性について概説する。 [授業外学修]情報分析の基本書を横断的に読む。
④	[テーマ] 学士力(3) [内容] 英語の重要性と英語基盤科目の活きた事例。 [授業外学修]英語のライティング(文法等)について復習する。				⑫	[テーマ] 現代武道学科の体系 [内容] 現代武道学科のカリキュラム体系および武道の応用展開の重要性について概説する。 [授業外学修]武道および護身術の基本書を横断的に読む。
⑤	[テーマ] 教員養成 [内容] 中・高保健体教諭、小学校教諭、幼稚園教諭の社会的な役割と重要性を概説する。 [授業外学修]教員免許取得までのプロセスを確認する。				⑬	[テーマ] 子ども運動教育学科の体系 [内容] 子ども運動教育学科のカリキュラム体系および幼児教育の重要性について概説する。 [授業外学修]幼児教育の基本書を横断的に読む。
⑥	[テーマ] 体育学科コーチング・コースの体系 [内容] 体育学科コーチング・コースのカリキュラム体系およびコーチングの意義と重要性について概説する。 [授業外学修]コーチング入門の基本書を横断的に読む。				⑭	[テーマ] 英語の必要性 [内容] オーラル・コミュニケーションの重要性とスポーツにおける英語の活きた事例。 [授業外学修]「日本のスポーツ政策」について英語でディベートする。
⑦	[テーマ] 体育学科トレーナー・コースの体系 [内容] 体育学科トレーナー・コースのカリキュラム体系およびトレーナーの意義と重要性について概説する。 [授業外学修]トレーナー入門の基本書を横断的に読む。				⑮	[テーマ] カリキュラム体系の総括とレポート作成 [内容] 仙台大学のカリキュラム体系を総括し、授業内レポートを作成する。 [授業外学修]各回の講義内容を復習する。
⑧	[テーマ] 体育学科マネジメント・コースの体系 [内容] 体育学科マネジメント・コースのカリキュラム体系およびマネジメントの意義と重要性について概説する。 [授業外学修]マネジメント入門の基本書を横断的に読む。				⑯	[テーマ] レポート返却、総評 [内容] 授業内レポートを返却し、授業の総評を述べる。 [授業外学修]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ」の予習をする。
成績評価方法(方針)						
授業態度(70%)、およびレポート(30%)で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席が必要(欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと)。 ・学部・学科・コース等の教育方針・内容を学、2年次以降の「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」につながる貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。
定期試験	—	—	—	—	評価対象外	
授業内レポート	○	○	◎	—	30%	
授業外レポート	—	—	—	—	評価対象外	
演習・実技	—	—	—	—	評価対象外	
授業態度	◎	○	○	○	70%	
出席	—	—	—	—	欠格条件	
関連科目	仙台大学の専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	必要に応じて指示する
オフィスアワー	クラス担任、各授業担当者へ問い合わせる				その他	クラス担任、各授業担当者へ問い合わせる

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	仙台大学の専門教養演習 I Sports & Cultural Context I			担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
指定されたグループ毎に学生は希望したクラスで受講する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につけるとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。					i、iv、v
授業の一般目標					
体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力(リテラシー)を体得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。				
■ 情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。				
■ 技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を体得し、あるテーマについて又は既習事項等を応用した活動についてレポートを作成できる。				
授業計画(全体)					
全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックスを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。学んだことについてレポートの作成を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学修]自身の所属するクラスを事前に確認する。			⑨	[テーマ] 各競技・種目の経済学(社会科学3) [内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。
②	[テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学修]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。			⑩	[テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。
③	[テーマ] 各競技・種目の歴史学(人文科学1) [内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目の歴史を調べる。			⑪	[テーマ] 各競技・種目の物理学(自然科学1) [内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。
④	[テーマ] 各競技・種目の文学(人文科学2) [内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。			⑫	[テーマ] 各競技・種目の生理学(自然科学2) [内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。
⑤	[テーマ] 各競技・種目の心理学(人文科学3) [内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目の心理的側面について調べる。			⑬	[テーマ] 各競技・種目の栄養学(自然科学3) [内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。
⑥	[テーマ]各競技・種目の人文科学体系 [内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。			⑭	[テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。
⑦	[テーマ] 各競技・種目の社会学(社会科学1) [内容] 各競技・種目の社会的な位置づけ、趨勢(競技人口等)、社会的意義を明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。			⑮	[テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化し、レポートを作成する。 [授業外学修]全15回の授業内容を総括する。
⑧	[テーマ] 各競技・種目の経営学(社会科学2) [内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会(公式戦)マネジメントの両側面から明らかにし、レポートを作成する。 [授業外学修]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。			⑯	[テーマ] レポートおよびポートフォリオの提出 [内容] 所定の学修成果をレポートおよびポートフォリオによって考査する。 [授業外学修]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。
成績評価方法(方針)					
原則として、レポート、ポートフォリオ作成の成果をもって認定する。レポート、ポートフォリオ成果の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	—	—	—	—	評価対象外
授業内レポート	◎	○	○	○	60%
授業外レポート	○	◎	○	○	20%
演習・実技	○	○	◎	○	20%
授業態度	—	—	—	—	評価対象外
出席	—	—	—	—	欠格事項
関連科目	体育系大学の基礎教養、仙台大学の専門教養演習 I・III				関連資格
教科書	特に指定しない。				参考書
オフィスアワー	各受講クラス担当教員に確認すること。				その他
					各受講クラス担当教員に確認すること。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅱ Sports & Cultural Context Ⅱ			担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	演習	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
指定されたグループ毎に学生は希望したクラスで受講する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につけるとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。					i、iv、v
授業の一般目標					
体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力(リテラシー)を体得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。				
■ 情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。				
■ 技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を体得し、あるテーマについて又は既習事項等を応用した活動について議論したことを発表できる。				
授業計画(全体)					
全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックスを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。学んだことについて学生同士のディスカッション、プレゼンテーションを行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学修]自身の所属するクラスを事前に確認する。			⑨	[テーマ] 各競技・種目の経済学(社会科学3) [内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策について議論を行い、発表する。 [授業外学修]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。
②	[テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学修]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。			⑩	[テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系について議論を行い、発表する。 [授業外学修]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。
③	[テーマ] 各競技・種目の歴史学(人文科学1) [内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちについて議論を行い発表する。 [授業外学修]各競技・種目の歴史を調べる。			⑪	[テーマ] 各競技・種目の物理学(自然科学1) [内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面について議論を行い、発表する。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。
④	[テーマ] 各競技・種目の文学(人文科学2) [内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているか議論を行い発表する。 [授業外学修]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。			⑫	[テーマ] 各競技・種目の生理学(自然科学2) [内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面について議論を行い、発表する。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。
⑤	[テーマ] 各競技・種目の心理学(人文科学3) [内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理について議論を行い発表する。 [授業外学修]各競技・種目の心理的側面について調べる。			⑬	[テーマ] 各競技・種目の栄養学(自然科学3) [内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面について議論を行い、発表する。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。
⑥	[テーマ]各競技・種目の人文科学体系 [内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系について議論を行い、発表する。 [授業外学修]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。			⑭	[テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系について議論を行い、発表する。 [授業外学修]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。
⑦	[テーマ] 各競技・種目の社会学(社会科学1) [内容] 各競技・種目の社会的な位置づけ、趨勢(競技人口等)、社会的意義について議論を行い、発表する。 [授業外学修]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。			⑮	[テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系について議論を行い、発表する。 [授業外学修]全15回の授業内容を総括する。
⑧	[テーマ] 各競技・種目の経営学(社会科学2) [内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会(公式戦)マネジメントの両側面から議論を行い、発表する。 [授業外学修]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。			⑯	[テーマ] プレゼンテーションおよびポートフォリオの提出 [内容] 所定の学修成果をプレゼンテーションおよびポートフォリオによって考查する。 [授業外学修]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。
成績評価方法(方針)					
原則として、プレゼンテーション、ポートフォリオ作成の成果をもって認定する。プレゼンテーション、ポートフォリオ成果の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	—	—	—	—	評価対象外
授業内レポート	◎	○	○	○	60%
授業外レポート	○	◎	○	○	20%
演習・実技	○	○	◎	○	20%
授業態度	—	—	—	—	評価対象外
出席	—	—	—	—	欠格事項
関連科目	体育系大学の基礎教養、仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅲ				関連資格
教科書	特に指定しない。				参考書
オフィスアワー	各受講クラス担当教員に確認すること。				その他
					各受講クラス担当教員に確認すること。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	仙台大学の専門教養演習Ⅲ Sports & Cultural Context Ⅲ			担当教員	全専任教員	
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	演習	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
指定されたグループ毎に学生は希望したクラスで受講する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につけるとともに社会に出てから必要となるリテラシーを学ぶ。					i、iv、v	
授業の一般目標						
体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力(リテラシー)を体得する。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。					
■ 情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。					
■ 技能表現的領域	あるテーマについて又は既習事項等を応用した活動についてテューター役となり、組織マネジメントができる。					
授業計画(全体)						
全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて「仙台大学の専門教養演習Ⅰ」「仙台大学の専門教養演習Ⅱ」で学ぶ学生に対し、テューター役として進行がうまくいくように組織マネジメントを行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学修]自身の所属するクラスを事前に確認する。			⑨	[テーマ] 各競技・種目の経済学(社会科学3) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。	
②	[テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学修]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。			⑩	[テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。	
③	[テーマ] 各競技・種目の歴史学(人文科学1) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目の歴史を調べる。			⑪	[テーマ] 各競技・種目の物理学(自然科学1) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。	
④	[テーマ] 各競技・種目の文学(人文科学2) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。			⑫	[テーマ] 各競技・種目の生理学(自然科学2) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。	
⑤	[テーマ] 各競技・種目の心理学(人文科学3) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目の心理的側面について調べる。			⑬	[テーマ] 各競技・種目の栄養学(自然科学3) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。	
⑥	[テーマ] 各競技・種目の人文科学体系 [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。			⑭	[テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。	
⑦	[テーマ] 各競技・種目の社会学(社会科学1) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目の社会的立場づけ、趨勢(競技人口等)、社会的意義を明らかにできるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。			⑮	[テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化できるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]全15回の授業内容を総括する。	
⑧	[テーマ] 各競技・種目の経営学(社会科学2) [内容]「仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ」において各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会(公式戦)マネジメントの両側面から明らかになるよう組織マネジメントを行う。 [授業外学修]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。			⑯	[テーマ] レポートの提出 [内容] 所定の学修成果をレポートによって考査する。 [授業外学修]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。	
成績評価方法(方針)						
原則として、レポートの成果をもって認定する。レポートの課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポートの課題を確実にクリアすること。
定期試験	—	—	—	—	評価対象外	
授業内レポート	◎	○	○	—	60%	
授業外レポート	○	◎	○	—	20%	
演習・実技	○	○	◎	—	20%	
授業態度	—	—	—	—	評価対象外	
出席	—	—	—	—	欠格事項	
関連科目	体育系大学の基礎教養、仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅲ			関連資格		
教科書	特に指定しない。			参考書	特に指定しない。	
オフィスアワー	各受講クラス担当教員に確認すること。			その他	各受講クラス担当教員に確認すること。	

《海外文化科目》

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツに何故英語が必要か				担当教員	山口貴久 他
	Merits of Studying English in Sports					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	英語圏での修学経験や勤務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツの国際化は必然的な流れとなっており、スポーツを通じて次代の日本を支える若者にとって、英語は国際化の前提として必須の素養となる。この観点から、英語圏での就学経験等を有するスポーツに係わる教員等が、その実務経験を活かし、スポーツ科学を専攻する学生にとって如何に英語が必要なものかについて、それぞれの体験等を交えて伝達する。						i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標						
スポーツ科学を専攻する学生にとって、如何に英語が必要なものかを知覚させることにより、大学教育として必修科目に位置付けている英語教育科目への学生の取組みを真摯化することを目的とする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	各講義担当者の英語に係る体験談の聴講を通じて、自己が目標としているスポーツ分野とのかかわりにおける英語の必要性を、具体的な適用場面の知識として理解することができる				
■	情意的領域	英語という国際的共通言語が、各国の固有言語の相違というものを乗り越えて、スポーツ面で国際的連携をもたらしていることを理解することができる。				
■	技能表現的領域	ルールとして用いられている共通の英単語が、スポーツ種目の違いによって、様々な用いられ方をしていることを知覚することにより、自己が目標としているスポーツ分野での英語の用い方の幅を広げることができる。				
授業計画(全体)						
本授業の全体像のオリエンテーションを経て、米国の大学・大学院を卒業・修了した教員、日本国代表として、あるいは日本のマスメディア企業の駐在員として米国勤務経験を有する教員、英語を第一言語とする外国籍教員から、順に、自らの体験談を交え、スポーツにおける英語の必要性について講義を実施し、一般目標に掲げた目的を達成する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 本講義の目的と方法 [内容] 本講義の目的と方法について説明する。アクティブラーニング手法により、効果的な講義方法について討議する [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する			⑨	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する	
②	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 米国大学就学経験者、米国勤務経験者、第一言語が英語の外国人が体験談を通じた英語の必要性について講義し、ポートフォリオを作成 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する			⑩	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する	
③	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する			⑪	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する	
④	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する			⑫	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する	
⑤	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する			⑬	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する	
⑥	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する			⑭	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する	
⑦	[テーマ] 私にとって、スポーツに何故英語が必要であったか [内容] 講義実施者は異なるが、②と同一 [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する			⑮	すべての講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学修] レポート作成のための準備	
⑧	前6回の講義内容のまとめ レポート作成とポートフォリオの振り返り [授業外学修] 講義者から与えられる予習課題を実施する			⑯	[テーマ] 大学教育としての必修英語科目とのつながり [内容] 大学教育としての必修英語科目とのつながりを講義し、各ポートフォリオから各自の必修科目に対する学修取組みを整理させる [授業外学修] 必修科目との関わりについて予習復習	
成績評価方法(方針)						
ポートフォリオ作成内容を40%、レポートを60%で評価し、大学教育としての必修英語科目への取組み意欲の度合いを基準として成績を評価する。レポートは作成中あるいは作成後の疑問などについて、質問を受け付けたくうえで随時フィードバックを行う。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業資料や予習課題などは大学ポータルサイトへ掲載するので、各自がダウンロード、印刷し講義へ臨むこと。 ・講義や授業外学修で使用した資料は、ポートフォリオへファイルすること。
定期試験					60%	
授業内レポート		○	○	○	40%	
授業外レポート		○	○	○		
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	総合英語A～D 就職のための英語				関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	スポーツと英語に関する文献
オフィスアワー	山口:第4体育館1階 水曜日 12時40分～14時10分				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	英会話A English Conversation A			担当教員	ジェリー・バラング	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	I have taught at elementary, junior high & high school level 小学校、中学校、高校での教員経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable. この英会話クラスは、英語を母国語とする者としていない者が上手く対話できるようになることを目的としたコミュニケーションベースのコースです。学生はテキストおよびスポーツに関連するトピックについて、定期的にプレゼンテーションをおこないます。					iv	
授業の一般目標						
This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.					
■ 情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.					
■ 技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate					
授業計画(全体)						
Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive and engaging in communicative activities.						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] Introduction of the class & grading. [内容] Description of the class, semester schedule outline + self introduction preparation and key English instructions [授業外学修] Memorize self-introductions and key English phrases			⑨	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Report news about relationships [授業外学修] Memorize key vocabulary	
②	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Meeting someone for the first time [授業外学修] Conversation model presentation			⑩	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Describe extended families [授業外学修] Introduce your family preparation	
③	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Identify and describe people [授業外学修] Conversation model presentation			⑪	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Compare people [授業外学修] MyEnglishLab online study	
④	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Provide personal information and introduce someone to the group [授業外学修] Grammar + conversation model presentation			⑫	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Discuss family cultural traditions [授業外学修] Textbook assignment + MyEnglishLab online study	
⑤	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Accept or decline an invitation [授業外学修] Conversation model presentation			⑬	Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Ask for a restaurant recommendation [授業外学修] Memorize key vocabulary	
⑥	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Express locations and give directions [授業外学修] Unit 1&2 review - MyEnglishLab - online study			⑭	[テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Order from a menu + speak to a server [授業外学修] Memorize key vocabulary and phrases	
⑦	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Make plans to see an event + talk about musical tastes [授業外学修] Study for Unit 1&2 test			⑮	[テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Discuss food and health [授業外学修] Unit 3 & 4 review ; study for test	
⑧	[テーマ] Unit 1&2 Test [内容] Test [授業外学修] Reading Unit 3 preview			⑯	[テーマ] Test Unit 3 & 4 [内容] Test Unit 3 & 4 [授業外学修] None	
成績評価方法(方針)						
Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30%						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					30%	
授業内レポート	◎					
授業外レポート						
演習・実技	◎		◎		35%	
授業態度	◎	◎			35%	
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab				参考書	English-Japanese dictionary
オフィスアワー	A棟511 木曜日10:20~11:50 email: j-parangi@sendai-u.ac.jp				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	英会話B English Conversation B			担当教員	ジェリー・バラング
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 I have taught at elementary, junior high & high school level 小学校、中学校、高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable. この英会話クラスは、英語を母国語とする者としな者が上手く対話できるようになることを目的としたコミュニケーションベースのコースです。学生はテキストおよびスポーツに関連するトピックについて、定期的にプレゼンテーションをおこないます。					iv
授業の一般目標					
This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.				
■ 情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.				
■ 技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate				
授業計画(全体)					
Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive and engaging in communicative activities.					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Review of class grading. [内容] Briefing of second semester syllabus. Pair discussion about summer vacation. Then review Unit 3 and continue with unit. [授業外学修] Complete Unit 3 & start Unit 4			⑨	[テーマ] Unit 9 - Taking transport [内容] Discuss schedules and buy tickets. [授業外学修] Conversation model presentation
②	[テーマ] Food & Restaurants [内容] Introduction of menu categories/ ordering food at restaurants [授業外学修] Memorize the key vocabulary			⑩	[テーマ] Unit 9 - Buying, and reserving tickets [内容] Discuss schedules and buying tickets [授業外学修] Memorize key vocabulary
③	[テーマ] Food & Restaurants [内容] Focussing on categories of food/ count/non-count nouns [授業外学修] Study for Unit 4 test if completed			⑪	[テーマ] Unit 9 - Understand airport announcements. [内容] Understand airport announcements. Describe transportation problems. [授業外学修] Complete the review + MyEngLab
④	[テーマ] Unit 4 short test + Start Unit 6 - Plan an activity with [内容] Learn about the different types of exercises there are and expressions when organizing an activity. [授業外学修] Conversation model + MyEngLab			⑫	[テーマ] Complete/ review Unit 9. Give study guide. [内容] Complete Unit 9 and review in MyEngLab [授業外学修] Study for test
⑤	[テーマ] Unit 6 - Discuss fitness and eating habits [内容] Plan an activity with someone. Talk about habitual activities. [授業外学修] Conversation model presentation			⑬	[テーマ] Final test study guide [内容] Final Test [授業外学修] None
⑥	[テーマ] Complete Unit 6 + review for unit test [内容] Complete this unit then give a study guide [授業外学修] Study for unit test			⑭	[テーマ] Test handback + 英会話 course evaluation [内容] Test handback with explanation + Evaluation of 英会話 course with future recommendations - class discussion. Start the culturally [授業外学修] Media comprehension questions
⑦	[テーマ] Unit 6 short test [内容] Short test on Unit 6. Introduce "media study," - sports related [授業外学修] Complete comprehension questions			⑮	[テーマ] Media studies [内容] Continue the media study [授業外学修] Complete comprehension questions
⑧	[テーマ] Short test handback [内容] Short test to be handed back with explanations of the marking criteria. Complete the "media study." [授業外学修] Complete the comprehension questions			⑯	[テーマ] Farewell ceremony [内容] Farewell ceremony in class [授業外学修] None
成績評価方法(方針)					
Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30%					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					30%
授業内レポート		◎			
授業外レポート					
演習・実技		◎		◎	35%
授業態度		◎	◎		35%
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 This is a continuation course from the first semester. In principle, new students will not be admitted into this class without advanced approval from the course instructor. Students are required to attend 2/3 of all classes for the second semester and achieve 60% plus in their overall score for credit. *これは、最初の学期からの継続コースです。原則として、英語を学ぶ意欲の高い学生は、第2学期への参加を希望する場合、担当講師に相談して下さい。					
関連科目					関連資格
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab				参考書
オフィスアワー	A棟511 木曜日 10:20~11:50 email: j-parangi@sendai-u.ac.jp				その他
					English-Japanese dictionary

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	英会話C English Conversation C			担当教員	ジェリー・バランギ
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	I have taught at Elementary, Junior High & High School level 小学校、中学校、高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
This English Conversation class is a "communicative based course" that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports related topics when applicable. この英会話クラスは、英語を母国語とする者とならない者が上手く対話できるようになることを目的としたコミュニケーションベースのコースです。学生はテキストおよびスポーツに関連するトピックについて、定期的にプレゼンテーションをおこないます。					iv
授業の一般目標					
This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities, with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.				
■ 情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.				
■ 技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate				
授業計画(全体)					
TOP NOTCH (3E) 2:SB SPLIT A+MEL is an Intermediate level textbook with MyEnglishLab (an online leaning platform). All units focus on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. This is a demanding course and students are expected to be pro-active and self-motivated. Students are strongly encourage to use English 100% to communicate.					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] Explain course assessment [内容] Briefing of syllabus, class rules, + students practice their self-introductions [授業外学修] Memorize self-introductions for presentation		⑨	[テーマ] Cars & Driving [内容] Short test + Discussing a car accident [授業外学修] Memorize conversation model	
②	[テーマ] Getting Acquainted [内容] Presentations. Get reacquainted with someone + study customs around the world [授業外学修] Memorize conversation model for presentation		⑩	[テーマ] Describe a car problem [内容] Review last lesson. Practice pronunciation & stress [授業外学修] Memorize conversation + MyEnglishLab study	
③	[テーマ] Greet a visitor to your country [内容] Presentations. Discuss gestures and customs. Learn how to use My Englishlab online study [授業外学修] Memorize hand gestures - short test + MyEnglishlab study		⑪	[テーマ] Rent a car [内容] Review last lesson. Introduce new vocabulary & listening comprehension activities [授業外学修] Role-play conversation presentation. Unit review	
④	[テーマ] Describe an interesting experience [内容] Short test. Review last lesson. Practice listening comprehension activities [授業外学修] Study for Unit 1 short test		⑫	[テーマ] Personal Care and Appearance [内容] Ask for something in a store. New Vocabulary [授業外学修] Memorize conversation. Complete grammar	
⑤	[テーマ] Staying in hotels [内容] Short test. Learn how to leave and take messages at a hotel [授業外学修] Memorize conversation. MyEnglishLab study		⑬	[テーマ] Discuss ways to improve appearance [内容] Reading & small group discussion [授業外学修] Notepadting ideas for improving your appearance	
⑥	[テーマ] Check into a hotel [内容] Review last lesson. Learn "The real conditional" grammar [授業外学修] Memorize conversation model		⑭	[テーマ] Defining beauty [内容] New vocabulary. Listening comprehension activities. Unit review [授業外学修] Study for short test + MyEnglishLab	
⑦	[テーマ] Request house keeping [内容] Review last lesson. Practice listening comprehension activities [授業外学修] Prepare a role-play telephone conversation		⑮	[テーマ] Unit 5 short test [内容] Review the last lesson. Unit 5 short test [授業外学修] Students to prepare ideas for course feedback discussion	
⑧	[テーマ] Choose a hotel [内容] Review last lesson. Practice reading comprehension activities [授業外学修] Study for Unit 3 short test		⑯	[テーマ] Small group discussion on course feedback [内容] Test hand back. Students discuss feedback of course with recommendations for next year [授業外学修] Continue using MyEnglishLab	
成績評価方法(方針)					
Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30%					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					30%
授業内レポート	◎				
授業外レポート					
演習・実技	◎			◎	35%
授業態度	◎	◎			35%
出席					欠格条件
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 英会話C is an "Intermediate" level entry course. The textbook is at a higher level than the 英会話A,B text. The class instruction is 100% English. Students who take this class should try to speak English only. Students should attend 2/3 of all classes and score 60% or more to be awarded credit. There will be ongoing oral pair presentations, short tests, and homework. *このコースを受講するには原則として英会話AとBを完了している必要があります。高いレベルの英語力と意欲を持つ学生は、担当講師に相談した後、受講を許可される場合があります。					
関連科目				関連資格	
教科書	TOP NOTCH (3E) 2:SB SPLIT A+MEL			参考書	English-Japanese dictionary
オフィスアワー	A棟511 木曜日10:20~11:50 Email: j-parangi@sendai-u.ac.jp			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ&イングリッシュ (S) Sports & English			担当教員	マーティ・キーナート / Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
全世界におけるスポーツビジネスで生み出される金額の三分の二以上が、北米で生産されている。そして他のどの国よりも多くのスポーツ映画がアメリカで製作されている。スポーツを学ぶのであれば、英語は不可欠なツールである。この講義ではスポーツ映画を題材にとりあげ、スポーツに関連した言葉が日常慣用語となっている多くの例を多々紹介し、より高い英語学習へのモチベーションを促す。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
学生は英語の知識、読解、聴解力を高め、上達することを目的とする。特に英語の各スポーツの中における用語法、そしてそれがいかに日常の慣用語にはいりこんだかを学習し、会得する。又、自分の興味あるスポーツに関するより多くの情報を、インターネット、雑誌、本や映画からどのように得るかを学ぶ。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツの中で使われる英語の語句がどのように日常の英語慣用語に使われているかを理解し、教材の内容を原語で理解できるようになる。			
■	情意的領域	スポーツ映画から、北米のスポーツ文化と背景をより理解し、知識を深める。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
REMEMBER THE TITANS「タイタンズを忘れない」という映画を使用。これは、2009年、44代目に初の黒人大統領のバラク・オバマを選出したアメリカで、38年前に実際に起こった話です。1971年に当時人種統合したばかりのぎくしゃくした高校のアメフトチームを無敗で州大会優勝へ導いた初の黒人ヘッドコーチの実話であり、それを基本の題材にしなが、各テーマの英語フレーズと用法とその背景についても講義する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容とスケジュールの紹介 日米スポーツ業界での実務経験からと英ネイティブスピーカーとして講義を行う。 [授業外学修]映画の全体的なあらすじを原語で理解してくる事。			⑨	[テーマ] チャプター 20,21,22 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得
②	[テーマ] ハイライト20で映画の内容紹介と理解 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑩	[テーマ] チャプター 23,24 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得
③	[テーマ] 映画とその教材よりチャプター 1,2,3 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑪	[テーマ] チャプター 25,26 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得
④	[テーマ] チャプター 4,5,6 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑫	[テーマ] チャプター 27,28,29,30,31 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] チャプター 7,8,9,10 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑬	[テーマ] Making Documentary 1 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑥	[テーマ] チャプター 11,12,13 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑭	[テーマ] Making Documentary 2 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得
⑦	[テーマ] チャプター 14,15,16, [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑮	[テーマ] 全体総括 [内容] 半期の講義内容をまとめて質疑応答。 [授業外学修] 期末テストへむけて復習
⑧	[テーマ] チャプター 17,18,19 [内容] 今週のフレーズと今週のセンテンスを学習 小クイズの確認あり [授業外学修]今週のフレーズとセンテンスを習得			⑯	[テーマ] 期末テストとまとめ [内容] 講義内で学習した内容の理解度とその到達度を確かめる期末テストおよびその説明 [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
出席率30%、講義中の参加態度、発言、課題、小クイズで30%、期末テストで40%					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			50%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		○	○		10%
出席		○			欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・講義受講人数は80人に限定。 ・この講義は、英語の教材を使用。講義中の説明は日本語で行いますが、英語とその文化への興味と学習熱意がある学生に受講して頂きたい。 ・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位習得不可。・ミニテストも常時有り。 ・20分以上の遅刻は欠席扱い。居眠り/携帯使用厳禁 3回目注意者は退室。 ・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。 					
関連科目					関連資格
教科書	教科書なし。その都度プリント配布。				参考書
オフィスアワー	月曜12:00 - 13:30				その他
					m-kuehnert@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	就職のための英語 English for getting job			担当教員	千田孝彦	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	中学校での教員経験を有する。	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
学生一人ひとりの将来の目標実現のため、英語力に磨きかけるための、または、英語の苦手意識を克服するための科目である。各種公務員採用試験また大学院進学や、TOEIC,TOEFLを実際に解き、各種資格試験に向けた自学を如何に行うべきかを知る。中学校での実務経験を生かし、習熟度に合わせた指導の観点から演習を行う。					iv	
授業の一般目標						
英語力の向上を目指す。各種公務員採用試験や各種資格試験に向けての自学の在り方を知る。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	各種採用試験や各種資格試験の内容や程度を知る。試験に向けての自学の在り方を知る。				
■	情意的領域	各種採用試験や各種資格試験に向けての自学を自ら進んで怠ることなく行う。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
各種採用試験や各種資格試験対策問題を予め授業外学修で解き、授業で詳しく内容を検討する。試験の種類を単元ごとに試験を行って、英語力の向上を図る。学生中心のアクティブラーニングの手法を取り入れる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目的や進め方について知る。特に授業外学修の重要性について知る。 [授業外学修]各種公務員採用試験文章理解対策問題①の課題を解く。			⑨	[テーマ] TOEICのlisteningの問題を知る② [内容]TOEICのlisteningの問題について詳細に知る。 [授業外学修]前回までのTOEICの内容の復習	
②	[テーマ] 各種採用試験文章理解の問題について知る① [内容]採用試験の文章理解の問題について、詳細に知る。 [授業外学修]文章理解対策問題②の課題を解く。			⑩	[テーマ] 単元試験 [内容] 前回までのTOEICの内容の理解度を知る。 [授業外学修]TOEFLのreadingの課題を解く。	
③	[テーマ] 文章理解の問題について知る② [内容]採用試験の文章理解の問題について、詳細に知る。 [授業外学修]文章理解対策問題③の課題を解く。			⑪	[テーマ] TOEFLのreadingの問題を知る [内容] TOEFLのreadingの問題について、詳細に知る。 [授業外学修]TOEFLのlisteningの課題を解く。	
④	[テーマ] 文章理解の問題について知る③ [内容] 採用試験の文章理解の問題について、詳細に知る。 [授業外学修]各種公務員採用文章理解の前回までの復習			⑫	[テーマ] TOEFLのlisteningの問題を知る [内容]TOEFLのlisteningの問題について、詳細に知る。 [授業外学修]TOEFLのspeakingの対策課題を解く。	
⑤	[テーマ] 単元試験 [内容] 前回までの各種公務員採用試験の内容の理解度を知る。 [授業外学修]TOEICのreading対策課題①を解く			⑬	[テーマ] TOEFLのspeakingの問題を知る [内容] TOEFLのspeakingの問題について、詳細に知る。 [授業外学修]TOEFLのwritingの対策課題を解く。	
⑥	[テーマ] TOEICのreadingの問題について知る① [内容] TOEICのreadingの問題について、詳細に知る。 [授業外学修]TOEICのreading対策課題②を解く			⑭	[テーマ] TOEFLのwritingの問題を知る [内容] TOEFLのwritingの問題について、詳細に知る。 [授業外学修]前回までのTOEFLの内容の復習	
⑦	[テーマ] TOEICのreadingの問題について知る② [内容] TOEICのreadingの問題について、詳細に知る。 [授業外学修]TOEICのlistening対策課題①を解く			⑮	[テーマ] 単元試験 [内容] 前回までのTOEFLの内容の理解度を知る。 [授業外学修]学修内容全体を振り返る	
⑧	[テーマ] TOEICのlisteningの問題について知る① [内容] TOEICのreadingの問題について、詳細に知る。 [授業外学修]TOEICのreading対策課題②の問題を解く			⑯	[テーマ] まとめ [内容] 学修内容を振り返り、自学への意欲をさらに高める。 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
授業の課題への取り組みと単元試験の合計で評価する。単元試験は授業内で解説をしながら返却する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎			30%	
授業内レポート					評価対象外	
授業外レポート		◎	◎		40%	
演習・実技					評価対象外	
授業態度			◎		30%	
出席					欠格条件	
関連科目	総合英語A～D				関連資格	TOEIC,TOEFL,採用試験、大学院入試
教科書	担当教員が準備する課題				参考書	辞書
オフィスアワー	水曜日 12:40～14:10 (A515)				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スペイン語 I			担当教員	吉井 秀邦	
	Introduction to Spanish I					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	—	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
この授業では、スペイン語による読み書きの基礎について解説する。また、比較的形が決まっている簡単な日常会話の練習もする。さらに、スペイン語を公用語とする国々の文化を紹介する。					v	
授業の一般目標						
以下のようなことが目標である:①スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールを習得すること、②挨拶などの簡単な表現を覚えて使えるようになること、③スペインとラテンアメリカ諸国の文化を知ること。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	読み書きの基礎的なルールを理解する。				
■	情意的領域	異なる文化を理解しようとする態度を持つ。				
■	技能表現的領域	スペイン語を用いて適切に伝える能力を身につける。				
授業計画(全体)						
スペイン語の読み書きに関する基礎的なルールについて順次解説する。それに加えて、毎回の授業で、その時間で覚えた事柄を用いての表現の練習と挨拶などのとても簡単な会話の練習をする。また、前回習った内容についてのテストを毎回行う。その他に、スペイン語文化(音楽、祭り、スポーツ、テレビなど)の紹介をする。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 初めに [内容] スペイン語の特徴(どのような国で使われているか、日本語との類似点・相違点、身の回りのスペイン語など)について知る [授業外学修]身のまわりのスペイン語の商品名を探してみよう			⑨	[テーマ] 動詞の規則活用④ [内容] -erで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする	
②	[テーマ] 発音① [内容] 母音字と子音字の読み方 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする			⑩	[テーマ] 動詞の規則活用⑤ [内容] -irで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする	
③	[テーマ] 発音② [内容] 前回の復習、アクセントなど [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする			⑪	[テーマ] 動詞の規則活用⑥ [内容] -irで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする	
④	[テーマ] 名詞、冠詞、形容詞① [内容] 名詞の性別と複数形、冠詞の種類と形、-oで終わる形容詞の形 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする			⑫	[テーマ] 動詞tener① [内容] 活用と用法 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする	
⑤	[テーマ] 形容詞② [内容] -o以外で終わる 形容詞の形 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする			⑬	[テーマ] 数詞 [内容] 数を表す言葉 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする	
⑥	[テーマ] 文の形、動詞の規則活用① [内容] スペイン語の文の形、主語になる人称代名詞、-arで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする			⑭	[テーマ] 動詞tener② [内容] tenerを用いた表現 [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする	
⑦	[テーマ] 動詞の規則活用② [内容] -arで終わる動詞(主語が複数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする			⑮	[テーマ] 復習 [内容] これまでの学習内容を復習する [授業外学修]最終回のテストに備えて復習をする	
⑧	[テーマ] 動詞の規則活用③ [内容] -erで終わる動詞(主語が単数の場合) [授業外学修]次回のテストに備えて復習をする			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
毎回の授業でテストを行う。その成績(90%)と授業での態度(10%)を総合して成績を決定する。テストは次回の授業で返却すると同時に、解答について解説をする。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験						<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・この授業では声を出すこと。質問にははっきりと答える、大きな声で読むことを心がけよう。 ・欠席した回の小テストは0点である。したがって、欠席が多くなると平均点が下がって、単位をとることが難しくなる。できる限り授業に出席しよう。 ・毎回のテストのために復習が必要である。 ・配布するプリントを保存するために、ファイルを持参すること。
授業内レポート		小テスト◎	小テスト◎	小テスト◎	90%	
授業外レポート						
演習・実技			◎	◎	10%	
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スペイン語 II			関連資格	なし	
教科書	使用しない。			参考書	授業の中で指示する。	
オフィスアワー	火曜日と水曜日の12:00~12:30			その他	連絡先: 吉井研究室 (A502)	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	中国語 I Chinese I			担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	母国語で中国との交流実務経験を有する。
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語のピンインの発音から文法の説明と共に会話の練習まで進めていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。					iv
授業の一般目標					
中国語の発音体系、特に声調をしっかりと理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。				
■ 情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。				
■ 技能表現的領域	ピンインを正確に発音できる。中国語で簡単な挨拶やコミュニケーションができるようになる。				
授業計画(全体)					
基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学修] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 第5-6課 文法のまとめ [内容] 動詞の文、いろいろな疑問文、もの数え方、ものを指し示す言い方について復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
②	[テーマ]第1課 ピンインの学習 [内容] 単母音、声調、子音、軽声の発音特徴、声調の発音について学んで朗読する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑩	[テーマ] 第7課 どこにいる、AそれともB [内容] “在”の文、指示代名詞(場所)、選択疑問文、指示代名詞(モノ・コト)について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
③	[テーマ] 第2課ピンインの学習 [内容] 複合母音、鼻母音の発音、簡単な挨拶について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑪	[テーマ] 第8課 どれくらいかかる? ~するのが好きです [内容] 形容詞の文、前置詞“离”と“从~到...”、動詞“喜欢”、連動文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
④	[テーマ] 第3課 何月何日? 何時? [内容]数、月日、曜日、時刻、時間について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑫	[テーマ] 第7-8課 文法のまとめ [内容] “在”の文、指示代名詞、形容詞の文、連動文について復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
⑤	[テーマ] 第4課 お名前は? どちらの大学? [内容] 人称代名詞、名前の言い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]テキストの練習問題をもとに復習する			⑬	[テーマ] 第9課 くらい? Aよりも~です [内容] 手段・方法の尋ね方、比較文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
⑥	[テーマ] 第3-4課 文法のまとめ [内容] 数の言い方、人称代名詞、“是”の文について復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリングについて復習する。 [授業外学修]テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第5課 だれ? なに? これは~です [内容] 動詞の文、疑問詞“誰”“什么”、“吗”の疑問文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学修]テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第6課 いる、ある [内容] “有”と“没有”もの数え方、省略疑問文、反復疑問文について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		○	60%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		○	○	◎	40%
出席					欠格条件
関連科目	中国語 II (後期)			関連資格	HSK中国語検定
教科書	はじめよう楽々中国語 小林和代 韓軍著			参考書	
オフィスアワー	馬研究室 第5体育館2階 火曜日10:20~11:50			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	中国語Ⅱ Chinese II			担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語を正確に発音出来るように徹底的に訓練しながら、基礎文法を学び、会話の練習をしていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。					iv
授業の一般目標					
中国語で日常会話および常用表現を身につける;初級の段階で必要とされる基本的な文法事項を習得して、比較的簡単な文章の読解と作文ができるようになる;中国の文化や社会に対する理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。				
■ 情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。				
■ 技能表現的領域	ピンインを正確に発音できる。中国語で及び簡単な日常会話やコミュニケーションができるようになる。				
授業計画(全体)					
基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学修] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 資料① まだ食事中? [内容] 時間量を表す、様態補語、進行の表現について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
②	[テーマ]前期の復習 [内容] ピンインや前期で学んだ大事なポイントを復習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑩	[テーマ] 資料② 心配しないで [内容] 回数を表す、結果補語、副詞の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
③	[テーマ] 第10課～したい、どこで? [内容] 動詞の後ろの“了”、助動詞“想”、文末の“了”、前置詞の“在”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑪	[テーマ] 資料③ 両親が帰ってくるようにって [内容] 方向補語、使役の言い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
④	[テーマ] 第9-10課 文法のまとめ [内容] 手段・方法の尋ね方、比較文、助動詞、前置詞の使い方について復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑫	[テーマ] 資料④ どうやって解いたらいい [内容] 助動詞、介詞、強調構文の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
⑤	[テーマ] 第11課 ～できる?～していい? [内容] 助動詞“会”、“能”、“可以”、前置詞“給”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑬	[テーマ] 資料⑤ 起こされちゃった [内容] 方向補語、可能補語、受け身の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること
⑥	[テーマ] 第12課 ～している、～したことがある [内容] 進行形、禁止の言い方、経験を表す“过”の使い方について学ぶ。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑭	[テーマ] まとめ [内容] 後期で学習したことを復習し、テストの説明をする。 [授業外学修]テストに備えて復習する
⑦	[テーマ]第11-12課 文法のまとめ [内容] 可能を表す助動詞、禁止の言い方、前置詞、進行形、経験を表すについて復習する。本文の朗読・会話練習する。 [授業外学修]次週の発表準備をする			⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学修]テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第6課 発表 [内容] 与えられた課題を作文し、朗読暗記し、発表する。 [授業外学修]学習した内容を声に出して発音復習すること			⑯	[テーマ] 期末試験(予備) [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
講義時間内に指名し、その発音、回答および発表内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		○		○	60%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		○	○	◎	40%
出席		○			欠格条件
関連科目	中国語Ⅰ(前期)			関連資格	
教科書	はじめよう楽々中国語 小林和代 韓軍著			参考書	
オフィスアワー	馬研究室 第5体育館2階 火曜日10:20~11:50			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	韓国語 I Korean I			担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングルの仕組みから読み方、書き方、日常生活に必要な基礎的な単語および表現を講義する。また、韓国語と関連して、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情など紹介しながら授業を進めていく。					iv
授業の一般目標					
パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	韓国語(ハングル)の読む・聞く・書く・話すことができる。				
■ 情意的領域	韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。				
■ 技能表現的領域	読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。				
授業計画(全体)					
韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音練習(基本母音字母、合成母音字母、パッチム)・基本文法・日常会話(挨拶、自己紹介、状況別表現)をわかりやすく説明する。パワーポイントによるスライドや資料をもとにゆっくり進み、後期の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、挨拶 [授業外学修] 韓国に関して興味のあることを調べる			⑨	[テーマ] 予定や持ち物の有無② [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母① [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑩	[テーマ] 質問の仕方① [内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
③	[テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母② [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑪	[テーマ] 質問の仕方② [内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問ができるように練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
④	[テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑫	[テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ [内容] 韓国語の助詞を日本語と比較しながら学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
⑤	[テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑬	[テーマ] うちとけた表現 [内容] 「です・ます」体の作り方学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
⑥	[テーマ] 自己紹介、かしまった丁寧体① [内容] 「私は～です ～といいます」の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑭	[テーマ] 家族の呼び名 [内容] 家族の呼び名、家族構成 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
⑦	[テーマ] 自己紹介、かしまった丁寧体② [内容] 「私は～です ～といいます」の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 授業の1回～14回まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 予定や持ち物の有無① [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験 [授業外学修] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
試験は、期末試験(評価割合70%)、授業外課題を評価(評価割合20%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		○	70%
授業内レポート					
授業外レポート		○	○		20%
演習・実技					
授業態度		○	○	○	10%
出席					欠格条件
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。					
関連科目	韓国語 I (前期)			関連資格	韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定(ハングル検定)
教科書	なし			参考書	『新チャレンジ韓国語』白水社 金順玉著
オフィスアワー	LC棟203室:水曜日14:20～16:00			その他	メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	韓国語 I Korean I			担当教員	金 一坤	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングルの仕組みから読み方、書き方、日常生活に必要な基礎的な単語および表現を講義する。また、韓国語と関連して、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情など紹介しながら授業を進めていく。					iv	
授業の一般目標						
パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	韓国語(ハングル)の読む・聞く・書く・話すことができる。					
■ 情意的領域	韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。					
■ 技能表現的領域	読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。					
授業計画(全体)						
韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音練習(基本母音字母、合成母音字母、パッチム)・基本文法・日常会話(挨拶、自己紹介、状況別表現)をわかりやすく説明する。パワーポイントによるスライドや資料をもとにゆくり進み、後期の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、挨拶 [授業外学修] 韓国に関して興味のあることを調べる			⑨	[テーマ] 予定や持ち物の有無② [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
②	[テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母① [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑩	[テーマ] 質問の仕方① [内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
③	[テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母② [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑪	[テーマ] 質問の仕方② [内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問ができるように練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
④	[テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑫	[テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ [内容] 韓国語の助詞を日本語と比較しながら学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
⑤	[テーマ] 韓国語(ハングル)の仕組と発音 [内容] 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑬	[テーマ] うちとけた表現 [内容] 「です・ます」体の作り方学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
⑥	[テーマ] 自己紹介、かしまった丁寧体① [内容] 「私は～です ～といいます」の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑭	[テーマ] 家族の呼び名 [内容] 家族の呼び名、家族構成 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
⑦	[テーマ] 自己紹介、かしまった丁寧体② [内容] 「私は～です ～といいます」の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 授業の1回～14回まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする	
⑧	[テーマ] 予定や持ち物の有無① [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験 [授業外学修] テストの準備をしておく	
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験(評価割合70%)、授業外課題を評価(評価割合20%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎		○	70%	
授業内レポート						
授業外レポート		○	○		20%	
演習・実技						
授業態度		○	○	○	10%	
出席					欠格条件	
関連科目	韓国語 I (前期)				関連資格	韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定(ハングル検定)
教科書	なし				参考書	『もっとチャレンジ韓国語』白水社 金順玉著
オフィスアワー	LC棟210室:火曜日14:20～16:00				その他	メール:il-kim@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	韓国語Ⅱ Korean II			担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、基礎的な文章を応用し、あいさつ、買い物、道を尋ね、状況別表現などの日常会話を紹介する。また、韓国人とのコミュニケーションができるよう、小グループ型を授業に導入し、会話中心の授業を進めていく。					iv
授業の一般目標					
パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、学生の興味や関心があるテーマ(文化・歴史・教育・スポーツ事情)を取り上げ、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	韓国語(ハングル)の読む・聞く・書く・話すことができる。				
■ 情意的領域	韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。				
■ 技能表現的領域	読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。				
授業計画(全体)					
韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、発音練習(基本母音子音、合成母音子音、パッチム)・基本文法・日常会話(挨拶、自己紹介、状況別表現)をわかりやすく説明する。パワーポイントによる知識伝達型や、小グループ型の授業を導入し、実用的な語学力を身につける。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学修] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習			⑨	[テーマ] 動作の進行や状態表現 [内容] 「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 韓国語Iで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑩	[テーマ] ～くさいの表現とお金の数え方 [内容] 買い物や誰かをお願いする際に使う表現の習得と練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
③	[テーマ] 動詞、形容詞 [内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑪	[テーマ] 年齢に関する表現 [内容] 年齢の数え方、数字の数え方 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
④	[テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑫	[テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現 [内容] 「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど ～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
⑤	[テーマ] 過去形の作り方 [内容] 動詞の過去形の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑬	[テーマ] べアで覚える形容詞 [内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
⑥	[テーマ] 会話練習 [内容] 2回～5回まで学んだ表現と動詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑭	[テーマ] 動詞の可能表現 [内容] 「～することができる」の可能表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく
⑦	[テーマ] 覚えたら便利な動詞 [内容] 身近な動詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑮	[テーマ] よく使われる副詞、総括 [内容] 副詞を用いた会話の練習、授業の1回～14回まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 文末表現 [内容] 「明日何をするつもりですか」を用いてよく使われる文末表現の学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験 [授業外学修] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
試験は、期末試験(評価割合70%)、授業外課題を評価(評価割合20%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		○	70%
授業内レポート					
授業外レポート		○	○		20%
演習・実技					
授業態度		○	○	○	10%
出席					欠格条件
関連科目	韓国語Ⅰ(前期)				関連資格
教科書	なし				韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定(ハングル検定)
オフィスアワー	LC棟203室:水曜日14:20～16:00				参考書
					『新もつとチャレンジ韓国語』白水社 金順玉著
					その他
					メール:hs-kim@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	韓国語Ⅱ Korean II			担当教員	金 一坤	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、基礎的な文章を応用し、あいさつ、買い物、道を尋ね、状況別表現などの日常会話を紹介する。また、韓国人とのコミュニケーションができるよう、小グループ型を授業に導入し、会話中心の授業を進めていく。					iv	
授業の一般目標						
パワーポイントによるスライドや資料をもとに、発音練習・基本文法・日常会話を学習し、「読む・聞く・書く・話す」能力の習得を目標とする。また、学生の興味や関心があるテーマ(文化・歴史・教育・スポーツ事情)を取り上げ、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	韓国語(ハングル)の読む・聞く・書く・話すことができる。					
■ 情意的領域	韓国の文化・歴史・教育・スポーツ事情を理解することから韓国人との交流会に参加できる。					
■ 技能表現的領域	読む・聞く・書く・話す能力の習得より、韓国人とのコミュニケーションができる。					
授業計画(全体)						
韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、発音練習(基本母音子音、合成母音子音、パッチム)・基本文法・日常会話(挨拶、自己紹介、状況別表現)をわかりやすく説明する。パワーポイントによる知識伝達型や、小グループ型の授業を導入し、実用的な語学力を身につける。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学修] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習			⑨	[テーマ] 動作の進行や状態表現 [内容] 「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
②	[テーマ] 韓国語Iの復習 [内容] 韓国語Iで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑩	[テーマ] ～くさいの表現とお金の数え方 [内容] 買い物や誰かをお願いする際に使う表現の習得と練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
③	[テーマ] 動詞、形容詞 [内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑪	[テーマ] 年齢に関する表現 [内容] 年齢の数え方、数字の数え方 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
④	[テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑫	[テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現 [内容] 「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど ～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
⑤	[テーマ] 過去形の作り方 [内容] 動詞の過去形の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑬	[テーマ] べアで覚える形容詞 [内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
⑥	[テーマ] 会話練習 [内容] 2回～5回まで学んだ表現と動詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑭	[テーマ] 動詞の可能表現 [内容] 「～することができる」の可能表現の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく	
⑦	[テーマ] 覚えたら便利な動詞 [内容] 身近な動詞を用いて会話の練習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑮	[テーマ] よく使われる副詞、総括 [内容] 副詞を用いた会話の練習、授業の1回～14回まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学修] 最終回のテストに備えて復習をする	
⑧	[テーマ] 文末表現 [内容] 「明日何をするつもりですか」を用いてよく使われる文末表現の学習 [授業外学修] 配布資料を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験 [授業外学修] テストの準備をしておく	
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験(評価割合70%)、授業外課題を評価(評価割合20%)、授業態度(評価割合10%)の結果を総合して評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎		○	70%	
授業内レポート						
授業外レポート		○	○		20%	
演習・実技						
授業態度		○	○	○	10%	
出席					欠格条件	
関連科目	韓国語Ⅰ(前期)				関連資格	韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定(ハングル検定)
教科書	なし				参考書	『もっとチャレンジ韓国語』白水社 金順玉著
オフィスアワー	LC棟210室:火曜日14:20～16:00				その他	メール:il-kim@sendai-u.ac.jp

《人生設計科目》

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	キャリアプランニング I Career Planning I			担当教員	クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	-
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
この授業では、学生生活(授業、日常、部活その他)での目的意識(なぜ、今ここにいて、これをやっているのか)を吟味することを通じ、大学生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計(キャリアプランニング)の意識化を行います。					iv、v
授業の一般目標					
ライフステージの一段階として大学生生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。				
■ 情意的領域	職業や進路についての話し合いを進めることに寄与でき、話し合う仲間を見つけることができる。				
■ 技能表現的領域	コース選択や科目履修を主体的に計画できる。				
授業計画(全体)					
実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。 [授業外学修] 自らの将来の希望や見通しを考える。			⑨	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2(クラス単位) [内容] グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。 [授業外学修] 発表準備。
②	[テーマ] 講話①(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学修] 普段の生活態度を問い直す。			⑩	[テーマ] 他者からみた自分・自分からみた他者(クラス単位) [内容] 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。 [授業外学修] 他者にどう接するべきかを考える。
③	[テーマ] 講話②(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学修] 普段の生活態度を問い直してみよう。			⑪	[テーマ] 社会が求める「スキル」「能力」とは(クラス単位) [内容] 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。 [授業外学修] 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。
④	[テーマ] 導入演習、夏休みの反省、後期の目標(クラス単位) [内容] 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生活の目標を考えます。 [授業外学修] 進学当時からのことを改めて振り返る。			⑫	[テーマ] 「夢」を描こう(クラス単位) [内容] 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。 [授業外学修] 改めて自分の将来の姿を考える。
⑤	[テーマ] 「はたらく」とはどういうことか(クラス単位) [内容] 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。 [授業外学修] はたらく意味を自分なりに考える			⑬	[テーマ] 来年度の目標を書こう(クラス単位) [内容] 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。 [授業外学修] 改めて自分の将来の姿を考える。
⑥	[テーマ] 教師になるには?(クラス単位) [内容] 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。 [授業外学修] 教師になるまでの道のりについて調べる			⑭	[テーマ] 自分の人がらと適職について考えよう(全クラス合同) [内容] 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。 [授業外学修] 職業興味検査の結果をよく検討する。
⑦	[テーマ] 体育・スポーツ系の仕事とは?(クラス単位) [内容] 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。 [授業外学修] 興味のある職業について考える。			⑮	[テーマ] キャリアプランニングⅡに向けて(全クラス合同) [内容] 教員から2年時に履修するキャリアプランニングⅡの概要を説明し、インターンを経験した先輩の講話を聞きます。 [授業外学修] インターンについて調べる
⑧	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1(クラス単位) [内容] スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは? グループごとに調べます。 [授業外学修] グループ学習。			⑯	[テーマ] 1年を振り返り、今後の大学説話を見通す [内容] 授業で学んだ内容を振り返り、今後の大学生活の見通しを立て、レポートとして書き起こします。 [授業外学修] レポートの準備、執筆
成績評価方法(方針)					
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート	○	○	○	○	20%
授業外レポート	○	○	○	○	20%
演習・実技		○	○	○	20%
授業態度		◎	◎	◎	40%
出席					欠格条件
関連科目	キャリアプランニングⅡ、キャリアプランニングⅢ			関連資格	
教科書	「キャリアプランニングⅠ演習資料」(オリエンテーション時に配布)			参考書	必要に応じて講義時に紹介します。
オフィスアワー	クラス担任教員の時間を確認してください			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	キャリアプランニングⅡ				担当教員	キャリアプランニング運営担当教員 プロスポーツ球団インターンシップ担当教員
	Career Planning Ⅱ					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	-
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>本科目は、キャリアプランニングⅠで学んだことを活かしながら、将来の進路について各々が考えるきっかけやヒントを学ぶ科目である。講義形式での学びやインターンシップ実習(職業体験学習)の機会を通じて、将来への視圏を拡大するとともに、社会のありかたやその中で私たちの過ごし方を理解する。</p>						iv、v
授業の一般目標						
「自分と社会人生活・進路選択」をメインテーマに、自分自身を自覚的に捉え、今後の進路について具体的に考えることができるようになることを目標とする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	職業について、より深い具体的知識を備える。				
■	情意的領域	職業選択に当たり、自分なりの動機をより鮮明に、より強く持つことができる。				
■	技能表現的領域	社会人らしい考え方や話し方をすることができる。職場の人間関係や「やりがい」について自分なりに意見を持ち、表明できる。				
授業計画(全体)						
変則的な日程となるので、オリエンテーションの日時、場所は掲示する。本講義はコースを選択する必要があり、大きくはインターンシップか集中講義の2つに別れる。さらにインターンシップはプロスポーツ型、大学紹介型、自己開拓型の3つの中から選択、集中講義は2つの日程から選択する(選択肢は5つ)。詳細はオリエンテーションで周知するが、事前に夏休み期間の予定を確認しておくこと(インターンシップ・集中講義共に夏季休暇期間の実施がメインとなるため)。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] 第1回オリエンテーション [内容] 本科目の基本的な流れとコース説明、履修の仕方を概説する。 [授業外学修] 自らの将来の希望や見通しについて考える。</p>			⑨	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ④ [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成</p>	
②	<p>[テーマ] 第2回オリエンテーション [内容] コースごとの詳細な説明を行い、コース選択を実施する。 [授業外学修] 第1回オリエンテーションの内容を見直す。</p>			⑩	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑤ [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成</p>	
③	<p>[テーマ] 第3回オリエンテーション [内容] コースごとに分かれ、それぞれの今後の進め方を概説する。 [授業外学修] 第2回オリエンテーションの内容を見直す。</p>			⑪	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑥ [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成</p>	
④	<p>[テーマ] 将来の進路を考える① [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学修の指示等] 講義コース:講話内容の復習 実習コース:実習先開</p>			⑫	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑦ [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成</p>	
⑤	<p>[テーマ] 将来の進路を考える② [内容] 講義コース:講話 実習コース:事前指導 [授業外学修の指示等] 講義コース:講話内容の復習 実習コース:実習にの</p>			⑬	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑧ [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成</p>	
⑥	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成</p>			⑭	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ⑨ [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義、実習のまとめにむけた整理をする。</p>	
⑦	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成</p>			⑮	<p>[テーマ] まとめ [内容] 講義コース:講義内レポート 実習コース:事後指導 [授業外学修] 提出物などに漏れがないか確認する。</p>	
⑧	<p>[テーマ] 社会人としての基礎を学ぶ③ [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学修] 講義コース:講義内容の復習 実習コース:実習日誌の作成</p>			⑯	<p>[テーマ] レポート [内容] 講義コース、実習コースともにレポートを作成し、提出する。実習コースの場合は、レポートを作成し、実習日誌とともに提出する。 [授業外学修]</p>	
成績評価方法(方針)						
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行う。評定の主材料は出席状況(欠格条件)および授業参加の態度であり、最終的な成績評価のためには3分の2以上の出席が必要となる						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。</p>
定期試験					評価対象外	
授業内レポート		○	○	○	20%	
授業外レポート		○	○	○	20%	
演習・実技			◎	◎	30%	
授業態度			◎	◎	30%	
出席					欠格条件	
関連科目	キャリアプランニングⅠ、キャリアプランニングⅢ				関連資格	
教科書	指定しません。講義時にレジュメを配布します。				参考書	必要に応じてガイダンスや集中講義時に紹介します。
オフィスアワー	キャリアプランニング運営担当教員(オリエンテーション時に告知)				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	キャリアプランニングⅢ				担当教員	学科・コースのグループ担当教員 キャリアプランニング運営担当教員
	Career Planning III					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	—
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
3年次は、将来の進路について明確なイメージを固め、行動する時期である。キャリアプランニングⅢでは、学生の進路への意識を高めるべく種々の演習を行うほか、実際の進路指導をめぐる話題を多方面から扱う。						iv、v
授業の一般目標						
1)これまでの自分の生きてきた道程を振り返りつつ、学生生活の二年間を総括する。 2)各人の性格、適性、学力レベルなどを将来の進路希望と関連付けて考える。 3)進路意識を高めるために、外部講師を招聘し、職業に対するありべき態度、企業の求める人材像、現在の企業動向等について情報を取得する。 4)より具体的に就活を展開する際に必要とされる知識、技能、手続きなどを把握する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	学生生活の二年間を将来に結びつけて考える。企業の求める人材像や就職動向について知る。				
■	情意的領域	自らの希望を熱意をもって表現する方法の必要性を知ると同時に、実践できる。				
■	技能表現的領域	それぞれの進路に必要とされる知識、技能、手続きを挙げることができる。				
授業計画(全体)						
下記に示す内容を中心に、学生各自が実際の就職活動を行う際に役立つ情報を総合的に蓄積していくことが目的である。外部から講師を招聘する場合と、学科やコースのグループごとに演習を行う場合がある。回によって異なるので掲示その他の指示に従うこと。なお、外部から講師を招聘する場合には全3年生合同で授業を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(合同) [内容] 現時点の就職状況を確認するとともに、本授業の流れについて説明する。 [授業外学修] 自らの将来の希望や見通しについて考える。				⑨	[テーマ] 大学院という進路(合同) [内容] 大学卒業後に継続して学ぶことの意味と意義について考える。 [授業外学修] 大学院の情報を収集する
②	[テーマ] 自己PRとしての自己紹介(各グループ) [内容] 就職活動において自己PRは欠かせない。この観点から自己紹介を行ってみる。 [授業外学修] より他者にアピールする自己紹介内容を考える。				⑩	[テーマ] 就職活動の全体像(合同) [内容] 就職活動に臨むにあたり、その全体的な流れを把握する。 [授業外学修] 就活支援サイトをチェックする。
③	[テーマ] 就職の道すじ(各グループ) [内容] 入学以来から卒業までのイベントを挙げながら、就職に至るまでの自らのスケジュールを考える。 [授業外学修] 就職活動のスケジュールを組み立てる。				⑪	[テーマ] 自己プロデュースの方法(合同) [内容] 自分をプロデュースすることの重要性とその方法について述べる。 [授業外学修] 前期の学習内容を振り返る。
④	[テーマ] 敬語の使いかた・電話一のマナー(各グループ) [内容] 具体的な事例を想定し、仕事上正しい言葉遣いについて考える。 [授業外学修] 敬語等の使い方を調べる。				⑫	[テーマ] 対人スキルを磨く(合同) [内容] 就活に即効性があり、修飾語も重要なマナーと対人スキルについて述べる。 [授業外学修] 対人スキルを日常で実践してみる。
⑤	[テーマ] 自己分析の実際(各グループ) [内容] 仙台大学生として企業等が期待することはどんなことかを検討することを通じ、自らの長所、短所を改めて考える。 [授業外学修] 自分のアピールポイントを考える。				⑬	[テーマ] 訴求点を探す(合同) [内容] 自己アピールのポイントと方法を学ぶ。 [授業外学修の指示等] 自分の長所を考える。
⑥	[テーマ] 自己PR書、自己紹介書の作成(各グループ) [内容] 自己PR書を試作してみるにより、自分という人間を理解してもらう文章作成のポイントを考える。 [授業外学修] 他己分析をしてみる。				⑭	[テーマ] 視野を広げる(合同) [内容] 企業名や規模に惑わされずに企業を選ぶための方法を理解する。 [授業外学修] 就職支援サイトで希望分野の求人を確認しておく。
⑦	[テーマ] 履歴書とエントリーシートの作成(各グループ) [内容] 履歴書やエントリーシートの試作を通じて、より良い文書の作成について考える。 [授業外学修] 履歴書とエントリーシートの完成版を作成する。				⑮	[テーマ] 進路希望調査と適性検査(合同) [内容] 適性検査を実施し、自己分析と希望する進路とのマッチングを図る。 [授業外学修] 適性検査の結果を振り返る。
⑧	[テーマ] 夏休みの過ごし方(合同) [内容] 後期から本格化する就職活動を見据えて夏休みにやるべきことを考える。 [授業外学修] 夏休みの行動指針を立てる。				⑯	[テーマ] レポート [内容] 講義で学んだ内容を踏まえ、就職活動に向けての筋道見直し、レポートとして書き起こす。 [授業外学修] レポートのための振り返りお行い、情報を収集する。
成績評価方法(方針)						
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。これらのために、出席状況(欠格条件)および作業への取組状況を主材料とします。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 進路選択時に不利を背負わないよう、この授業を機会に積極的な情報収集と行動を心がけてください。
定期試験					評価対象外	
授業内レポート		○	○	○	20%	
授業外レポート		○	○	○	20%	
演習・実技		○	○	○	20%	
授業態度		○	○	○	40%	
出席					欠格条件	
関連科目	キャリアプランニングⅠ、キャリアプランニングⅡ				関連資格	
教科書	「キャリアプランニングⅢ演習資料」(オリエンテーション時に配布)				参考書	必要に応じて講義時に紹介する。
オフィスアワー	学科・コースのクラス担当教員(オリエンテーション時に告知)				その他	

2. 專門基礎科目

《講義》

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ史 Sport History(L.)			担当教員	藪 耕太郎
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業は、個々のスポーツ種目の成り立ちではなく、スポーツを通じて近代社会の特徴や問題点を析出することを目的とする。なお、近代に着目するのは、この時代こそが私たちが生きる「いま・ここ」の基底をなしており、従って近代と向き合うことは、現代を理解し未来を展望することに繋がるからである。					i
授業の一般目標					
スポーツをもって近代という時代・社会を語れる能力を獲得して欲しい。その際、近代の延長上にある現代の諸問題を射程に入れて、つまり現在や未来と過去とを結び付けて考察できればなお好ましい。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	近代スポーツについて多角的に考察でき、かつその眼差しをもって近代という時代、あるいは現代社会を投射できる。			
■	情意的領域	批判的思考力を駆使してスポーツの現在・過去・未来を語ることができる。			
■	技能表現的領域	学術的な専門用語や概念を駆使できる。			
授業計画(全体)					
各回ごとに異なるひとつのテーマ(視点)に基づいて講義をするが、それらは全て上記の授業概要で示した大きなテーマに基づく。従って、スポーツの何を知っているか、ではなく、スポーツを通じて何を語れるか、ということに力点を置きたい。そのために、スポーツという文化そのものに着目するのではなく、その文化の成立を可能とさせる時代状況や社会背景を丹念に辿る。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 近代という時代 [内容] 現代とは、近代の延長線上にあり、かつそれを乗り越えようとする時代である。ここでは近代を理解する必要性と意義を説明する。 [授業外学修] 図書館などでスポーツ関連の著作に触れておく。			⑨	[テーマ] スポーツと栄養・健康 [内容] 養生から衛生、そして健康へと至る過程を通じて、生権力としての健康の意味を検討する。 [授業外学修] 体力章検定について調べる。
②	[テーマ] 近代体育の誕生 [内容] 市民革命期から近代国民国家の誕生過程を追いながら、国民形成と体育の関係を検討する。 [授業外学修] グーツムツやヤーンについて調べる。			⑩	[テーマ] スポーツとメディア [内容] 新聞・ラジオ・テレビを通じて、メディアとスポーツの関係性の歴史的变化がもつ意味を検討する。 [授業外学修] ラジオ体操について調べる。
③	[テーマ] スポーツと教育 [内容] パブリックスクールを事例に、スポーツと教育との結合について検討する。 [授業外学修] トマス・アーノルドについて調べる。			⑪	[テーマ] スポーツと伝統 [内容] 武道の誕生過程に着目し、それが創られた伝統であることを検討する。 [授業外学修] 柔道の歴史を調べる。
④	[テーマ] スポーツと階級 [内容] スポーツを介したコミュニティ形成やシティズンシップの育成について検討する。 [授業外学修] パブリックハウスについて調べる。			⑫	[テーマ] スポーツと国民 [内容] スポーツに向けられた「眼差し」に着目し、国民という集合的的身体が可視化される過程を検討する。 [授業外学修] ラジオ体操について調べる。
⑤	[テーマ] スポーツと帝国主義 [内容] 植民地支配の道具としてのスポーツとスポーツを介した抵抗の可能性について検討する。 [授業外学修] クリケットの歴史を調べる。			⑬	[テーマ] スポーツと政治 [内容] 思想善導の手段としてのスポーツについて、大正-昭和戦前期の日本を事例に検討する。 [授業外学修] 運動会の歴史を調べる。
⑥	[テーマ] スポーツとジェンダー/セクシュアリティ [内容] スポーツが生み出す様々な性差の問題について、幾つかの歴史的事例を挙げて検討する。 [授業外学修] 人見絹江について調べる。			⑭	[テーマ] まとめ① [内容] 第2回-第7回までの授業内容の振り返りと要点の確認。 [授業外学修] 配布済みのレジュメを利用して事前学習。
⑦	[テーマ] スポーツと人種 [内容] スポーツと人種主義について、セントルイス五輪・ベルリン五輪・メキシコ五輪を事例に検討する。 [授業外学修] いずれかの五輪について調べる。			⑮	[テーマ] まとめ② [内容] 第8回-第13回までの授業内容の振り返りと要点の確認。 [授業外学修] 配布済みのレジュメを利用して事前学習。
⑧	[テーマ] スポーツと労働 [内容] スポーツが気晴らしからレクリエーション(労働力の再生産)へと移行することの意味を検討する。 [授業外学修] 新中間層ということばを調べる。			⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 近代スポーツ史の知識をもとに近現代のスポーツの諸問題の所在を的確に抽出し批判できるかを判定する。 [授業外学修] 現代スポーツの問題点の洗い出し。
成績評価方法(方針)					
成績の大部分は到達度確認テスト(定期試験)の点数で評価する。また、自学自習(授業外レポート)の提出の有無、回数、内容に応じて加点する。自学自習の提出は執筆要件を含めて任意だが、レポート作成時に利用した文献などの出典は必ず明記すること。それが無い場合は判定しない。優れた自学自習の内容は授業時間を通じてフィードバック(解説)し、添削のうえ提出者に返却する。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	80%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート		○	○		20%
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点対象
出席					欠格条件
関連科目	スポーツ社会学 体育原理 その他教養科目全般			関連資格	教員免許状(中高保体)
教科書	使用しない			参考書	授業時に適宜アナウンスする
オフィスアワー	前期:月曜2コマ 後期:水曜2コマ			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ経営学 Sport Management (L)			担当教員	永田秀隆
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	—
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツが幅広い層に普及している今日、スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方が重要となっている。そこで、学校、地域、公共・商業スポーツ施設やプロスポーツといった様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的なアプローチを試みる。					i、ii、iv、v
授業の一般目標					
スポーツ経営の基本的な構造(仕組みやシステム)について理解する。様々な領域で展開されるスポーツ現象について、経営学的な視点で捉え、またそのことについて考察する。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	スポーツ経営の基本構造が説明できる。経営学的な視点でスポーツ現象を捉えられ、そのことについて考察できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
本授業は、スポーツ経営学入門編と位置づけていることから、多様な視点でのスポーツ経営現象を紹介することになる。毎回、授業テーマに沿った資料を原則配布し、また受講者の理解を深めることに配慮するためパワーポイント等も活用する。数回、授業内容に沿ったレポートを課すことになるので、授業内容を各自がそれなりに理解しておくことが重要である。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション/スポーツ経営学とは [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明。/スポーツ経営の構造(仕組み)について概説する。 [授業外学修]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] スポーツ事業の運営 ③クラブサービス事業 [内容] スポーツ事業の中でも本時はプログラムサービス事業について解説し、理解する。 [授業外学修]教科書76～83ページを読んでおくこと
②	[テーマ] 現代社会とスポーツ経営学 [内容] 現代社会でスポーツは人々の豊かな生活の形成に不可欠であり、その際スポーツ経営は鍵概念となることを解説する。 [授業外学修]現代社会とスポーツに関するニュースを調べておくこと			⑩	[テーマ] 学校運動部活動と地域スポーツクラブの経営論 [内容] 学校運動部や地域スポーツクラブの現状・課題を理解し、受講者間で議論する。 [授業外学修]教科書84～89ページを読んでおくこと
③	[テーマ] スポーツ経営学の概念と構造 [内容] スポーツ経営学を構成する概念、及びその営みなどがどのような仕組みで成り立っているのか構造的に概説する。 [授業外学修]教科書14～23ページを読んでおくこと			⑪	[テーマ] スポーツ経営とスポーツ・運動生活 [内容] 「行う」「みる」「支える・創る」の各種スポーツの関りから、スポーツ生活、運動者行動、運動生活について説明する。 [授業外学修]教科書26～33ページを読んでおくこと
④	[テーマ] スポーツ事業の基礎となる経営資源 ①人的資源 [内容] スポーツ事業の基礎となる経営資源を説明し、その中でも本時は人的資源に着目し概説する。 [授業外学修]教科書36～41ページを読んでおくこと			⑫	[テーマ] スポーツ経営と運動生活 [内容] 前時の講義を踏まえ、受講者等の運動生活の実態を把握し、そのデータをもとに受講者間で議論(ディスカッション)する。 [授業外学修]運動生活の考えを復習しておき議論の準備をしておくこと
⑤	[テーマ] スポーツ事業の基礎となる経営資源 ②物的資源 [内容] 経営資源の中で、本時は物的資源、特に施設の整備について説明し、考える。 [授業外学修]教科書42～47ページを読んでおくこと			⑬	[テーマ] スポーツマーケティングの基本 [内容] スポーツマーケティングの考え方やマーケティング戦略の構築について概説し、理解する。 [授業外学修]教科書90～97ページを読んでおくこと
⑥	[テーマ] スポーツ事業の基礎となる経営資源 ③財務資源 ④情報資源 [内容] 経営資源の中で、本時は財務資源と情報資源を取り上げ、それらについて理解する。 [授業外学修]教科書48～55ページを読んでおくこと			⑭	[テーマ] みるスポーツの経営 [内容] みるスポーツの考え方を理解し、みるスポーツを豊かにする経営についても考える。 [授業外学修]教科書132～139ページを読んでおくこと
⑦	[テーマ] スポーツ事業の運営 ①エリアサービス事業 [内容] スポーツ事業の中でも本時はエリアサービス事業について解説し、理解する。 [授業外学修]教科書58～63ページを読んでおくこと			⑮	[テーマ] スポーツイベント・プロスポーツの経営論 [内容] スポーツイベントの種類や功罪(レガシー)、プロスポーツ経営の現状・課題について考える。 [授業外学修]教科書140～144ページを読んでおくこと
⑧	[テーマ] スポーツ事業の運営 ②プログラムサービス事業 [内容] スポーツ事業の中でも本時はプログラムサービス事業について解説し、理解する。 [授業外学修]教科書64～75ページを読んでおくこと			⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り。 [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
授業外レポート(20%)、授業内レポートとリアクションペーパー(80%)の結果に基づき、総合的に評価する。授業内レポート・リアクションペーパーは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎			80%
授業外レポート		◎			20%
演習・実技					評価対象外
授業態度			○		加減点アリ
出席					欠格条件
関連科目	スポーツマネジメント概論、スポーツマネジメント実習、スポーツマネジメント演習、など				関連資格
教科書	柳沢和雄他「テキスト体育・スポーツ経営学」大修館書店				山下秋二他「スポーツ経営学」大修館書店
オフィスアワー	永田(火2)				その他 永田(hd-nagata@sendai-u.ac.jp)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ社会学 Sociology of Sport(L.)			担当教員	仲野隆士・藪耕太郎
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
社会学者のP.ブルデュエはスポーツ社会学には2つの傾向があるという。ひとつは「スポーツの社会学」であり、スポーツに内在するあるいはそれ特有の性質や特徴を扱う。もうひとつが「社会学の対象としてのスポーツ」であり、スポーツを社会を分析するための手段・装置とする。本授業ではこの双方のアプローチを通じて、スポーツ社会学という専門知の理解を深める。					i、ii、v
授業の一般目標					
スポーツの文化としての特質や固有性を理解するとともに、スポーツと社会の関係を把握し、スポーツを通じて現代社会の諸問題を分析する力を養うことを目的とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツという文化についてスポーツ社会学の観点から明快に説明できる。				
■ 情意的領域	批判的思考力を駆使してスポーツと社会の関係を論じることができる。				
■ 技能表現的領域	スポーツ社会学に関わる学術タームや概念を駆使できる。				
授業計画(全体)					
本授業は前半と後半で担当者が異なる。前半は藪が担当し、後半は仲野が担当する。担当者ごとに授業の主旨や力点などが異なるため、それぞれの担当者が受け持つ最終回(下記の⑧⑬)で試験を実施し、到達度を判定する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス(仲野・藪) 授業の概要や進め方、成績判定などについて説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと。			⑨	[テーマ] 近代スポーツの成立と発展 [内容] 近代スポーツがどのように出現し発展して今日に至るのかを考える。 [授業外学修] 興味のあるスポーツの歴史などについて調べてみよう。
②	[テーマ] スポーツと教育 [内容] 体育や遊びとスポーツとの差異や相同性について考える。 [授業外学修] これまでの体育や遊びの経験を振り返ってみよう。			⑩	[テーマ] スポーツの社会化論 [内容] スポーツへの社会化・スポーツによる社会化・離脱と再社会化などについて考える。 [授業外学修] 友人たちは何がきっかけでスポーツをやるようになったのか調べてみよう。
③	[テーマ] スポーツする身体 [内容] 科学の発展やライフスタイルの変化が私たちの身体観に及ぼす影響を考える。 [授業外学修] 巷間に溢れる健康グッズやフィットネス法を調べてみよう。			⑪	[テーマ] スポーツとノーマライゼーション [内容] スポーツ・フォー・オールのムーブメントに始まるノーマライゼーションやインテグレーションなどについて考える。 [授業外学修] 障害者スポーツの歴史について調べてみよう。
④	[テーマ] スポーツと地域社会 [内容] 地域スポーツクラブや市民マラソンを事例に市民とスポーツの関係を考える。 [授業外学修] どのようなスポーツ施設やイベントがあるか調べてみよう。			⑫	[テーマ] ライフステージとスポーツ [内容] 人間のライフサイクルにおける個々のライフステージとスポーツとの関わりについて考える。 [授業外学修] ライフサイクルについて調べてみよう。
⑤	[テーマ] グローバル化するスポーツ [内容] グローバリゼーションの意味についてスポーツを通じて検討する。 [授業外学修] 国際的なスポーツ大会の種類や内容を調べてみよう。			⑬	[テーマ] 日本と海外のスポーツ文学 [内容] 日本独特のスポーツ文化を海外のそれとを比較しながら考える。 [授業外学修] 日本と海外の選手の特徴の違いについて着目してみよう。
⑥	[テーマ] スポーツとジェンダー [内容] スポーツにおける男性主義について社会的性差の観点から考える。 [授業外学修] 男女のスポーツウェアの差に着目してみよう。			⑭	[テーマ] スポーツを巡る社会問題 [内容] スポーツの光と影について考える。 [授業外学修] どのような問題が過去にあったのか調べてみよう。
⑦	[テーマ] スポーツと政治・政策 [内容] スポーツを巡る法案や国際宣言などを通じてスポーツ権について考える。 [授業外学修] 法案や宣言の種類や内容を調べてみよう。			⑮	[テーマ] 試験②(仲野) [内容] 第⑧-⑭回までの授業の理解の程度を判定する。 [授業外学修] しっかりとテスト対策をして臨むこと。
⑧	[テーマ] 試験①(藪) [内容] 第②-⑦回までの授業の理解の程度を判定する。 [授業外学修] しっかりとテスト対策をして臨むこと。			⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 本授業では定期試験は実施しないが、不測の事態が生じた場合に予備的に活用する可能性がある。 [授業外学修] 特になし
成績評価方法(方針)					
前半はテスト、後半は授業内レポートとテストで成績を評価する。また、前半は授業外レポートを課す可能性がある。なお、前後半を問わず、提出されたレポートについては授業時間内外を通じて適切なフィードバックを実施する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	60%
授業内レポート		○		○	20%
授業外レポート		○		○	20%
演習・実技					評価対象外
授業態度			◎		減点対象
出席					欠格条件
関連科目	体育原理 その他教養科目全般			関連資格	教員免許状(中高保体)
教科書	使用しない			参考書	前半『よくわかるスポーツ文化論』(ミネルヴァ書房, 2015) 後半『現代スポーツ社会学序説』(杏林書院, 2003)
オフィスアワー	前期(仲野:月3・藪:月2)・後期(仲野:藪:水2)			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ心理学 Sport Psychology (L.)			担当教員	栗木一博/菊地直子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の中で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。					i、iii
授業の一般目標					
スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ心理学の基礎的な事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。			
■	情意的領域	スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(栗木・菊地) [内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法及び授業の進め方について解説する。 [授業外学修]シラバスを熟読すること。			⑨	[テーマ] スポーツとこころの健康(菊地) [内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。 [授業外学修]コミュニケーションということばの意味について調べる。
②	[テーマ] スポーツにおける心理アセスメント(栗木) [内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。 [授業外学修]どのような心理テストがあるのかを調べておく。			⑩	[テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ(菊地) [内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。 [授業外学修]「自我同一性」ということばについて調べておく。
③	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論①(栗木) [内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。 [授業外学修]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。			⑪	[テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント(菊地) [内容] ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。 [授業外学修]自分のストレスについてまとめておく。
④	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論②(栗木) [内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。 [授業外学修]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。			⑫	[テーマ]スポーツ選手の性格(菊地) [内容]スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探求し、理解させる。 [授業外学修]自分のストレスを評価してみる。
⑤	[テーマ] スポーツにおける目標設定(栗木) [内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。 [授業外学修]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。			⑬	[テーマ]スポーツカウンセリング①(菊地) [内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。 [授業外学修]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。
⑥	[テーマ] スポーツにおける集中力①(栗木) [内容] 「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。 [授業外学修]「集中力」ということばの意味について調べておく。			⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング②(菊地) [内容] 熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。 [授業外学修]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。
⑦	[テーマ] スポーツにおける集中力②(栗木) [内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。 [授業外学修]前回学習した「集中力」について確認する。			⑮	[テーマ]スポーツカウンセリング③(菊地) [内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。 [授業外学修]スランプやプラトーについて調べる。
⑧	[テーマ] スポーツとリーダーシップ(栗木) [内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。 [授業外学修]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。			⑯	[テーマ] テスト(菊地) [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。 [授業外学修]テストの準備をしておく。
成績評価方法(方針)					
試験は、期末試験を一回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加え、欠格条件となる。提出されたレポートは授業内で返却し、解説する。試験については授業内で返却し、解説する					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート		○	◎		40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	特に指定しない、必要に応じて資料を配布する				参考書
オフィスアワー	栗木:前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限 菊地:前期・月曜日2時限、後期・木曜日3時限				その他
					中高保健体育、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、NSCA-CPT、健康運動実践指導者ほか
					特に指定しない、必要に応じて授業中に紹介する

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	運動生理学 Exercise Physiology (L)			担当教員	内丸 仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	2	
スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実務経験を有する					
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
運動生理学では、スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関での取り組みや成果、およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実際の事例を挙げながら、生理学や解剖学を基礎として、活動(運動時)状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。					i
授業の一般目標					
運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウォームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	活動(運動時)の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。			
■	情意的領域	授業に欠かさず出席する。実際の活動(運動・トレーニング)において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、各授業毎にクイズを実施し、理解を深める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 運動生理学とは？ [内容] 運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明 [授業外学修] シラバスをよく読んでおくこと			⑨	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅱ [内容] 心臓および血管の循環系による血液運搬、運動時の血圧の変化、および運動や姿勢変化による循環系への影響について説明する。 [授業外学修] P90～100をよく読んでおくこと
②	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅰ [内容] 筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する [授業外学修] P1～6をよく読んでおくこと			⑩	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅲ [内容] 運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する [授業外学修] P90～100をよく読んでおくこと
③	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅱ [内容] 筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構と筋線維組成について説明する [授業外学修] P6～12をよく読んでおくこと			⑪	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅳ [内容] 運動トレーニングにおける呼吸循環系の適応について説明する [授業外学修] P109～117をよく読んでおくこと
④	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅲ [内容] 筋力発揮特性について説明する。骨格筋の適応と変化、筋力トレーニングの効果について説明する。 [授業外学修] P13～28をよく読んでおくこと			⑫	[テーマ] 運動と免疫 [内容] 運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する [授業外学修] P76～83をよく読んでおくこと
⑤	[テーマ] 運動と神経Ⅰ [内容] 神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する [授業外学修] P29～57をよく読んでおくこと			⑬	[テーマ] 運動と外部(高温、高地、水中他)環境と水分摂取・体温調節 [内容] 暑熱、寒冷、高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について体温調節や水分摂取について説明する [授業外学修] P154～162をよく読んでおくこと
⑥	[テーマ] 運動と神経Ⅱ [内容] 脳の働きと運動、および神経系のトレーニングの効果について説明する [授業外学修] P29～57をよく読んでおくこと			⑭	[テーマ] 運動と健康および加齢 [内容] 健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する [授業外学修] P121～133をよく読んでおくこと
⑦	[テーマ] 運動と内分泌系とストレス [内容] 運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する [授業外学修] P58～75をよく読んでおくこと			⑮	[テーマ] 体力と体力特性とトレーニング [内容] 体力の定義とスポーツ選手を中心としたの体力特性、一般人の体力維持・増進のためのトレーニング、ウォームアップとクールダウンについて説明する [授業外学修] P134～153をよく読んでおくこと
⑧	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅰ [内容] 運動時の呼吸の調整と肺換気メカニクス、ガス交換および無酸素性作業閾値について説明する [授業外学修] P84～90をよく読んでおくこと			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。 [授業外学修] これまでの復習をすること
成績評価方法(方針)					
筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合70%)。また、出席状況や授業態度(評価割合30%、減点あり)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			70%
授業内レポート					30%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		減点あり
出席			○		欠格条件
関連科目	スポーツ医学概論、スポーツ医学A、スポーツ医学B、解剖・生理学、体力相談と運動処方、スポーツトレーナーコース関連科目				関連資格
教科書	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識 村岡功編著 市村出版				参考書
オフィスアワー	研究室:C棟2F オフィスアワー:月曜日 16:00～17:00				その他
					特になし

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツバイオメカニクス Sport Biomechanics (L.)			担当教員	宮西 智久	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	-
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	i, ii
<p>スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講義では、スポーツ運動を題材にしてスポーツバイオメカニクスの基盤となる力学の基礎的事項を中心に学習する。具体的には、運動を記述するキネマティクス(運動学)、運動の原因に迫るキネティクス(運動力学)およびエナジエティクスを中心に、さらに流体力学、筋収縮の力学について学ぶ。</p>						
<p>授業の一般目標</p> <p>スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング現場で直面する問題を解決するにあたって、スポーツバイオメカニクスの知識や知見を活用・応用することができる。すなわち、身近なスポーツの運動について、パフォーマンスの向上と傷害予防の観点から合理的な運動や安全な運動とは何かを科学的に理解し説明することができるようになる。</p>						
<p>授業の到達目標</p>						
■ 認知的領域	スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、スポーツの運動現象について論理的に説明することができる。					
■ 情意的領域	スポーツ運動における実践的主観を客観化することにより興味や関心を深めることができ、スポーツや健康運動指導に活かすことができる。					
□ 技能表現的領域						
<p>授業計画(全体)</p> <p>本講義は大きく6つのパートから構成されている。パートI:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートII:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートIII:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートIV:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートV:流体力学(1回)、パートVI:筋収縮の力学(2回)。本講義は、これらのパートについて順に系統だてて進められる。</p>						
<p>授業計画(各回のテーマ等)</p>						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] スポーツバイオメカニクス序説</p> <p>[内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(1章)の予習・復習、ホームワーク</p>			⑨	<p>[テーマ] 回転運動のキネティクスI</p> <p>[内容] 力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力とモーメントアーム、偶力、回転効果、力のモーメント計算、つり合い、てこの原理(第一種、第二種、第三種にて)、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(6章)の予習・復習、ホームワーク</p>	
②	<p>[テーマ] 力学と数学の基礎 / 並進運動のキネマティクスI</p> <p>[内容] 力学モデル、運動の形態(並進/回転/一般)と種類(等速/等加速度/加速度)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(2, 3章)の予習・復習、ホームワーク</p>			⑩	<p>[テーマ] 回転運動のキネティクスII</p> <p>[内容] 重心とその測定・算出法、身体部分慣性係数(BSP)、身体重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(6章)の予習・復習、ホームワーク</p>	
③	<p>[テーマ] 並進運動のキネマティクスII</p> <p>[内容] 位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(3章)の予習・復習、ホームワーク</p>			⑪	<p>[テーマ] 回転運動のキネティクスIII</p> <p>[内容] ニュートンの運動の三法則(回転編)、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(6章)の予習・復習、ホームワーク</p>	
④	<p>[テーマ] 回転運動のキネマティクスI</p> <p>[内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(4章)の予習・復習、ホームワーク</p>			⑫	<p>[テーマ] 仕事・エネルギー・パワー</p> <p>[内容] 仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギー変換、力学的効率、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(7章)の予習・復習、ホームワーク</p>	
⑤	<p>[テーマ] 回転運動のキネマティクスII</p> <p>[内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(4章)の予習・復習、ホームワーク</p>			⑬	<p>[テーマ] 流体力学:空気や水による力</p> <p>[内容] 物質の三態、アルキメデスの原理、比重、密度、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(8章)の予習・復習、ホームワーク</p>	
⑥	<p>[テーマ] 並進運動のキネティクスI</p> <p>[内容] 慣性・質量・力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則(並進編)、ダランベールの原理、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(5章)の予習・復習、ホームワーク</p>			⑭	<p>[テーマ] 筋収縮の力学I</p> <p>[内容] 筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(力-長さ・速度・パワー関係)、紡錘状筋と羽状筋、筋収縮様式、SSC、筋収縮モデル、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(9章)の予習・復習、ホームワーク</p>	
⑦	<p>[テーマ] 並進運動のキネティクスII</p> <p>[内容] いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、運動量と力積、運動量保存の法則、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(5章)の予習・復習、ホームワーク</p>			⑮	<p>[テーマ] 筋収縮の力学II</p> <p>[内容] 身体外部の物体(地面、用具、相手他)へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力増大に関わる要因、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(9章)の予習・復習、ホームワーク</p>	
⑧	<p>[テーマ] 並進運動のキネティクスIII</p> <p>[内容] システム、フリーボディダイアグラム(FBD)、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係、復習</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット(5章)の予習・復習、ホームワーク</p>			⑯	<p>[テーマ] 試験</p> <p>[内容] 選択問題(マークシート方式)</p> <p>[授業外学修] 教科書・講義ノット他を復習し試験に万全を期すこと。</p>	
<p>成績評価方法(方針)</p> <p>定期試験、授業外レポート等に基づき評価する(解答掲出)。試験・レポートは解説とともに返却する。受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	受講条件: 1)学生証を持参すること。 2)教科書を持参すること。 3)試験は学則(第34条)に基づき実施する。 4)指定座席に座ること。 5)スマートフォンや携帯電話の使用は緊急時(災害時等)以外は原則禁止する。 6)教育環境の保全に協力すること。 7)講義以外に、大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 8)ノート、筆記用具(鉛筆、消しゴム他)、関数電卓、定規、分度器を持参すること。 9)その他重要事項(試験、出欠方法他)の詳細は第1回目の講義において【配布資料】を使用し伝えるので必ず受講すること。
定期試験		○			70%	
授業内レポート					—	
授業外レポート		○			30%	
演習・実技					—	
授業態度			○		減点対象	
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツ技術観察論(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、ストレングス&コンディショニング実習(3年)、卒業論文(4年)					教員免許状、健康運動指導士・同実践指導者、アスレチックトレーナー、レクリエーション・コーディネーター、NSCA-CPT、CSCS、JPSUスポーツトレーナー
教科書	スポーツバイオメカニクス(宮西編著, 化学同人) スポーツバイオメカニクス完全準拠ワークブック(宮西著, 化学同人)			参考書	スポーツバイオメカニクス20講(阿江・藤井著, 朝倉書店) スポーツ技術のバイオメカニクス(J.Hay著, BookHouse HD)	
オフィスアワー	木曜日5時限(16:00-17:30)			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ指導の基礎(含実習)				担当教員	阿部 肇/武石健哉
	Fundamentals of Sports Coaching					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	JOCコーチングディレクターの実務経験を有する
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>スポーツ指導者の実際的な機能と役割は多岐に渡り、選手の競技力向上を目的とした助言や介助的行為のみならず、スポーツ組織におけるマネジメント的側面での責務も大きい。本講義では、指導者の機能と役割とは何かに始まり、トレーニング構成の諸原則、ならびに種々のマネジメント的側面からみた組織論について学習する。</p>						i、ii
授業の一般目標						
<p>スポーツ指導におけるコーチ(指導者)の実際的な職務を知り、求められる能力を理解できるようになる。そして、実践の場における指導上の様々な具体的な方法論を身に付ける。そこには、組織運営上のマネジメント側面やトレーニング計画を立案、実行する選手育成の内容も含まれる。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	コーチの役割と、その実務における具体的な方法論を説明できる。				
■	情意的領域	指導に関する理論的な思考を持つことができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
<p>本講義では、先ず指導者の実際的な機能と役割とは何かについて、トレーニングや試合場面での選手への助言や介助的行為といった狭義なものから、スポーツ組織におけるマネジメントといったより広義な側面まで概説する。その後、指導者として選手に提供するトレーニング内容をいかに構成(デザイン)していくべきかについて、より詳細に講義を進める。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] 講義ガイダンス(阿部) [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること</p>			⑨	<p>[テーマ] トレーニング課題と手段、方法の関係(阿部) [内容] JOCコーチングディレクターの経験を活かしてトレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>	
②	<p>[テーマ] スポーツ(競技)集団の構造と指導者(武石) [内容] 競技集団にはどのような構造があり、そこでの指導者の関わりを説明する [授業外学修]資料を基に予習しておくこと</p>			⑩	<p>[テーマ] トレーニング構成の一般原理(阿部) [内容] トレーニング計画を立案する際の一般原理を説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>	
③	<p>[テーマ] 発達過程におけるコーチ・選手関係の変化(武石) [内容] 選手の発達に伴うコーチと選手の関係のあり方を説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>			⑪	<p>[テーマ] トレーニング構成の基本単位(阿部) [内容] トレーニングを構成する、課業、ミクロ、メゾ、マクロの基本単位を説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>	
④	<p>[テーマ] 指導者の機能と役割(武石) [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>			⑫	<p>[テーマ] トレーニング構成の計画立案(阿部) [内容] トレーニング構成の具体的な計画の立案について説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>	
⑤	<p>[テーマ] 組織における6つの基本構造ブロックと相互の関係(武石) [内容] 競技組織(集団)における基本的な構造と、組織の構造変化に伴う目標や理念による諸引力の存在を説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>			⑬	<p>[テーマ] トレーニング構成の実際①(ミクロ周期)(阿部) [内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>	
⑥	<p>[テーマ] 組織の基本類型とライフサイクル・モデル(阿部) [内容] 様々なタイプの組織の基本的な類型と、それらの構造が諸引力(目標、理念)に導かれ変化する様子を説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>			⑭	<p>[テーマ] トレーニング構成の実際②(メゾ周期)(阿部) [内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>	
⑦	<p>[テーマ] 女性アスリートの三主徴について①(阿部) [内容] 女性アスリートはなぜ三主徴(エネルギー不足、無月経、骨粗鬆症)を予防しなければならないのか説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>			⑮	<p>[テーマ] トレーニング構成の実際③(マクロ周期)(阿部) [内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>	
⑧	<p>[テーマ] 女性アスリートの三主徴について②(阿部) [内容] 三主徴(エネルギー不足・貧血、無月経、骨粗鬆症)予防のための指導を説明する [授業外学修]資料を基に復習しておくこと</p>			⑯	<p>[テーマ] テスト(阿部) [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるテストを行う [授業外学修]テストに備えて復習しておくこと</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポートを課す(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。</p>						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 私語、遅刻等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。</p>
定期試験		◎			80%	
授業内レポート			◎		20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	無し				関連資格	
教科書	無し(プリント資料を配布する)				参考書	
オフィスアワー	火曜 10:00-12:30				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツマスメディア概論				担当教員	佐々木鉄男
	Introduction to Sports and Mass Media(L.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	放送局での実務経験を活かし、実践的な講義を行う
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業は[メディアとは何か]から始め、マスメディアの歴史と現状や問題点を整理しながらマスメディアがリリースするスポーツニュースやスポーツ番組について実務経験を活かしながら体系的に講義を行う。また、国内、ヨーロッパ、アメリカなどのスポーツニュースの特徴についても比較する。						i、iv、v
授業の一般目標						
マスメディアの特性と歴史や現状について知ることでこれまでと違った視点から新聞やテレビなどを見ることができるようになる。また、マスメディアから洪水のように流れてくるスポーツに関する情報を批判的に読み解く力を身に付ける。試験については解説しながら返却する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	マスメディアの歴史や現状について説明できる。国内外のスポーツニュースの特徴や問題点を指摘できる。				
■	情意的領域	新聞のスポーツ記事やテレビのスポーツニュースや番組を客観的に読んだり見る事ができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること				⑨	[テーマ] 日本のスポーツニュースを考える① [内容] スポーツニュースはスポーツマンニュースであること、スポーツマンには社会的役割を担われていることを新聞記事を使いながら説明する [授業外学修]前日までの新聞で面白いと思ったスポーツ記事を発表する
②	[テーマ] メディアとは？ [内容] メディアとは何か？について説明する [授業外学修]「メディア」という言葉の意味を発表できるようにしておく				⑩	[テーマ] 日本のスポーツニュースを考える② [内容] なぜ女子選手は不当とも言える扱いを受けるのかについて新聞記事を使って説明する [授業外学修]プロ野球に関するスポーツ記事の特徴を整理しておく
③	[テーマ] 情報とは何か？ [内容] 「情報」という言葉の歴史について説明、インフォメーションとインテリジェンスの違いを考える [授業外学修]「情報とは何か？」について整理しておく				⑪	[テーマ] 日本のスポーツニュースを考える③ [内容] 日本人メジャーリーガーに関する報道の特徴について新聞記事を使って説明する [授業外学修]女子選手に関する報道について整理しておく
④	[テーマ] 戦争とラジオ [内容] 太平洋戦争をマスメディアがどう伝えたかをラジオを中心に放送番組を試聴しながら解説する [授業外学修]戦争をマスメディアがどう伝えたかを整理しておく				⑫	[テーマ] アメリカのスポーツニュース [内容] 「ロールモデル」という役割を担われるアスリートについて説明する [授業外学修]自分が興味を持っているアメリカ人アスリートについて発表する
⑤	[テーマ] マスメディアとスポーツイベント① [内容] マスメディアと高校野球の関係について説明する [授業外学修]マスメディアと高校野球の歴史について復習しておく				⑬	[テーマ] イギリスのスポーツニュース [内容] 特徴のジンゴイズム的な戦争からむ表現をタブロイド紙に掲載された記事を使って説明する [授業外学修]プレミアリーグについて調べてきて発表する
⑥	[テーマ] マスメディアとスポーツイベント② [内容] 欧米の場合はどうなっているかを説明する [授業外学修]欧米のスポーツイベントとマスメディアの関係について復習しておく				⑭	[テーマ] ワールドカップサッカーでつくられた「日本人」① [内容] W杯サッカー南アフリカ大会の日本のスポーツ報道を検証しながらマスメディアが何を語ろうとしたかを考える [授業外学修]W杯サッカーの印象的だった試合と報道を発表する
⑦	[テーマ] ジャーナリズムを取り巻く環境 [内容] 劣化してきた世論調査の問題点とタブロイド化する新聞について考える [授業外学修]世論調査の問題点を整理しておく				⑮	[テーマ] ワールドカップサッカーでつくられた「日本人」② [内容] ワールドカップドイツ大会などのこれまでの報道について様々な角度から検証しながら日本のメディアの問題点を考える [授業外学修]これまでのW杯について日本チームを中心に整理しておく
⑧	[テーマ] マスメディアの現在 [内容] マスメディアの冷笑主義と議題設定機能について説明する [授業外学修]冷笑主義と議題設定機能について整理しておく				⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学修]テストに備えて復習をすること
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内レポート(評価割合10%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
定期試験		◎	◎		70%	
授業内レポート		◎			20%	
授業外レポート		◎	◎		10%	
演習・実技						
授業態度			○			
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書	特になし				参考書	特になし
オフィスアワー	佐々木鉄男研究室E棟2階 月曜日 12:40～14:10				その他	tt-sasaki@sndai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報マスメディア総論 Introduction to Sport Intelligence and Mass Media				担当教員	石丸/日下/佐々木/佐藤修/栗木/藤本/坪井/溝上
	学年・学期	1・半期	授業方法	講義		
開講内容	履修の方法	必修	単位数	2	実務経験の有無	日本代表を支える情報戦略活動の実務経験を有する 新聞社、放送局等、現場メディアでの実務経験を有する
	授業の概要					
個人情報から社会・組織の情報まで情報は様々な形で存在している。情報がどんな意味を持つかを理解し、情報を扱い・学ぶ基礎を確認する。その上で情報戦略活動の実務経験や、現場メディアでの実務経験を活かした講義を行い、スポーツ情報戦略における情報とは何か、メディアが伝える情報とは何かを考え収集手法・表現手法の問題点を理解する。						i、ii
授業の一般目標						
スポーツ情報マスメディア学科で学ぶ入り口と位置付ける科目である。この学科で学ぶにあたり、まず知っておく情報とは何か、情報と個人、情報と組織、それら情報への向き合い方や情報の扱いと守らねばならないこと学び、さらに情報の意味する世界・価値に気づく基礎とする。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	情報とは何かを知り、その扱いの問題を理解する。そして、向き合った状況の情報を知り、その情報が意味するところを理解し活用への考えを持てるようにする				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
情報を概観的に眺め、情報の価値と扱いの問題点を知った後、情報戦略における情報概論に当たる基礎を学ぶ。また多量の情報を伝えるメディアの実例を紹介し、情報を扱う際の問題について理解を深める。(情報戦略のパートとメディアのパートは講義時期が入れ替わることがある)						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全員) [内容] スポーツ情報マスメディア学科ポリシー説明と情報とは何か、情報の歴史 人間と情報 社会と情報 情報の価値を説く [授業外学修]				⑨	[テーマ] スポーツ情報の定義(溝上) [内容] 担当教員のグループ対談から、それぞれの立ち位置から見える景色を通してスポーツ情報を見る [授業外学修]「情報」に関する自分自身のイメージを明確にしておく
②	[テーマ] 情報とメディアの影響力(日下) [内容] 情報発信におけるメディアの役割と影響力を知る [授業外学修] 情報発信とメディアの関係について考察しておく				⑩	[テーマ] 情報戦略とは何か(坪井) [内容] 情報戦略とは「そう言うことね!」と感じられるようワークショップ(ゲーム)で理解 [授業外学修]「情報戦略」のこぼのイメージを自分理に構築して授業に臨む
③	[テーマ] メディアが伝える情報と歴史(日下) [内容] 人々が求め、時代が求め、社会が求めた情報の歴史 [授業外学修] メディアの種類や変遷と社会との関連性について考える				⑪	[テーマ] 情報戦略の歴史(藤本) [内容] 勝田論文を用い情報戦略の理解を深める [授業外学修]「情報戦略」とスポーツの関連性について考える
④	[テーマ] 情報を集める① メディアの暴走から学ぶもの(佐藤修) [内容] オウム事件報道から学ぶもの [授業外学修]「オウム事件」に関する報道を検索する				⑫	[テーマ] 情報戦略の活動領域(栗木) [内容] ○競技スポーツ現場における情報戦略○地域スポーツにおける情報戦略 ○組織/政策における情報戦略の概要理解 [授業外学修]「情報戦略」とスポーツの関連性を前時の事例を踏まえて考える
⑤	[テーマ] 情報を集める②メディアが直面する問題(佐藤修) [内容] 個人情報、メディアスクラムと報道 [授業外学修] 情報倫理について考える				⑬	[テーマ] 戦略/計画策定と情報(栗木) [内容] ○PDCAサイクルと情報 ○フレームワークと情報 [授業外学修] 自分自身の経験をもとにスポーツ情報戦略について考える
⑥	[テーマ] 情報を表現する 情報を番組にする時の問題(佐藤修) [内容] 発掘あるある大辞典 NHKドキュメンタリーやらせ問題とテレビ [授業外学修] 具体的なテレビ番組と情報表現について事例を収集する				⑭	[テーマ] 意志決定者と情報(石丸) [内容] ○インフォメーションとインテリジェンス ○組織体制と情報 [授業外学修] 情報の入手から発信までの機能について考えておく
⑦	[テーマ] メディアが伝える表象の形(佐々木) [内容] 伝える内容と社会的、政治的背景の問題 [授業外学修] メディアと社会の関連性を広範に考える				⑮	[テーマ] 情報の戦略的活用(石丸) [内容] 戦略的オペレーションの方法、媒体、タイミングを学ぶ [授業外学修] 前時の講義内容を踏まえ情報戦略の活用事例を探す
⑧	[テーマ] 新しいメディアの普及と情報(佐々木) [内容] 新しいメディアが伝える内容と意味するもの [授業外学修] 自分の周りにある情報ツールをもう一度捉え直す				⑯	[テーマ] スポーツ情報マスメディア総論テスト(全員) [内容] まとめのテスト(論述形式予定)を行う [授業外学修] 試験に対する準備をする
成績評価方法(方針)						
4年間で学ぶ入口の講義であることを理解し、学科で学ぶ全体像を理解出来たかを問う 提出されたレポートは授業内で返却し、解説する 試験については授業内で返却し、解説する						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 4年間に学ぶ基礎になる講義である。わからないことはその場で質問し次の課題に取り組む姿勢を忘れず授業に臨んで欲しい。 2/3以上の出席ない者は期末試験の受験資格が無い 授業態度悪い学生は成績評価から減点 シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある
定期試験		◎			60%	
授業内レポート		○			20%	
授業外レポート		○			20%	
演習・実技						
授業態度		◎				
出席		○			欠格条件	
関連科目	4年間に学科で学ぶ全ての科目				関連資格	
教科書	必要に応じて指定する				参考書	必要に応じて指定する
オフィスアワー	石丸研究室(E棟2階) 水曜日 10:20-11:50				その他	石丸:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ観戦論 Knowledge of Spectator Sports				担当教員	坪井/石丸/キーンアト/鈴木省/南條/吉井/黒澤/武石/桑原/佐藤周/柴山/鈴木良/渡邊泰/佐々木鉄/山田	
	開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法			講義
履修の方法		必修	単位数	2		DPとの関連性(表紙裏参照)	
授業の概要							i、ii、iii
スポーツ情報を「情報戦略」として競技団体や競技者に伝えるにも、「メディア」を通して多くの人に伝えるにもスポーツ競技に見方が判らなければ行えない。競技を知るにはいくつか重要な見方とポイントがある。競技の結果を知ればよいということではなく、どこに注目すると競技の本質・面白さが理解できるかを知る科目である。							
授業の一般目標							
各競技専門の先生方の講義を通じ、①ルールから各競技の「面白さ」「楽しさ」②競技の奥深い特徴③勝敗を分けるポイント④選手が実力通りの動きをしているか⑤駆け引きの面白さ⑥専門家は試合の何処を見ているかなどを知ることでスポーツの見方や分析の手がかりを学ぶ。							
授業の到達目標							
■	認知的領域	各競技の本質をルールを通して知り、競技観戦のポイントを確認する。					
■	情意的領域	競技の専門的知識と面白さを知り、それを伝える能力を有する。					
■	技能表現的領域	スポーツ観戦の現状とテレビの問題、世界と日本の観戦の違いまでも解説できる能力を有する。					
授業計画(全体)							
各競技日本のトップ指導者が自身の経験や知見を映像などを用いて解説し見方を解き明かす。また、スポーツ観戦の現状とテレビの問題、世界と日本のスポーツ観戦の違いも講義で明らかにする。担当する教員はトップレベルのチームを率いていることもあり、スケジュール調整は綿密み行うが、開催に日時の入れ替えの可能性もある。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の狙い、進め方、成績評価方法を伝える。またスポーツ観戦についての基礎を学び、自己のスポーツに対する視点を確認する。 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと。				⑨	[テーマ] ラグビー [内容] ラグビー競技の観戦ポイント [授業外学修] ラグビーのルールを確認しておくこと	
②	[テーマ] 野球① [内容] 野球における基本的なルールの確認を行い、野球の基礎知識を身に付ける。 [授業外学修] 野球のルールを確認しておくこと				⑩	[テーマ] ハンドボール [内容] ハンドボール競技の観戦ポイント [授業外学修] ハンドボールのルールを確認しておくこと	
③	[テーマ] 野球② [内容] 野球をより専門的な知識を身に付け、野球の本質を知る。 [授業外学修] 野球を各媒体を用いて観ておくこと。				⑪	[テーマ] テニス [内容] テニス競技の観戦ポイント [授業外学修] テニスのルールを確認しておくこと	
④	[テーマ] バレーボール [内容] バレーボールのルール・戦術・チームづくりから見る観戦の魅力とは [授業外学修] バレーボールのルールを確認しておくこと				⑫	[テーマ] 陸上競技 [内容] 陸上競技の観戦ポイント [授業外学修] 陸上競技の種目、見所を考えておくこと	
⑤	[テーマ] 海外のスポーツ観戦とメディアの伝え方 [内容] 国際的視点でスポーツ観戦を論じ、多くの価値観を共有する。 [授業外学修] 日本と海外のスポーツ文化の違いについて考えておくこと				⑬	[テーマ] 体操 [内容] 体操競技の観戦ポイント [授業外学修] 体操競技のルールを確認しておくこと	
⑥	[テーマ] スケルトン [内容] スケルトンの基礎知識と競技観戦のポイント。 [授業外学修] スケルトンのルールを確認しておくこと				⑭	[テーマ] 水泳 [内容] 水泳競技の観戦ポイント [授業外学修] 水泳のルールを確認しておくこと	
⑦	[テーマ] 柔道 [内容] 柔道競技の観戦ポイント。 [授業外学修] 柔道のルールを確認しておくこと				⑮	[テーマ] 日本のスポーツ観戦の現状とメディアの伝え方 [内容] スポーツ観戦やスポーツ結果の多くがテレビ [授業外学修] スポーツとメディアの関わりについて考えておくこと	
⑧	[テーマ] サッカー [内容] サッカー競技の観戦ポイント。 [授業外学修] サッカーのルールを確認しておくこと				⑯	[テーマ] まとめテスト [内容] トップレベルの指導者から見た競技のポイント。スポーツ観戦の視点を問う。 [授業外学修] 各講義について要点をまとめておく	
成績評価方法(方針)							
まとめテストを実施し60点以上を合格候補とする。出席は評価に加えず欠格条件とする。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。 20分以上の遅刻は欠格とみなす。 授業計画は、各講師の日程調整により前後することがある。 授業態度に問題がある場合は成績評価から減点する。 	
定期試験		◎	○	○	90%		
授業内レポート		—	—	—	—		
授業外レポート		—	—	—	—		
演習・実技		—	—	—	—		
授業態度		○	○	—	10%		
出席		—	—	—	欠格条件		
関連科目	スポーツ情報戦略概論				関連資格		
教科書	必要に応じて指示する。				参考書	必要に応じて指示する。	
オフィスアワー	坪井:火曜3コマ				その他	坪井:A棟4階	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		映像基礎(演習) Basic Editing Analysis for Imagery Intelligences			担当教員	藤本晋也
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	日本代表サポートチームや競技団体での情報戦略(映像)活動の実務経験を有する
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
ビデオカメラや映像編集機器といったIT関連機器の普及は、スポーツ活動現場においても顕著であり、コーチングやプロモーションなど、さまざまな場面で欠かせないものとなっている。この状況に伴い、撮影を専門的にこなすスタッフのニーズも高まってきている。本演習では、実務経験を活かしてスポーツ情報を効果的に伝えるために必要な「映像の基礎と撮影の観点や方法」について演習形式で授業を展開する。						i、ii、iii
授業の一般目標						
基本的なスポーツ情報の種類やその特性を学ぶとともにスポーツ情報に対する現場のニーズを把握する。その上で状況に応じた適切なスポーツ情報を効果的に伝えることができるようになるために、映像の基礎と撮影の観点や方法を体系的かつ実践的に学ぶことで、現場のニーズに対応できる情報アプローチの観点とスキルを身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。				
■	情意的領域	映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。				
■	技能表現的領域	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につける。				
授業計画(全体)						
日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略活動などトップスポーツ現場による実務経験を活かし、情報を効果的に伝える観点から講義(演習)を行う。各授業は資料および視聴覚教材を用いた講義を行なう。またスポーツ活動現場のニーズを踏まえた実践的な方法論を学ぶため、各競技団体/チームの事例や現場を活用し、グループワークや実習も行なう。学生は各授業毎に、授業の理解度及び達成度を明らかにするためのフィードバックを小レポート形式で提出する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修] 授業時に連絡			⑨	[テーマ] 映像活用の実際② <競技現場編> [内容] ミーティング場面における映像の果たす役割と事例 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
②	[テーマ] スポーツにおける映像の果たす役割 [内容] スポーツ現場で求められる「映像」とはなにか。なぜそれが求められているのかを考える。 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑩	[テーマ] 映像活用の実際③ <競技現場編> [内容] 情報戦略活動における映像の果たす役割と事例 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
③	[テーマ] 映像の基礎① [内容] 映像の種類と特性について学ぶ。 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑪	[テーマ] 映像活用の実際④ <組織活動編> [内容] JOC、JISS会議における映像の果たす役割と事例 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
④	[テーマ] 映像の基礎② [内容] 映像素材収集(撮影)の観点と方法について学ぶ。 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑫	[テーマ] 映像活用の実際⑤ <組織活動編> [内容] 組織的情報後方支援活動における映像の果たす役割と事例 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
⑤	[テーマ] 映像の基礎③ [内容] 映像撮影機器種類と特性について学ぶ [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑬	[テーマ] グループ演習① <収集・分析> [内容] グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析を行なう。 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
⑥	[テーマ] 映像の基礎④ [内容] 映像分析・編集機器の種類と特性について学ぶ。 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑭	[テーマ] グループ演習② <編集> [内容] 収集・分析した映像を編集する。 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
⑦	[テーマ] 映像の基礎⑤ [内容] 映像素材の管理と利活用について学ぶ。 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑮	[テーマ] グループ演習③ <アウトプット> [内容] 編集した映像について指定する観点に基づきドキュメンテーション(文書化)するとともに、その内容をプレゼンテーションする。 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
⑧	[テーマ] 映像活用の実際① <競技現場編> [内容] コーチングにおける映像の果たす役割と事例 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑯	[テーマ] まとめ・振り返り [内容] 最終課題の映像とコンセプトシート等を基に振り返りを実施しまとめを行う。 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1)レポート(50%)、2)最終ドキュメンテーション(30%)、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3)プレゼンテーション(20%)を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。提出されたレポート等の内容について、授業内で解説しフィードバックする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件) ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進捗により変更することがある。 ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。 ・作成した映像データが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。
定期試験		—	—	—	—	
授業内レポート		◎	○	○	30%	
授業外レポート		◎	○	○	30%	
演習・実技		○	◎	◎	20%	
授業態度		○	○	○	20%	
出席		—	—	—	欠格条件	
関連科目	映像実践論、スポーツ情報戦略論実習Ⅰ、スポーツ情報戦略論実習Ⅱ				関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	参考書授業で紹介、または参考資料を配布
オフィスアワー	月10:20～11:50				その他	藤本研究室 F棟2階

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	文章基礎(演習)			担当教員	日下三男・佐藤修・佐々木鉄男
	Basic writing Skills				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	新聞社、放送局で実務経験あり
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
メディアでの実務経験を生かして、記事の書き方を含め文章作成の基礎能力養成を中心に指導する。異なる媒体や文体によって情報がどのように伝えられているのかなどを説明し、文章作成の基礎練習を繰り返してもらう。					i、iv、v
授業の一般目標					
記事作成の基本原則である5W1Hと逆三角形の書き方をしっかりと身につけるようになる。各授業のテーマごとに記事の作成練習をし、論文などの書き方の違いを理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	記事の書き方の基本、ほかの文体との違いを理解できるようになる。				
■ 情意的領域	客観性、中立性など取材と記事作成の原則を理解できるようになる。				
■ 技能表現的領域	簡潔な文章と記事が書けるようになる。				
授業計画(全体)					
新聞、ニュース報道、雑誌、フォトジャーナルなどを用いて講義を行う。各授業ごとに記事一本を授業内レポートとして提出させることで、進捗状況を確認する。また、教室外での単独取材と写真撮影の作業も行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、レポート提出や成績評価の仕方を説明する [授業外学修] シラバスを読んでおく			⑨	[テーマ] プレゼンテーション② [内容] 編集した写真のプレゼンテーションを行う [授業外学修] プレゼンテーションの準備をする
②	[テーマ] 記事の基本技法 [内容] 5W1Hの意味と重要性を説明し、記事作成の練習を行う [授業外学修] 新聞記事を読み、書き方を復習をする			⑩	[テーマ] インタビューの練習 [内容] インタビューの要素とは何かを説明し、学生同士が互いにインタビューの練習を行う [授業外学修] インタビュー取材の手法を復習する
③	[テーマ] 記事作成の技法① [内容] 自分を「第3人称」で紹介する短文の作成練習を行う。自分の性格や特徴、10年後の姿などをどう伝えればよいかをじっくり考え、文字で表現する [授業外学修] 人物紹介記事の書き方を復習する			⑪	[テーマ] インタビュー記事を書く [内容] インタビューした際にとったメモや音声資料をもとに記事作成の練習を行う [授業外学修] 取材メモや音声資料を整理する
④	[テーマ] 記事作成の技法② [内容] 前回作成した文章を見直し、再度作成の練習を行い、発表する [授業外学修] 人物紹介記事の書き方を復習する			⑫	[テーマ] 新聞記事(期末レポート作成)① [内容] 学内外のイベントを取材し、写真3枚と記事2本で原稿を構成する。その前段として取材対象の調査と発表を行う [授業外学修] 記事の書き方、写真編集について復習する
⑤	[テーマ] 写真を撮る練習① [内容] 写真という媒体を通して、自分の意図がどこまで伝えられるのかを中心に講義する。学生による写真撮影の練習を行う [授業外学修] 写真撮影の技法を復習する			⑬	[テーマ] 新聞記事(期末レポート作成)② [内容] 取材したイベントの記事化し、撮影した写真を選択する [授業外学修] 記事の本記とサイド記事の違いを調べる
⑥	[テーマ] 写真を撮る練習② [内容] 「職業」をテーマに5枚の写真撮影練習を行う [授業外学修] 撮影した写真の構成を考える			⑭	[テーマ] プレゼンテーション① [内容] 新聞記事(レポート)を完成させ、発表する [授業外学修] プレゼンテーションの準備をする
⑦	[テーマ] 写真を編集する練習 [内容] 撮ってきた写真の中から複数枚を選び、ストーリーに沿って編集作業を行う [授業外学修] 写真撮影と編集の技法を復習する			⑮	[テーマ] プレゼンテーション② [内容] 完成させた記事を発表する [授業外学修] 発表時の指摘点に注意し、レポートを修正する
⑧	[テーマ] プレゼンテーション① [内容] 編集した写真のプレゼンテーションを行う [授業外学修] プレゼンテーションの準備をする			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] [授業外学修] 補足取材を行い、記事を完成させる
成績評価方法(方針)					
授業内レポート(50%)、授業外レポート(50%)。第11回の授業までは毎回、新聞コラムの筆写と要約か、自分が選んだ新聞の一押し記事についての課題提出があり、いずれも提出の翌週に評価コメントを付記して返却する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		○	○	○	50%
授業外レポート		○	○	○	50%
演習・実技					
授業態度					評価対象外
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	特に指定しない				参考書
オフィスアワー	日下=水曜10:20~11:50				その他
					新聞の一般紙を中心に、関連資料を配布する

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	データ分析・活用演習 I				担当教員	栗木一博
	Seminar of Data Processing and Analysis I (S.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	-
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
データの一義的な解釈に留まらず、その潜在的な構造に言及する方法について解説する。データの種類、データの分析ツールの使用方法に関する知識、データを有効に表現する方法やプレゼンテーションの方法について説明する。スポーツに関する様々なデータを素材として、その分析手法の基礎について解説する。						i、ii、iii
授業の一般目標						
データには様々な種類があり、それぞれに対して有効の分析方法を選択する必要があることを理解する。データを分析するためのツールとして、コンピュータのソフトウェアの使用法の初歩について理解する。データを提示するための有効な方法として、グラフや表の作成方法、さらにプレゼンテーションの方法について理解する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	データの種類、記述統計について理解する。				
■	情意的領域	与えられた生データを自分なりに考えて処理することができるようになる。				
■	技能表現的領域	データ処理のためのコンピュータソフトウェアの操作ができる。処理したデータを用いて効果的なプレゼンテーションができる。				
授業計画(全体)						
各テーマに沿った実際のデータを用い、それを処理する形式で授業が進められる。各授業ごとにレポートという形式で成果物を提出したり、プレゼンテーションを行なう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方。 [授業外学修] シラバスを熟読すること				⑨	[テーマ] クロス集計 [内容] クロス集計について説明し、カテゴリデータの分析方法について解説する。 [授業外学修] カテゴリデータの意味を調べておく。
②	[テーマ] 表計算ソフトウェアの基本操作1 [内容] 基本的なデータ処理のために必要な表計算ソフトの操作方法の基礎説明。特に、文字や計算式の入力方法について解説。 [授業外学修] 表計算ソフトウェアとはどのようなものか調べておく。				⑩	[テーマ] 度数分布 [内容] 度数分布表の作成とヒストグラムの作成方法について解説する。 [授業外学修] 度数分布で表現するデータについて調べておく。
③	[テーマ] 表計算ソフトウェアの基本操作2 [内容] 表計算ソフトウェアによる番地指定による計算方法と関数の使用方法について解説する。 [授業外学修] 前回の授業を復習し、基本的な操作ができるようにしておく。				⑪	[テーマ] プレゼンテーションの方法1 [内容] プレゼンテーションに必要なソフトウェアの基本的な操作について解説する。 [授業外学修] プレゼンテーション用ソフトがどのようなものか調べておく。
④	[テーマ] 表計算ソフトウェアの基本操作3 [内容] 絶対番地と相対番地の考え方、関数の組み合わせによるすこし複雑な計算の方法や分析ツールの使用方法について解説する。 [授業外学修] 前回の授業を復習し、関数操作ができるようにしておく。				⑫	[テーマ] プレゼンテーションの方法2 [内容] プレゼンテーションに必要となるデータの表現方法について解説。表やグラフを用いて適切にデータ表現する方法について解説。 [授業外学修] 身の回りにどのような表やグラフがあるか調べておく。
⑤	[テーマ] データの種類 [内容] Stevensの尺度をはじめとして、データの分類方法について解説し、その処理方法の違いについて説明する。 [授業外学修] 自分の身の回りにある「データ」を集めておく。				⑬	[テーマ] プレゼンテーションの方法3 [内容] 実際に存在するデータを加工し、プレゼンテーションすることを体験させる。 [授業外学修] プレゼンテーション用ソフトウェアの操作に精通しておく。
⑥	[テーマ] 記述統計量(合計、平均) [内容] 記述統計量の基礎である、合計、平均について説明。また、表計算ソフトウェアでこれらの統計量を算出する方法について解説。 [授業外学修] 回りにある合計や平均で表現されているデータを集めておく。				⑭	[テーマ] ドキュメンテーションの方法1 [内容] データ処理の方法、結果から導き出されることなどを文書として表現する方法について解説する。 [授業外学修] 文書作成に必要なことについて説明できるようにしておく。
⑦	[テーマ] 記述統計量(標準偏差、分散) [内容] 記述統計量の中の散らばりの度合いを示す尺度について説明。表計算ソフトウェアでこれらの統計量を算出する方法について解説。 [授業外学修] 回りにある散らばり度合いを示すデータを集めておく。				⑮	[テーマ] ドキュメンテーションの方法2 [内容] 実際のデータを用い、それを加工し、前回の授業で学んだことを応用して、文書作成を体験させる。 [授業外学修] 前回の解説をまとめておく。
⑧	[テーマ] 二変量の分析 [内容] 相関関係について解説し、表計算ソフトウェアを用いて相関係数を算出する方法について解説する。 [授業外学修] 自分の身の回りにある二変量の関係による分析例を集めておく。				⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの授業の理解度、目標への到達度を確認するためのテストを行なう。 [授業外学修] テストの準備をしておくこと
成績評価方法(方針)						
評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1)レポート(50%)、2)最終課題分析レポート(30%)、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3)プレゼンテーション(20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。提出されたレポートは授業内で解説を行い返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない場合は期末試験を欠席したと同様の扱いをする(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席と同様の扱いをする。 ・授業計画は授業の進度により若干前後することがある。 ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。 ・作成したデータが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。
定期試験					50%	
授業内レポート		○	○	○	30%	
授業外レポート		○	○	○	20%	
演習・実技		○	○	○		
授業態度						
出席						欠格条件
関連科目	データ分析活用演習 II				関連資格	
教科書	特に指定しない 必要に応じて資料を配布する				参考書	特に指定しない 必要に応じて授業中に紹介する
オフィスアワー	前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		ヒューマンリレーション演習Ⅰ Seminar of Human Relation I			担当教員	藤本晋也/坪井俊樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略活動及びプロスポーツでの実務経験を有する
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>情報を取り扱う際に必須となることは人と関わり合うことであり、そこで重視されるのが円滑な人間関係を構築するための能力である。そこで本授業では実務経験を活かしコミュニケーションの基礎となる、「聴く」、「話す」、「みる」といった基本的な活動を学習内容の中心に据えている。これらの活動を用いて、プレゼンテーションを行ったり、ミーティングを運営したりする能力を身につけることを目的とし演習形式で授業を展開する。</p>						iii、iv、v
授業の一般目標						
<p>「話す」、「聴く」といった基本的なコミュニケーションスキルを身につける。さらに、効果的に情報を伝達する話し方やその際に必要となる機材を有効に活用する方法を身につける。さらに、ミーティングや会議を効率的に実施するための方策についても身につける。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	コミュニケーションスキルの基礎、プレゼンテーションの方法を理解する。				
■	情意的領域	人と積極的にかかわる態度を身につけるとともに自分の意見を表現したり、相手の話を傾聴する態度を身につける。				
■	技能表現的領域	プレゼンテーションなど自分の主張を効果的に伝えるスキルを身につけるとともにそれらに必要な機器の使用方法を身につける。				
授業計画(全体)						
<p>日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略活動及びプロスポーツなどのトップスポーツによる実務経験を活かし、コミュニケーションスキルの観点から演習を行う。ワークショップやグループワークを通じてコミュニケーションの基礎となる「はなす」「きく」「みる」といった能力を身につける。次に具体的なテーマに沿ってプレゼンテーションを行ったり、ミーティングの方法や運営のシミュレーションを実施する。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] オリエンテーション (藤本・坪井) [内容] 本演習のコンセプトをシラバスを用いて解説するとともに、評価方法や授業の進め方についても解説する。 [授業外学修] シラバスを熟読すること</p>			⑨	<p>[テーマ] プレゼンテーション③ (坪井) [内容] プレゼンテーションを効果的に行なうために必要とされる機器の有効な活用方法について解説する。 [授業外学修] プレゼンテーションに必要な道具について考えておく</p>	
②	<p>[テーマ] コミュニケーションとは何か (藤本) [内容] コミュニケーションを構成する「みる」「きく」「はなす」などの要素について解説する。 [授業外学修] コミュニケーションとは何かを考えておく</p>			⑩	<p>[テーマ] プレゼンテーション④ (坪井) [内容] 実際に短時間のプレゼンテーションを行いまとめとする。この活動を相互に評価することも活動に含める。 [授業外学修] まとめたプレゼンテーションの準備をする</p>	
③	<p>[テーマ] ワークショップ① (藤本) [内容] 「人前で話す」ことをテーマとしたワークショップを実施する。話す際に自己モニタリングをさせる。 [授業外学修] ワークショップとは何かについて調べておく</p>			⑪	<p>[テーマ] ミーティング・会議① (藤本) [内容] 会議やミーティングがどのような目的で行われるのかについて説明し、それを円滑に行なうための要素について解説する。 [授業外学修] ミーティングの事例について説明できるようにする</p>	
④	<p>[テーマ] ワークショップ② (藤本) [内容] 「人や人の行動を“みる”」ことをテーマとしたワークショップを実施する。前回学んだことを応用して話すことにも挑戦する。 [授業外学修] 前回行った「人前で話す」ことを復習する</p>			⑫	<p>[テーマ] ミーティング・会議② (藤本) [内容] 会議やミーティングの中心的な要素となるディスカッションの方法について解説する。 [授業外学修] 経験した会議やミーティングについて説明できるようにする</p>	
⑤	<p>[テーマ] グループワーク① (坪井) [内容] グループで課題を解決する活動を体験し、その際のような発言があり、それが自分にどのように影響したかをモニタリングする。 [授業外学修] グループ活動で必要なことについて考えておく</p>			⑬	<p>[テーマ] ミーティング・会議の運営① (藤本・坪井) [内容] 自由なテーマを設定して、ミーティングや会議のシミュレーションを行なう。今回はその計画を立案する。 [授業外学修] ミーティング・会議のテーマを考えておく</p>	
⑥	<p>[テーマ] グループワーク② (坪井) [内容] グループで課題を解決するタイプのゲームを実施する。その後、グループの活動をまとめ発表させる。 [授業外学修] グループ活動のモニタリングについて考えておく</p>			⑭	<p>[テーマ] ミーティング・会議の運営② (藤本・坪井) [内容] 前回計画したテーマに沿って、教員の指示を仰ぎ、シミュレーションをより具体的なものにし、計画案を文書に表現する。 [授業外学修] 計画案を具体的なものにする準備をする</p>	
⑦	<p>[テーマ] プレゼンテーション① (藤本) [内容] グループ活動を行い、それに関する自由なプレゼンテーションを行わせる。テーマを把握する能力が必要であることを解説する。 [授業外学修] プレゼンテーションについて調べておく</p>			⑮	<p>[テーマ] ミーティング・会議の運営③ (藤本・坪井) [内容] まとめとして、実際にミーティングや会議のシミュレーションを実施する。それに関する相互評価を実施する。 [授業外学修] 計画を実行するために準備を行なう。</p>	
⑧	<p>[テーマ] プレゼンテーション② (藤本) [内容] グループあるいは個人での活動とし自由なテーマでプレゼンテーションを企画する。教員に個別に指導を仰ぎ計画を具体化させる。 [授業外学修] プレゼンテーションのテーマを決めておく</p>			⑯	<p>[テーマ] [内容] [授業外学修]</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>成績はディベート、シンポジウムなど実際に行われた活動に対する評価(60%)を実施する。さらに、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価(40%)を行なう。出席は、評価に加えず欠格条件とする。提出されたレポートは授業内で返却し、解説する。</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進度により多少前後することがあります。 ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。
定期試験		—	—	—	—	
授業内レポート		◎	○	○	15%	
授業外レポート		◎	○	○	15%	
演習・実技		◎	○	◎	60%	
授業態度		○	○	○	10%	
出席		—	—	—	欠格条件	
関連科目	ヒューマンリレーション演習Ⅱ				関連資格	
教科書	特に指定しない(必要な資料がある場合はその都度授業中に配布する)				参考書	特に指定しない(必要な資料がある場合はその都度授業中に配布する)
オフィスアワー	藤本:月2コマ/坪井:火3コマ				その他	藤本:F棟2階/坪井:A棟4階

《実技》

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	トレーニングの基礎 Fundamentals of Training				担当教員	門野・渡邊泰／黒澤・柴山／山梨・溝口／宮崎・武石／坪井・川戸	
	開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法			実技
	履修の方法	必修	単位数	1			
授業の概要							DPとの関連性(表紙裏参照)
競技スポーツにおいて、体力は競技成績(パフォーマンス)を決定づける要因の一つである。本授業では、効果的に体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論および方法について、実技と講義を交えて説明する。また、体力の測定方法、評価方法についても説明する。							iv、v
授業の一般目標							
①体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と方法を理解する。 ②体力の測定方法と評価方法を理解する。							
授業の到達目標							
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と方法が説明できる。 体力の測定・評価方法が説明できる。					
<input type="checkbox"/>	情意的領域						
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	体力を向上させるためのトレーニングが実践できる。 体力の測定・評価ができる。					
授業計画(全体)							
体力要素を、①筋力、②スピード・敏捷性、③パワー、④持久力、⑤柔軟性、⑥調整力のカテゴリに分け、それぞれのカテゴリごとにその体力要素を向上させるためのトレーニングの理論と方法、体力の測定・評価方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス(門野) [内容] 授業計画について説明する。 [授業外学修] テキストを読んで予習する。				⑨	[テーマ] パワーを向上させるためのトレーニング理論と方法(宮崎・武石) [内容] ハイパワーを向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修] レポートを作成する。	
②	[テーマ] 形態計測とその評価(門野) [内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。 測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修]				⑩	[テーマ] 持久力の測定と評価(門野・渡邊泰) [内容] 持久力を測定し、評価する。 持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んで復習する。	
③	[テーマ] 新体力テストの実施とその評価(門野) [内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んで復習する。				⑪	[テーマ] 持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法(門野・渡邊泰) [内容] 持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修] レポートを作成する。	
④	[テーマ] 筋力の測定と評価(坪井・川戸) [内容] 筋力を測定し、評価する。 筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んで復習する。				⑫	[テーマ] 柔軟性の測定と評価(山梨・溝口) [内容] 柔軟性を測定し、評価する。 柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んで復習する。	
⑤	[テーマ] 筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法(坪井・川戸) [内容] 筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修] レポートを作成する。				⑬	[テーマ] 柔軟性を向上させるためのトレーニング理論と方法(山梨・溝口) [内容] 柔軟性を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修] レポートを作成する。	
⑥	[テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価(黒澤・柴山) [内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。 スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んで復習する。				⑭	[テーマ] 調整力の測定と評価(山梨・溝口) [内容] 調整力を測定し、評価する。 調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んで復習する。	
⑦	[テーマ] スピードを向上させるためのトレーニング理論と方法(黒澤・柴山) [内容] スピードと敏捷性を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修] レポートを作成する。				⑮	[テーマ] 調整力を向上させるためのトレーニング理論と方法(山梨・溝口) [内容] 調整力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。 [授業外学修] レポートを作成する。	
⑧	[テーマ] パワーの測定と評価(宮崎・武石) [内容] ハイパワーを測定し、評価する。 ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。 [授業外学修] テキストを読んで復習する。				⑯	[テーマ] まとめ(門野) [内容] 授業のまとめを行なう。 [授業外学修] テキストを読んで復習する。	
成績評価方法(方針)							
・①出席、②授業外レポートによって評価を行なう。 ・テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。提出されたレポートはコメントして返却する。 ・授業態度も評価に含む。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・体調をしっかりと整えて授業に臨むこと。 ・大学指定ウェアと、ランニングシューズを着用すること。	
定期試験					評価対象外		
授業内レポート					評価対象外		
授業外レポート		◎			50%		
演習・実技				◎	50%		
授業態度			○		減点対象		
出席			◎		欠格条件		
関連科目					関連資格	中高保体教諭、レクリエーション指導者、JPSUスポーツトレーナー	
教科書	ガイダンスにて配布するテキストを使用する。				参考書		
オフィスアワー	門野(A408)月曜10:00-11:00				その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	陸上競技 Track and Field			担当教員	門野洋介・柴山一仁・宮崎利勝・名取英二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	実務経験の有無 教員、指導者として教育、指導経験あり
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して教授する。					iv、v
授業の一般目標					
陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。 自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を理解できる。			
■	情意的領域	自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。			
■	技能表現的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。			
授業計画(全体)					
グループに分かれ、競走種目(短距離走、リレー、ハードル走)、跳躍種目(走高跳、走幅跳)、投てき種目(砲丸投)を複数回に分けて実施していく。最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス(門野) [内容] 授業計画について説明する。 [授業外学修]授業計画について復習しておく			⑨	[テーマ] 走高跳②(門野) [内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 [授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく
②	[テーマ] 短距離走①(名取) [内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。 [授業外学修]短距離走のルールについて学習しておく			⑩	[テーマ] 走高跳③(門野) [内容] 競技会形式で記録を測る。 [授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく
③	[テーマ] 短距離走②(名取) [内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。 [授業外学修]リレーのルールについて学習しておく			⑪	[テーマ] 砲丸投①(宮崎) [内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。 [授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく
④	[テーマ] 短距離走③(名取) [内容] レースを行ない、記録を計測する。 [授業外学修]長距離走のルールについて学習しておく			⑫	[テーマ] 砲丸投②(宮崎) [内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。 [授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく
⑤	[テーマ] ハードル走①(柴山) [内容] ハードリングの技能について学習する。 [授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく			⑬	[テーマ] 砲丸投③(宮崎) [内容] 競技会形式で記録を測る。 [授業外学修]投てき競技のルールについて学習しておく
⑥	[テーマ] ハードル走②(柴山) [内容] インターバルの走り方について学習する。 [授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく			⑭	[テーマ] 実技試験①(名取・柴山) [内容] 走(短距離走、ハードル)の記録を測定する。 [授業外学修]実技試験の振り返りをしていく
⑦	[テーマ] ハードル走③(柴山) [内容] レースを行ない、記録を計測する。 [授業外学修]ハードル走のルールについて学習しておく			⑮	[テーマ] 実技試験②(門野) [内容] 跳(走高跳)の記録を測定する。 [授業外学修]実技試験の振り返りをしていく
⑧	[テーマ] 走高跳①(門野) [内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。 [授業外学修]跳躍競技のルールについて学習しておく			⑯	[テーマ] 実技試験③(宮崎) [内容] 投(砲丸投)の記録を測定する。 [授業外学修]実技試験の振り返りをしていく
成績評価方法(方針)					
<ul style="list-style-type: none"> ①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。 授業態度も評価に含む。 記録、実技試験についてはフィードバックを行う。 					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技	○	○	◎		100%
授業態度		○			減点対象
出席		◎			欠格条件
関連科目					関連資格
教科書					参考書
オフィスアワー	門野(A408)月曜10:00-11:00				その他
					中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、JPSUスポーツトレーナー

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	器械運動(男子) Apparatus Gymnastics (Men)			担当教員	鈴木 良太	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幫助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。					i、ii、iii、iv	
授業の一般目標						
オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。				
■	情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。				
■	技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。				
授業計画(全体)						
テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑨	[テーマ] 鉄棒③ [内容] 前振り及びおりの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基本知識と基礎技術の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑩	[テーマ] 鉄棒④ [内容] け上がり、前回り、後回り、前振り及びおりを連結させ連続技に発展させる [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑪	[テーマ] 鉄棒⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑬	[テーマ] とび箱② [内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑭	[テーマ] とび箱③ [内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
⑦	[テーマ] 鉄棒① [内容] 逆上がり、前回り、後回りの基本知識・基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
⑧	[テーマ] 鉄棒② [内容] け上がりの基礎知識と基礎技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
成績評価方法(方針)						
実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。 ・服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためは必ず。 ・遅刻は原則認めない。
定期試験					評価対象外	
授業内レポート					評価対象外	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技				◎	100%	
授業態度					減点対象	
出席					欠格条件	
関連科目				関連資格	中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員	
教科書	特に指定しない			参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)	
オフィスアワー	火曜日10:20~11:50			その他	研究室:A棟4階412	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	器械運動(女子) Apparatus Gymnastics (Women)			担当教員	鈴木 良太	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本実技は、マット運動、平均台、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幫助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。					i、ii、iii、iv	
授業の一般目標						
オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。					
■ 情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。					
■ 技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。					
授業計画(全体)						
テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑨	[テーマ] 平均台③ [内容] 開始技・終末儀の基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基本知識と基礎技術の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑩	[テーマ] 平均台④ [内容] 得した技を連結させ連続技に発展させる [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑪	[テーマ] 平均台⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑬	[テーマ] とび箱② [内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑭	[テーマ] とび箱③ [内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
⑦	[テーマ] 平均台① [内容] 歩行系・ターン系の基本知識・基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
⑧	[テーマ] 平均台② [内容] 平均台上での前転・ジャンプ系の基礎技能の習得 [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。			⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト [授業外学修] 専門用語や情報について調べて、授業への理解を深めること。	
成績評価方法(方針)						
実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。また、提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。 ・服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためは必ずずす。 ・遅刻は原則認めない。
定期試験					評価対象外	
授業内レポート					評価対象外	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技				◎	100%	
授業態度					減点対象	
出席					欠格条件	
関連科目				関連資格	中高保体教諭、ジュニアスポーツ指導員	
教科書	特に指定しない			参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)	
オフィスアワー	火曜日10:20~11:50			その他	研究室:A棟4階412	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	水 泳 Swimming (P. A.)			担当教員	渡邊 泰典
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点(安全管理に関する内容を含む)について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。					v
授業の一般目標					
体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けができるようになる。水泳動作のメカニズムと指導法を理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。				
■ 情意的領域	水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。				
■ 技能表現的領域	泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。				
授業計画(全体)					
最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここで一旦泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業は、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者には泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読すること。			⑨	[テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】 [内容] 100m個人メドレー(50Br+50Fr)の泳法検定を行う。合格者は指導員となり指導体験に移行する。不合格者はノルマ練習を行う。 [授業外学修] 検定結果を踏まえて各自の課題について復習すること。
②	[テーマ] 水泳指導法【講義】 [内容] 「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。 [授業外学修] 水泳指導の心得について復習すること。			⑩	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】 [内容] 指導員は、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に従い課題に応じて練習を行い泳力向上を目指す。 [授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復習すること。
③	[テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】 [内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。 [授業外学修] 水中安全管理と安全対策について復習すること。			⑪	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。 [授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復習すること。
④	[テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】 [内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れの方法を説明する。加えて、クロール及び平泳ぎの泳能力調査を実施する。 [授業外学修] 入水、水慣れの方法について復習すること。			⑫	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。 [授業外学修] クロールと平泳ぎの泳法習得の方法について復習すること。
⑤	[テーマ] 浮き身・立泳ぎ(巻足)泳法の原理紹介、体験【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。 [授業外学修] 浮き身と立ち泳ぎについて復習すること。			⑬	[テーマ] 水泳・水中運動①【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際について、水中ウォーキング等を例に挙げながら解説する。 [授業外学修] 水中運動の種類と実施上の注意点について復習すること。
⑥	[テーマ] クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、両泳法の原理、泳げない原因を解説する。加えてその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。 [授業外学修] クロールと背泳ぎの泳法の違いについて復習すること。			⑭	[テーマ] 水泳・水中運動②【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際について、アクアビクス等を例に挙げながら解説する。 [授業外学修] 水中運動の種類と実施上の注意点について復習すること。
⑦	[テーマ] 平泳ぎ・バタフライ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。 [授業外学修] 平泳ぎとバタフライの泳法の違いについて復習すること。			⑮	[テーマ] 水泳・水中運動③【講義】 [内容] 水中運動指導に関わる知識(健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる)、水の原理、水泳の特性、効果等を解説する。 [授業外学修] 水の特性について復習すること。
⑧	[テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】 [内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。 [授業外学修] クロールと平泳ぎの初心者指導法について復習すること。			⑯	[テーマ] 水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】 [内容] 水中における運動指導法とトレーニングについて解説すると共に、水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー(50Br+50Fr)の泳法検定を行う。 [授業外学修] 検定結果について復習すること。
成績評価方法(方針)					
実技は、100m(50m平泳ぎ+50mクロール)完泳が最低合格ラインで(可)評価、これに立泳ぎ1分間か背泳ぎ・バタフライ25m完泳で(良)評価となる。更に指導体験を2回以上実施した者が(優)評価となる。(秀)評価は前述の全種目で高得点者に与えられる。理論に関わる講義は必ず出席。欠席の場合、レポート課題が課せられ、怠った場合は(不可)評価となる。提出レポートは授業内で解説しながら返却する。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技		◎		◎	80%
授業態度			○		20%
出席					欠格条件
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ①教職志望者は受講すること。 ②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。 ③海浜実習の受講希望者が望ましい。 ④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。					
関連科目	海浜実習、水上安全法(含実習)、種目別コーチング演習Ⅰ(水泳)、種目別コーチング演習Ⅱ(水泳)、スポーツコーチング実習(渡邊泰典クラス)			関連資格	日本スポーツ協会公認水泳コーチ1、日本スポーツ協会公認水泳コーチ3、健康運動指導士、健康運動実践指導者
教科書	なし			参考書	なし
オフィスアワー	火曜日12:00~13:00(LC棟2階207研究室)			その他	連絡先: ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	バレーボール Volleyball (P.A.)			担当教員	石丸出穂・片岡悠妃
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	高校での教員経験、Vリーグコーチの実務経験を有する バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
高校での教員経験の実務経験を活かし、6人制バレーボールの基本的な運動技能(特にゲーム展開を広げるパス、サーブ、スパイク)の向上に重点を置き、前半はバレーボールの練習法、指導法を紹介する。後半では、グループ活動でチームプレーの重要性を認識させ、仲間とのつながりを促し、ゲームを通してバレーボールの戦術紹介、ルール・審判法を説明する。					i、iii
授業の一般目標					
バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク(少なくともジャンプなしでの打球の仕方)を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。				
■ 情意的領域	仲間との‘繋がり’が、プレーの‘繋がり’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。				
■ 技能表現的領域	バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。				
授業計画(全体)					
前半は、バレーボールの基本的な運動技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球)の向上に重点を置くため、2〜3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘繋がり’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読しておく			⑨	[テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック [内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う [授業外学修]パスからスパイク動作を復習しておく
②	[テーマ] オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術 [内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う [授業外学修]高校まで授業で教わったオーバーハンドパスを復習しておく			⑩	[テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術 [内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する [授業外学修]W型レセプションフォーメーションを確認する
③	[テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術 [内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う [授業外学修]高校まで授業で教わったアンダーハンドパスを復習しておく			⑪	[テーマ] ゲームへの展開④ [内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う [授業外学修]パスがセッターに返球できなかった際の攻撃方法を考える
④	[テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術 [内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う [授業外学修]3人組でのパス練習について調査しておく			⑫	[テーマ] ゲームへの展開⑤ [内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う [授業外学修]セッター、サイド、ミドル、リベロの役割を調査しておく
⑤	[テーマ] スパイクの基本技術 [内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う [授業外学修]スパイクについて調査しておく			⑬	[テーマ] ゲームへの展開⑥ [内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則(アウトオブ・ポジション)を意識したゲームを行う [授業外学修]アウトオブ・ポジションについて調査しておく
⑥	[テーマ] スパイクの応用技術 [内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う [授業外学修]スパイクの3ステップについて練習しておく			⑭	[テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う [授業外学修]直上バック(オーバーハンド)パスの練習をしておく
⑦	[テーマ] バレーボールの歴史とルール [内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う [授業外学修]コーチングバレーボール基礎編、等の参考書を読んでおく			⑮	[テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う [授業外学修]直上バック(アンダーハンド)パスの練習をしておく
⑧	[テーマ] ゲームへの展開① [内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う [授業外学修]サーブからスタートするゲームの流れやルールを理解しておく			⑯	[テーマ] [内容] 期末テストは行わない [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(30%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(40%)、技術向上度(30%)、を総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合、成績評価対象外とする。チェックテストについては授業内でフィードバックを行う。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート				◎	40%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技		◎		○	30%
授業態度			◎		30%
出席					欠格条件
関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール)			関連資格	ジュニアスポーツ指導員、教員免許状(中高保体) JPSUスポーツトレーナー
教科書	特に指定しない			参考書	Volleypediaバレーボール百科事典、バレークロニクル、 コーチングバレーボール基礎編
オフィスアワー	石丸研究室(E棟2階) 水曜日 10:20-11:50			その他	石丸:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	テニス Tennis (P.A.)			担当教員	佐藤周平
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	実務経験の有無 国立競技場体育指導員(テニス)の経験有
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
テニスの基本技術を修得しながら、テニスの面白さや奥の深さを体験し、理解を深めていく。ボールを打つという動作において共通して必要とされる能力を考え、実践していく。					iv、v
授業の一般目標					
滞りの無い試合の実践。スポーツのもつ背景などを理解し、基本技術の修得だけではなく、広く、歴史や審判方法、試合の運営等についても理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	ショットの基本原則・歴史・ルール・審判方法等の理解				
■ 情意的領域	実習に積極的に参加できる。誰とでも協力し、積極的にコミュニケーションをとることができる。				
■ 技能表現的領域	基本技術の修得とゲームでの実践				
授業計画(全体)					
テニスの競技性の理解を深めることで、ボールを打つことに対する理解を高める。テニスの基本技術の修得から、応用技術の修得へと発展していき、ゲームを中心とした授業を展開していく。また、習得状況により、進度も変わってくる場合がある。悪天候時には教室で、歴史・ルール等を学習する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、成績評価と履修上の諸注意、テニスの基本技術について解説 [授業外学修]テニスの試合を動画にて観戦し、動作のイメージを作ってくる			⑨	[テーマ] テニスの基礎知識その1 [内容] テニスのルールと運用 主審、副審の体験 [授業外学修]ルールをまとめる。審判の方法を事前に調べてくる
②	[テーマ] 基本技術その1 (ミニテニス) [内容] ワンバウンドでボールを打ち合う(グラウンドストローク) ダイレクトでボールを打ち合う(ボレー&ボレー) [授業外学修]力の調整や回転について、コツを考えてくる			⑩	[テーマ] テニスの基礎知識その2 [内容] テニスの歴史 講義の実施 [授業外学修]テニスの歴史についてまとめる
③	[テーマ] 基本技術その2 グラウンドストローク [内容] ミニテニスより距離を長くして、グラウンドストローク(フォアハンド) [授業外学修]ボールを飛ばす角度について事前に調べてくる			⑪	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解その1 オンコートにて解説と練習 [授業外学修]ポジションにより変化する役割についてまとめる
④	[テーマ] 基本技術その3 サービス [内容] サービスの基本を学ぶ [授業外学修]肩の動き方について事前に調べてくる			⑫	[テーマ] ダブルス [内容] 基本戦術の理解その2 オンコートにて解説と練習 [授業外学修]攻撃のパターンをまとめる
⑤	[テーマ] 基本技術その4 ボレー [内容] ボレーの基本を学ぶ [授業外学修]握り方と打ち方を事前に調べてくる			⑬	[テーマ] シングルス [内容] 基本戦術の理解その3 オンコートにて解説と練習 [授業外学修]リカバリーのポジショニングについてまとめる
⑥	[テーマ] 基本技術その5 スマッシュ [内容] スマッシュの基本を学ぶ [授業外学修]サーブとの違いを事前に調べてくる			⑭	[テーマ] シングルス [内容] 基本戦術の理解その4 オンコートにて解説と練習 [授業外学修]ANDについて調べてくる
⑦	[テーマ] 基本技術その6 サービス&リターン [内容] サービス&リターンの基本を学ぶ [授業外学修]リターンでやるべきことを事前に調べてくる			⑮	[テーマ] 実技テスト [内容] 基本技術の習得度をテストする オンコートにて解説と練習 [授業外学修]それぞれの技術を復習してくる
⑧	[テーマ] 基本技術その7 アプローチショット [内容] 攻めや守りの、展開となる動きを学ぶ [授業外学修]ポジションの変更によって変化する打ち方をまとめる			⑯	[テーマ] テニスの基本知識のテスト [内容] テニスの基礎知識の理解度をテストする [授業外学修]ルール、歴史、専門用語について予習してくる
成績評価方法(方針)					
授業参加度、実技テスト、筆記テストの結果を総合して評価する。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					10%
授業内レポート	◎				10%
授業外レポート					10%
演習・実技				◎	30%
授業態度		◎			40%
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書					参考書
オフィスアワー	前 木10:20-11:50 後 金14:20-15:50				その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		バドミントン Badminton(P. A.)		担当教員	林 直樹/菊地 直子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	林:(公財)日本バドミントン協会 医事トレーニング管理部・分析スタッフの経験を有する。 菊地:高等学校教員の経験を有する。
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
生涯スポーツとして最も適した種目の一つであるバドミントンは、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、中学・高校の体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について解説する。実務経験を活かして、分析的視点から主体的対話的で深い学びについて指導する。					v
授業の一般目標					
バドミントンについて歴史や道具・安全配慮について理解し、技術の習得をする。最終的には、バドミントンの一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	打法とフライング、バドミントン一連の技術指導や試合の運営の方法を身につける。			
■	情意的領域	授業内の規律について理解して行動することができる。			
■	技能表現的領域	基本的な打法について、実際に修得している。			
授業計画(全体)					
バドミントンについて、基本的な知識を獲得しつつ、前半はスキル獲得に重点を置く。後半は、獲得したスキルを使ってのゲームや、ゲームの運営ができるように実際のゲーム運営を学生同士で行いながらすすめる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法の確認を行う。 [授業外学修]シラバスを熟読する。			⑨	[テーマ] 競技としてのバドミントンを知る [内容] 視聴覚教材を使って、バドミントン競技についてイメージの喚起を行う。 [授業外学修]基本的なルールについて、資料p.13、14を熟読する。
②	[テーマ]バドミントンを知る [内容] バドミントンについて、歴史や道具などについて解説する。 [授業外学修]歴史、道具について、資料p.1、2、12を熟読する。			⑩	[テーマ] ゲームの方法 シングルス① [内容] シングルの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。 [授業外学修]シングルのルールについてまとめる。
③	[テーマ] 基本的技術の習得1 アンダーハンドストローク(UHS) [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、訓練を行う。 [授業外学修]UHSの解剖学的機序、運動学的機序を整理する。			⑪	[テーマ] ゲームの方法 シングルス② [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。 [授業外学修]シングルの戦術についてまとめる。
④	[テーマ] 基本的技術の習得2 オーバーヘッドストローク(OHS) [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。 [授業外学修]OHSの解剖学的機序、運動学的機序を整理する。			⑫	[テーマ] ゲームの方法 ダブルス① [内容] ダブルスのフォーメーションについて解説し、訓練を行う。 [授業外学修]トップ&バックとサイドバイサイドについて理解する。
⑤	[テーマ] 基本的技術の習得3 サービスとその他の返球 [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。 [授業外学修]ネット型球技におけるサービスについてまとめる。			⑬	[テーマ] ゲームの方法 ダブルス② [内容] ダブルスの試合運営(ルール)について解説し、受講生同士で試合を行えるよう指導する。 [授業外学修]ダブルスのルールについてまとめる。
⑥	[テーマ] 基本的技術の習得4 スマッシュ、クリア等のストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。 [授業外学修]シャトルとラケットのコンタクト技術について整理する。			⑭	[テーマ] ゲームの方法 ダブルス③ [内容] 正規のルールによる審判法を解説し、受講生間で試合の進行ができるよう指導する。 [授業外学修]ダブルスの戦術についてまとめる。
⑦	[テーマ] 基本的技術の習得5 ドロップ、ドライブ等のストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。 [授業外学修]ストローク前後のムーブについて、資料p.11を熟読する。			⑮	[テーマ] 実技の確認テスト [内容] 基本的スキルをマスターしているか実技テストを行う。 [授業外学修]指導法について整理する。
⑧	[テーマ] 基本的技術の習得6 プッシュ、レシーブ等のストローク [内容] 初心者指導の視点から、道具の扱い方、指導の仕方を中心に基本的な技術について説明した後、習得させる。 [授業外学修]トラベリング技術について整理する。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記によるテストを行う。 [授業外学修]指導の理論について整理する。
成績評価方法(方針)					
定期試験は、実技テスト、筆記テストをそれぞれ1回実施する(評価割合30%)。日々の演習についてまとめた授業内レポートの提出を課す(評価割合20%)。毎回の実技についても評価する(評価割合50%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。試験は授業内で返却し、解説する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			30%
授業内レポート		◎	◎	◎	20%
授業外レポート					
演習・実技				◎	50%
授業態度			◎		欠格条件
出席					欠格条件
関連科目				関連資格	中高保健体育教諭・ジュニアスポーツ指導員
教科書	必要に応じて資料を配布する。			参考書	バドミントンの指導理論1(日本バドミントン指導者連盟) バドミントンの理論と実技(岸一弘,大学教育出版)
オフィスアワー	F棟2階213(林直樹研究室) 火曜日10:20~11:50			その他	no-hayashi@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	卓球 Table Tennis			担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	卓球講習会の講師を務めるなど実務経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
基本技術から戦術等に至るまで、実践ゲームでも応用できる技術を習得させる、よりイメージを掴みやすくさせるために、実際に模範演技を見せながら解説する。また、技術レベル、習得状況等の個人差を配慮したうえで指導する。また、技術習得のみならず、公認卓球指導者による実務経験を活かし、指導者の観点から授業を行う。					iii
授業の一般目標					
1. 卓球のルール、用具を知る。2. ボールの打ち感覚、動きを身に付ける。 3. ラリーを続けるようになる。4. ボールの回転を理解でき、いろいろなサーブを出せることと、相手のレシーブに対応ができる。 5. 卓球の一連の基本技術を指導できるようになる。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	卓球競技について理解し、ルール、競技構造を知る。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	基本的技術を習得する。			
授業計画(全体)					
卓球競技の各基本技術を習得してから、実践で活用できるシングルスとダブルスのゲームに展開していく。技能習得のレベルに応じてクラス分けて行う場合もある。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、用具の説明等 [授業外学修]シラバスを熟読する。			⑨	[テーマ] 実践② [内容] フォアハンド強打, シングルスゲーム [授業外学修]フォアハンド強打について理解する。
②	[テーマ] 基本の技術の習得① [内容] 卓球の歴史, 各打法の紹介, ラケットの握り方, ゲーム [授業外学修]卓球歴史について学習する。			⑩	[テーマ] 実践③ [内容] バックハンド強打, ダブルスゲームの手法の紹介 [授業外学修]バックハンド強打について理解する。
③	[テーマ] 基本の技術の習得② [内容] 打球時の基本姿勢, フォアハンド, ゲーム [授業外学修]フォアハンドについて理解する。			⑪	[テーマ] 実践④ [内容] カット打法, ダブルスゲーム [授業外学修]カットの戦型について理解する。
④	[テーマ] 基本の技術の習得③ [内容] バックハンド, バックショート, 裏面打法, ゲーム [授業外学修]バックハンドについて理解する。			⑫	[テーマ] 実践⑤ [内容] シングルスとダブルスの基本戦術の紹介, 応用練習 [授業外学修]シングルスおよびダブルスの戦術について理解する。
⑤	[テーマ] 基本の技術の習得④ [内容] フットワーク, 前後左右への動き, ゲーム [授業外学修]フットワークの動きを練習する。			⑬	[テーマ] 実践⑥ [内容] リーグ戦 [授業外学修]試合について反省する。
⑥	[テーマ] 基本の技術の習得⑤ [内容] サーブ, レシーブ, ゲーム [授業外学修]下回転について理解する。			⑭	[テーマ] 復習 [内容] 各種技術の復習, 上達度合の確認。 [授業外学修]テスト内容を復習する。
⑦	[テーマ] 基本の技術の習得⑥ [内容] ツッツキ, 各種サーブとそのレシーブの紹介, ゲーム [授業外学修]様々な回転について理解する。			⑮	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト [授業外学修]テスト内容を復習する。
⑧	[テーマ] 実践① [内容] ルールの説明, シングルスゲームの手法の紹介, ゲーム [授業外学修]ルールについて理解する。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 実技テスト [授業外学修]授業の振り返り
成績評価方法(方針)					
実技試験(評価割合70%)、実技実施状況(評価割合15%)、授業態度(評価割合15%)、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、全体の2/3以下の場合成績評価対象外とする。本授業の到達目標、授業運営、成績評価基準に関する補足説明。試験については(授業内で)解説をしながら返却する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	60%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技		◎		○	30%
授業態度			○		10%
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	特に指定しない				参考書
オフィスアワー	馬研究室 第5体育館2階 火曜日10:20~11:50				その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	バスケットボール Basketball			担当教員	山田恵子	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	大学・高専での教員経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本授業は、高校での教員経験を活かし、バスケットボールの専門的な競技特性について説明しながら実技を行う。競技特性を瞬時の攻防の切り替え(トランディション)と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び、専門分野への応用と人間的成長の礎とする。					i、iii、iv	
授業の一般目標						
バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	バスケットボール競技に関する基礎的な知識と技術を理解し、説明できる。					
■ 情意的領域	バスケットボール競技の構造特性を理解し、仲間と連携を取りながら、ゲームに楽しく参加できる。					
■ 技能表現的領域	バスケットボール競技の基本的なスキルを習得し、初心者レベルや一般体育で、師範することができる。					
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連携プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 1、競技の歴史説明 2、競技特性と攻防の概略説明 [授業外学修] 軽度の運動を行い、身体的コンディションを整える			⑨	[テーマ] トランディション1(攻防一体) [内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担 [授業外学修] zone defenseの特性を調べておく	
②	[テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内のシュート 2、制限区域外のシュート 3、3点シュート 4、ピボットとドライブの方法 5、パスの方法 [授業外学修] シュートの種類についてポイントを整理しておく			⑩	[テーマ] トランディション2(攻防一体) [内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担 [授業外学修] 速攻の方法を整理しておく	
③	[テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内の防御 2、制限区域外の防御 3、ピボットやドライブに対する防御 [授業外学修] ディフェンスの種類についてポイントを整理しておく			⑪	[テーマ] 試合形式による展開1 [内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合 2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合 [授業外学修] トランディションのポイントを整えておく	
④	[テーマ] 集団スキルの攻防(1) [内容] 1、1on1の攻防 2、2on1の攻防 3、3on2の攻防 4、3on3の攻防 [授業外学修] コンビネーションプレイについてまとめておく			⑫	[テーマ] 試合形式による展開2 [内容] 1、審判法と記録方法 2、戦術を含む展開方法 3、戦術的総合試合 [授業外学修] 審判の役割について調べておく	
⑤	[テーマ] 集団スキルの攻防(2) [内容] 1、4on3の攻防 2、4on4の攻防 [授業外学修] スクリーンプレイのコンビネーションプレイをまとめておく			⑬	[テーマ] 試合形式による展開3 [内容] 1、コーチの立場からの戦術(タイムアウト) 2、残時間と点差による戦術の展開 3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法 [授業外学修] チーム戦術について調べておく	
⑥	[テーマ] ポジション毎の攻防 [内容] 1、ガードポジションの攻防 2、フォワードポジションの攻防 3、センターポジションの攻防 [授業外学修] ポジションの役割を調べておく			⑭	[テーマ] 試合形式による展開4 [内容] 10分試合による総合的な展開とベンチワーク [授業外学修] チーム戦術と個人の役割について整理しておく	
⑦	[テーマ] 集団スキルの攻防(3) [内容] 1、3on3(G,F,Cポジションから)の攻防 2、4on4(2G,F,Cから)の攻防 [授業外学修] コートのスペーシングについてまとめておく			⑮	[テーマ] 試合形式による展開5 [内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営 [授業外学修] チーム戦術と個人の役割について整理しておく	
⑧	[テーマ] 集団スキルの攻防(4) [内容] 1、5on4(zone defense) 2、5on5(man to man defense) 3、5on5(zone defense) [授業外学修] zone defenseとman to man defenseの理解をしておく			⑯	[テーマ] テスト [内容] 1、基本技術(ドリブル、シュート)のスキルテスト 2、競技特性の理解度と習熟度 [授業外学修] バスケットボールの総合的な技術の整理をしておく	
成績評価方法(方針)						
個人のスキルテストの結果と試合を行った際のチームの勝敗、またバスケットボールのルールの理解度も含め総合して成績評価を行う。授業内での協力的な貢献度や授業態度についても、成績評価の判断の材料とする。尚、個人のスキルテストについては、評価の基準を授業内で説明する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業における服装は指定されている運動着とする。 ・食事や睡眠等の体調管理につとめ、良好な状態で受講すること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技		◎	○	◎	70%	
授業態度		○	◎		30%	
出席		◎	○		欠格条件	
関連科目				関連資格	教員免許状(中高保体) UPSUSポータルトレーナー	
教科書				参考書		
オフィスアワー	木曜日 10:20-12:00			その他	研究室:第5体育館 25	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ハンドボール Handball(P.A.)			担当教員	桑原 康平	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業は、ハンドボールの基本的な技術・戦術の実技を身に付けることを中心に展開する。また、教員の実務経験を活かして、学校で授業を行う上での留意点や、ハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについて講義する。						i、iv
授業の一般目標						
ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を習得する。 実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	ハンドボールの基本的な技術・戦術について説明できる。					
■ 情意的領域	ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。					
■ 技能表現的領域	ハンドボールの個人技術(主にシュートとフェイント)と個人戦術(主にシュートとフェイント)を習得する。					
授業計画(全体)						
ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーションおよびハンドボールの特性1 [内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け [授業外学修]オリエンテーション資料を読んでおくこと			⑨	[テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能1、防御局面に必要な個人的技能2 [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]数的有利な状況について理解すること	
②	[テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能1 [内容] 集団行動(整列の仕方)、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明 [授業外学修]シュートの種類を整理しておくこと			⑩	[テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能2 [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス・スクリーン) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]数的有利な状況の攻め方について理解すること	
③	[テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能2 [内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]シュートの投げ方の違いを理解すること			⑪	[テーマ] 攻撃局面に必要な集団的技能3 [内容] 数的優位の際の攻撃(パラレル・クロス・スクリーン・スライド) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]数的有利な状況の攻め方を自ら組み立てること	
④	[テーマ] ハンドボールの特性2とレフェリングの実際1 [内容] 競技規則についての説明映像を視聴した後、国内外の試合映像を視聴、戦術・技術・レフェリングについての説明 [授業外学修]ハンドボール競技のルールを整理しておくこと			⑫	[テーマ] 防御局面に必要な集団的技能1、レフェリングの実際2 [内容] リーグ戦において、6-0ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。レフェリングの方法について説明する。 [授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること	
⑤	[テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能3 [内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]ポジション別の役割について整理しておくこと			⑬	[テーマ] 防御局面に必要な集団的技能2、レフェリングの実際3 [内容] リーグ戦において、5-1ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。レフェリングの方法について説明する。 [授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること	
⑥	[テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能4 [内容] フェイントのステップ(片脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]フェイントステップの種類を整理しておくこと			⑭	[テーマ] 防御局面に必要な集団的技能3、スキルの評価とその実際1 [内容] リーグ戦において、3-2-1ディフェンスシステムやその特徴について説明し、実践する。スキル評価の観点について説明する。 [授業外学修]試合やレフェリングについての反省を記録すること	
⑦	[テーマ] 攻撃局面に必要な個人的技能5 [内容] フェイントのステップ(両脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]フェイントステップの効果的な使い方を理解すること			⑮	[テーマ] スキルの評価とその実際2 [内容] 個人スキルの実技テストを行う [授業外学修]得意なフェイントステップを繰り返して練習しておくこと	
⑧	[テーマ] 防御局面に必要な個人的技能1 [内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方 【基本内容(ボールハンドリング、パス・キャッチ、シュート練習)含む】 [授業外学修]フェイントステップを用いた合理的な攻め方を理解すること			⑯	[テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト [内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う [授業外学修]競技全般について理解を深めること	
成績評価方法(方針)						
授業に対する関心・意欲・態度等(50%)。スキルテスト(30%)、筆記テスト(20%)を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。試験については(授業内で)解説をしながら返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 原則、欠席が4回以上になると評価対象外になります。 公式試合、大会参加(練習試合や合宿は不可)による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。 実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない(ケガ、病気等による)ことが予想される者は履修を控えてください。(治療後に履修するようにしてください。)
定期試験					評価対象外	その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。
授業内レポート		○			20%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技				◎	30%	
授業態度			◎		50%	
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	教員免許状(中・高保健体育) JPSUスポーツトレーナー
教科書					参考書	基本が身につくハンドボール練習メニュー200
オフィスアワー	前期(水)12:40-14:10 後期(木)10:20-11:50				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)			担当教員	吉井秀邦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れる。また、高校での教員経験を活かし、授業を実際に行う教員の観点から講義を行う。					i、iii
授業の一般目標					
サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。				
■ 情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。				
■ 技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。				
授業計画(全体)					
日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意 [授業外学修]			⑨	[テーマ] ベネトレーション(突破)①個人 [内容] ドリブルやラン・ウィズ・ザ・ボールによる突破を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーの個人攻撃について事前に調べてくる
②	[テーマ] サッカー競技の特色と最初の技能評価 [内容] サッカー競技の特色を説明。M-T-Mの原則に従いスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価 [授業外学修] サッカーのルールについて事前に調べてくる			⑩	[テーマ] ベネトレーション(突破)②グループ [内容] 3人目の動きやサポート、グループでの突破、オフフェンス戦術を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのグループ攻撃について事前に調べてくる
③	[テーマ] ボールフィーリング① [内容] ボールを運ぶ技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのドリブルについて事前に調べてくる			⑪	[テーマ] ボールを奪う①個人 [内容] 個人でのボール奪取技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーの個人守備について事前に調べてくる
④	[テーマ] ボールフィーリング② [内容] ボールをコントロール(止める)技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのコントロールについて事前に調べてくる			⑫	[テーマ] ボールを奪う②グループ [内容] グループでのボール奪取、ディフェンス戦術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのグループ守備について事前に調べてくる
⑤	[テーマ] パス&コントロール① [内容] 動きながらのパス&コントロールの技術獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのパスについて事前に調べてくる			⑬	[テーマ] スモールサイドゲーム [内容] コートのサイズを変えながら、ミニゲームを行い、 [授業外学修] サッカーの戦術について事前に調べてくる
⑥	[テーマ] パス&コントロール② [内容] サポート・ポジショニングについて学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのポジショニングについて事前に調べてくる			⑭	[テーマ] 審判法 [内容] サッカーの審判法を学ぶ。 [授業外学修] サッカーの審判法について事前に調べてくる
⑦	[テーマ] ボールを失わない [内容] ボールキープの為の手や体の使い方を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーの体の使い方について事前に調べてくる			⑮	[テーマ] ゲーム [内容] 8:8のゲーム。正規ルールで行う。 [授業外学修] サッカーのオフサイドについて事前に調べてくる
⑧	[テーマ] シュート・ヘディング [内容] シュート技術・ヘディング技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] サッカーのヘディングについて事前に調べてくる			⑯	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。 [授業外学修] サッカーについて事前に調べてくる
成績評価方法(方針)					
出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。また、提出されたレポートは解説をしながら返却をする。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎				
演習・実技	◎	○	◎		
授業態度	○	○	○		
出席	◎	◎	◎		欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	特に指定なし				参考書
オフィスアワー	研究室:A棟4F414 木曜日12:40~14:10				その他
					ジュニアスポーツ指導員
					特に指定なし

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)			担当教員	黒澤 尚	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	日本サッカー協会の指導現場での実務経験を有する。
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本授業はサッカーの正しい基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本技術を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを取り入れた授業とする。また、授業内容の充実と指導の徹底のためT&Tにて授業実施する。					i、iii、iv、v	
授業の一般目標						
サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。					
■ 情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。					
■ 技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。					
授業計画(全体)						
日本サッカー協会での指導現場による実務経験を活かして、日本サッカー協会のコーチング法をベースに実技を行う。基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範と言語を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意 [授業外学修] 選択する種目等についてシラバスで確認しておく			⑨	[テーマ] ヘディング [内容] ヘディングの技術構造の説明。ドリル練習、パスゲーム、ヘディングシュート、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] ヘディングの技術構造について確認し、練習しておく	
②	[テーマ] 集団行動と最初の技能評価 [内容] 集団の扱い方の説明。ボールリフティングとスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価 [授業外学修] 授業で説明された技術やルールを確認し、練習しておく			⑩	[テーマ] トラッピング その2(空中にあるボール) [内容] 空中にあるボールのトラッピングの技術構造と使用部位の説明。ドリル練習、トラップ&パス、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] トラッピング その2の技術構造について確認し、練習しておく	
③	[テーマ] インサイドキック [内容] インサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] インサイドキックの技術構造について確認し、練習しておく			⑪	[テーマ] インステップキック その1(空中にあるボール) [内容] インステップキックの技術構造と使用局面の説明。ボールミートとロングキックのドリル練習、サッカーテニスを通じた技能獲得 [授業外学修] インステップキックの技術構造について確認し、練習しておく	
④	[テーマ] アウトサイドキック [内容] アウトサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] アウトサイドキックの技術構造について確認し、練習しておく			⑫	[テーマ] インステップキック その2(ブレースキック) [内容] 地面上にあるボールのインステップキックの技術構造の説明。ドリル練習、シュートスキル、1/4ピッチでのスモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] インステップキックの技術構造について確認し、練習しておく	
⑤	[テーマ] トラッピング その1(グラウンダーボール) [内容] グラウンダーボールのトラッピングの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] トラッピング その1の技術構造について確認し、練習しておく			⑬	[テーマ] ドリブルとシュート・パス [内容] 良いドリブルの解説と練習。ゲームスキルとしてパスやシュートとの組み合わせパターン練習とスモールサイドゲーム [授業外学修] ドリブルとシュート・パスについて練習しておく	
⑥	[テーマ] トウキック、ヒールキック、ソールキック [内容] 3種類のキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] 3種類のキックの技術構造について確認し、練習しておく			⑭	[テーマ] ゲーム [内容] ハーフコートでの8:8のゲーム。ほぼ正規のルールを適用 [授業外学修] ポジションとその役割について調べておく	
⑦	[テーマ] インサイドでのスワープキック(インフロントキック) [内容] インサイドでのスワープキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] スワープキックの技術構造について確認し、練習しておく			⑮	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。 [授業外学修] ゲームで技術を発揮するためのポイントについて調べておく	
⑧	[テーマ] アウトサイドでのスワープキック(アウトフロントキック) [内容] アウトサイドでのスワープキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得 [授業外学修] スワープキックの技術構造について確認し、練習しておく			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
出席3分の2以上、ボールリフティング20回以上、及びサッカーのルールに関する2つのレポート提出を達成できなかった場合、欠格とする。ボールリフティングは、毎週授業時にウォームアップも兼ねてリフティングタイムを設け、小テストに確認するので、達成努力をすること。評価割合の高い技能については、経験者を有利とせず、向上度を評価基準とする。提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・大学指定ウェア着用 ・各自サッカーシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)用意 ・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。 ・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。 ・授業態度は減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート		○	○		20%	
演習・実技		◎	○	○	80%	
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
関連科目	種目別コーチング演習 I II (サッカー)			関連資格		
教科書	特になし			参考書	特になし	
オフィスアワー	研究室:A棟409 オフィスアワー:火曜日14:00~15:00			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ラグビー Rugby(P.A.)			担当教員	武石 健哉	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	
	履修の方法	選択必修	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
判定系種目、陣取りゴール型であるラグビー種目の特徴を説明し、実技を行いながら解説を加えていく。					i、ii、iii	
授業の一般目標						
判定系種目、陣取りゴール型であるラグビー種目の特徴を理解し、課題に対して取り組む。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	陣取りゴール型の特徴を説明できる。				
■	情意的領域	チームの中の自分の役割を理解し、ゲーム形式に参加できる。				
■	技能表現的領域	ゲーム形式にて自身のこれまでの運動経験を活かし、ラグビースキルを操作できる。				
授業計画(全体)						
ラグビーの全体像を説明してから実技に入っていく。人数、グラウンドの広さを調整しつつ毎時間ゲームを行う。最終的にタグラグビー、7人制、15人制のいずれかの形式にてテストのゲームを行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス ラグビーというスポーツ [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法、ラグビーについて説明する [授業外学修]事前にラグビーの歴史・ルールについて調べてくること			⑨	[テーマ] タグラグビー⑤ [内容] モールを使って攻防を行う [授業外学修]事前にラグビーのモールについて調べてくること	
②	[テーマ] 目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる① [内容] スペースを見つける、パススキル・キャッチングスキルの習得 [授業外学修]事前にラグビーのパスとキャッチのポイントを調べてくること			⑩	[テーマ] アタック方法の理解と実践① [内容] アタック方法を提示し実践する。デコイ、クロス、ループといった複数でアタックする方法を練習する。ミニゲームにて達成度を確認する [授業外学修]事前にラグビーの攻撃方法について調べてくること	
③	[テーマ] 目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる② [内容] パスフォームの定着、パスのタイミングの習得 [授業外学修]事前にパスのタイミングについて調べてくること。			⑪	[テーマ] アタック方法の理解と実践② [内容] ラン・パス・密集(モール)を駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する [授業外学修]事前にラグビーの戦術について調べてくること	
④	[テーマ] 目を慣らす、相手をかわす、ラグビーボールに慣れる③ [内容] ストレート、スクリュースの投げ分け [授業外学修]事前にパスの種類と投げ方について調べてくること			⑫	[テーマ] ユニットプレー① [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する [授業外学修]事前にラグビーのFWプレーについて調べてくること	
⑤	[テーマ] タグラグビー① [内容] 防御者がいる状況で攻撃をする。スペースを見つける、相手をかわす、パスをするという1連のスキルをゲームを通して習得していく [授業外学修]事前にタグラグビーのルールについて調べてくること			⑬	[テーマ] ユニットプレー② [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する [授業外学修]事前にラグビーのFWプレーについて調べてくること	
⑥	[テーマ] タグラグビー② [内容] 防御者がいる状況で攻撃をする。タグを取られてから連続的に攻撃を行う [授業外学修]事前にラグビーの連続攻撃について調べてくること			⑭	[テーマ] アタック方法の理解と実践③ [内容] セットプレーからの攻撃、ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する [授業外学修]事前にセットプレーからの攻撃について調べてくること	
⑦	[テーマ] タグラグビー③ [内容] タグラグビーの攻防を行う。防御者は防御形態を考える。攻撃者は防御形態を見て攻撃を考える [授業外学修]事前にラグビーの防御形態について調べてくること			⑮	[テーマ] テストのゲーム [内容] ラグビーのスキル、基本的な考えを理解してゲームが出来るか確認する。ゲーム終了後、チーム内で振り返り、発表し、全員で成果を共有する [授業外学修]事前にラグビーのゲーム構造について調べてくること	
⑧	[テーマ] タグラグビー④ [内容] オフサイドという境界線の存在を理解し、攻防を行う [授業外学修]事前にラグビーのオフサイドについて調べてくること			⑯	[テーマ] まとめ [内容] テストのゲームの振り返りを行う ラグビーの特徴についてまとめて解説する [授業外学修]事前にラグビーの特徴を調べてくること	
成績評価方法(方針)						
授業態度(評価割合30%)、実技実施状況(評価割合40%)、テストのゲーム(評価割合30%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。ただし出席回数2/3以下の場合には成績評価対象外とする。また、特別な理由がない限り、初回から3回連続の欠席者においては、その後の履修を許可しないこととする。試験についてはまとめの授業にて振り返りながら解説する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		○	◎	◎	30%	
授業内レポート					評価対象外	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技		○	◎	◎	40%	
授業態度			◎	○	30%	
出席					欠格条件	
関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ				関連資格	ジュニアスポーツ指導員、JPSUスポーツトレーナー
教科書	指定しない				参考書	指定しない
オフィスアワー	火曜:10:20~11:50				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	柔道 Judo(P. A.)			担当教員	川戸湧也
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業では、柔道の基本動作および对人的応用技術の行い方と指導方法について学ぶ。本授業で取り扱う内容については、担当教員の実務経験を踏まえ、中学校・高等学校学習指導要領に記載されている内容を取り扱うこととする。					i、iv、v
授業の一般目標					
柔道の基本動作と对人的応用技術を十分に行うことができるとともに、各技のポイントについて説明できるようになる。柔道を指導するための指導計画を立案できるようになる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	日本傳講道館柔道の概要(歴史、目的)について理解しており、これを説明することができる。国際柔道連盟試合審判規定を理解しており、これに基づく試合の勝敗を判断することができる。				
■ 情意的領域	仲間と協力して運動課題に取り組むことができる。自分と相手の安全に配慮して活動を行うことができる。仲間と協働して与えられた課題に取り組むことができるとともに、自らの課題について発見しその解決に取り組むことができる。				
■ 技能表現的領域	基本的な投技5種類・固技3種類を施すことができる。中学校・高等学校における保健体育科の授業で柔道を指導するためのポイントについて理解しており、実践することができる。				
授業計画(全体)					
授業は、前半と後半に分ける。前半は、畳の上で素足で運動することになれるところから始めて、基本動作(礼法・姿勢・組み方・進退動作・受身)を学修するとともに基本的な技(膝車・支釣込足・体落・大腰・大外刈・袈裟固・横四方固・上四方固)を学修する。後半は応用的な技(背負投・内股・払腰)を学修する。それぞれの技術について、実技テストを行う。また前半終了時と最終回到講義を行いレポート課題を課す。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要(展開、目標と評価の方法、約束事)の確認とグルーピング [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。		⑨	[テーマ] 応用的な技を学ぶ① [内容] 背負投を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。	
②	[テーマ] 受身を学ぶ [内容] 横受身と後受身を学修する。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。		⑩	[テーマ] 応用的な技を学ぶ② [内容] 内股を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。	
③	[テーマ] 基本的な技を学ぶ① [内容] 膝車を学修する。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。		⑪	[テーマ] 応用的な技を学ぶ③ [内容] 払腰を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。	
④	[テーマ] 基本的な技を学ぶ② [内容] 支釣込足を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。		⑫	[テーマ] 得意技を習得する。 [内容] これまでに学修した技を振り返り得意技を身に付ける。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。	
⑤	[テーマ] 基本的な技を学ぶ③ [内容] 体落を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。		⑬	[テーマ] 得意技を習得する。 [内容] これまでに学修した技を振り返り得意技を身に付ける。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。	
⑥	[テーマ] 基本的な技を学ぶ④ [内容] 大腰を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。		⑭	[テーマ] 自由稽古を行う [内容] これまでに学修した技を用いて自由稽古を行う [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。	
⑦	[テーマ] 基本的な技を学ぶ⑤ [内容] 大外刈を学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。		⑮	[テーマ] 講義:近年の柔道競技様相について [内容] ルールの変遷について概観し、近年の競技様相について学ぶ。 [授業外学修]学習指導要領の該当箇所を通読する。	
⑧	[テーマ] 講義:柔道の目的について [内容] 柔道の目的について学び、日常生活との関連性を考える。 [授業外学修]柔道の目的について調査する。		⑯	[テーマ] 実技試験を行う [内容] 受身、投技および固技について実技テストを行う。 [授業外学修]柔道の各技について復習を行う。	
成績評価方法(方針)					
本授業では、3つの方法を用いて評価を行う。認知領域について、講義の際に課すレポート課題をもって5点満点で評価する。情意領域について、毎回の学修ノートを用いて5点満点で評価する。技能表現領域について、実技テストを用いて5点満点で評価を行う。なお提出されたレポート課題と学修ノートについては、授業終了後にコメントを付けて返却する。※欠席が授業の1/3を超える場合は、履修放棄とみなし、成績評価の対象としない。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎			30%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技				◎	40%
授業態度			◎		30%
出席					欠格条件
関連科目	柔道Ⅱ、武道実技(形)			関連資格	中高保体・ジュニアスポーツ指導員・講道館柔道初段※有料
教科書	特になし			参考書	特になし
オフィスアワー	川戸研究室(金曜10:20~11:50)			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	剣道 Kendo(P.A.)			担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
剣道の基本動作と一本打ちの技の修得に重点をおいて行う。「技」の修得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。					i、iv
授業の一般目標					
剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようにする。また、日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができるようにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。			
■	情意的領域	竹刀を持ち、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。			
■	技能表現的領域	伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。			
授業計画(全体)					
基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を修得して稽古へと展開していく。互格稽古ができるようになったら、簡易な試合、さらに団体形式の試合を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、礼法テーマ [内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、礼法(正座・座礼)の指導 [授業外学修]礼法について事前に調べておくこと			⑨	[テーマ] 切り返しの完成、払い技の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し(完成)、一本打ちの技、払い面、約束練習、互格稽古 [授業外学修]切り返しの仕方を調べてくること
②	[テーマ] 基本動作の修得 [内容] 竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法(正座、座礼、立礼)、構え方の指導 [授業外学修]竹刀の名称について調べておくこと			⑩	[テーマ] 連続技(二段技)の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手一面、小手一胴、約束練習、互格稽古 [授業外学修]技の種類を調べてくること
③	[テーマ] 基本動作から打突動作への展開 [内容] 足さばき、振り方(上下・正面)、稽古時の礼法の指導 [授業外学修]稽古時の礼法について調べておくこと			⑪	[テーマ] 引き技の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古 [授業外学修]技の種類を調べてくること
④	[テーマ] 打突の仕方、打たせ方の修得 [内容] 復習(素振り)、打ってみる、踏み込む足の練習、打突の仕方(面)の指導 [授業外学修]素振りの種類について調べてくること			⑫	[テーマ] 技の練習、試合への導入 [内容] 試合規則の説明、復習、切り返し、一本打ちの技「攻め→反応する一打突」のパターンによる練習、約束練習、互格稽古(試合のように実施する) [授業外学修]技の種類を調べてくること
⑤	[テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入 [内容] 前回の復習(足さばき・振り方)、剣道具(垂・胴)の着装、打ってみる [授業外学修]剣道具の名称を調べてくること			⑬	[テーマ] 試合への導入 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、試合の体験 [授業外学修]試合規則を調べてくること
⑥	[テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、剣道具(面・小手)の着装、部位(面・胴・小手)を打ってみる、送り足による面打ち、踏み込みによる面打ち [授業外学修]手ぬぐいのつけ方を調べてくること			⑭	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合を体験 [授業外学修]試合規則を調べてくること
⑦	[テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の修得 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち、送り足による(面・胴・小手)、踏み込み足による(面・胴・小手)、約束練習 [授業外学修]手ぬぐいのつけ方を練習をしてくること			⑮	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合 [授業外学修]審判規則を調べてくること
⑧	[テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、切り返し一回、一本打ちの技(面・胴・小手)の練習、約束練習、稽古 [授業外学修]切り返しとは何かを調べてくること			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手一面打ち [授業外学修]技の動作内容を確認してくる
成績評価方法(方針)					
技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。実技試験については(授業内で)解説し伝える。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	70%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技			○		30%
授業態度				△	評価対象外
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	特に指定しない。				参考書
オフィスアワー	木曜日 11:00~12:30				その他
					中高保体、ジュニアスポーツ指導員、JPSUスポーツトレーナー
					全日本剣道連盟編『剣道指導要領』

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ダンス I DANCE I (P.A)			担当教員	山梨 雅枝
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	実務経験の有無 ダンス指導及び小・中・高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
毎回、バーを使いクラシックバレエの基本的な動きを行う。その後、フロアの動きでは、ジャンプや回転を中心に実施する。実務経験を生かして、これらの動きを教育や保育の現場で活かされるように構成された振付を実施する。これらの動きを音楽に合わせて行うことで、動きの技だけでなく音感を育むことも重視する。					i、v
授業の一般目標					
クラシックバレエのバーを使った動きは、約350年の歴史の中で体系化されたトレーニング方法であり、体幹や柔軟性を育むのに大変有効である。そのため、様々なスポーツの基礎的なトレーニングにも成り得る。クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し実践することで、自己の身体と向き合いながら、体幹や柔軟性、調整力を高めることが目標である。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	自己の身体に気づくことができる。			
■	情意的領域	合理的な身体の動かし方について理解することができる。			
■	技能表現的領域	質の異なる様々な動きに対応することができる。			
授業計画(全体)					
毎時間クラシックバレエの基本的な動きを実施し、授業を重ねる毎にレベルを上げていく。その際、4拍子や3拍子の動きにも対応できるよう、音感も鍛えながら実施する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。 [授業外学修] 鑑賞した作品についてのレポートを作成する			⑨	[テーマ] ステップ① [内容] フロアで4種類以上のステップで構成された動きを行う。 [授業外学修] 質の違うステップについて確認する
②	[テーマ] 足の動きと手の動き [内容] 5つの足のポジションと4つの手の動きを理解する。 [授業外学修] 手足の動きの名称について復習する			⑩	[テーマ] ステップ② [内容] フロアで5種類以上のステップで構成された動きを行う。 [授業外学修] 質の違うステップについて確認する
③	[テーマ] 両手でバーにつかまって行う動き [内容] バーを両手で握り、床を踏む動きとバランスの動きを行う。 [授業外学修] 自分の軸について確認する			⑪	[テーマ] バランスとターン① [内容] フロアでバランスからターンを行う動きを行う。 [授業外学修] バランスとターンの動きについて確認する
④	[テーマ] 片手でバーにつかまる動き [内容] バランスをとりながら、床を踏む動きを行う。 [授業外学修] 自分の軸について確認する			⑫	[テーマ] ジャンプとターン① [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。 [授業外学修] 床を踏む動きについて確認する
⑤	[テーマ] バーを用いたジャンプの動き [内容] 床を踏んでからジャンプをするステップを行う。 [授業外学修] 足の裏全体で床を踏む動きを確認する			⑬	[テーマ] ジャンプとターン② [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。 [授業外学修] 上半身の引き上げについて確認する
⑥	[テーマ] バーを用いてバランスとジャンプの動き [内容] バーを用いて、バランスやジャンプを行う。 [授業外学修] 両足でバランスをとる			⑭	[テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き① [内容] 13回目までの授業で学んできた動きを音楽に合わせて踊る。 [授業外学修] 音楽を覚える
⑦	[テーマ] バーを用いたターンの動き [内容] バーを用いて、ジャンプやバランス、ターンを行う。 [授業外学修] 片足でバランスをとる			⑮	[テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き② [内容] 13回目までの授業で学んできた動きを音楽に合わせて踊る。 [授業外学修] 振付を確認する
⑧	[テーマ] ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動き [内容] フロアで、ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動きを行う。 [授業外学修] ターンの時の顔を動きについて確認する			⑯	[テーマ] 試験 [内容] ステップとジャンプ、バランス、ターンの動きが組み込まれた作品を1人ずつ試験する。 [授業外学修] 音楽に合わせて振付の練習をする
成績評価方法(方針)					
実技試験で、授業内容の理解度を確認する。実技試験終了後には、総評を行う。また、受講態度や出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位修得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位修得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位修得は認めない。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	50%
授業内レポート		○	○		5%
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度				◎	15%
出席				◎	欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業を通じて自己の身体に興味を持つこと。 ・体調管理を怠らない。(飲み物を各自準備する。但し、蓋のある容器のみ持込可。) ・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。 ①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努めること。 ②活動の妨げになるものは一切身につけないこと。 ③服装については、授業担当者の指示に従うこと。 					
関連科目	ダンス II			関連資格	教員免許状(中高保体)、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー
教科書	適宜資料を配布する。			参考書	片岡康子『舞踊学講義』大修館,1991
オフィスアワー	火曜日:13:00~15:30			その他	山梨研究室:第4体育館1階

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		海浜実習 Activity & Swim Camp			担当教員	渡邊 泰典	
開講内容	学年・学期	1・通年	授業方法	実習	実務経験の有無	—	
	履修の方法	選択	単位数	1			
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)	
海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用した水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて7月中旬に3泊4日間の日程で開講する。						v	
授業の一般目標							
事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳(約3km・2時間)完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。							
授業の到達目標							
■	認知的領域	海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。					
■	情意的領域	自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。					
■	技能表現的領域	連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。					
授業計画(全体)							
事前オリエンテーション、事前実技講習有り。実習日程は7月中旬(海の日を含む)に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み(事前に掲示にて告知)。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読すること。				⑨	[テーマ] 海浜活動の実践IV【実技】 [内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、右回りと左回りでの方向転換の違いを説明する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。	
②	[テーマ] 海浜活動の理論I【講義】 [内容] 海浜活動実施上の注意点及び安全管理の方法と万一有事の際の対処方法を解説する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。				⑩	[テーマ] 海浜活動の実践V【実技】 [内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、右回りと左回りの方向転換を組み合わせて目標地点まで泳ぐ。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。	
③	[テーマ] 海浜活動の理論II【講義】 [内容] 気象と海象の関係について解説する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。				⑪	[テーマ] 海浜活動の実践VI【実技】 [内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、遠泳中の目標地点の変更とその対処方法について説明する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。	
④	[テーマ] 海浜活動の理論III【講義】 [内容] 風と波の関係及び潮汐の変化について解説する。加えて離岸流及び逆潜流の危険性について説明し、対処方法を解説する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。				⑫	[テーマ] 海浜活動の実践VII【実技】 [内容] 泳能力別に目標時間を設定し、泳ぐペースを調整しながら目的地点まで泳ぐ。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。	
⑤	[テーマ] 海浜活動の理論IV【講義】 [内容] 遠泳の歴史とその意義について解説すると共に、実習の具体的な運営方法や練習方法について説明する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。				⑬	[テーマ] 海浜活動の実践VIII【実技】 [内容] 泳能力別の隊列を解体し、実習生全体の隊列を再編成する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。	
⑥	[テーマ] 海浜活動の実践I【実技】 [内容] プールにて海浜活動における点呼の方法を説明すると共に、海浜を想定した隊列泳を実施し、泳力を確認する。 [授業外学修] 授業内容について復習すること。				⑭	[テーマ] 海浜活動の実践IX【実技】 [内容] 実習生全体で大遠泳を実施し、全員の完泳を目指す。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。	
⑦	[テーマ] 海浜活動の実践II【実技】 [内容] 海浜にて海浜活動における点呼の方法を説明すると共に、泳能力別に隊列泳を実施し、泳力を確認する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。				⑮	[テーマ] 海浜活動の実践X【実技】 [内容] 着衣で落水した場合の対処方法を説明すると共に、落水を想定した体験活動を通して自己保全の方法を解説する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。	
⑧	[テーマ] 海浜活動の実践III【実技】 [内容] 泳能力別に隊列泳を実施し、ペース配分と方向転換の方法を説明する。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。				⑯	[テーマ] 海浜活動の実践XI【実技】 [内容] レクリエーション活動を通して、その他の海浜活動にふれる。 [授業外学修] 内容をまとめレポートを作成、提出する。	
成績評価方法(方針)							
本実習に関わる全ての日程(オリエンテーション、学内事前指導を含む)に参加し、大遠泳を完泳することが単位修得の条件となる。実習中の取り組みかた、レポート等の課題を総合的に判断して評価する。提出されたレポートは、コメントを付したうえで返却する。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない(合否は問わない)。 ②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100%でなければ参加できない。 ③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的な受講態度が要求される。	
定期試験							
授業内レポート							
授業外レポート							
演習・実技		◎	◎	◎	80%		
授業態度		◎	◎	◎	20%		
出席					欠格条件		
関連科目	水泳、水上安全法(含実習)				関連資格	なし	
教科書	なし				参考書	なし	
オフィスアワー	火曜日12:00~13:00(LC棟2階207研究室)				その他	連絡先: ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スキー I Ski I (P.A.)			担当教員	井上 望・柴山一仁・高橋弘彦
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	実務経験の有無 スキー指導経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スキーの基礎的理論・技術および指導法を習得する。また、学外実習の運営方法を学ぶとともに、集団生活を通して協調性やコミュニケーション力を育む。実習は、2月後半に、山形温泉蔵王温泉スキー場で実施する。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
各技能ごとに班分けを行い、各自のスキー技術習得を目指す。教員の実務経験を活かし、初心者は全日本スキー連盟バッジテスト3級を目標とし、初級者及び中級者は2級、上級者は1級以上の技能獲得をできるように努める。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	各自のレベルにおけるスキー技術について理解している			
■	情意的領域	スキー及びスノースポーツに興味を持ち、熱意を持って取り組める			
■	技能表現的領域	自身の上達を実感し、各自のレベルに応じてスキー滑走ができる			
授業計画(全体)					
初日に技術レベルごとに班編成をする。技術習得の効率を高めるため、原則として1班10名程度とする。午前・午後是指導員による講習を受講し、ナイターは各自の課題をもって班ごとの自主練習を行う。最終日には、班ごとにデモンストレーション滑走を行う。 ※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。その際は、4月の履修登録者が優先される。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スキー用具の取り扱い方、基本的な動作 [内容] スキー用具の名称や取り扱い方、装着方法を理解する。スキーを装着した上での歩行動作、階段登行、転び方、立ち方等を習得する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑨	[テーマ] パラレルターン2 [内容] ターン弧や身体の傾きを調整して、様々な斜面を滑ることができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
②	[テーマ] ブルークファーレン、制動と停止 [内容] ブルーク形状(ハの字)でまっすぐ滑れるようになる。正しいポジションと押し開きによって、停止できるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑩	[テーマ] パラレルターン3 [内容] リズムやスピードを調整し、パラレルターンの小回りができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
③	[テーマ] ブルークボーゲン1 [内容] ブルーク形状でターンできるようになる。連続したブルークボーゲンができるようになる(押し開き、外足荷重)。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑪	[テーマ] カービングターン1 [内容] カービングターンの要素を加え、速度の要素を減らしながらパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
④	[テーマ] ブルークボーゲン2 [内容] 様々なターン弧・リズムで、ブルークボーゲンができるようになる(ポジション、上下動、荷重)。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑫	[テーマ] カービングターン2 [内容] カービングの要素を強め、加速しながらスピード感のあるパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑤	[テーマ] パラレルターンへの展開1 [内容] パラレル形状(板を並行に挿えた状態)で、横滑りができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑬	[テーマ] 不整地 [内容] 様々な雪面に対応できる技術を身につけ、不整地やコブを滑れるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑥	[テーマ] パラレルターンへの展開2 [内容] シュテムターン(ハの字に開き出してターンし、後半にスキーを揃える)ができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑭	[テーマ] デモンストレーション1 [内容] 同じ班のメンバーと協働して、各班のレベルに応じたデモンストレーション滑走(フォーメンション)を考案する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑦	[テーマ] パラレルターンへの展開3 [内容] ブルークボーゲンの外足荷重を強め、内膝を返したブルークターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑮	[テーマ] デモンストレーション1 [内容] 考案したデモンストレーション滑走を練習し、全体で発表する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑧	[テーマ] パラレルターン1 [内容] 両足同時操作による、安定したパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑯	[テーマ] ふりかえり [内容] 学んだスキー技術、指導法、集団生活の過ごし方などをふりかえり、まとめる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
成績評価方法(方針)					
スキーへの取り組み、講習中およびホテルでの態度を総合的に評価する。スキー技術へのフィードバックは、班別レッスンの中で随時行う。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	○	○	○	○	50%
授業態度	○	○	○	○	50%
出席					欠格条件
関連科目	スキー II (3年)			関連資格	特になし
教科書	特になし			参考書	日本スキー教程(山と溪谷社)
オフィスアワー	木曜4限			その他	不明な点や相談があれば、事前に担当教員を訪ねること

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	キャンプ Camp (P.A.)			担当教員	井上 望
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	実務経験の有無 キャンプ指導及びキャンプ指導者育成経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
組織キャンプの体験を通して、指導者に必要な資質を育成する。3泊4日間のキャンプを通して、一般的な野外活動に必要なスキルや、プログラムの運営方法等を、体験を通して学んでもらう。さらに、指導者からは、実務経験を活かしながら指導法やキャンプ指導の魅力伝える。また、自然環境における集団生活の中で、自立心、協調性、リーダーシップなどを養い、仲間との交流を促進する。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
・組織キャンプを通じて、プログラム、マネジメント、指導法について理解を深める。 ・野外活動に必要な知識、技術を身につける。 ・自然に親しみ、学生・教員との交流を深める。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	野外活動に必要な知識・技術を身につける。			
■	情意的領域	自然体験活動への興味を持ち、積極的に関わるようになる。自然に興味を持ち、自然環境を配慮する精神を育む。			
■	技能表現的領域	集団生活の中でコミュニケーション力を高める。課題に対して自分なりの意見を持ち、他者とディスカッションし、グループとしての意思決定を行えるようになる。			
授業計画(全体)					
第一団8月29日(土)～9月1日(火)、第二団9月3日(木)～6日(日)(予定)に、南蔵王野営場で、原始的野外生活と冒険的活動を中心とした3泊4日の実習を行う。6人程度の班を編成し、1班に一人ずつ指導者がついて生活・活動の指導を行う。各実習は定員100名し、希望者多数の場合は抽選とする。キャンプインストラクターの資格取得希望者は、別途教科書を購入し、キャンプ後に筆記試験を行う(詳細はオリエンテーション等で説明)。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 野外レクリエーション [内容] 野外レクエーションを通して、班のメンバーの交流を深める。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑨	[テーマ] 登山準備 [内容]3日目の登山の概要を理解し、登山スキルや装備について学習し、登山の準備をする。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
②	[テーマ] 装備・道具の使い方 [内容] キャンプで使用使用する装備・道具の名称や正しい使い方を理解する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑩	[テーマ] 野外炊事3 [内容] 2日目の夕食を作成する。実習生が主体的に考え、行動し、協力しながら時間内の完成を目指す。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
③	[テーマ] テント設営 [内容] 家型テント及びドーム型テントを設営し、テントの設営方法を学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑪	[テーマ] 登山1 [内容] 縦走登山を体験する。地図やコンパスを使って、自分たちで主体的に登山を行う。登頂時の達成感を味わったり、ストレス環境下で自己理解を深める。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
④	[テーマ] ナタの使い方・薪割り [内容] ナタの正しい使い方を習得し、薪割りの技術を身につける。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑫	[テーマ] 登山2 [内容] 縦走登山を体験する。困難な状況でも仲間と協力し合い、リーダーシップやフォロワーシップを学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑤	[テーマ] 野外炊事1 [内容] 1日目の夕食を作成する。薪割り、火おこし、調理など、班で協力して時間内の完成を目指す。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑬	[テーマ] 登山3 [内容] 縦走登山を体験する。高山植物や野生生物などに触れ、自然への興味関心を育む。自然への肯定的感情を育み、自然配慮の精神を養う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑥	[テーマ] 野外炊事2 [内容] 2日目の朝食及び弁当を作成する。前回の体験を活かし、スムーズに野外炊事を進めることを目指す。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑭	[テーマ] キャンプファイヤー [内容] キャンプでの体験を仲間とともにふりかえる。各班オリジナルのスタンプを作成し、発表する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑦	[テーマ] 沢歩き1 [内容] 沢歩きを体験する。水の中で活動する楽しさや魅力を理解する。また、沢歩きを通して、グループの凝集性を高める。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑮	[テーマ] 撤収 [内容] キャンプ用品の正しい撤収方法を学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑧	[テーマ] 沢歩き2 [内容] 沢歩きを体験する。地図・コンパスの使い方やリスクマネジメントについて学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑯	[テーマ] ふりかえり [内容] キャンプでの体験をふりかえり、レポートとしてまとめる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
成績評価方法(方針)					
実習中の態度及び実習後のレポートによって総合的に評価する。提出されたレポートについては、状況に応じて、解説・ディスカッションを行う。その他、オリエンテーション時の態度や事前提出物の状況なども考慮する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	○	○	○	○	50%
演習・実技	○	○	○	○	25%
授業態度	○	○	○	○	25%
出席					欠格条件
関連科目	レク実I・II(1・2年)、スポマネ実習(2年)、野外教育活動論(3年)、野外・レクマネ論(3年)、野外レクマネ実習(3年)			関連資格	特になし
教科書	特になし			参考書	(公社)日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」
オフィスアワー	木曜4限			その他	不明な点や相談があれば、事前に担当教員を訪ねること

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スケート Skating(P.A.)			担当教員	川口鉄二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	幼稚園、中学、高校での教師経験を有する 日本スケート連盟主催講習の実務経験を有する。
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スケートに関する理論(歴史・滑走原理)及び基本技術(直進系・曲進系・転向系・停止系)を学習する。更に選択種目(フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー、インラインホッケー)の基礎技能を身につけ、種目特性に応じた動く楽しさを体験する。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
スケートの基本技術及び戦術の学習を通して指導力の前提となる種目特有の楽しめる楽しさを理解し、安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の特性や管理方法なども理解する。日本スケート連盟バジテストC級以上の取得を原則とし、更に、アイスホッケー競技の基礎経験をもとに、生涯スポーツとして継続できる原志向位相を身に付ける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スケータリングの基本技術を理解している。				
■ 情意的領域	フィギュア、アイスホッケー、スピードスケートの競技特性を踏まえ、自らの課題を理解して取り組める				
■ 技能表現的領域	競技ルールに基づいて楽しみながら協力して課題、ゲームに取り組む				
授業計画(全体)					
領域は希望と経験を考慮し、基礎、フィギュア、アイスホッケー、インラインホッケーの各コースのいずれかを選択して実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場を予定。基礎技能を確認した後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級相当の技能テストを行い、更に、競技会形式などによってスケートを楽める技能を身につけていく。実習は春、秋(県内)、冬(盛岡)に行うが、ホッケーは用具の関係で人数制限あり(オリエンテーションで詳細を説明)。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]オリエンテーション [内容]実習の概要、参加・選択方法、達成課題及び評価等について [授業外学修]		⑨	[テーマ]応用練習① [内容]検定課題に沿った技術習得練習。防具を装着しての滑走練習。 [授業外学修]	
②	[テーマ]各コース毎の概要説明 [内容]基礎、フィギュア、アイスホッケー、インラインホッケーのコース毎の実習計画と参加方法についての説明 [授業外学修]参加登録方法についての理解		⑩	[テーマ]応用練習② [内容]検定課題に沿った技術習得練習。その場でのパスおよびハンドリング練習 [授業外学修]	
③	[テーマ]実習コース毎の用具の知識と確認 [内容]実習に必要なとなる用具類の準備と安全確保への配慮 [授業外学修]		⑪	[テーマ]応用練習③ [内容]検定課題に沿った技術習得練習。滑走しながらのパスおよびシュート練習 [授業外学修]	
④	[テーマ]基礎スケータリング① [内容]準備運動、ペンギン歩行、前進滑走 [授業外学修]		⑫	[テーマ]応用練習④ [内容]検定課題に沿った技術習得練習。パックの奪い合い、連係プレーによるシュート練習 [授業外学修]	
⑤	[テーマ]基礎スケータリング② [内容]フォアスケータリング、ひょうたん、スネーク、カービング、イの字ストップ [授業外学修]		⑬	[テーマ]応用練習⑤ [内容]検定課題に沿った技術習得練習。ミニゲームとルールの理解 [授業外学修]	
⑥	[テーマ]基礎スケータリング③ [内容]イの字ストップ、バック歩行、滑走、ひょうたん、スネーク [授業外学修]		⑭	[テーマ]応用練習⑥ [内容]検定課題に沿った技術習得練習。ルールに基づいた試合形式によるゲーム体験。 [授業外学修]	
⑦	[テーマ]基礎スケータリング④ [内容]クロッシング、8の字カービング [授業外学修]		⑮	[テーマ]テスト(C級、B級相当) [内容]予め提示された規定滑走のテスト検定 [授業外学修]	
⑧	[テーマ]基礎スケータリング⑤ [内容]モフォークターン、バックカービング、二の字ストップ [授業外学修]		⑯	[テーマ]まとめとレポート作成 [内容]活動内容の総括とレポートの提出 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)					
実習割合の30%以上の欠席は不可とする。技能習得と授業態度を総合して評価する。毎時間提出のレポートは感覚の学習内容が記述されていることを条件とする。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					20%
授業内レポート		○			70%
授業外レポート			○		10%
演習・実技		○	○	○	
授業態度			○		
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	特になし				参考書
オフィスアワー	A403川口 水曜:13:00-2:00				その他
					「コツとカン」の運動学」大修館

3. 発展科目

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略概論				担当教員	石丸出穂/栗木一博/藤本晋也/坪井俊樹/溝上拓志
	Introduction to sport intelligence					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する スポーツ情報戦略活動(後方支援)の実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツにおける情報戦略活動において必要とされる能力は人間関係を構築するためのコミュニケーションに関する能力をはじめ、文書の作成能力、データ処理能力、事象を構造化する能力など多岐にわたっている。次年度以降に行われる演習や実習はきわめて現場即応型の内容が想定されており、この授業はそこで必要とされるコア・スキルに関する解説と習得のための実践活動を中心に進められる。						i、ii
授業の一般目標						
概要でも述べたとおり、スポーツ情報戦略スタッフとして活動するためのコア・スキルを抽出し、それらを理解し、実践可能な初歩のレベルにまで向上させることが本授業の目標となる。具体的には挨拶など基本的なコミュニケーションスキルの習得、形式にのっとった文書の作成技術の習得、プレゼンテーションに関する基礎的な能力の習得などを想定している。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツにおける情報略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルにはどのようなものがあるかを理解する。				
■	情意的領域	スポーツにおける情報略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルを理解することによって、それらを積極的に利用しようとする意欲を培うとともに、それらをストレスなく活用することができるようにする。				
■	技能表現的領域	挨拶などの基本的なコミュニケーションのスキル、形式にのっとった文書作成技術、文書作成能力、基礎的なデータ処理能力、基礎的なプレゼンテーション能力を身につける。				
授業計画(全体)						
スポーツにおける情報戦略活動の概要を説明した後、そこで必要とされるさまざまな技能を例示する。その中から、コミュニケーションスキル、文書作成技術、文章能力、データ処理技能、電子デバイスおよびICT関連機器の使用法(倫理を含む)などを取り上げ、実際に活動を通して技能の向上を図る。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全員) [内容] 授業全体の計画を説明する。担当教員の紹介、授業の目標および評価方法について説明する。 [授業外学修] シラバスと学生便覧を熟読する。				⑨	[テーマ] 文章技術②(栗木) [内容] 実際に自分で作成したレポートを題材にして、校正の作業などを通じて文章を洗練したものにする課程を学ぶ。 [授業外学修] 設定されたテーマに沿って課題としてレポートを作成する。
②	[テーマ] コミュニケーションスキルの基礎①(栗木) [内容] 基本的な会話や会議での発言などに関して説明をする。 [授業外学修] 生活の中で必要となるコミュニケーションの能力を調べる。				⑩	[テーマ] ICT利用の基礎①(石丸) [内容] ICTツールについて説明し、その基本的な操作方法等を確認する。また、それらがどのように活用されているか(倫理的な問題を含む)について学ぶ。 [授業外学修] ICTに関する自分自身の能力をまとめておく。
③	[テーマ] コミュニケーションスキルの基礎②(栗木) [内容] 電話の応対や挨拶の仕方、名刺交換などについて説明をするとともに実践練習を行う。 [授業外学修] ビジネスマナーなどにあるコミュニケーションについて調べる。				⑪	[テーマ] ICT利用の基礎②(石丸) [内容] Data Volleyの入力にチャレンジする。まず、Data Volleyの基本的な入力方法やソフトウェアの利用方法について学ぶ。 [授業外学修] ソフトウェア等の知識に関して整理する。
④	[テーマ] コミュニケーションスキルの基礎③(栗木) [内容] プレゼンテーションを行うために必要となる技能について説明する。 [授業外学修] プレゼンテーションとはどのようなものかを調べる。				⑫	[テーマ] ICT利用の基礎③(石丸) [内容] Data Volleyの入力にチャレンジする。前回に引き続き、Data Volleyの基礎を学ぶ。今回は実際に入力を体験してみる。 [授業外学修] タッチタイプなど自分のICTスキルについて確認しておく。
⑤	[テーマ] 文書作成技術①(藤本) [内容] 基本的なビジネス文書の作成方法を学習する。 [授業外学修] 文書の形式にはどのようなものがあるかを調べる。				⑬	[テーマ] データ処理の基礎①(坪井) [内容] データを処理するための基礎となる基本的な統計量の定義と算出のために必要となる機序を学ぶ。 [授業外学修] 身の回りのデータ処理事例について調べる。
⑥	[テーマ] 文書作成技術②(藤本) [内容] 自分が経験した活動を取り上げ、それを報告書の形にまとめる方法を学ぶ。 [授業外学修] 報告書の形式をあらかじめ調べておく。				⑭	[テーマ] データ処理の基礎②(坪井) [内容] データ処理のための統計的な手法について学ぶ。特に多変量のデータの取り扱いについて解説する。 [授業外学修] 教材として利用するために多変量データを探す。
⑦	[テーマ] 文書作成技術③(藤本) [内容] これまでに作成してきた文書をさらに洗練されたものにする方法について学習する。 [授業外学修] ワードプロセッサなど文書作成ツールについて調べる。				⑮	[テーマ] データ処理の基礎③(坪井) [内容] 処理されたデータをグラフや表で表現する方法について学ぶ。グラフの種類や図表利用時の決まりなどについて解説する。 [授業外学修] 新聞等にあるグラフや表を集めておく。
⑧	[テーマ] 文章技術①(栗木) [内容] 文章によって事象を表現する方法について学習する。 [授業外学修] 教材にするための簡単なレポートを作成する。				⑯	[テーマ] まとめとテスト(全員) [内容] これまでに学んだことを応用して、レポートをまとめる形式の課題をテストとして課す。 [授業外学修] テストのための準備を行う。
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合20%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。提出されたレポートは授業内で返却し、解説する。試験については授業内で返却し、解説する						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業回の3分の2以上の欠席がある場合には試験を受けることができない。(欠格条件) ・授業計画は進度により多少前後することがあります。
定期試験		◎	○	◎	60%	
授業内レポート		○	○	○	20%	
授業外レポート		○	◎	◎	20%	
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツ情報戦略論実習 I・II、演習A・B・C、の履修を考えている学生は、必ず履修すること。				関連資格	
教科書	特に指定しない(必要な資料は授業中に配布する)				参考書	特に指定しない(必要な資料は授業中に配布する)
オフィスアワー	石丸:前後期水曜10:20~11:50				その他	研究室:石丸 E棟2階 iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ広報論			担当教員	池田敦司／マーティ・キーナート／(佐々木鉄)	
	Lecture of public relation activities					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	プロスポーツ企業経営の実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
スポーツにおいてその活動を周知し、その存在意義を確立することはまさに存続の糧であり、特にプロスポーツの世界においては最重要視される活動である。本講義においては、広報の基礎理論を学び、講師の実務経験も踏まえ、プロスポーツの現実活動を事例として取り上げ、広報活動の概論を習得するものである。					i、ii、iii、iv、v	
授業の一般目標						
広報やマスコミに関する基礎を学び、具体的な事例に数多く触れることで、一見華々しく見えるマスコミや広報の実際の世界を知る。この分野は地道なコミュニケーションの継続であり、人と人とのつながりをもっとも重要とし、常識や公正な人格が求められる極めて人間的な世界であることを理解する。知識と共に、この分野を目指す自身の方向性を確立する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツにおける広報の目的と活動体系について修得をする。				
■	情意的領域	実際の広報事例に対して評価をすることが出来る				
■	技能表現的領域	広報におけるコミュニケーション手段を体得する。				
授業計画(全体)						
・講義とレポート作成を中心に行う。折に触れて、動画等で事例を学ぶ。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(佐々木鉄) [内容] 授業の目標、テーマと授業計画についてオリエンテーションをする [授業外学修] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] スポーツ企業における宣伝活動(池田) [内容] スポーツ企業の実際の宣伝活動を紹介、広報と宣伝の違いについて解説する。 [授業外学修] 新聞やHPなどでスポーツ関係の情報をよく見ておくこと	
②	[テーマ] 広報の実際 ケーススタディー①(キーナート) [内容] 内外の広報事例～グッドパブリシティから失敗事例まで解説する [授業外学修]			⑩	[テーマ] 総括とレポート作成 [内容] 広報活動の目的やプログラムを総括し、レポートを作成する。 [授業外学修] 授業内容を復習しておくこと	
③	[テーマ] 広報の実際 ケーススタディー②(キーナート) [内容] 内外の広報事例～グッドパブリシティから失敗事例までを解説する [授業外学修]			⑪	[テーマ] リスク広報(池田) [内容] 企業経営に大きな影響を与えるリスク広報の重要性について解説する。 [授業外学修] 授業内容を復習しておくこと	
④	[テーマ] 広報の実際 ケーススタディー③(キーナート) [内容] 内外の広報事例～グッドパブリシティから失敗事例まで解説する [授業外学修]			⑫	[テーマ] 広報事例研究①(池田) [内容] プロチームの監督関連広報の実際を紹介する。 [授業外学修] 授業で見た事例の類似事例を探しておくこと	
⑤	[テーマ] パブリックリレーションズ概論(池田) [内容] 広報の定義や概念、日本における発展の歴史、企業における広報活動の意味など広報の基礎概念を解説する。 [授業外学修] 定義と概念を復習して覚えておくこと			⑬	[テーマ] 広報事例研究②(池田) [内容] プロチームの選手関連広報の実際を紹介する。 [授業外学修] 授業で見た事例の類似事例を探しておくこと	
⑥	[テーマ] スポーツ企業の成り立ちを学ぶ①(池田) [内容] 広報活動の対象となるスポーツ企業の成り立ちを、楽天野球団を事例として解説する。 [授業外学修] 楽天野球団のHPを閲覧して企業活動を学んでおくこと			⑭	[テーマ] 広報事例研究③(池田) [内容] グッドパブリシティの実例を紹介、良いパブリシティの獲得の仕方について解説する。 [授業外学修] 授業で見た事例の類似事例を探しておくこと	
⑦	[テーマ] スポーツ企業の成り立ちを学ぶ②(池田) [内容] 広報活動の対象となるスポーツ企業の活動を、楽天野球団を事例として解説する。 [授業外学修] 楽天野球団のHPを閲覧して企業活動を学んでおくこと			⑮	[テーマ] 小論文(池田) [内容] 授業全体を総括して小論文を作成する [授業外学修] 自分自身で課題に対する論旨をまとめておく	
⑧	[テーマ] スポーツ企業における広報活動①(池田) [内容] スポーツ企業の実際の広報活動のプログラム、特にチームに関する広報活動について解説する。 [授業外学修] 新聞やHPなどでスポーツ関係の情報をよく見ておくこと			⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
授業に関するコメントシート、中間レポート、そして最後の授業で作成する小論文で評価をする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席のない学生は、単位を修得することができない。 ・授業態度の悪い学生は、成績評価から減点する。 ・授業計画は授業の進み方により、前後することがある
定期試験		◎	◎	◎	40%	
授業内レポート		◎	◎	◎	60%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席		◎			欠格条件	
関連科目				関連資格		
教科書	特になし			参考書	特にないが、スポーツニュースは可能な限り毎日チェックすること	
オフィスアワー	(佐々木鉄男研修室E棟2階)月曜日 10:20-11:50			その他	tt-sasaki@sndai-u.ac.jp	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		ヒューマンリレーション演習Ⅱ Seminar of Human Relation II			担当教員	藤本晋也／坪井俊樹
開講内容	学年・学期	3・半年期	授業方法	演習	実務経験の有無	日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略活動及びプロスポーツでの実務経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業の前提となる「ヒューマンリレーション演習Ⅰ」において人間関係を構築するために必要とされる基礎的な技術およびそれに付随する考え方について学んできた。本授業においては、それらの基礎的な能力を前提に「ディベート」や「シンポジウム」といったあらかじめ決められた形式において、それらをもとの方法で運営し、それらにどのような態度で臨むかといった応用に関する解説を中心に実務経験を基に授業を展開する。						iii、iv、v
授業の一般目標						
これまで学んできたコミュニケーションに関する基礎的な技能に関する復習を行い、その修得に関する確認を行なう。さらに、新しい形式(ディベート、シンポジウムなど)においてそれらをより具体的に発揮する方法や考え方について学習する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	討論やシンポジウムなどに必要とされるスキルやスキルを獲得するために必要となる考え方などが理解できる。				
■	情意的領域	論理的思考、論理的言語技術の重要性を理解し、それに対する積極的な興味を持つ。				
■	技能表現的領域	論理的思考、論理的言語技術などに関する基礎的な技術を獲得する。				
授業計画(全体)						
日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略活動及びプロスポーツなどのトップスポーツによる実務経験を活かし、コミュニケーションスキルの観点から演習を行う。演習の内容をこれまで学習してきた内容の復習、ディベート、シンポジウムの三つで構成する。受講者をグループに分け、実際に準備から実施までを経験する。さらに、相互評価を実施し、それぞれの優れている点改善が必要な点に関してディスカッションが行えるようにする。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(藤本・坪井) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明を行なう [授業外学修] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] ディベート②(藤本) [内容] ディベートを実施するための準備をする。ルール(時間配分等)を決定し、グループわけを行い、準備をする。 [授業外学修] ディベートのルール、方法について調べておく	
②	[テーマ] プレゼンテーション①(藤本) [内容] あらかじめ設定されたテーマ、時間などの制約条件がある中でプレゼンテーションを行なう。 [授業外学修] ヒューマンリレーション演習Ⅰで学んだ内容を確認する			⑩	[テーマ] ディベート③(坪井) [内容] ディベートを実施するための準備をグループごとに行なう。資料の収集などを実施する。 [授業外学修] ディベートのテーマに関する資料を収集する	
③	[テーマ] プレゼンテーション②(藤本) [内容] これまでに学習してきた内容を振り返り、自由なテーマでプレゼンテーションを行なう。そのための準備を行なう。 [授業外学修] ヒューマンリレーション演習Ⅰの学習内容の確認			⑪	[テーマ] ディベート④(坪井) [内容] グループごとにディベートによる対戦を行なう。相互評価を実施するとともにディベートの進行も行なう。 [授業外学修] ディベートの評価方法について考えておく	
④	[テーマ] プレゼンテーション③(藤本) [内容] 前回の準備をもとにまとめたプレゼンテーションを実施する。相互評価を行なうための評価シートの作成を行なう。 [授業外学修] プレゼンテーションの準備、その評価の方法を考える。			⑫	[テーマ] シンポジウム①(藤本・坪井) [内容] シンポジウムを観察する。コーディネーター、シンポジストなどの役割を理解する。 [授業外学修] シンポジウムとはどのようなものか調べておく	
⑤	[テーマ] ディスカッション①(坪井) [内容] あらかじめ設定された課題をグループワークを通じて解決し、その解決のプロセスを分析する活動を行なう。 [授業外学修] これまでに学んだディスカッションの方法を確認する			⑬	[テーマ] シンポジウム②(藤本・坪井) [内容] シンポジウムを企画する。テーマの設定、役割分担、資料の収集など開催までの準備を行なう。 [授業外学修] シンポジウムのテーマをあらかじめ考えておく	
⑥	[テーマ] ディスカッション②(坪井) [内容] あらかじめ設定された課題をグループワークを通じて解決し、その解決のプロセスを分析し、その内容をプレゼンテーションする。 [授業外学修] これまでの学習内容を確認し、活動に生かす方法を確認する			⑭	[テーマ] シンポジウム③(藤本・坪井) [内容] シンポジウムを実際に行ってみる。その状況を観察し、評価、フィードバックを行なう。 [授業外学修] シンポジウムに対する評価の観点について考えておく	
⑦	[テーマ] ディスカッション③(坪井) [内容] ディスカッションを記録する方法を学ぶ。ホワイトボードの使用方法やメモの取り方について理解する。 [授業外学修] 自分がこれまでに行ってきた記録の方法を振り返る。			⑮	[テーマ] シンポジウム④(藤本・坪井) [内容] シンポジウムを行なう。できるだけ多くの聴衆を集めるように工夫する。 [授業外学修] 聴衆を効果的に集める方法、評価の観点について考えておく	
⑧	[テーマ] ディベート①(藤本) [内容] ディベートとはどのようなものなのかについて理解する。そのルールや必要とされる能力について理解する。 [授業外学修] ディベートとはどのようなものなのか調べておく			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
成績はディベート、シンポジウムなど実際に行われた活動に対する評価(60%)を実施する。さらに、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価(40%)を行なう。出席は、評価に加えず欠格条件とする。提出されたレポートは授業内で返却し、解説する						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進度により多少前後することがあります。 ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。
定期試験		—	—	—	—	
授業内レポート		◎	○	○	15%	
授業外レポート		◎	○	○	15%	
演習・実技		◎	○	◎	60%	
授業態度		○	○	○	10%	
出席		—	—	—	欠格条件	
関連科目	ヒューマンリレーション演習Ⅰ、実習Ⅱ				関連資格	
教科書	特に指定しない(必要な資料がある場合はその都度授業中に配布する)				参考書	特に指定しない(必要な資料がある場合はその都度授業中に配布する)
オフィスアワー	藤本:月2コマ/坪井:火3コマ				その他	藤本:F棟2階/坪井:A棟4階

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論演習A				担当教員	溝上拓志／栗木一博／石丸出穂／藤本晋也／坪井俊樹
	Technical Method of Sport Intelligence A (S.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	競技スポーツ現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツ活動や事業を推進・発展させるためには、素材となる情報(素材情報)を収集し、有用な情報(インテリジェンス情報)へと変換しなければならぬ。また変換された情報が効果的に活用されるためには、戦略的なフィードバックや発信が必要となる。本授業は競技スポーツ現場の実務経験を活かし、競技フィールド領域における情報戦略活動の考え方やスキルを実践的に学ぶ。						i、ii、iii
授業の一般目標						
素材情報をインテリジェンス情報に変換していく過程において、現場から必要とされる人物像や能力を知るとともに、情報を正確に扱うことを体験的に身につける。また、情報を戦略的かつ効果的に活用するための考え方やスキル(ソフトウェアを使用した収集・分析方法)を、演習活動を通して身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	競技フィールド領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、目的や意義を論理的に説明できる。				
■	情意的領域	競技フィールド領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、適切な情報を適切なタイミングで提供しようと心がける。				
■	技能表現的領域	競技フィールド領域における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、情報収集、分析、伝達の基本的スキルを身につけ実践できる。				
授業計画(全体)						
これまで学んできたスポーツ情報戦略活動を整理するとともに、競技フィールドで活動していくためにはどのようなスキルが必要になるのかを確認する。また、近年の情報分析活動で幅広く活用されている「スポーツコード(SC)」と「ダートフィッシュ(DF)」を実際に使用しながら、アカデミックパートナー協定を締結している在仙プロ球団もケーススタディとして取り上げ演習を繰り返す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(溝上、栗木、石丸、藤本、坪井) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法 [授業外学修] 「スポーツ情報戦略概論」を復習			⑨	[テーマ] SCを使用した情報戦略活動⑥(溝上、栗木、石丸、藤本、坪井) [内容] スポーツコードを使用した分析結果のプレゼンテーション [授業外学修] プレゼンテーション準備	
②	[テーマ] 競技フィールドにおけるスポーツ情報戦略活動とは(溝上) [内容] 競技フィールドで行う情報戦略活動(収集、分析、伝達)の流れを復習 [授業外学修] 収集、分析、伝達について復習			⑩	[テーマ] DFを使用した情報戦略活動①(溝上) [内容] ダートフィッシュを使用した情報収集と分析方法 [授業外学修] 素材映像を準備	
③	[テーマ] ソフトウェアを使用したスポーツ情報戦略活動の必要性(溝上) [内容] スポーツコードおよびダートフィッシュの概要と、ソフトウェアを使用して情報戦略活動を行うメリット・デメリット [授業外学修] 各分析ソフトの機能を復習			⑪	[テーマ] DFを使用した情報戦略活動②(溝上) [内容] ダートフィッシュを使用した分析計画 [授業外学修] 素材映像を準備	
④	[テーマ] SCを使用した情報戦略活動①(溝上) [内容] スポーツコードを使用した情報収集と分析方法 [授業外学修] 素材映像を準備			⑫	[テーマ] DFを使用した情報戦略活動③(溝上) [内容] ダートフィッシュの最新事例と分析内容の再計画 [授業外学修] 分析計画の見直し	
⑤	[テーマ] SCを使用した情報戦略活動②(溝上) [内容] スポーツコードを使用した分析計画 [授業外学修] 素材映像を準備			⑬	[テーマ] DFを使用した情報戦略活動④(溝上) [内容] ダートフィッシュを使用した専門競技の情報収集と分析 [授業外学修] 情報収集および分析作業を進める	
⑥	[テーマ] SCを使用した情報戦略活動③(溝上) [内容] スポーツコードの最新事例と分析内容の再計画 [授業外学修] 分析計画の見直し			⑭	[テーマ] DFを使用した情報戦略活動⑤(溝上) [内容] ダートフィッシュを使用した専門競技の情報収集と分析 [授業外学修] 情報収集および分析作業を進める	
⑦	[テーマ] SCを使用した情報戦略活動④(溝上) [内容] スポーツコードを使用した専門競技の情報収集と分析 [授業外学修] 情報収集および分析作業を進める			⑮	[テーマ] DFを使用した情報戦略活動⑥(溝上、栗木、石丸、藤本、坪井) [内容] ダートフィッシュを使用した分析結果のプレゼンテーション [授業外学修] プレゼンテーション準備	
⑧	[テーマ] SCを使用した情報戦略活動⑤(溝上) [内容] スポーツコードを使用した専門競技の情報収集と分析 [授業外学修] 情報収集および分析作業を進める			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
評価は、①分析ソフトの習熟度およびプレゼンテーション内容(80%)、②授業外レポート(20%)で行う。プレゼンテーション内容およびレポートについては、授業内で解説しフィードバックする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。 ・初回の授業で提示する2日間の集中講義に出席すること。 ・第1回講義で詳細を説明するため、無断欠席した学生には履修を認めない可能性がある。 	
定期試験				評価対象外		
授業内レポート				評価対象外		
授業外レポート				評価対象外		
演習・実技	◎	◎	◎	100%		
授業態度				減点あり		
出席				欠格条件		
関連科目	スポーツ情報マスメディア総論、スポーツ情報戦略概論、スポーツ情報戦略論演習B・C、スポーツ情報戦略論演習I・II			関連資格		
教科書	特に指定しない			参考書	授業時に参考資料を配布	
オフィスアワー	水曜日 10:20-11:50			その他	溝上研究室(第3体育館2階)	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論演習B				担当教員	藤本晋也/栗木一博/石丸出穂/坪井俊樹
	Technical Method of Sport Intelligence B(S.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	日本代表チームでの情報戦略(収集・分析)活動や地域スポーツ競技力向上及び普及活動の実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツ活動や事業を推進・発展させるためには、素材となる情報を収集し有用な情報へ変換しなければならない。また変換された情報が効果的に活用されるためには、戦略的なフィードバックや発信が必要となる。本授業では、実務経験から地域スポーツに焦点を当てて地域の組織的な情報戦略活動を演習を通じて、地域スポーツの振興に関わる多様な情報施策を体験するとともに活動全体として本質的な意義について考えられるように展開する。						i、iii、iv、v
授業の一般目標						
地域スポーツにおける情報戦略活動について、その必要性やあり方、役割等について体験を通じて学ぶとともに、個別性の高い現場で求められる情報戦略活動に必要な応用的スキルをより実践的に身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	地域スポーツの課題、社会的ニーズ、今日のおよび国際的動向などを事例を通して知る。				
■	情意的領域	地域スポーツ振興の意義や価値、あるべき姿について、本質的かつ創造的検討を加える視点や態度を身に付ける。				
■	技能表現的領域	地域スポーツの振興・発展に必要な方法論について学び、体験学習を通してその重要性や身に付けるためのスキルを理解する。				
授業計画(全体)						
日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略(収集・分析)活動また、地域スポーツの競技力向上及び普及活動による実務経験を活かし、地域スポーツにおける組織的な情報戦略活動の観点から演習を行う。各授業テーマに沿った資料を用いた講義を中心にすすめ、グループワークやレポートの発表等も行う。より理解を深めるための視聴覚教材も用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(藤本/栗木/石丸/坪井) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(4)(藤本) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～学校との接点～ [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
②	[テーマ] 地域とスポーツ(1)(藤本/栗木/石丸/坪井) [内容] 地域社会の構造とスポーツの役割 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑩	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(5)(藤本) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～健康との接点～ [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
③	[テーマ] 地域とスポーツ(2)(藤本/栗木/石丸/坪井) [内容] 地域におけるスポーツ活動の現状と課題 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑪	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(6)(藤本) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～福祉活動との接点～ [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
④	[テーマ] 地域とスポーツ(3)(藤本/栗木/石丸/坪井) [内容] 地域のニーズとスポーツ活動の今後 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑫	[テーマ] 地域スポーツ振興と制度(藤本) [内容] 地域スポーツの活性化と法的整備について考える [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
⑤	[テーマ] 地域とスポーツ(4)(藤本) [内容] 地域スポーツの本質的あり方 [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑬	[テーマ] 地域スポーツ振興と競技力向上(藤本/栗木/石丸/坪井) [内容] 国際競技力向上の観点から地域スポーツのあり方を考える [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
⑥	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(1)(藤本) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～住民の視点から～ [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑭	[テーマ] 地域スポーツ情報の未来(藤本/栗木/石丸/坪井) [内容] 地域スポーツ情報の将来について、さまざまな視点から検討を加える [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
⑦	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(2)(藤本) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～行政の視点～ [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑮	[テーマ] 学習者からの課題に答える(藤本/栗木/石丸/坪井) [内容] 学習者の意見や質問に対して、考え方や事例、あり方について答える [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる	
⑧	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(3)(藤本) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動～クラブの視点～ [授業外学修] 授業時に連絡する出題課題についてレポートをまとめる			⑯	[テーマ] 新たなテーマを設定(藤本/栗木/石丸/坪井) [内容] 学習者ひとりひとりが、「地域スポーツ情報」についての今後の学習課題を設定する [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
評価は、1)活動への貢献度(特に、グループワーク等における情報発信および情報共有)(50%)、2)授業内外レポート(30%)、3)アウトプット<総括レポート>(10%)、4)プレゼンテーション(10%)で行なう。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。提出されたレポートやプレゼンテーションの内容について、授業内で解説しフィードバックする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件) ・20分以上の遅刻は欠席とみなす ・授業計画は授業の進捗により変更することがある ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること ・本授業では、本質について考える態度を醸成するとともに、必要とされる考え方やスキル(目的を達成する能力)について学習します ・作成したデータが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する
定期試験		—	—	—	—	
授業内レポート		◎	○	◎	20%	
授業外レポート		◎	○	◎	20%	
演習・実技		◎	◎	◎	40%	
授業態度		○	○	○	20%	
出席		—	—	—	欠格条件	
関連科目	スポーツ情報戦略論演習C、スポーツ情報戦略論実習II				関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	参考書授業で紹介、または参考資料を配布
オフィスアワー	藤本:月10:20～11:50				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論演習C				担当教員	栗木一博/石丸出穂/藤本晋也/坪井俊樹
	Technical Method of Sport Intelligence C (S.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>スポーツ活動や事業を推進発展させるためには、素材となる情報を収集し、有用な情報へと変換しなければならない。またその情報が効果的に活用されるためには、戦略的な発信やフィードバックが必要となる。本授業では、具体的なスポーツ情報戦略活動に焦点を当て、国際競技力向上や地域スポーツの推進に資する情報の取り扱いについて身近な事例によるシミュレーションを行いな</p>						ii、iii、iv
<p>授業の一般目標</p> <p>スポーツ情報戦略活動を身近な事例から理解し、実際に活動を企画・立案、評価までを行うことができる能力を身につける。</p>						
<p>授業の到達目標</p>						
■	認知的領域	スポーツ情報戦略活動における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、その考え方や意義を論理的かつ体系的に説明できる。				
■	情意的領域	スポーツ情報戦略活動における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、その対象に対して適切な情報コミュニケーションを図ろうと心がけることができる。				
■	技能表現的領域	スポーツ情報戦略活動における情報の有効かつ戦略的な取り扱いについて、その実践的な情報収集・整理・管理・分析・加工・総合・提供の基本的スキルを身につける				
<p>授業計画(全体)</p> <p>本授業では、はじめに国内外のスポーツと情報の関わりについて解説する。次に、具体的な状況設定に基づく情報運用事例を検討する。その後、履修者グループによるプロジェクトを立ち上げ、実践的に情報運用を体験する。</p>						
<p>授業計画(各回のテーマ等)</p>						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] オリエンテーション(栗木・石丸・藤本・坪井)</p> <p>[内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法、担当教員の紹介を行う。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>			⑨	<p>[テーマ] ケーススタディー③(栗木・坪井)</p> <p>[内容] スポーツにおける情報戦略活動の評価のシミュレーションを行う。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>	
②	<p>[テーマ] スポーツにおける情報戦略活動①(栗木)</p> <p>[内容] 国内のスポーツ政策において情報が果たしてきた役割について情報戦略の観点から解説する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>			⑩	<p>[テーマ] ケーススタディー④(栗木)</p> <p>[内容] スポーツにおける情報戦略活動のシミュレーションを行い、それをレポートにまとめる活動を行う。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>	
③	<p>[テーマ] スポーツにおける情報戦略活動②(栗木)</p> <p>[内容] 海外のスポーツ政策において情報が果たしてきた役割について情報戦略の観点から解説する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>			⑪	<p>[テーマ] ケーススタディー⑤(栗木)</p> <p>[内容] スポーツにおける情報戦略活動のシミュレーションを行い、それをレポートにまとめたものをプレゼンテーションする。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>	
④	<p>[テーマ] スポーツにおける情報戦略活動③(栗木)</p> <p>[内容] 地域のスポーツ政策において情報が果たしてきた役割について情報戦略の観点から解説する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>			⑫	<p>[テーマ] プロジェクトワーキング①(栗木)</p> <p>[内容] スポーツ情報戦略実習Ⅱにおいて情報戦略活動を行った事例を概観し、その活動を評価する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>	
⑤	<p>[テーマ] スポーツにおける情報戦略活動④(栗木)</p> <p>[内容] スポーツ政策の「企画・立案」にかかわる情報運用事例を検討する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>			⑬	<p>[テーマ] プロジェクトワーキング②(栗木・藤本)</p> <p>[内容] スポーツ情報戦略実習Ⅱにおいて情報戦略活動を行った事例を概観し、その活動を評価する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>	
⑥	<p>[テーマ] スポーツにおける情報戦略活動⑤(栗木)</p> <p>[内容] スポーツ政策の「評価」にかかわる情報運用事例を検討する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>			⑭	<p>[テーマ] プロジェクトワーキング③(栗木・坪井)</p> <p>[内容] スポーツ情報戦略活動を実際に企画・立案し、その評価方法についてまとめる活動を行う。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>	
⑦	<p>[テーマ] ケーススタディー①(栗木・藤本)</p> <p>[内容] スポーツにおける情報戦略活動の事例を収集し、内容を精査する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>			⑮	<p>[テーマ] 総括プレゼンテーション(栗木・石丸・藤本・坪井)</p> <p>[内容] 本授業で学んだことを総括する。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>	
⑧	<p>[テーマ] ケーススタディー②(栗木・石丸)</p> <p>[内容] スポーツにおける情報戦略活動に対する評価方法に関する討論を行う。</p> <p>[授業外学修]授業時に連絡</p>			⑯	<p>[テーマ]</p> <p>[内容]</p> <p>[授業外学修]</p>	
<p>成績評価方法(方針)</p> <p>評価は①プロジェクトワーキングに対する貢献度(発言、情報提供、役割遂行、プレゼンテーションなど)(50%)、②授業内レポート(30%)、③アウトプット(プロジェクトワーキングの制作物)(20%)とする。提出されたレポートは授業内で解説をしてから返却する。</p>						
				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・3分の2以上の欠席は欠格条件とし、評価の対象から除外します。
定期試験						
授業内レポート		◎		◎	30%	
授業外レポート		◎		◎	20%	
演習・実技		○	◎	○	50%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツ情報戦略論、スポーツ情報戦略論演習A、B、スポーツ情報戦略論実習Ⅰ、Ⅱ、スポーツ起業論				関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論実習 I				担当教員	石丸・栗木・藤本・坪井・溝上
	Technical Method of Sport Intelligence I (F.E.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	実務経験の有無	バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する スポーツ情報戦略活動(後方支援)の実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
本実習では、あるスポーツ種目の大会において、バレーボール日本代表アナリストの実務経験を活かして学生たちに様々な現場での体験を提供し、スポーツ情報戦略活動を実践的に経験、当該活動の肌感覚を体感するとともに、個人の間力を高め、実習終了後にこれから何を学ぶ必要があるかを理解する。						ii、iv
授業の一般目標						
本実習は、競技フィールド系、地域スポーツ系、政策支援系の3つの活動のいずれかを行い、それぞれ技術統計を用いて次のステージへ前進するための気づきや課題を促す資料の提供を行うこと、専門的情報にとどまらず様々な視点からの情報を通し競技者と観戦者を繋げこれからのスポーツについて考えてもらえること、スポーツ活動がさらに推進されることを目指した次回の大会のコンセプトを提案すること、等を目指とする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	情報を戦略的かつ効果的に扱う目的やその意義を、現場に即して説明できる。				
■	情意的領域	自らの興味関心や資質が明らかになるとともに、自身にとっての課題が整理される。				
■	技能表現的領域	自身が志向する情報戦略活動に求められるスキルを身につける。				
授業計画(全体)						
試合ごとのスタッツ(技術統計記録)、大会総括としてテクニカルレポート(大会報告書)を作成し、関係者へフィードバックする(競技フィールド系)。現場のスタッフや応援席からのメッセージを集めそれを大会期間中、閲覧できるようにする(地域スポーツ系)。今回の大会運営や参加チーム、観客をモニター(観察、ヒアリングなど)する。また、必要に応じてスポーツに関わる一般情報やスポーツに関わる情報も収集し、提案作成に活用する(政策支援系)。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修] 「スポーツ情報戦略概論」を復習しておく				⑨	[テーマ] オンライン活動<3>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学修] メンバーと協力しながら作業を進めておく
②	[テーマ] 実習活動基礎<1>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 各実習先における情報戦略活動の位置づけ(情報戦略活動の構造) [授業外学修] 昨年度の報告書等、熟読しておく				⑩	[テーマ] オンライン活動<4>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学修] メンバーと協力しながら作業を進めておく
③	[テーマ] 実習活動基礎<2>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習先とのコミュニケーションに関わるリテラシー [授業外学修] 昨年度の報告書等、熟読しておく				⑪	[テーマ] オンライン活動<5>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学修] メンバーと協力しながら作業を進めておく
④	[テーマ] 実習活動基礎<3>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 求められるドキュメンテーション&プレゼンテーションとは何か [授業外学修] 昨年度の報告書等、熟読しておく				⑫	[テーマ] 事後活動(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 策定された計画に基づき、実習活動を総括し、ドキュメンテーションを作成する。また、実習先との事後連絡を完結させる。 [授業外学修] 報告書等アウトプット作成を行う
⑤	[テーマ] 事前活動<1>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 各実習対象に合わせた個別の実習計画を策定。策定された計画に基づき、各種準備や実習先とのコミュニケーションを実施する。 [授業外学修] 役割分担された作業を行っておく				⑬	[テーマ] プレゼンテーション<1>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習で得られた知見を、ドキュメンテーションの配布とプレゼンテーションにより共有する。実習活動に関する相互評価を実施する。 [授業外学修] 報告書等アウトプット作成とプレゼン準備を行う
⑥	[テーマ] 事前活動<2>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 各実習対象に合わせた個別の実習計画を策定。策定された計画に基づき、各種準備や実習先とのコミュニケーションを実施する。 [授業外学修] オンライン活動で必要な道具を準備しておく				⑭	[テーマ] プレゼンテーション<2>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習で得られた知見を、ドキュメンテーションの配布とプレゼンテーションにより共有する。実習活動に関する相互評価を実施する。 [授業外学修] 報告書等アウトプット作成とプレゼン準備を行う
⑦	[テーマ] オンライン活動<1>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学修] メンバーと協力しながら作業を進めておく				⑮	[テーマ] 振り返りと総括(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習活動全体を振り返り、成果を評価するとともに、自身の課題を整理する。 [授業外学修] 学生相互評価について、メンバーの活動内容を整理しておく
⑧	[テーマ] オンライン活動<2>(石丸、栗木、藤本、坪井、溝上) [内容] 実習先での活動を実施する(実施日時は適宜調整)。 [授業外学修] メンバーと協力しながら作業を進めておく				⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)						
評価は、1)実習活動(50%)、2)授業内外ミニレポート(30%)、3)アウトプット<ドキュメンテーション>(10%)、4)プレゼンテーション(10%)で行なう。活動の過程については教員の観察に基づく評価を行なう。提出された報告書は、相互理解を深める為のディスカッションを行いながら解説する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験						・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 この実習 I の対象学生は原則「スポーツ情報戦略概論」を受講した学生を前提としている。また2泊3日の宿泊を含む実習である。宿泊料金も個人負担となる。よりリアルな情報戦略活動を経験してもらうための実習であることを理解する。(実習中の他の授業に対しては欠席届で対応)詳しい内容は、最初のオリエンテーションで説明。オリエンテーションに出席できない学生は履修出来ない可能性があるため、希望者は必ず出席すること。質問がある学生は下記まで連絡すること。
授業内レポート		◎		◎	20%	
授業外レポート		◎		◎	20%	
演習・実技		◎	◎	◎	50%	
授業態度			◎		10%	
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツ情報マスメディア総論、スポーツ情報戦略概論、スポーツ情報戦略論演習A、B、C、スポーツ情報戦略論実習 II				関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	石丸研究室(E棟2階) 水曜日 10:20-11:50				その他	石丸:iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ情報戦略論実習Ⅱ Technical Method of Sport IntelligenceⅡ(F.E.)			担当教員	栗木一博・石丸出穂・藤本晋也・坪井俊樹	
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実習	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
グローバルな視点からスポーツの推進にかかわる情報を扱うことを実践的に学ぶとともに、将来のキャリアに対する結節点を自ら作り出すことをねらいとして実習を展開する。					ii、iii、iv	
授業の一般目標						
卒業のキャリアで目指す職場を経験する中で、スポーツ情報を扱う人材に求められる「資質」や「能力」、[スキル]、「人物像」を体験的に知るとともに、実習後のコミュニケーションが可能な人間関係を構築する。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	スポーツ情報を扱う人材に求められる「資質・能力・スキル・人物像」を知る。					
■ 情意的領域	現場で、そこで働く人々と純粋に努力することができる。					
■ 技能表現的領域	現場体験を通じて情報を扱う感覚や大事なポイントを把握し、体現することができる。					
授業計画(全体)						
受講者一人一人が現場に出て活動を行う。当該現場で業務に従事する人に密着し、多様な状況におけるその人物の行動や仕事に対する姿勢などを注意深く観察する。事前に活動の計画書を準備し、現場ではその枠組みに沿ってインタビューなどを行い人物像や仕事の内容を理解する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法、教員の紹介などを行う。 [授業外学修]授業時に連絡			⑨	[テーマ] オンサイト活動② [内容] 各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学修]授業時に連絡	
②	[テーマ]スポーツ情報戦略の仕事①<競技フィールド系> [内容] スポーツ情報を扱う仕事(業務内容な就職など)の現状について学ぶ [授業外学修]授業時に連絡			⑩	[テーマ] オンサイト活動③ [内容] 各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学修]授業時に連絡	
③	[テーマ]スポーツ情報戦略の仕事②<地域スポーツ系> [内容] スポーツ情報を扱う仕事(業務内容な就職など)の現状について学ぶ [授業外学修]授業時に連絡			⑪	[テーマ] オンサイト活動④ [内容] 各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学修]授業時に連絡	
④	[テーマ]スポーツ情報戦略の仕事③<政策支援系> [内容] スポーツ情報を扱う仕事(業務内容な就職など)の現状について学ぶ [授業外学修]授業時に連絡			⑫	[テーマ] オンサイト活動⑤ [内容] 各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学修]授業時に連絡	
⑤	[テーマ] 事前準備ワーキング① [内容] 実習活動に入るための事前準備を行う。 [授業外学修]授業時に連絡			⑬	[テーマ] プレゼンテーションとディスカッション① [内容] オンサイトワーキングに関する報告プレゼンテーションを行い、それぞれの知見について討議する。 [授業外学修]授業時に連絡	
⑥	[テーマ] 事前準備ワーキング② [内容] 実習活動に入るための事前準備を行う。 [授業外学修]授業時に連絡			⑭	[テーマ] プレゼンテーションとディスカッション② [内容] オンサイトワーキングに関する報告プレゼンテーションを行い、それぞれの知見について討議する。 [授業外学修]授業時に連絡	
⑦	[テーマ] 事前準備ワーキング③ [内容] 実習活動に入るための事前準備を行う。 [授業外学修]授業時に連絡			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本授業で学んだことを振り返る。 [授業外学修]授業時に連絡	
⑧	[テーマ] オンサイト活動① [内容] 各自がそれぞれの実習先に出向いて3日間の活動を行う。 [授業外学修]授業時に連絡			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
実習での成果(50%)、授業外レポート(25%)、授業態度(25%)、などを基に、総合的に成績評価を行う。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は単位を修得することができない(欠格条件)。提出されたレポートは授業内でプレゼンテーションを行い、質疑応答する。						
				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 事前計画の段階から授業の中に含まれると考えること。 事前の準備やシミュレーションが頻繁に行われるので、それを含めて評価の対象となることを念頭に置くこと。
定期試験					30%	
授業内レポート		◎		◎	20%	
授業外レポート		◎		◎	20%	
演習・実技		○	◎	○	50%	
授業態度						
出席						
関連科目	スポーツ情報戦略論、スポーツ情報戦略論演習A、B、C、スポーツ情報戦略論実習Ⅰ、スポーツ起業論			関連資格		
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない	
オフィスアワー	前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ報道概論				担当教員	佐藤修
	Introduction to Sports Journalism (L.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	民放テレビ現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業は新聞、テレビ、Webなどのメディアでスポーツ報道がどのように行われ、どんな役割効果と問題を呈しているか読み解き、様々な例を紹介し、スポーツ報道の原点を立体的に講義するものである。						i
授業の一般目標						
実際のスポーツ報道がどのように行われているかといった基本、仕組みを知り、制作者の目線、読者・視聴者目線の両方から読み解いていく。特に取材者が表現に当たって抱える課題を整理し、自分が記者として現場で取材する場合の心構え・思考能力を身に付ける。						
■	認知的領域	スポーツ報道の現状を知り現場で何が行われ、どう行動するか理解できるようになる				
■	情意的領域	それぞれのスタッフの役割を知り、何が大変で問題か？どう行動すべきか理解し自身が取り組む際の考え方を整理できる				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
テキストは毎回その直前に報じられたスポーツ報道。パワーポイント、映像ビデオを多用し具体的な例を提供し、講義やディスカッションを通し多角的に表現の方法論や問題点を明らかにする。直近のスポーツ報道を扱うことからシラバス通りに進行しない場合もある。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション スポーツ報道とは [内容] シラバス・授業の進め方紹介 & スポーツ報道の歴史と読者・視聴者 [授業外学修] できる限り多くのスポーツ報道に触れる				⑨	[テーマ] スポーツ報道における見出しと本記 [内容] 見出し・記事から記者が何処に焦点を当てたか論じる [授業外学修] 見出しから意味するものを考える
②	[テーマ] スポーツ報道のポジションと影響力 [内容] スポーツ報道の受け取られ方を検証 [授業外学修] スポーツが伝えるものは何？各自の考えを問う				⑩	[テーマ] スポーツ報道と映像 [内容] スチール・ムービーその撮影と編集、映像表現の意味と効果を考える [授業外学修] 映像表現の違いを考える
③	[テーマ] スポーツ報道の現状と問題 [内容] 事例分析①スポーツ報道の視点・目線 [授業外学修] スポーツが伝えるものは何？各自の考えを問う				⑪	[テーマ] 事例研究①新聞雑誌 [内容] スポーツ報道における印刷媒体の効果・優位点考える [授業外学修] 新聞雑誌を読み印刷媒体のスポーツ報道の実際を知る
④	[テーマ] スポーツ報道の約束事 [内容] スポーツシーンが紙面・放送されるまで [授業外学修] スポーツは権利の塊 スポーツの権利とは何か考えておく				⑫	[テーマ] 事例研究②テレビ [内容] スポーツ報道(番組)の実際と影響力を考える [授業外学修] テレビで伝えるスポーツをできるだけ視聴する
⑤	[テーマ] 記者・ディレクターの仕事と視点①スポーツ現場 [内容] 現場の仕事と視点の理解からスポーツ報道を考える [授業外学修] 記事・番組ごとの表現の違いを見つける				⑬	[テーマ] 事例研究③インターネット・ニューメディア [内容] 新しい媒体でのスポーツ報道の実際と問題を考える [授業外学修] Webで伝えられるスポーツ報道に触れてみる
⑥	[テーマ] 記者・ディレクターの仕事と視点②着地点 [内容] 仕事の仕方、視点の違いでスポーツ報道は印象を変える その違いは何か考る [授業外学修] 同じ内容から表現の違いを見つけ論じる				⑭	[テーマ] スポーツ報道の未来 [内容] 新聞・テレビ離れの中でスポーツ報道の未来について考える [授業外学修] スポーツ報道と読者・視聴者の温度差の理由を考える
⑦	[テーマ] デスク・プロデューサーの仕事と視点① [内容] スポーツ現場と読者・視聴者の向き合い方を学ぶ [授業外学修] 各社の違いを見つけ、何で違いが生じたか考えておく				⑮	[テーマ] スポーツ報道概論総括ディスカッション [内容] どうすればスポーツ報道が多くの人に受け入れられるか考える [授業外学修] ディスカッションの準備
⑧	[テーマ] デスク・プロデューサーの仕事と視点② [内容] デスク・プロデューサーの具体的な仕事を考える [授業外学修] 記者一人で報道できないことを知る				⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・各自の考え方の深化・整理の度合いをテスト [授業外学修] 復習と各自の考え整理
成績評価方法(方針)						
試験は期末テスト1回実施(評価割合は60%)授業内意見発表・レポート(評価割合40%)で総合評価。試験については(授業内で)解説をしなから返却する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験		◎			60%	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・多くのスポーツに接する。スタジアム観戦が最良だがテレビ視聴でも ・スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) ・自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする ・シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある
授業内レポート					20%	
授業外レポート		◎			20%	
演習・実技					評価対象外	
授業態度			○		評価対象外	
出席					欠格条件	
関連科目	メディア関連の必修科目すべて				関連資格	
教科書	特になし 日々の新聞・テレビが伝える報道内容が授業素材				参考書	スポーツ・ジャーナリズムを語る(玉木正之著)
オフィスアワー	(佐藤修研究室E棟2階)				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	マスメディアジャーナリズム理論 Mass Media and Journalism Studies			担当教員	日下三男/佐藤修/佐々木鉄男	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	新聞社、放送局での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
ジャーナリズムとメディアの理論概念を講義する。新聞、放送、インターネットの特徴を説明し、今日のメディアの在り方をメディアでの実務経験を生かしながら解説する。					i、iv、v	
授業の一般目標						
マスメディアとジャーナリズム研究の基本概念とは何かを知り、そのほかにコミュニケーション理論、ジャーナリズムの倫理観などについても修得する。メディアを批判的な視点から思考する能力を身に付ける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる				
■	情意的領域	マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業ごとに課題と感想文を授業内レポートとして提出させることおで、理解度と授業参加度を確認する。また、オープンな形で学生との意見交換と議論の時間も設け、世代間ギャップを超えた対等的な立場からコミュニケーションを図る。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(日下) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスと成績評価の説明 [授業外学修]シラバスを事前に読んでおく			⑨	[テーマ] 放送の公共概念と公共放送(佐々木) [内容] メディアの公共的役割と、公共放送の実態と規範を講義する [授業外学修]日本の公共放送について調べる	
②	[テーマ] ジャーナリズムは戦争を防げるか(日下) [内容] ナショナリズムとジャーナリズムの関係性を説く。「9条」の言説を考える [授業外学修]「戦争」「新聞」「憲法」の関連性を調べる			⑩	[テーマ] 雑誌ジャーナリズムの現状(日下) [内容] 「田中角栄研究」「疑惑の銃弾」から「文春砲」に至るまでの経緯と課題 [授業外学修]「文藝春秋」「週刊文春」を調べる	
③	[テーマ] 権力監視こそジャーナリズムの責任である(日下) [内容] 調査報道による権力監視はどこまで可能か。権力との距離感を探る [授業外学修]優れた調査報道を調べておく			⑪	[テーマ] メディアリテラシーを考える(日下) [内容] 今後の行方と効果を探る [授業外学修]NIEにみるメディアリテラシーの実態を調べる	
④	[テーマ] ジャーナリズムと人権思想(日下) [内容] 犯罪報道と人権を主題に、匿名報道、勧善懲悪、正義感などを考える [授業外学修]報道被害の実例を調べる			⑫	[テーマ] グローバルとローカル(日下) [内容] 東京紙と地方紙、世界と地域をジャーナリズムはどう捉えるか? [授業外学修]一般紙の論調の違いを理解する	
⑤	[テーマ] 世論を問う(日下) [内容] 「世論を作る」「世論を操る」「世論に溺れる」「キャンペーン」の危険性とは何かを解説する [授業外学修]「世論調査」「アンケート」の意味を調べる			⑬	[テーマ] 客観報道と署名記事(日下) [内容] 客観報道の歴史を踏まえ、署名記事の役割とは? 一方で無署名の社説・1面コラムはどうあるべきなのか [授業外学修]署名記事と発表ジャーナリズムの異なる点を調べる	
⑥	[テーマ] 記者クラブ制度は善か悪か(日下) [内容] 記者クラブの実態把握と共に、是非論を講義し討議する [授業外学修]記者クラブの是非論を調べておく			⑭	[テーマ] 新聞はこんなにも違う(日下) [内容] 記事について、各紙の論調をグループごとにディスカッションする [授業外学修]新聞を読み込んでくる	
⑦	[テーマ] メディア不信とは何か(日下) [内容] 「フェイク」が一人歩き、劣化する既存メディアへの信頼性が損なわれている。危機に瀕するジャーナリズムの現状を解説する [授業外学修]フェイクチェックの実態を探る			⑮	[テーマ] 民主主義の未来とジャーナリズム(日下) [内容] ネットを含めた情報の氾濫のなかでメディアの「この先」を予測する [授業外学修]ネットジャーナリズムの将来性を考えておく	
⑧	[テーマ] 放送メディアを考える(佐藤) [内容] 誕生の歴史的経緯と社会的意味を探る [授業外学修]身近な放送メディアの歴史を調べる			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
期末試験(80%)、授業内レポート(20%)。レポート等は提出の翌週に授業内で解説しながら返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・配布資料を持参し、ノートをとること
定期試験		○			80%	
授業内レポート		○	○		20%	
授業外レポート						
演習・実技					評価対象外	
授業態度					評価対象外	
出席					欠格条件	
関連科目				関連資格		
教科書	特に指定しない			参考書	新聞を中心に授業で紹介し、関連資料を配布する	
オフィスアワー	日下=木曜10:20~11:50			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ報道・映像制作論 Sports Journalism & Broadcasting (L.)			担当教員	佐々木鉄男
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	民放テレビ現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業ではメディアのスポーツ報道で求められる映像の価値、映像取材・編集の意味・方法、映像分析など映像制作における表現手法と問題を講義する。					i
授業の一般目標					
スポーツ報道は映像で表現すると極めてわかりやすい。この科目では映像のプロの仕事を理解し、良い映像か不十分な映像かを判断できるよう映像の基礎を学ぶ。ただし映像を撮影する技法を身につけ映像カメラマンのプロを目指すものではない。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ報道における映像の持つ意味を理解し説明できる			
■	情意的領域	スポーツ映像の撮影で自分がカメラマンならこのように撮影したいと意見が言える			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
スポーツ報道の中の映像に焦点を当てその具体的な方法論・手法を講義。映像の役割を具体例をビデオで確認しながらそれぞれの場面に応じた現状の問題を明らかにしていく。手法と映像価値を理解することで次の段階で自らコンテンツを作る際の基礎とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション「スポーツ映像はどの様に伝えられるか」 [内容] 担当教員紹介と授業の進め方、シラバス、成績評価を説明 [授業外学修] 常にスポーツ映像がどの様に報じられているか注意払う			⑨	[テーマ] スポーツ番組の映像手法 [内容] 番組制作時に検討する映像内容を考える [授業外学修] スポーツ番組の良い映像足りない映像を考える
②	[テーマ] 取材者・表現者のスタンス [内容] 熱心なファンとプロの映像記者の境界線 その違いから映像の仕事を知る [授業外学修] 好きで見るとは伝えない視点を考えて見る習慣を作る			⑩	[テーマ] スポーツ表現①映像の中の文章 [内容] 映像の中にも文章がある 映像と文章の関係を知り、考察する [授業外学修] 文章を映像にするにはどうするかを考える
③	[テーマ] スポーツを伝える①映像取材:見る、知る、探す [内容] 映像取材の基本を知り・考える [授業外学修] 新聞テレビで紹介されたニュースから取材現場・方法を考える			⑪	[テーマ] スポーツ表現②映像と言葉 [内容] 映像の中の言葉を考える [授業外学修] 言葉を補う映像表現の世界を意識する
④	[テーマ] スポーツを伝える②撮影取材現場の問題 [内容] 民放現場での実務経験を活かし、映像取材現場でつきものアクシデントをどう乗り越えるかを指導する [授業外学修] その時自分ならどんな行動を取るかシミュレーションしておく			⑫	[テーマ] スポーツ表現③映像の独り言 [内容] 映像が語る世界のインパクト [授業外学修] 言葉以上に説得力のある映像を探す
⑤	[テーマ] スポーツを伝える③映像表現の境界線 [内容] 取材した映像を何処まで、どんな手法で表現して良いか考える [授業外学修] 疑問に思ふ伝え方をチェックしておく			⑬	[テーマ] スポーツ表現④映像構成編集の力 [内容] 単純に並べる映像表現から意図を持った順番で編集することで説得力が向上することを学ぶ [授業外学修] スポーツドキュメンタリーを見る
⑥	[テーマ] スポーツを伝える④様々な映像表現手法 [内容] 一つの事象も映像表現の撮影の視点・方法は無数 映像表現の実際を考える [授業外学修] いくつもの表現の切り取り方と表現手法を考える			⑭	[テーマ] スポーツ報道映像の光と影 [内容] 興行権著作権と映像取材の問題について [授業外学修] 身の回りの著作権について調べておく
⑦	[テーマ] スポーツを伝える⑤スポーツ映像を考える(評論) [内容] 判れば良い映像から映像が伝えるスポーツ評論までを考える [授業外学修] 色々な考え方があることを知る			⑮	[テーマ] 新しいメディアと映像 [内容] 未来のスポーツ映像報道の問題をディスカッション [授業外学修] Web界のスポーツ映像の状況を知り整理しておく
⑧	[テーマ] スポーツ中継の手法 [内容] 様々なスポーツの伝え方の中から中継の仕組み問題を読み解く [授業外学修] 前週末のスポーツテレビ中継を見る			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、各自の考え方の深化・整理度合いをテスト [授業外学修] テストに備え復習と各自考えの整理
成績評価方法(方針)					
試験は期末テスト1回実施(評価割合は60%)授業内外意見発表・レポート(評価割合40%)で総合評価。試験については(授業内で)解説をしながら返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート			○		20%
授業外レポート		○			20%
演習・実技					評価対象外
授業態度					評価対象外
出席					欠格条件
関連科目	メディア関連のコース必修科目全て				関連資格
教科書	必要に応じプリントを配布				参考書
オフィスアワー	佐々木鉄男研究室E棟2階 月曜10:20～12:20				その他
					tt-sasaki@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ取材・報道演習A				担当教員	日下三男・佐藤修
	Sports Reporting and Writing A(S.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	新聞社、放送局で実務経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
マスメディアの中で最も歴史がある新聞報道の特徴などについて記者経験を基にして講義を行う。日本の新聞の構成と内容、さらにスポーツニュースの特徴についても説明する。その後、スポーツの試合とスポーツシンポジウムを実際に取材したうえで記事執筆を指導する。						i、iv、v
授業の一般目標						
新聞がどう構成され、その内容はどうなっているのかなど、新聞の特徴や特性を知ることができる。また、スポーツ記事については日本の一般紙、スポーツ紙を分析するなどして特徴が理解できる。さらにスポーツの試合などを実際に取材して記事を書き、創造性、独自性を磨く。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	新聞がどう構成され、それぞれの面の記事の特徴は何かを説明出来る。スポーツ面については客観性をもって読むことができる。				
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	新聞を身近なメディアとして捉えられるようになる。				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
大きく三つに分け①授業テーマに沿った資料を用いた演習②理解度・到達度を確認するためにスポーツ取材をし記事を提出させる③スポーツシンポジウム等取材し記事を提出させる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること				⑨	[テーマ] 執筆② [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学修]記事を完成させる
②	[テーマ] 新聞の内容と構成 [内容] 全国紙、地元紙を読み比べながら、それぞれの特徴を説明する [授業外学修]少なくとも一紙を読んでその新聞の特徴をまとめてくる				⑩	[テーマ] 執筆③ [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学修]記事を完成させる
③	[テーマ] 新聞の社説とコラム [内容] 新聞の社説とコラムについて講義する [授業外学修]社説とコラムをそれぞれ一つ読んで感想をまとめる				⑪	[テーマ] 発表 記事提出 [内容] 完成した記事を発表し提出する [授業外学修]記事を完成させる
④	[テーマ] 新聞の社会面 [内容] 全国紙、地元紙の社会面を読んで紙面や記事を分析してもらう [授業外学修]社会面の特集記事を読んで感想をまとめる				⑫	[テーマ] スポーツシンポジウム取材 準備 [内容] イベント取材の基本的な方法などのレクチャーを受けて準備をする [授業外学修]スポーツイベントの記事を読んてくる
⑤	[テーマ] 新聞のスポーツ面 [内容] 全国紙、地元紙のスポーツ面を読んで紙面や記事を分析してもらう [授業外学修]スポーツ面の特集記事を読んで感想をまとめる				⑬	[テーマ] スポーツシンポジウム取材 [内容] スポーツシンポジウムを実際に取材する [授業外学修]スポーツイベントの記事を読んてくる
⑥	[テーマ] スポーツ取材の準備 [内容] スポーツ取材の基本的な方法などをレクチャーする [授業外学修]スポーツ中継を見てくる				⑭	[テーマ] 執筆① [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学修]記事を完成させる
⑦	[テーマ] スポーツ取材 [内容] スポーツの試合を実際に取材する [授業外学修]スポーツ中継を見てくる				⑮	[テーマ] 執筆② [内容] 取材した内容を記事にする [授業外学修]記事を完成させる
⑧	[テーマ] 執筆① [内容] 取材した内容を記事にするにあたり、基本的な手法を指導する [授業外学修]記事を完成させる				⑯	[テーマ] 発表 記事提出 [内容] 完成した記事を発表し提出する [授業外学修]記事を完成させる
成績評価方法(方針)						
授業外レポート(評価割合80%)、授業内レポート(20%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは解説をしながら返却する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・スポーツ取材の現場に実際に踏み込むので、該当競技の知識を蓄えておくこと。
定期試験						
授業内レポート		◎	◎		20%	
授業外レポート		◎	◎		80%	
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	メディアコース関連必須科目全て				関連資格	
教科書	特になし				参考書	特になし
オフィスアワー	日下=木10:20~11:50 (齋藤)=月12:40~14:10				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ取材・報道演習 B			担当教員	佐々木鉄男/佐藤修
	Interview & Report B(S.)				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	民放現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>本授業はスポーツ報道について学習してきた講義・実習を基にビデオ映像を用いたスポーツ報道を追体験するものである。数人のグループで協力し放送素材を作り上げる中で問題点を確認する。</p>					i、iv、v
授業の一般目標					
<p>演習はニュース素材とミニ企画をグループで協力し作り上げるが、情報収集から撮影編集まで無から有を作り出す面白さを体験すると共にコンテンツを作る問題点の再確認を行い映像を使用してスポーツのすばらしさを伝える手法を理解表現する。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	各自が考える表現を可能にする知識を習得し自由に使う知識を持つ				
■ 情意的領域	よりわかりやすく見る人を引きつける様々なアイデア・工夫が出来る				
■ 技能表現的領域	作品制作に使うカメラ、編集機の扱いを理解し各自が思う表現を可能にする知識を習得				
授業計画(全体)					
<p>数人のグループ間で何を取材するかを検討、機材のやりくりから取材先のアポイントメント編集方針の確認と具体的作業を通してスポーツを映像で伝える初歩を体験しできあがりの素材の問題点を全体で確認する。授業を通しての制作過程はポートフォリオにまとめ提出する。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価方法、情報集めを考える [授業外学修] スポーツ情報に関心を持ち表現したい素材を考えておく</p>			⑨	<p>[テーマ] 作品合評① [内容] 表現の切り口、内容を合評 他の表現方法無いかも検討 [授業外学修] 他のチームの作品を自分なら如何表現するか考える</p>
②	<p>[テーマ] 演習の準備① 取材機材の操作確認 [内容] カメラ操作の基本と撮影の実際を機材を使用し学ぶ [授業外学修] テレビのニュース映像を「どんな映像」を使っているか意識する</p>			⑩	<p>[テーマ] 演習「ミニ企画」とは [内容] テーマを考えミニ企画で描く世界を話し合う、取材先に許可取る [授業外学修] ストレートニュースとは違う企画ニュースを放送の中で調べる</p>
③	<p>[テーマ] 演習の準備② 編集機材の操作確認 [内容] 編集の実際を編集機を実際操作し学ぶ [授業外学修] ニュース映像がどんなつながりで表現されているか注意する</p>			⑪	<p>[テーマ] 企画ニュース取材① [内容] どのように描くか検討。現場打ち合わせと実際の取材活動 [授業外学修] 取材情報を共有し担当教員にアドバイスを受ける</p>
④	<p>[テーマ] 情報収集と自分のテーマ作り [内容] 情報を整理し伝えたい内容の話し合い [授業外学修] 情報内容の精査と周辺情報に注意を払う</p>			⑫	<p>[テーマ] 企画ニュース取材② [内容] どのように描くか検討。現場打ち合わせと実際の取材活動 [授業外学修] 取材情報を共有し担当教員にアドバイスを受ける</p>
⑤	<p>[テーマ] 取材①ニュース [内容] スポーツ現場に出て当日の流れを確認し取材に入る [授業外学修] 放送されているスポーツニュースを数多く見てポイントを整理</p>			⑬	<p>[テーマ] 作品まとめ作業①どのように表現するか [内容] 構成を考え原稿を書き、編集する [授業外学修] 何も知らない他人に説明できているか問いかける</p>
⑥	<p>[テーマ] 取材①ニュース [内容] スポーツ現場に出て当日の流れを確認し取材に入る [授業外学修] 取材をイメージし想定取材を頭に描く</p>			⑭	<p>[テーマ] 作品まとめ作業②仕上げ作業 [内容] 映像編集・MA・CG・BGMなど見せるための仕上げ作業 [授業外学修] ニュース企画の番組を見て参考にする</p>
⑦	<p>[テーマ] 取材②ニュース [内容] 取材した内容の確認と表現する際に足りない映像を話し合う [授業外学修] どんな映像が撮影され伝える内容が映像化されているか考える</p>			⑮	<p>[テーマ] 作品合評 [内容] 他の作り方はなかったか各グループ間で意見出し合う [授業外学修] 他チームの表現方法を参考に作り方のバリエーションを覚える</p>
⑧	<p>[テーマ] ニュース編集と原稿 [内容] 表現内容を話し合い編集作業に入る、原稿も合わせて書く [授業外学修] 取材してある素材ラッシュを事前に見ておく</p>			⑯	<p>[テーマ] まとめ・作品作りの総括テスト・レポート [内容] ニュース、企画ニュース作りを振り返り [授業外学修] 演習で学んだことを整理してまとめる</p>
成績評価方法(方針)					
<p>課題コンテンツ制作の過程と完成努力、意見発表・レポート(ポートフォリオ)で総合評価。提出されたレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート			◎		40%
授業外レポート	○				20%
演習・実技	○		◎		40%
授業態度		○			評価対象外
出席					欠格条件
関連科目	メディア関連必修科目全て				関連資格
教科書	指定しませんが必要に応じてプリント配布				参考書
オフィスアワー	佐々木鉄男研究室E棟2階 月曜日 12:40~14:10				その他
					tt-sasaki@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	取材報道演習 C Interview & Report C (S.)			担当教員	佐藤修・佐々木鉄男・日下三男
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	放送局、新聞社での実務経験を活かし、実践的な演習を行う
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業はスポーツ報道について学習してきた講義・実習、中でも取材報道演習A, Bで学んだ内容を更に高度に展開し、スポーツ報道を体験するものである。数人のグループで協力し、新聞や雑誌の特集記事、映像ドキュメンタリーを作り上げる中でスポーツ報道の取り上げ方、コンテンツ作りの問題点を確認し理解する。					i、iv、v
授業の一般目標					
演習Cはスポーツを題材に紙媒体を利用した特集記事(読み物)または映像で表現するスポーツドキュメンタリーをグループで協力し作り上げる。実務経験を活かしながら情報収集から撮影編集までを高いレベルで行えるようサポートすると共に、体育大学生ならではのスポーツへの理解が表現できるようコンテンツ制作に当たる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	取材対象を的確に把握して問題点を整理すると共に、表現を工夫し第三者に伝える方法を考え身につける				
■ 情意的領域	取材現場では積極的に対象とテーマに関わり、見る人の論理性と心情を引きつける高度な表現におけるアイデア・工夫をが求める				
■ 技能表現的領域	作品制作に使う様々な機器(カメラ、ワープロ、編集装置)の高度な扱いを理解し、各自が考える表現世界を可能にする技術・手法を習得				
授業計画(全体)					
数人の班を編制し、スポーツ情報を基に活字媒体では特集記事(新聞全面企画や雑誌の特集)、映像媒体ではドキュメンタリーコンテンツを制作。その過程はポートフォリオ形式の制作日誌にまとめ作業の中で学んだことを記録。制作過程で数度のチェックを経て完成した作品は全員で合評。その後総合的な判定を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 演習の進め方 活字媒体・映像媒体での作品制作の説明 [授業外学修] 企画案を考える			⑨	[テーマ] 取材報告と制作途中経過発表 [内容] どういった取材をしたか報告する [授業外学修] 補強取材
②	[テーマ] 各自企画持ち寄り、その後班構成と企画会議 [内容] 各自持ち寄り企画を互いに披露し、グループで対応可能な企画を基に班を構成 [授業外学修] 企画案を考える			⑩	[テーマ] 追加取材 [内容] 追加の取材をする [授業外学修] 補強取材
③	[テーマ] 取材準備 [内容] 取材先下調べとプレ取材 アポ取り [授業外学修] 取材先下調べ			⑪	[テーマ] 構成、編集案検討と発表 [内容] 構成案を書く [授業外学修] 補強取材
④	[テーマ] 企画書作成と発表 [内容] 取材先下調べとプレ取材 アポ取り [授業外学修] 取材先下調べ			⑫	[テーマ] 編集作業① [内容] 編集作業 [授業外学修] 補強取材
⑤	[テーマ] 取材内容整理と発表 [内容] 取材先下調べとプレ取材 アポ取り [授業外学修] 取材先下調べ			⑬	[テーマ] 編集作業② [内容] 編集作業 [授業外学修] 補強取材
⑥	[テーマ] 取材① [内容] 現場で取材する [授業外学修] 取材先下調べ			⑭	[テーマ] 編集作業③ [内容] 編集作業 [授業外学修] 補強取材
⑦	[テーマ] 取材② [内容] 現場で取材する [授業外学修] 取材先下調べ			⑮	[テーマ] 編集作業④ [内容] 作品を完成させる [授業外学修] 補強取材
⑧	[テーマ] 取材③ [内容] 現場で取材する [授業外学修] 取材先下調べ			⑯	[テーマ] 合評とまとめ [内容] 作品を発表する [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
取材対象への向き合い方、コンテンツ制作過程の工夫と努力、更に作品に関する意見発表、作品の完成度、ポートフォリオの内容で総合評価提出された作品は解説をしながら返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート			◎		40%
授業外レポート		○			20%
演習・実技		○		◎	40%
授業態度			○		
出席					欠格条件
関連科目	メディア関連必修科目全て				関連資格
教科書	指定しませんが必要に応じプリント配布				参考書
オフィスアワー	佐藤修研究室E棟2階				その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ取材・報道実習 I			担当教員	日下三男・佐藤修
	Sports Reporting and Writing Internship I (F.E.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	新聞社、放送局で実務経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業は新聞社の編集現場と、スポーツ競技会の実習が中心になる。新聞社をはじめスポーツ選手がそれぞれスポーツとどう向き合っているかを、記者経験を基に体系的に指導する。					i、iv、v
授業の一般目標					
活字メディアやスポーツの現場で実習することにより、活字というメディアの特徴やスポーツの現状などを知る。実習内容を口頭で報告したり、レポート提出したりすることにより、スポーツ取材の醍醐味や活字メディアの特徴などを体系化して理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	活字メディアやスポーツ現場の特徴や現状を客観的に理解し、説明できる				
■ 情意的領域	直接メディアやスポーツ選手に接することで、これまでと違う立場から見ることができるようになる				
□ 技能表現的領域					
授業計画(全体)					
授業の大半は実習先での研修になる。教室での授業は実習の受け入れ先についての資料収集や発表、抱負を語ること、実習後の口頭報告になる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法の説明 [授業外学修]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] インターンシップ口頭報告 [内容] 報告書に盛り込む要素を意識しながら研修について口頭で報告する [授業外学修]報告できるように準備をしっかりと行う
②	[テーマ] 実習先についての資料収集・発表、実習の抱負披露① [内容] 実習先の資料を収集して発表し、実習の抱負を披露する [授業外学修]どういった資料を集めるか考えてくる			⑩	[テーマ] 実習⑥ [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく
③	[テーマ] 実習先についての資料収集・発表、実習の抱負披露② [内容] 実習先の資料を収集して発表し、実習の抱負を披露する [授業外学修]集めた資料を整理するなど発表の準備をする			⑪	[テーマ] 実習⑦ [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく
④	[テーマ] 実習① [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑫	[テーマ] 実習⑧ [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく
⑤	[テーマ] 実習② [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑬	[テーマ] 実習⑨ [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく
⑥	[テーマ] 実習③ [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑭	[テーマ] 実習⑩ [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく
⑦	[テーマ] 実習④ [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑮	[テーマ] インターンシップ口頭報告 [内容] 報告書に盛り込む要素を意識しながら研修について口頭で報告する [授業外学修]報告できるように準備をしっかりと行う
⑧	[テーマ] 実習⑤ [内容] 実地研修 [授業外学修]実習先で求められたものは必ず用意していく			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] 正規の実習報告書を作成し提出する [授業外学修]これまで体験したことや調べてきたことをきちんと整理する
成績評価方法(方針)					
授業外レポート(評価割合80%)、授業内レポート(20%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎	◎			80%
授業外レポート	◎	◎			20%
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	メディアコース関連必須科目全て				関連資格
教科書	特になし				参考書
オフィスアワー	日下=木曜10:20~11:50 (齋藤)=月曜12:40~14:10				その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ取材・報道実習Ⅱ Interview & Report Ⅱ (F.E.)			担当教員	佐藤修・佐々木鉄男
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実習	実務経験の有無 民放現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業はスポーツ取材報道・番組制作するプロの現場に学び、トップレベルの考え方、表現技術のノウハウを体験し経験を積む					i、iv、v
授業の一般目標					
地元放送局に向きスポーツ番組制作、スポーツ報道などを実習する。プロのスポーツ報道についての考え方、映像制作の実際を身近に感じ講義で学んだ内容を確認し表現の奥深さと制作の面白さを体験し表現者としての考え方の糧にする					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	座学で学んだ知識を実際の放送現場の仕事で再確認する				
■ 情意的領域	スポーツ表現のプロ現場で働くスタッフの考え方・仕事の充実感を感じ取ることができる				
■ 技能表現的領域	プロの表現現場で作られる世界に自分なら「こうした方法をとる」と考えることができる				
授業計画(全体)					
東北放送、仙台放送などのスポーツ番組をスタッフの目線で短期集中の実習を行う。事前に座学で番組作りの説明、実際の作業内容の概要説明の講義を行う。また現役のテレビ局のプロデューサー、ディレクターなどを招いて特別講義も実施する。実習は15回分の授業相当とみなし、1日8時間換算で2日～3日の現場実習とする。実習を終えた後、体験報告と番組作り、各自の問題点のまとめの講義を行う。					
mata					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、シラバス、成績評価の方法を説明 [授業外学修]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ]スポーツ番組の各局の「こだわり」「つかみ」 [内容] スポーツ番組制作に対して各局の「こだわり」や「つかみ」を確認する [授業外学修]各局のスポーツ情報番組を見比べる
②	[テーマ]スポーツ番組の編成 [内容] スポーツ番組の編成と他の番組の関係を学ぶ [授業外学修]テレビのスポーツ番組を見ておく			⑩	[テーマ] 番組テーマと実況・インタビュー [内容]各番組の テーマは何か、実況中継・インタビューのポイントを理解する [授業外学修]スポーツ中継を見て、テーマや実況を理解しておく
③	[テーマ] スポーツ番組の企画 [内容]スポーツ番組制作に向けて企画(書)はどのように作成するかを学ぶ [授業外学修]複数のスポーツ番組を見比べ、違いを確認しておく			⑪	[テーマ]中継権利獲得と局イメージ [内容] 各局の中継権利獲得競争の裏側と局イメージの構築を理解する [授業外学修]放送局ごとに得意なスポーツ中継種目があることを見ておく
④	[テーマ] スポーツ中継 [内容] スポーツ中継のフィールドを学び、どんな中継機材が必要となるかを考える [授業外学修]スポーツ中継を見おく			⑫	[テーマ] データの生かし方と番組進行表の見方 [内容] 各種データの生かし方と番組進行表の見方を学び、現場のコミュニケーションがいかにとられているかを理解する [授業外学修]スポーツ中継を見て、データがどう生かされているかを考える
⑤	[テーマ]スポーツ中継のカメラポジション [内容]スポーツ中継の カメラポジションと中継車の役割を学ぶ [授業外学修]スポーツ中継を見て、何台のカメラで撮影しているか考える			⑬	[テーマ] 制作体制と球団交渉 [内容] 番組を制作するための体制づくりと球団との交渉の重要性を学ぶ [授業外学修]スポーツ番組のクレジットから制作体制を想定しておく
⑥	[テーマ]ゴルフ中継 [内容] ゴルフ中継の中継準備とタイムコードを理解する。広いフィールドで行うゴルフ中継のシステムを学ぶ [授業外学修]ゴルフ中継番組を見る			⑭	[テーマ] 国際大会の配信と権利 [内容] ワールドカップやオリンピックなど国際大会の配信と権利について学ぶ [授業外学修]国際大会の放送権料を調べてくる
⑦	[テーマ]野球中継ディレクターの仕事 [内容] 野球中継ディレクターの仕事スタジアムと中継番組から学ぶ [授業外学修]プロ野球中継番組を見る			⑮	[テーマ] 視聴者を獲得するための合い言葉「つかみ」 [内容] 視聴者を獲得するために、制作者側が工夫している「つかみ」を理解し、みずからもつかみの言葉を考える [授業外学修]番組宣伝のCMなどから「つかみ」の言葉を感じ取る
⑧	[テーマ] 試合記録・スコアブックの番組制作利用 [内容] 試合記録・スコアブックのが番組制作にどのように活用されるかを学ぶ [授業外学修]各スポーツの試合記録、スコアブックを調べてくる			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] 正規の実習報告書を提出する [授業外学修]座学と実習で学んだことを整理してまとめる
成績評価方法(方針)					
実習レポートと事後の実習内容発表とレポートを総合して評価。提出されたりレポートは相互理解を深めるためディスカッションを行いながら返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		◎			30%
授業外レポート		◎	◎		40%
演習・実技				◎	30%
授業態度					減点アリ
出席					欠格条件
関連科目	メディアコース関連必修科目全て				関連資格
教科書	特になし、テレビのスポーツ番組を出来るだけ見る				参考書
オフィスアワー	(齋藤博研究室E棟2階) 月曜12:40～14:10				その他
					hr-saito@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	グローバルスポーツ情報論			担当教員	マーティ・キーナート／井上規之／和久貴洋
	Lecture of global sport intelligence				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
国際競技力向上、スポーツ振興などのスポーツを取り巻く状況の中で「情報」が果たす役割は加速度的にその重要性を増している。本講義ではこの情報の果たす役割を「世界」「日本」「地域」というそれぞれの視点から解説するとともに、その現状や課題にも言及する。そして、今後自らが身を投じるであろう「スポーツの現場」における情報活動の在り方を学ぶ。					iv、v
授業の一般目標					
① スポーツとそこで取り扱われる情報について理解する。 ② スポーツ振興、国際競技力向上のために必要不可欠な情報活動について理解する。 ③ スポーツ振興、国際競技力向上の情報活動に関する現状および課題の把握、さらにその将来的展望について探求する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツ情報活動に関する国際的な動向を理解する。さらにその課題や将来像について認識する				
■ 情意的領域	スポーツ情報活動のあるべき姿について本質的かつ創造的検討を加えようとする意欲を身に着ける				
■ 技能表現的領域	スポーツ情報活動に関して具体的な事例を通して学び、それを実際のフィールドの活動として位置付けられるスキルを身に着ける				
授業計画(全体)					
スポーツ情報を「世界」「日本」「地域」の視点からなるべく具体的な事例に基づき講義を実施する。内容によってはワークショップ形式で授業を進める。各内容ごとに授業内レポートや課題レポートを提出してもらい理解度や到達度を確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法について解説する [授業外学修] シラバスの熟読			⑨	[テーマ] スポーツにおける日本と国際社会(1) [内容] スポーツを軸に日本社会と国際社会との関係について概説する [授業外学修] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する
②	[テーマ] 国際社会とスポーツ情報 [内容] 国際社会におけるスポーツの位置づけについて概観するとともにここではスポーツ情報がどのような役割を担っているかについて解説する [授業外学修] スポーツ情報にはどのようなものがあるか考えておく			⑩	[テーマ] スポーツにおける日本と国際社会(2) [内容] 日本のスポーツと諸外国との関わりについて具体的な事例を交えて解説する [授業外学修] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する
③	[テーマ] 欧米のスポーツ政策とスポーツ情報 [内容] 欧米のスポーツ政策の現状とスポーツ情報との関連性について解説する [授業外学修] 欧米のスポーツに関する情報を収集する			⑪	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(1) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説する一住民の視点から [授業外学修] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
④	[テーマ] 欧米のプロスポーツとスポーツ情報 [内容] 欧米のプロスポーツの現状とスポーツ情報との関連性について解説する [授業外学修] 欧米のスポーツに関する情報を収集する			⑫	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(2) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説する一行政の視点から [授業外学修] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
⑤	[テーマ] 国際競技力向上とスポーツ情報 [内容] オリンピックをはじめとする国際競技力向上の舞台においてスポーツ情報がどのような役割を果たしているかについて解説する [授業外学修] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する			⑬	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(3) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説する一総合型地域スポーツクラブの視点から [授業外学修] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
⑥	[テーマ] 日本のスポーツ政策とスポーツ情報 [内容] スポーツ基本法、スポーツ基本計画をはじめとする日本のスポーツ政策の現状について解説するとともにそこで情報が果たす役割について解説する [授業外学修] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する			⑭	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(4) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説する一学校教育の視点から [授業外学修] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
⑦	[テーマ] 日本の国際競技力向上施策(1) [内容] スポーツ情報の視点から日本の国際競技力向上施策について解説する [授業外学修] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する			⑮	[テーマ] 地域スポーツとスポーツ情報(5) [内容] 地域スポーツ振興と発展に必要な情報とその活動について解説する一健康の視点から [授業外学修] 地域スポーツをキーワードとした情報を収集する
⑧	[テーマ] 日本の国際競技力向上施策(2) [内容] オリンピックをはじめとする総合国際競技大会における日本の取り組みについて具体的な事例を交えて解説する [授業外学修] 国際競技力向上をキーワードとした情報を収集する			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
授業への参加態度、ワークショップ・グループワークへの積極的参加や工夫が評価の中心となる。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			30%
授業内レポート		◎	◎		10%
授業外レポート			◎		10%
演習・実技				◎	30%
授業態度			○		10%
出席			○		欠格条件
関連科目					関連資格
教科書					参考書
オフィスアワー					その他
					非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	マルチメディア論			担当教員	日下三男/佐藤修/佐々木鉄男/学外講師
	Introduction to multimedia				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	新聞社、放送局での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
新聞、テレビ、雑誌などマスメディアを理解するとき、今やデジタル化を抜きにしては考えられない。パソコンとテレビと電話が高度に融合した装置としてマルチメディアがあり、このネットワークが社会を変えようとしている。進行する情報インベーションはジャーナリズムにどのように影響を及ぼすのか。メディアでの実務経験を生かして説明する。					i、iv、v
授業の一般目標					
社会に深く浸透し、情報基盤となりつつあるインターネットの全容を理解し、そのデジタル化がもたらす高度な情報環境を考察する。新聞、雑誌、テレビといった旧メディアの抱える課題を踏まえながら、台頭するニュージャーナリズムの力や役割を探る。*集中講義になる可能性あり。オリエンテーション、掲示に要注意*					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	デジタル化の意味するところを理解し、マルチメディアとは何かを説明できる				
■ 情意的領域	電波による通信技術の発達やIoT(モノのインターネット)社会に興味や関心を持って取り組める				
□ 技能表現的領域					
授業計画(全体)					
マルチメディアの概要を理解したうえで、既存メディアの中で進行するマルチメディア化を確認する。各メディアで問題となっているマルチメディア化の諸課題と近未来の展望、さらにはメディア界全体に横たわる課題を、メディア界に籍を置いた教員陣がテーマごとに分かりやすく解説する。学外講師も引き、ジャーナリズムの現場を踏んだ体験談を語ってもらう。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] マルチメディアとは何か(日下) [内容] オリエンテーションを兼ね、マルチメディアとは何かを説明する [授業外学修]シラバスを熟読し、身の回りのメディアの変革を知る			⑨	[テーマ] ネットメディアとマスメディアに関する討論(学外講師) [内容] 新聞、テレビ、出版、ネットメディアの今後の関係をディスカッションし展望する [授業外学修]各メディアの特性を整理する
②	[テーマ]新聞界におけるマルチメディア化①(日下) [内容] 新聞の歴史からみるマルチメディア化について講義する [授業外学修]新聞発行の技術変革史を事前に調べてくる			⑩	[テーマ] 授業内レポート作成・提出(日下) [内容] 新聞界のマルチメディア化、ネット社会等についてまとめる [授業外学修]ネット情報とメディアの現状と課題を振り返る
③	[テーマ] 新聞界におけるマルチメディア化②(日下) [内容] マルチメディアの実態と海外との相違について紹介する [授業外学修]海外や日本の新聞メディアに関するニュースに目を通す			⑪	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化①(佐藤) [内容] テレビの歴史からみるマルチメディア化を探る [授業外学修]テレビの歴史を解説する書物にあたる
④	[テーマ] 新聞界におけるマルチメディア化③(日下) [内容] マルチメディア化が新聞社経営に及ぼす影響について説明する [授業外学修]新聞業界の紙面変化や経営の現状などを調べる			⑫	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化②(佐藤) [内容] テレビ界のマルチメディア化の実態、海外と日本の相違を紹介する [授業外学修]海外、日本のテレビ業界のニュースに注目し現状を理解する
⑤	[テーマ] ネット社会のジャーナリズム①ネット世界の現実(学外講師) [内容] デジタル技術で左右される生き方や暮らしについて解説する [授業外学修]新聞等でネットとメディアに関するニュースをチェックしておく			⑬	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化③(佐藤) [内容] テレビコンテンツに関わるマルチメディア化の問題を説明する [授業外学修]コンテンツの中にデジタル化の影響を見つける
⑥	[テーマ] ネット社会のジャーナリズム②ソーシャルメディアⅠ(学外講師) [内容] ネット環境を理解するに当たって重要なソーシャルメディアの意味について講義する [授業外学修]ソーシャルメディアについて下調べする			⑭	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化④(佐々木) [内容] テレビとネットの融合でテレビはどう変わるかを講義する [授業外学修]テレビのネット利用の実例を探す
⑦	[テーマ] ネット社会のジャーナリズム③ソーシャルメディアⅡ(学外講師) [内容] ソーシャルメディアとジャーナリズムの関係で、何が起きているかを検証する [授業外学修]新聞、ウェブ等でソーシャルメディアをめぐる話題を探る			⑮	[テーマ] 放送界におけるマルチメディア化⑤(佐々木) [内容] テレビとネットの今後の関係性を展望する [授業外学修]各メディアの特性を再度確認する
⑧	[テーマ] ネット社会のジャーナリズム④ソーシャルメディアⅢ(学外講師) [内容] SNSが社会で果たしている役割を認識し、その可能性を示す [授業外学修]SNSの有効性と危険性などを扱ったニュースに触れる			⑯	[テーマ] テスト(日下) [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
科目としての試験は最終講義で実施(評価割合は80%)。授業内レポート(評価割合20%)も含めて総合評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○		80%
授業内レポート		◎	○		20%
授業外レポート					
演習・実技					評価対象外
授業態度					評価対象外
出席					欠格条件
関連科目	メディア関連の必修科目全て				関連資格
教科書	必要に応じてプリントを配布				参考書
オフィスアワー	日下=水曜日10:20~11:50				特になし
					その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ文化論 Sport Culture			担当教員	佐々木鉄男/粟木一博/斎藤浩二/佐藤修/日下三男 ほか	
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	実務経験を活かしながら実践的な講義を行う
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツ情報(メディアを含む)を扱う時、その基となるスポーツが人と社会にとってどんな意味を持つかを確認することが重要だ。この授業科目は社会や人々の間でスポーツがどんな役割を果たしているか、まさに暮らしの中のスポーツの存在、「文化」を知ること目標とする。*オムニバス授業のため回数に示されたテーマが前後することがある*						i、iv、v
授業の一般目標						
体育学部の学生としてスポーツの基礎的な領域である「スポーツ史」「スポーツ社会学」「スポーツ経済学」「スポーツ心理」などを通しスポーツの置かれた状況を学んできた。卒業を前にこれらの科目で学んだことをベースに、社会に広がるスポーツの在り様を文化としてジャーナリスティックな視点でとらえ直し、体育大学で学んだ4年間のまとめとして取り組んで欲しい。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	様々な生活領域に、色々な形に変化して展開しているスポーツの状況を改めて見つけ、その役割を認識する				
■	情意的領域	個人の生活や多様な社会の中で形を変えて溶け込んでいるスポーツの価値を改めて自覚し、文化として捉え直す				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
スポーツ情報マスメディア学科が設定する【スポーツ文化論】は4年間で学んだスポーツの基礎を土台に『スポーツの多様な存在』(政治・経済・メディア・文学・美学・宗教・ジェンダー・サブカルチャーなど)の中で形を変え社会に表象されたスポーツを文化として捉え直し考えてみたい。各テーマをスポーツに限らず社会の各分野において活躍してきた経験豊富な教員のオムニバスで論じる。(講義順変更もある)						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション (佐々木鉄) [内容] 授業の進め方、成績評価説明 スポーツとは何か、スポーツ文化とは何か、なぜスポーツを文化の視点で考えるかディスカッション [授業外学修] 4年間で学んだスポーツの各論を整理			⑨	[テーマ] スポーツと映画(キーンナート) [内容] 映画が語るスポーツからスポーツ文化を論じる [授業外学修] 映画とスポーツについて整理	
②	[テーマ] スポーツ文化の歴史から見た大衆心理(粟木) [内容] スポーツが生活の中に果たした役割を考え、スポーツの価値を考える [授業外学修] スポーツ史を人の生活意識から逆読みする			⑩	[テーマ] スポーツと音楽・ファッション(佐々木鉄) [内容] 音楽・ファッション生まれるスポーツ文化を考える [授業外学修] 音楽やファッションとスポーツについて整理	
③	[テーマ] スポーツと社会「スポーツを文化にした国」(キーンナート) [内容] アメリカのスポーツ文化の根源に迫る [授業外学修] アメリカのスポーツについて整理			⑪	[テーマ] スポーツと国際関係(日下) [内容] 各種国際大会(オリンピック含む)開催と国家が作るスポーツ文化 [授業外学修] スポーツと国際問題について整理	
④	[テーマ] スポーツと社会 武道はスポーツか(斎藤浩二) [内容] スポーツ文化と武士道:似て非なる文化の並存 [授業外学修] 武道について学ぶ			⑫	[テーマ] スポーツ文化はオヤジ文化?(佐藤修) [内容] なぜ?「羽生、真央ちゃん」なのか [授業外学修] スポーツ新聞をよく読んでくる	
⑤	[テーマ] スポーツを文化に仕立てるメディア①新聞・印刷媒体(日下) [内容] スポーツを文化として育てた新聞の役割 [授業外学修] 新聞について整理			⑬	[テーマ] スポーツと国際関係(日下) [内容] 一般紙のスポーツ面の共通点と差異を比較 [授業外学修] スポーツ面をよく読む	
⑥	[テーマ] スポーツを文化に仕立てるメディア②放送(佐々木鉄) [内容] スポーツを文化として育てたラジオ、テレビ放送 [授業外学修] 放送について整理			⑭	[テーマ] スポーツと人種・宗教(佐々木鉄) [内容] アフリカ系人種は肉体的に優れているか?宗教がもたらす問題は? [授業外学修] 人種や宗教について整理	
⑦	[テーマ] スポーツと文学(佐藤修) [内容] 文学が語るスポーツからスポーツ文化を論じる [授業外学修] 文学とスポーツについて整理			⑮	[テーマ] 国際大会(オリンピック/WC)と国民心理(粟木) [内容] スポーツに熱狂する国民の姿からスポーツ文化を考える [授業外学修] スポーツの国際大会を整理	
⑧	[テーマ] スポーツとサブカルチャー(佐藤修) [内容] コミックが生むスポーツヒーローなどからスポーツ文化を考える [授業外学修] サブカルチャーとは何か整理			⑯	[テーマ] まとめ・テスト(佐々木鉄) [内容] スポーツ文化論講義を通し考えたことをまとめる [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内レポート(評価割合10%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。試験については解説しながら返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業態度悪い学生は成績評価から減点 ・多くのスポーツに接し周囲を観察する。(スタジアム・テレビ・社会空間) ・スポーツ情報を伝えることを楽しむ(スポーツを話題にする) ・自分の考えを文章に書き、自分の言葉で説明できる訓練をする ・シラバスは授業の進み方、理解の程度で前後したり内容変更がある
定期試験		◎			40%	
授業内レポート		○	◎		40%	
授業外レポート		○			20%	
演習・実技					評価対象外	
授業態度			○			
出席					欠格条件	
関連科目	4年間で学んだすべての科目			関連資格		
教科書				参考書	必要に応じ指定する	
オフィスアワー	佐々木鉄男研究室E棟2階 月曜日 12:40~14:10			その他	tt-sasaki@sndai-u.ac.jp	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツモラル・規範論 Ethics in Sport				担当教員	栗木一博
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
ドーピングや賭博、暴力など20世紀のスポーツが産み出してきた負の遺産は、現代のスポーツの価値を崩壊させる脅威であり、グローバルなスポーツの世界では今、「スポーツの高潔性」がその持続可能性や社会的意義を考えるうえで主要課題となっている。この授業では、スポーツにかかわるモラルや規範を広義にとらえ、その重要性や意義について学ぶ。						i、iv、v
授業の一般目標						
スポーツにかかわるモラルや規範について、法制度の現状や国内外の事例から問題の所在を把握し、その論点や課題について理解できるようになる。また、社会において情報を扱う際に取られる品格や独自の視点、適切な態度を身につける。多様な価値に向き合いながら、スポーツに対する創造的な取り組みを実践できるようになる。※1回目を除き集中講義の形式をとるので、掲示に注意すること。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツに関連する多様な問題の所在を把握し、論点や課題の本質を理解する。				
■	情意的領域	スポーツに関連する多様な情報を扱う際に問われる適切な態度を身につける。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
スポーツにかかわるモラルや規範について、法制度の現状や国内外の事例から問題の所在を把握し、その論点や課題について理解できるようになる。また、社会において情報を扱う際に問われる品格や独自の視点、適切な態度を身につける。多様な価値に向き合いながらスポーツに対する創造的な取り組みを実践できるようになる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の概要、目標、進め方、評価方法について説明を行い、質疑応答を行う [授業外学修]授業内で指示する				⑨	[テーマ] スポーツと法②<応用編> [内容] 社会規範の一種としての「法」について、スポーツ基本法や関連の国際法を理解し、その性質や社会的意義について学ぶ [授業外学修]授業内で指示する
②	[テーマ]情報とモラル①<基礎編> [内容] 情報を扱う際のモラルや規範について、実際に起こりうる日常的課題を紐解きながら問題の所在、あるべき姿について考える [授業外学修]授業内で指示する				⑩	[テーマ] スポーツと法③<ディスカッション> [内容] 社会規範の一種としての「法」について、スポーツ基本法や関連の国際法を理解し、その性質や社会的意義について学ぶ [授業外学修]授業内で指示する
③	[テーマ]情報とモラル②<応用編> [内容] 情報を扱う際のモラルや規範について、実際に起こりうる日常的課題を紐解きながら問題の所在、あるべき姿について考える [授業外学修]授業内で指示する				⑪	[テーマ] 女性とスポーツ①<基礎編> [内容] 変化するスポーツにおける女性の位置づけや果たす役割について、その歴史や現状を踏まえ、今後の在り方について学ぶ [授業外学修]授業内で指示する
④	[テーマ]情報とモラル③<ディスカッション> [内容] 情報を扱う際のモラルや規範について、実際に起こりうる日常的課題を紐解きながら問題の所在、あるべき姿について考える [授業外学修]授業内で指示する				⑫	[テーマ] 女性とスポーツ②<応用編> [内容] 変化するスポーツにおける女性の位置づけや果たす役割について、その歴史や現状を踏まえ、今後の在り方について学ぶ [授業外学修]授業内で指示する
⑤	[テーマ] グローバル・スポーツの高潔性①<基礎編> [内容] ドーピングや賭博、暴力など、スポーツの価値を脅かす事象の本質的な問題の所在や現状を踏まえ、未来への影響について考える [授業外学修]授業内で指示する				⑬	[テーマ] 女性とスポーツ③<ディスカッション> [内容] 変化するスポーツにおける女性の位置づけや果たす役割について、その歴史や現状を踏まえ、今後の在り方について学ぶ [授業外学修]授業内で指示する
⑥	[テーマ] グローバル・スポーツの高潔性②<応用編> [内容] ドーピングや賭博、暴力など、スポーツの価値を脅かす事象の本質的な問題の所在や現状を踏まえ、未来への影響について考える [授業外学修]授業内で指示する				⑭	[テーマ] ディスカッション① [内容] いくつかのテーマを設定し、事例に関する情報を収集し、討論を行う [授業外学修]授業内で指示する
⑦	[テーマ] グローバル・スポーツの高潔性③<ディスカッション> [内容] ドーピングや賭博、暴力など、スポーツの価値を脅かす事象の本質的な問題の所在や現状を踏まえ、未来への影響について考える [授業外学修]授業内で指示する				⑮	[テーマ] ディスカッション② [内容] いくつかのテーマを設定し、事例に関する情報を収集し、討論を行う [授業外学修]授業内で指示する
⑧	[テーマ] スポーツと法①<基礎編> [内容] 社会規範の一種としての「法」について、スポーツ基本法や関連の国際法を理解し、その性質や社会的意義について学ぶ [授業外学修]授業内で指示する				⑯	[テーマ] 総括 [内容] 授業を通じて学習、考察したテーマについて振り返り、これからのスポーツについて考える [授業外学修]
成績評価方法(方針)						
評価は授業内レポート(60%)および授業外レポート(40%)で行う。授業では講義のほかディスカッションやプレゼンテーションを行う。提出されたレポートは授業内で返却し、解説する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・3分の2以上の欠席は欠格条件とし、評価の対象から除外する。
定期試験					60%	
授業内レポート		◎	○		40%	
授業外レポート		◎	○			
演習・実技						
授業態度		○	◎		減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目						関連資格
教科書	特に指定しない 必要に応じて資料を配布する					参考書
オフィスアワー	前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限					その他
						特に指定しない 必要に応じて授業中に紹介する

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		スポーツ起業論 Sport Entrepreneurship			担当教員	溝上拓志/佐藤修
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	第2-14回のゲストスピーカーが実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>学生自らが社会の課題を解決していくことに対する強い意欲や動機づけを得るとともに、実際に即した多様なものの見方や考え方をすることを目的として開講する。本科目を通して受講者は、真摯かつエネルギーに社会の課題に挑戦する「スポーツ起業家」との出会いを得ることができる。本年度もスポーツアナリスト、スポーツカメラマン、新聞記者、広報スタッフなどを招聘し、ゲストスピーカーの実務経験を活かした講義を行う。</p>						i、v
授業の一般目標						
<p>本科目を通じて、①自ら何かを探求し、物事を為していくことの意義や価値について理解することが求められる。また、確固たる正解の無い成熟した社会において、②新たな価値を見出すための実際に即した多様なものの見方や考え方があることを受け入れ、自らも主体的なものの見方や考え方をもつ態度を養う。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	なぜ「起業家」的な視点及び態度が必要なのか、自分なりの表現を用いて説明できる。				
■	情意的領域	社会における諸課題に対して、自ら最善解を探求し解決しようと心がけることができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
<p>本科目は、担当教員とゲストスピーカーで開講する。初回および最終回以外は、各回異なるゲストスピーカーを招聘する。授業形態は基本講義形式とするが、対談形式、シンポジウム形式なども含め開講する。本年度のゲストスピーカーは、初回の授業で発表する。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(溝上、佐藤) [内容] 授業のねらいや目標、評価方法、毎回出る課題の提出方法を説明する [授業外学修]			⑨	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑧(佐藤) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出	
②	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」①(溝上) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出			⑩	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑨(溝上) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出	
③	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」②(佐藤) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出			⑪	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑩(佐藤) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出	
④	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」③(溝上) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出			⑫	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑪(溝上) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出	
⑤	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」④(佐藤) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出			⑬	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑫(佐藤) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出	
⑥	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑤(溝上) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出			⑭	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑬(溝上) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出	
⑦	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑥(佐藤) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出			⑮	[テーマ] 授業のまとめ(溝上、佐藤) [内容] 授業を通して学んだことの振り返り(ディスカッション) [授業外学修] レビューレポート作成と提出	
⑧	[テーマ] 「私のスポーツ起業論」⑦(溝上) [内容] ゲストスピーカーによる講義と対話 [授業外学修] レビューレポート作成と提出			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
<p>各回の講義に基づいて作成するレポートの提出率およびその内容で評価を行う。また、対話の時間において、場へ貢献するための良い質問や発言も重要な評価要素となる。提出されたレポートについては、授業内で解説しフィードバックする。</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。 ・社会で真剣勝負をしている「スポーツ起業家」を招聘するため、楽しくも「真剣な場」を共に作り出すことのできる学生のみ履修できる。 ・第1回講義で詳細を説明するため、無断欠席した学生には履修を認めない可能性がある。
定期試験					評価対象外	
授業内レポート		○	◎		50%	
授業外レポート		◎	○		50%	
演習・実技					評価対象外	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目				関連資格		
教科書	特に指定しない			参考書	必要に応じて授業時に配布	
オフィスアワー	水曜日 10:20-11:50			その他	溝上研究室(第3体育館2階)	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		映像実践論(演習) Practical Editing Analysis for Imagery Intelligences			担当教員	藤本晋也
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	日本代表サポートチームや競技団体での情報戦略(映像)活動の実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
ビデオカメラや映像編集機器といったIT関連機器の普及は、スポーツ活動現場においても顕著であり、コーチングやプロモーションなど、さまざまな場面で欠かせないものとなっている。この状況に伴い、撮影を専門的に行なうスタッフのニーズも高まってきている。本演習では、実務経験を活かしてスポーツ情報を効果的に伝えるためにより実践的な映像の撮影方法や、編集方法及び活用方法について演習形式で授業を展開する。						i、ii、iii
授業の一般目標						
実践的なスポーツ情報の特性を学ぶとともに、スポーツ情報に対する現場のニーズを把握する。その上で状況に応じた情報を効果的に伝えることができるようになるために、より実践的な映像撮影方法や編集方法について学ぶことで、現場のニーズに対応できる情報アプローチの観点と専門的スキルを身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツ現場に合わせた映像活用方法について説明できる。現場に即した映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。				
■	情意的領域	常に映像提供対象側の視点に立ち、その対象が情報(映像)を提供された時にどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えるための方法を積極的に考えることができる。				
■	技能表現的領域	より実践的かつスポーツ現場に即した映像撮影の観点や編集に必要な専門的スキルを身につける。映像を用いた情報を場に応じた方法を使って効果的に伝えることができる。				
授業計画(全体)						
日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略活動などトップスポーツ現場による実務経験を活かし、情報を効果的に伝える観点から講義(演習)を行う。各授業は資料および視聴覚教材を用いた講義を行なう。またスポーツ活動現場のニーズを踏まえた実践的な方法論を学ぶため、各競技団体/チームの事例や現場を活用し、グループワークや実習も行なう。学生は各授業毎に、授業の理解度及び達成度を明らかにするためのフィードバックを小レポート形式で提出する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]授業時に連絡			⑨	[テーマ] グループ演習① <収集・分析> [内容] グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析を行なう。 [授業外学修] 授業時に連絡	
②	[テーマ] 競技における映像活用① [内容] 競技現場で求められる「映像」とはなにか。なぜそれが求められているのかを考える。 [授業外学修]授業時に連絡			⑩	[テーマ] グループ演習② <収集・分析> [内容] グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析を行なう。 [授業外学修] 授業時に連絡	
③	[テーマ] 競技における映像活用② [内容] 競技現場で求められる「映像」とはなにか。なぜそれが求められているのかを考える。 [授業外学修]授業時に連絡			⑪	[テーマ] グループ演習③ <編集> [内容] 収集・分析した映像を編集する。 [授業外学修] 授業時に連絡	
④	[テーマ] 競技における映像活用③ [内容] 映像素材収集(撮影)の観点と方法について学ぶ。 [授業外学修] 授業時に連絡			⑫	[テーマ] グループ演習④ <編集> [内容] 収集・分析した映像を編集する。 [授業外学修] 授業時に連絡	
⑤	[テーマ] 競技における映像活用④ [内容] 映像撮影機器種類と特性について学ぶ [授業外学修]授業時に連絡			⑬	[テーマ] グループ演習⑤ <編集> [内容] 収集・分析した映像を編集する。 [授業外学修] 授業時に連絡	
⑥	[テーマ] 競技における映像活用⑤ [内容] 映像分析・編集機器の種類と特性について学ぶ。 [授業外学修]授業時に連絡			⑭	[テーマ] グループ演習⑥ <アウトプット> [内容] 編集した映像について指定する観点に基づきドキュメンテーション(文書化)するとともに、その内容をプレゼンテーションする。 [授業外学修] 授業時に連絡	
⑦	[テーマ] 競技における映像活用⑥ [内容] 映像素材の管理と利活用について学ぶ。 [授業外学修] 授業時に連絡			⑮	[テーマ] グループ演習⑦ <アウトプット> [内容] 編集した映像について指定する観点に基づきドキュメンテーション(文書化)するとともに、その内容をプレゼンテーションする。 [授業外学修] 授業時に連絡	
⑧	[テーマ] 競技における映像活用⑦ [内容] スポーツ競技活動における、新たな撮影手法と撮影構図を考える。 [授業外学修]授業時に連絡			⑯	[テーマ] 最終課題作成映像の視聴確認と総括、振り返り [内容] 最終課題映像の視聴を行うとともに、全体総括を行う。企画、素材収集、編集、アウトプットまでの流れを振り返る。 [授業外学修]設定なし	
成績評価方法(方針)						
評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1)レポート(30%)、2)最終ドキュメンテーション(30%)で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3)プレゼンテーション(20%)を行う。履修態度や姿勢(10%)として総合的に評価を行う。出席は、評価割合に加えず欠格条件となる。提出されたレポート等の内容について、授業内で解説しフィードバックする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件) ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進捗により変更することがある。 ・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。 ・作成した映像データが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。
定期試験		—	—	—	評価対象外	
授業内レポート		◎	○	○	30%	
授業外レポート		◎	○	○	30%	
演習・実技		○	◎	◎	20%	
授業態度		○	○	○	20%	
出席		—	—	—	欠格条件	
関連科目	映像基礎、スポーツ情報戦略論実習Ⅰ、スポーツ情報戦略論実習Ⅱ				関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	参考書等授業内で紹介、または参考資料を配布
オフィスアワー	月10:20~11:50				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		文章実践論(演習) Writing II (s.)			担当教員	日下三男・佐藤修
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	新聞社、放送局での実務経験あり
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
この授業では学生が自ら企画・調査する「調査報道」を取り上げ、記事完成までを指導する。また、調査報道とは何か、ジャーナリズムの本質、メディアの特性という大きな問題について、実務経験を生かして具体的に紹介する。						i、iv、v
授業の一般目標						
「調査報道」というジャーナリズムの本質に関わる部分を理解する糸口にする。また、スポーツ競技など関心のある分野からテーマを見つけ、調査を深めていくことによってマスメディア、政治、文化などの問題を身近なものとして考えられるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ジャーナリズムの基本を考えることができるようになる。				
■	情意的領域	記事を実際に書いていくことで表現力を身に付けることができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業ではまず「調査報道とは？」という問題について短く講義をする。その後、個人またはグループごとにテーマを見つけ、それぞれが下調べと取材をしていく。担当教員は毎週各人、グループと単独ミーティングをし、進捗状況を確認して、取材状況と記事内容について指導する。中間発表と最終プレゼンテーションが義務付けられる。最後に調査報道記事としてまとめ、提出する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業目標と進め方、シラバス、成績評価の方法の説明 [授業外学修] シラバスを熟読する			⑨	[テーマ] 中間発表 [内容] 個人、またはグループごとにこれまでの成果を発表する [授業外学修] 発表する内容をまとめる	
②	[テーマ] 「調査報道」の講義及び新聞紙面上での検証 [内容] 調査報道の歴史、意義、課題を学び、新聞の調査報道記事を検証する [授業外学修] 朝日、河北両紙の調査報道記事を探し、ポイントをチェックする			⑩	[テーマ] 調査報道の補足 [内容] 個人、グループの発表ごとに批評し、調査報道として補う点を指摘する [授業外学修] 他の発表例も参考にして足りないものを整理してくる	
③	[テーマ] 調査報道とは一活字・放送① [内容] 新聞、テレビの調査報道記事、番組を読み、または見て特長を整理する [授業外学修] 前週末までの調査報道記事を読んで1本切り抜いてくる			⑪	[テーマ] 取材、執筆 [内容] それぞれ単独、または役割分担をして必要な取材をし、記事にまとめる [授業外学修] 指摘された部分を再考し、記事を訂正してくる	
④	[テーマ] 調査報道とは一活字・放送② [内容] (A) 前回授業の感想文を持ち寄り発表 (B) 1本切り抜いた調査報道記事の感想などをメモにしてまとめたものを発表 [授業外学修] 授業で取り上げた新聞記事、テレビ番組の感想をメモにまとめる			⑫	[テーマ] 取材、執筆 [内容] それぞれ単独、または役割分担をして必要な取材をし、記事にまとめる [授業外学修] 前の時間内でできなかったことをやってくる	
⑤	[テーマ] 単独、グループ企画の発表 [内容] 個人、またはグループで役割分担をして図書館などで資料を探す [授業外学修] どういう企画で調査報道をするか考えてくる			⑬	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 個人、またはグループごとに記事を発表し、批評を受ける。または批評する [授業外学修] 発表内容をしっかり点検したり、話し合ったりしてくる	
⑥	[テーマ] 企画に関する基礎知識の下調べ [内容] 個人、またはグループで役割分担をして図書館などで資料を探す [授業外学修] 前の時間内に収集した資料の検討と整理をする			⑭	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 個人、またはグループごとに記事を発表し、批評を受ける。または批評する [授業外学修] 批評された部分で改訂すべきところを修正する	
⑦	[テーマ] 企画の問題意識、先行取材 [内容] 企画の問題意識を共有し、企画の幅を広げるための調査を行い発表する [授業外学修] 資料に基づき先行取材について、単独か役割を決めてやってくる			⑮	[テーマ] 校了 [内容] 最終の記事にする [授業外学修] 紙面構成や記事内容を再点検し、最終作成・提出に備える	
⑧	[テーマ] 取材、執筆 [内容] 実際に現場に行き、取材をしてきて記事にまとめる [授業外学修] 各自の役割に応じて取材、執筆の準備をする			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
レポート(70%)、中間発表(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。提出レポートについては、プレゼンテーションの中で要点を指導する。それをどう生かしたかが評価のポイントになる。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・日々の新聞に目を通すとともに配布した資料を持参する
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート	◎	◎	◎	100%		
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書	特になし				参考書	特になし
オフィスアワー	日下木曜10:20~11:50 (齋藤)月曜12:40~14:10				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	データ分析・活用演習Ⅱ				担当教員	栗木一博
	Seminar of Data Processing and Analysis Ⅱ					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
データの一義的な解釈に留まらず、その潜在的な構造に言及する方法について解説する。推測統計学の基礎および多変量解析手法についても言及する。スポーツに関する様々なデータを素材として、その高度な分析手法について解説する。						i、ii、iii
授業の一般目標						
データの応用的な分析手法について理解する。推測統計学、多変量解析の考え方について理解する。データを分析するためのツールとして、表計算ソフトウェアの高度な使用方法、多変量解析のためのソフトウェアの操作方法を理解する。データを提示するための有効な方法として、グラフや表の作成方法、さらにプレゼンテーションの方法について理解する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	推測統計学の初歩、多変量解析について理解する。				
■	情意的領域	与えられた生データを自分なりに考えて処理することができるようになる。				
■	技能表現的領域	データ処理のためのコンピュータソフトウェアの操作ができる。処理したデータを用いて効果的なプレゼンテーションができる。				
授業計画(全体)						
各テーマに沿った実際のデータを用い、それを処理する形式で授業が進められる。各授業ごとにレポートという形式で成果物を提出したり、プレゼンテーションを行なう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方 [授業外学修] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 多変量解析の方法2 [内容] 重回帰分析、因子分析の基礎について解説する。さらにそれらを解釈する方法について解説する。 [授業外学修] 相関係数について復習しておく。	
②	[テーマ] 表計算ソフトウェアの操作方法 [内容] データ分析・活用法演習Ⅰで学んだ操作方法について確認する。さらに、高度な応用方法について解説する。 [授業外学修] データ分析・活用演習Ⅰの復習をしておく。			⑩	[テーマ] オープンソースインテリジェンス1 [内容] インターネット等、開示されているデータの収集方法、その加工方法について解説する。 [授業外学修] インターネットのブラウジングを学習しておく。	
③	[テーマ] 確率分布 [内容] 二項分布を用いて、推測統計学の基礎となる確率分布の考え方について解説する。 [授業外学修] 確率の基礎について学習しておく。			⑪	[テーマ] オープンソースインテリジェンス2 [内容] あらかじめ開示されているデータから競技力向上に関するデータを抽出し、それをまとめる手法を解説する。 [授業外学修] ネットブラウジング、データの加工方法について学習しておく。	
④	[テーマ] 大数の法則、中心極限定理 [内容] 表計算ソフトウェアの乱数機能を用いて、シミュレーションを行い、大数の法則、中心極限定理について解説する。 [授業外学修] 確率の基礎について学習しておく			⑫	[テーマ] オープンソースインテリジェンス3 [内容] あらかじめ開示されているデータから数値として提示されているデータを抽出し、それをまとめる手法を解説する。 [授業外学修] ネットブラウジング、データの加工方法について学習しておく。	
⑤	[テーマ] 母集団と標本 [内容] データのサンプリングに関して解説する。 [授業外学修] 身の回りにある標本調査の例について調べておく。			⑬	[テーマ] ヒューマンソースインテリジェンス [内容] インタビューなど人から得た情報を分析する手法について解説する。言葉による分析等についても言及する。 [授業外学修] インタビュー記事やその方法について説明できるようにする。	
⑥	[テーマ] 推測統計学の基礎1 [内容] t検定を用い、平均値の差の検定について解説する。 [授業外学修] 平均値、標準偏差について復習しておく。			⑭	[テーマ] レポートの方法1 [内容] これまで学んだ方法を駆使して、データをレポートにまとめる手法について解説する。 [授業外学修] 表やグラフを作成する方法について学習しておく。	
⑦	[テーマ] 推測統計学の基礎2 [内容] 分散分析の方法について解説する。 [授業外学修] 平均値、標準偏差、分散等記述統計量の算出を復習しておく			⑮	[テーマ] レポートの方法2 [内容] これまでに学んだ方法を駆使し、「スポーツ科学情報」、「タレント発掘育成情報」などとしてレポートをまとめる方法について解説 [授業外学修] 表やグラフ、文書の作成方法について学習しておく。	
⑧	[テーマ] 多変量解析の方法1 [内容] 多変量データの取り扱いについて説明し、どのように分析するか、基本事項について解説する。重回帰分析、因子分析の基礎解説 [授業外学修] 相関係数について復習しておく。			⑯	[テーマ] 分析レポート作成 [内容] これまでの理解度、授業目標の到達度を確認するために分析レポートを作成する。 [授業外学修] テストの準備をしておくこと。	
成績評価方法(方針)						
評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1)レポート(50%)、2)最終課題分析レポート(30%)、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3)プレゼンテーション(20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。提出されたレポートは授業内で解説を行い返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない場合は期末試験を欠席したと同様の扱いをする(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席と同様の扱いをする。 ・授業計画は授業の進捗により若干前後することがある。 ・作成したデータが保存できるよう、USB、ポータブルハードディスク等を準備する。 ・大学メールアドレス等、連絡可能なメールアドレスを使用できるように準備する。
定期試験					50%	
授業内レポート		○	○	○	30%	
授業外レポート		○	○	○	20%	
演習・実技		○	○	○		
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	データ分析・活用演習Ⅰ(2年)				関連資格	
教科書	特に指定しない必要に応じて資料を配布する				参考書	特に指定しない必要に応じて授業内で紹介する
オフィスアワー	前期・月曜日2時限、後期・水曜日3時限				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	インタビュー論演習 Interviewing(S.)			担当教員	佐々木鉄男・佐藤修
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	放送局での実務経験を活かし、実践的な演習を行う
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
この授業は、実務経験を活かし、取材をするとは何か、インタビューとは何かを考えるとところから始める。このあと、実際にインタビューを行い、その内容を文字に起こしていく。これを繰り返しながら最終的にインタビュー記事としてまとめ、提出する。					i、iv、v
授業の一般目標					
インタビューとは何かを理解したうえで他人とアポイントをとり、上手に話を引き出せるようになる。また、それをインタビュー記事としてまとめることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	文献や制作物からインタビューとは何かを理解できるようになる			
■	情意的領域	他人から話を聞き、それを理解しさらに話を引き出すことができるようになる			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
前半はテキストや出版物、テレビ番組を見ながらインタビューとは何かを考える。中盤からは実際にインタビューを行い、文字起こしをする。終盤にはインタビュー記事を完成させる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読してくる			⑨	[テーマ] インタビュー 実践③ [内容] 受講生同士でインタビュー、文字に起こす [授業外学修]文字起こしを完成させる
②	[テーマ]インタビューとは何か① [内容] テキストを用いてインタビューとは何かを考える [授業外学修]テキストを読んでくる			⑩	[テーマ] インタビュー 実践④ [内容] テーマを設けて複数の人にインタビューをし、文字に起こす [授業外学修]文字起こしを完成させる
③	[テーマ]インタビューとは何か② [内容] テキストを用いてインタビューとは何かを考える [授業外学修]テキストを読んでくる			⑪	[テーマ] インタビュー 実践⑤ [内容] テーマを設けて複数の人にインタビューをし、文字に起こす [授業外学修]文字起こしを完成させる
④	[テーマ]インタビューとは何か③ [内容] テキストを用いてインタビューとは何かを考える [授業外学修]テキストを読んでくる			⑫	[テーマ] インタビュー 実践⑥ [内容] テーマを設けて複数の人にインタビューをし、文字に起こす [授業外学修]
⑤	[テーマ]インタビューとは何か④ [内容] テレビ番組を見てインタビューとは何かを考える [授業外学修]テキストを読んでくる			⑬	[テーマ] インタビュー 実践⑦ [内容] テーマを設けて複数の人にインタビューをし、文字に起こす [授業外学修]文字起こしを完成させる
⑥	[テーマ]インタビューとは何か⑤ [内容] 出版物を読んでインタビューとは何かを考える [授業外学修]テキストを読んでくる			⑭	[テーマ] インタビュー記事を書く [内容] インタビューをもとに記事を書く [授業外学修]記事を完成させる
⑦	[テーマ] インタビュー 実践① [内容] 受講生同士でインタビュー、文字に起こす [授業外学修]文字起こしを完成させる			⑮	[テーマ] インタビュー記事を書く [内容] インタビューをもとに記事を書く [授業外学修]記事を完成させる
⑧	[テーマ] インタビュー 実践② [内容] 受講生同士でインタビュー、文字に起こす [授業外学修]文字起こしを完成させる			⑯	[テーマ] インタビュー記事提出 [内容] 完成した記事を提出する [授業外学修]記事を完成させる
成績評価方法(方針)					
授業外レポート(評価割合70%)、授業内レポート(30%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件とする。提出されたレポートは解説をしながら返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					20%
授業内レポート		◎	◎		80%
授業外レポート		◎	◎		
演習・実技					
授業態度			○		評価対象外
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	インタビュー術 永江朗著 講談社現代新書				参考書
オフィスアワー	佐々木鉄男研究室E棟2階 月曜日 12:40～14:10				その他
					tt-sasaki@sndai-u.ac.jp

4. 応用科目

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	日本国憲法 Constitution of Japan			担当教員	加藤 英俊
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
テキストを用いる。日本国憲法の総論と基本的人権の保障の基本的事項を対象にする。					v
授業の一般目標					
憲法の法的意味を理解し、関連する用語を適切に使用できるようになり、日本国憲法について自己学習ができるとともに、憲法に係わる社会的事件について意見を述べるができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。			
■	情意的領域	特に、基本的人権に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立てて議論できるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
シラバスに挙げた事項につきテキストの関係箇所を指摘し、その理解を図り、講義を進める。テキストにない事例は別途配布する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス・導入授業 [内容] 授業の進め方と、単位評価に関する注意事項の説明。 「日本国民」とは誰か [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘			⑨	[テーマ] 生存権の特徴 [内容] 朝日訴訟上告審(最大判昭42・5・24) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(1) [内容] 憲法の諸ルールと、国家権力の構成、国家権力行使の拘束 [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘			⑩	[テーマ] 信教の自由と政教分離(1) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(2) [内容] 国法体系における憲法の地位:最高法規性の意味 [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘			⑪	[テーマ] 信教の自由と政教分離(2) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8)、 津地鎮祭事件(最大判昭52・7・13) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 法の下での平等保障は何を意味しているか(1) [内容] 平等保障の概説、国籍法違憲判決(最大判平20・6・4) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘			⑫	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(1) [内容] 「公共の福祉」の概説、職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲判決と薬事法違憲判決) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘
⑤	[テーマ] 法の下での平等保障は何を意味しているか(2) [内容] 国籍法違憲判決(最大判平20・6・4) 尊属殺重罰違憲判決(最大判昭48・4・4) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘			⑬	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(2) [内容] 職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲判決と薬事法違憲判決) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘
⑥	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(1) [内容] 私的自治の原則の概説、日産自動車事件(最判昭56・3・24) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘			⑭	[テーマ] 司法裁判所の裁判 [内容] 「法律上の争訟」の意味、板まんだら事件(最判昭56・4・7) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(2) [内容] 日産自動車事件(最判昭56・3・24) 三菱樹脂事件(最大判昭48・12・12) [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘			⑮	[テーマ] 日本国憲法の違憲審査制 [内容] 日本国憲法の違憲審査権の性質、警察予備隊違憲訴訟 [授業外学修]
⑧	[テーマ] 基本的人権の分類 [内容] 基本的人権保障条項の分類項目と、それぞれの特徴 [授業外学修] 次回テキスト箇所の指摘			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
成績の評価は、基本的に、筆記試験による。欠席日数は学生便覧「試験細則」による。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	ワンステップ憲法(嵯峨野書院)				参考書
オフィスアワー					その他
					非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行うこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	体育原理 Philosophy of Physical Education			担当教員	入澤/田口
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業では、体育・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師やスポーツ指導者として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。					v
授業の一般目標					
体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。また、スポーツを指導する人間に求められる倫理観や教養を身に付ける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	体育・スポーツに関する諸概念や定義を把握し、自分自身の力で体育・スポーツの理想的なあり方を考えることができる。			
■	情意的領域	体育・スポーツについてのより良い指導を追求する意識を持つことができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
一貫して「よい体育の追求」および「よいスポーツ指導の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていく。また、この授業では担当教員の高校教員としての実務経験を活かしつつ、各回ごとに異なるテーマを設定した上で講義を進めていく。主なテーマ「体育とスポーツ」「身体教育」「運動指導」「身体文化教育」「指導者」「スポーツ指導の問題」「競技者」「オリンピック」「ルール」「スポーツと美しさ」「スポーツとコミュニティ」「スポーツとの良好な関係」					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]「体育原理」についてのオリエンテーション [内容]「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。 [授業外学修] 参考書『はじめて』を読む。			⑨	[テーマ] スポーツ指導の問題性 [内容] 体罰・暴力のメカニズムを解説した上でスポーツ指導の在り方について解説する。 [授業外学修] スポーツ指導に関する最近のニュースを調べる。参考書「第6章」
②	[テーマ] スポーツとは何か？ [内容] スポーツという言葉の語源、およびスポーツの定義について解説する。 [授業外学修] スポーツという言葉の意味を調べてくる。参考書「第1章第1節」を			⑩	[テーマ] 競技者の世界と理想の姿 [内容] 競技者とスポーツ愛好者の違い、競技者が競技に惹きつけられる理由、競技者の理想の姿について解説する。 [授業外学修] 自分自身がスポーツに感じる魅力をまとめてくる。参考書「第7章」
③	[テーマ] 体育とは何か？ [内容] 体育という言葉の語源、体育の定義、体育の構成要素について解説する。 [授業外学修] 体育という言葉の意味を調べてくる。参考書「第1章第2節」を			⑪	[テーマ] オリンピックと世界平和 [内容] オリンピズムの本質、オリンピックの問題点、世界平和とオリンピックとの関係について解説する。 [授業外学修] オリンピックについて調べてくる。参考書「第8章」を読む。
④	[テーマ] 教科としての体育の成り立ち [内容] 体育という教科名称の変遷、学習指導要領の変遷、体育理念の変遷について解説する。 [授業外学修] 教科体育の歴史を調べてくる。参考書「第1章第3節」を読む。			⑫	[テーマ] スポーツのルールを考える [内容] スポーツにおけるルールの機能、およびルールと選手との関係について解説する。 [授業外学修] 自分が行っている競技のルールを調べてくる。参考書「第9章」を
⑤	[テーマ] 身体教育という考え方 [内容] 身体教育が対象とする身体の捉え方、および身体教育としてのスポーツの可能性について解説する。 [授業外学修] 日本人の身体観を調べてくる。参考書「第2章」を読む。			⑬	[テーマ] スポーツにおける美しさを考える [内容] スポーツと美しさとの関係、およびスポーツと芸術との関係について解説する。 [授業外学修] 採点競技のルールについて調べてくる。参考書「第10章」を
⑥	[テーマ] 運動を指導するための考え方 [内容] 運動実践と運動習得、および運動実践と運動指導について解説する。 [授業外学修] これまでの自分自身の運動経験をまとめてくる。参考書「第3章」を			⑭	[テーマ] コミュニティとスポーツをめぐる諸問題 [内容] コミュニティとスポーツの現状と課題、およびコミュニティづくりにおけるスポーツの可能性について解説する。 [授業外学修] スポーツによる地域振興について調べてくる。参考書「第11章」を
⑦	[テーマ] 身体文化教育という考え方 [内容] 身体文化と教育の関係、芸道と身体、身体の模倣と学びについて解説する。 [授業外学修] 日本の伝統芸能について調べてくる。参考書「第4章」を読む。			⑮	[テーマ] スポーツと人間との良好な関係を考える [内容] スポーツがもつ功罪、スポーツとの良好な関係が崩れてしまう要因、良好な関係づくりに向けて求められるものについて解説する。 [授業外学修] 自分の好きなアスリートについて調べてくる。参考書「第12章」を
⑧	[テーマ] 体育・スポーツ指導者 [内容] 体育教師の専門性、運動部活動の指導者、体育・スポーツ指導者の身体について解説する。 [授業外学修] 部活動の課題を調べてくる。参考書「第5章」を読む。			⑯	[テーマ] 論述形式での試験を実施 [内容] 講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。 [授業外学修] 試験勉強
成績評価方法(方針)					
基本的には、試験(70%)、課題(30%)とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容もちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかも評価の対象とします。レポートの返却については申し出に応じて対応し、評価の高いレポートについては授業中に内容を紹介します。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			70%
授業内レポート		◎	◎		30%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度			◎		加点対象
出席					欠格条件
関連科目	教員免許状(中・高 保健体育)取得関連諸科目			関連資格	教員免許状(中・高 保健体育)
教科書	指定なし。			参考書	高橋徹編(2018)『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』株式会社みらい。2,000円(税別)
オフィスアワー	前期・後期とも水曜2時限目(予定)			その他	研究室:G棟2階

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	解剖・生理学 Anatomy and Physiology (L.)			担当教員	高橋陽介／柴原茂樹／(非常勤:和田)
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
健康管理や健康増進に携わる者にとって、また、運動・トレーニングを安全かつ効果的に行うためにも、からだの構造や機能などに関わる知識を身につける必要があり、これらの内容を十分に理解するためには、基礎的な解剖・生理学の知識が必要となる。このような観点から、本講義では人体の構造と機能に関する基礎的事項を解説する。					i
授業の一般目標					
骨格と骨格筋、呼吸循環系、消化器系、内分泌系、神経系、免疫系などヒトのからだを構成する様々な器官系の構造(仕組み)を理解するとともに、これらの機能(働き)に関する基礎的知識(解剖学的・生理学的特徴)を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ヒトのからだを構成する人体各部の名称やその働きについて体系的に説明できる。			
■	情意的領域	ヒトのからだについて興味・関心を持つとともに、健康管理や運動指導に関わるうえでの解剖・生理学の重要性を認識できるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
基本的には教科書に準じて授業を行うが、授業テーマによってはスライドや資料を用いるが、担当教員の裁量で補助的な資料を提示することもある。全授業終了後の筆記試験によって理解度・到達度を確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(高橋) [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価などについて説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] 血管系(和田) [内容] 脈管系の構成および心収縮に伴う血管内の血圧等の変化について説明する。 [授業外学修] 教科書の第7章を読んでおくこと。
②	[テーマ] 骨格と骨格筋(1)(高橋) [内容] アスレティックトレーナーとしての実務経験を活かし、頭頸部・上肢の構造と関節運動についてスポーツ現場での例を交えて説明する。 [授業外学修] 教科書の第3章を読んでおくこと。			⑩	[テーマ] 血液と体液(和田) [内容] 血液の一般的な性質や血球成分、血漿および体液の区分等について説明する。 [授業外学修] 教科書の第8章を読んでおくこと。
③	[テーマ] 骨格と骨格筋(2)(高橋) [内容] 骨盤・下肢の構造と関節運動について説明する。 [授業外学修] 教科書の第3章を読んでおくこと。			⑪	[テーマ] 内分泌(柴原) [内容] 生体の内部環境を調節する役割を担う内分泌系とホルモン分泌の仕組みについて説明する。 [授業外学修] 教科書の第15章を読んでおくこと。
④	[テーマ] 骨格と骨格筋(3)(高橋) [内容] 骨格と骨格筋についてのまとめを行う。 [授業外学修] 教科書の第3章を読んでおくこと。			⑫	[テーマ] 免疫系と生体防御(和田) [内容] 病原性生物などによる感染を防ぐ役割をもつ免疫系の働きについて説明する。 [授業外学修] 教科書の第6章の白血球、リンパ球の項目を読んでおくこと。
⑤	[テーマ] 細胞と人体の構成(和田) [内容] 医師としての実務経験を活かし、人体を構成している細胞、組織、器官について医学的知識を交えて説明する。 [授業外学修] 教科書の第1章を読んでおくこと。			⑬	[テーマ] 腎臓の構造と腎機能(和田) [内容] 腎臓の構造と尿の生成の仕組みについて説明する。 [授業外学修] 教科書の第13章を読んでおくこと。
⑥	[テーマ] 消化器系の構造と機能、消化吸収(和田) [内容] 口腔、胃、小腸、大腸、膵臓、肝臓など食物の消化吸収に関わる器官の構造とその働きについて説明する。 [授業外学修] 教科書の第11章を読んでおくこと。			⑭	[テーマ] 中枢神経系(高橋) [内容] 大脳、小脳、中脳、延髄、脊髄などの中枢神経系の構造と役割について解説する。 [授業外学修] 教科書の第4章の脳、脊髄の項目を読んでおくこと。
⑦	[テーマ] 呼吸器系の構造と機能(和田) [内容] 肺を中心とした呼吸器系の構造および呼吸運動、酸素・二酸化炭素運搬などについて説明する。 [授業外学修] 教科書の第10章を読んでおくこと。			⑮	[テーマ] 末梢神経系(高橋) [内容] 運動の指令や感覚情報を伝える体性神経系と内臓の機能に関与する自律神経系について説明する。 [授業外学修] 教科書の第4章の脳神経、自律神経の項目を読んでおくこと。
⑧	[テーマ] 心臓の構造とポンプ作用(和田) [内容] 心臓の構造と心収縮に関わる刺激伝達系、血液を送り出すポンプ作用について説明する。 [授業外学修] 教科書の第6章を読んでおくこと。			⑯	[テーマ] 試験(高橋) [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験を実施する。 [授業外学修] これまでの授業内容(教科書、プリント)を復習しておくこと。
成績評価方法(方針)					
授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。試験結果については、講評と得点分布等を示す予定。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ・授業中の私語は周囲への迷惑となるので慎むこと。 					
関連科目	運動生理学(2年)、スポーツ医学概論(1年)			関連資格	教員免許、健康運動指導士、健康運動実践指導者、NSCA-CPT、CSCS、障害者スポーツ指導員
教科書	人体の構造と機能 歯歯葉出版			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	第4体育館1階高橋(陽)研究室 水曜日 12時50分～15時20分			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ医学概論			担当教員	橋本 実	
	Introduction to Sports Medicine (L.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。					i	
授業の一般目標						
スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。				
■	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学修] 当日配布するプリントを参照すること			⑨	[テーマ] 体液 [内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	
②	[テーマ] スポーツ医学の基礎 [内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 細胞 [内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	
③	[テーマ] ドーピング① [内容] ドーピングに関連する知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 免疫 [内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	
④	[テーマ] ドーピング② [内容] ドーピングに関連する防止策や実態について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 赤血球 [内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	
⑤	[テーマ] 呼吸器 [内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] 高地トレーニングと貧血 [内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	
⑥	[テーマ] 循環器 [内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 骨格筋 [内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	
⑦	[テーマ] 遺伝 [内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する [授業外学修] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	
成績評価方法(方針)						
基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
定期試験		◎			95%	
授業内レポート						
授業外レポート		○			5%	
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書	スポーツ医学概論 講義ノート				参考書	特になし
オフィスアワー	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		スポーツ計量学 Metrics on Sports(L)			担当教員	菊地 直子/林 直樹
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	日本バドミントン協会医事・トレーニング管理部、分析スタッフの経験有する。
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
体育・スポーツ場面において、様々なデータを採取し取り扱う必要性が高まってきている。本講義では②から⑧においては計量の概論と「スポーツにおける計量の実際」について、⑩から⑮においては統計的な「データの取り扱いの基礎」について、実務経験を活かしてそれぞれ解説する。						v
授業の一般目標						
さまざまなデータの採取と取り扱いについて学び、各授業で学んだ内容について具体的に実践・算出することができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	データの意味を知り、2次データまで整理することができる。				
■	情意的領域	データについて、正しく取り扱う慎重な態度が形成される。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
本講義は、まずスポーツ場面での計量を中心に解説し、後半にそのデータを統計的に解析し、現場にフィードバック可能なものにするまでの概要を解説する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(菊地・林) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法、クラス分け [授業外学修]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ]中間テスト(林) [内容] ②～⑧回分についてテストを行う。 [授業外学修]配布資料を熟読しておく。	
②	[テーマ]「スポーツ計量学」の意味と意義について考える(林) [内容] 日常において行われる計量とスポーツにおける計量を比較してスポーツ計量の範囲を共に考え、スポーツ計量学の本質を解説する。 [授業外学修]「スポーツ」「計量学」という言葉の定義を復習する。			⑩	[テーマ]事象を計量する・調査研究の基本的な流れ(菊地) [内容] 自然科学アプローチで一般的な統計解析を念頭に置き、スポーツ場面において計量することについて具体的なイメージを持たせる。 [授業外学修]配布資料を熟読しておく。	
③	[テーマ] 体力の測定・計量(林) [内容] 文部科学省の体力テストを含めた体力・運動能力テストの現状や内容を解説する。形態や姿勢を含めた体力の計量について議論する。 [授業外学修] 体力の概念をキーワードを用いて説明できるように復習する。			⑪	[テーマ]データの種類の整理(菊地) [内容] データの種類、尺度について解説する。度数分布表を使って名義、比尺度データの整理を説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学修]研究法と調査の流れについて復習しておく。	
④	[テーマ] 様々な体力の計量とその可能性(林) [内容] パフォーマンスに影響を及ぼす「体力」の計量について、特に視力、聴力などを計量することの意味とその可能性を解説する。 [授業外学修]視覚情報獲得の「輻輳(ふくそう)」の構造を理解する。			⑫	[テーマ] 代表値、散らばりの尺度(菊地) [内容] 代表値、域値、四分位範囲、箱ひげ図の考え方と特徴について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学修]配布資料等を熟読する。	
⑤	[テーマ] 血圧・血中乳酸を測定する(一次データの利用)(林) [内容] 心臓から全身を巡る血液に関する基本的な計量を実際に紹介し、その意味や計量意義に関して解説する。血中乳酸の測定を紹介する。 [授業外学修] 乳酸の働きに関して復習し、競技場面での利用方法を考える。			⑬	[テーマ] 標準偏差と標準化(菊地) [内容] 標準偏差、標準化および偏差値について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学修]配布資料を熟読し、不明な点を抽出しておく。	
⑥	[テーマ] 位置情報から速度や角度を算出する(二次データの利用)(林) [内容] 連続写真の中の位置の変化から距離や角度を算出し、時間微分することにより速度や角速度を算出する方法を解説する。 [授業外学修] 二次データの利用として速度の算出を完璧にマスターする。			⑭	[テーマ] 2変数の相関(菊地) [内容] ピアソンの積率相関係数の概要とその算出の仕方について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学修]配布資料等を熟読する。	
⑦	[テーマ]加速度、力、運動量を算出する(二次データの利用)(林) [内容] 算出した速度を更に時間微分し、加速度を算出する方法を解説する。そして加速度から力や運動量などを算出する方法を解説する。 [授業外学修] 提示した量的パラメータの意味について復習して理解する。			⑮	[テーマ] T検定、 χ^2 乗検定(菊地) [内容] T検定と、クロス集計表の作成および、 χ^2 検定について説明した後、演習を通して理解させる。 [授業外学修]演習を見直し、課題を提出する。	
⑧	[テーマ]様々な測定・計量とその評価(林) [内容] 量的・質的な計量手法を紹介し、それぞれの評価をフィードバックする適切な手法について解説する。 [授業外学修]図表やICT機器でのフィードバック方法を復習する。			⑯	[テーマ] テストと総括(菊地) [内容] ⑩～⑮回分のテストを行う。 [授業外学修]ここまでの復習、テストの準備をしておく。	
成績評価方法(方針)						
主に、定期試験の結果(前後半それぞれのテストの合計点)に重点をおいて評価する。試験は授業内で返却し、解説する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと。 ・簡易なもので構わないので、電卓を用意すること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
定期試験		◎	◎		80%	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度		○	◎		20%	
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書	特に指定しない				参考書	特に指定しない
オフィスアワー	火曜10:20～11:50(菊地)				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		運動学(含運動方法学) Movement Theory of Sports			担当教員	川口鉄二
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	高校, 中学での教員経験を有する
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
体育教師やスポーツ指導者に必須となる科目です。動物や機械とは異なる人間の運動とは何なのか。巧みな動きがはじめて「できるようになり」、練習によって自在に動けるようになるまでに現れる身体知について解説します。実際の運動学習の際に直面する様々な問題を具体例を取り上げながら考えていきます。						i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標						
保健体育科教員、スポーツ指導者として、動き方を教える際の前提となる基本的運動認識と観察・指導力について理解できるようにする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツ運動の諸概念と正しい運動認識を理解できる。				
■	情意的領域	動きを覚える、教えるための身体知が理解できる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
最新の理論を具体的な運動例を取り入れながら平易に解説していく。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] シラバスに基づき、本講義の授業概要、目標、評価方法、課題提出方法、参考文献などの説明を行う。 [授業外学修] 講義の受講方法を理解する			⑨	[テーマ] 「うまくなる体力づくり」と「強くなる体力づくり」 [内容] 学校体育や競技場面における体力づくりと健康目的の体力づくりの基本的な違いを踏まえ、「できる」ための「体力づくり」の実践について解説する。 [授業外学修] 体力概念が曖昧なことを復習する	
②	[テーマ] スポーツ指導にまつわる今日的諸問題 [内容] 体育教師やコーチが無意識のうちに様々な隠れ蓑をまとうことで専門性が問われている現状を概観し、発生指導理論の必要性を浮き彫りにする。 [授業外学修] スポーツ指導のどのような問題があるのかを復習する			⑩	[テーマ] 競技実績の意味と価値 [内容] 自分は「できていた」のに「教えられない」、「できなかった」のに「教えられる」のは何故なのか。競技実績の捉え方、能動的学習と受動的学習の違いについて解説する。 [授業外学修] 身近なコツとカンを例を復習する	
③	[テーマ] スポーツ実践とスポーツ科学の断層 [内容] 総括したスポーツ科学の現状を概観し、何故、理論と実践に断層が生まれてしまうのか根本的な問題を探り、人間の運動研究の独自性を解説する。 [授業外学修] スポーツ科学の現状について復習する			⑪	[テーマ] 「やりたくない」意識を読み取る [内容] 「やりたくない」「やってみよう」という気持ちの違いは何故生じるのか。動感形成の原志向位相における問題を実際の例とともに解説する。 [授業外学修] 自分の身近な経験を例に復習する	
④	[テーマ] コーチングの基礎理論の誕生 [内容] ドイツ(ヨーロッパ)における運動理論の台頭(マイネル)と日本のモルフオロジー運動学の発展様相を概観し、スポーツ実践者に身近で中核になる理論について解説する。 [授業外学修] 自然科学と運動の理論の違いを復習する			⑫	[テーマ] 「わかる」と「できる」の違い [内容] 頭でわかっていることが実際には「できそう」「できそうもない」と感じてしまうことを、「コツ」「カン」の発生との関連で解説する。 [授業外学修] コツとカンの特性と相互の関係を復習する	
⑤	[テーマ] 古い体育と新しい体育 [内容] 日本独特のラジオ体操、集団行動指導の歴史的背景と、古典的な運動認識の特徴について解説する。 [授業外学修] 身近な体験例を用いて復習する			⑬	[テーマ] 映像利用とコツ・カン学習 [内容] 指導要領に示されているICT機器利用の現状に潜む問題点を理解し、発生学習のための基本認識について解説する。 [授業外学修] 観察能力の重要性を復習する	
⑥	[テーマ] 「客観性=正しさ」という誤解 [内容] 主観と客観、因果思考、データ化と統計的思考の諸問題について。実際の感覚と判断の根拠について身近な例をもとに解説する。 [授業外学修] 審判の主観性に対する問題点を復習する			⑭	[テーマ] 指導実践における方法論 [内容] 実際の指導の際に必要な運動の観察・感覚の移入、課題の把握を踏まえ、めあて、道しるべの在り方について解説する。 [授業外学修] 段階的学習の特性について復習する	
⑦	[テーマ] 計測できない運動のかたち(質) [内容] 運動の質に対する判断根拠とは。質が決して客観的な差として表せないことをモザイク化問題との関連で解説する。 [授業外学修] 身近な例を用いて復習する			⑮	[テーマ] 全講義のまとめと復習 [内容] これまでの内容を体系的に理解するとともに、実践的探求への手がかりとする 試験方法についての解説。 [授業外学修] 講義全体の内容を復習する	
⑧	[テーマ] 楽しくない「体力づくり」人気の背景 [内容] 「体力づくり」「トレーニング」の諸問題を取り上げる。「体力」用語の認識実態や「運動技能」との関係性を「構築化」問題との関連で解説する。 [授業外学修] 体力という用語の多義性を復習する			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 実践例とのかかわりを重視した記述問題が中心 [授業外学修] 参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。	
成績評価方法(方針)						
各回の授業内容の理解度ないし関連課題をノート提出によって確かめます(欠席分も含む)。自分の運動経験を通して課題内容が分析・記述できていることを評価します。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・運動学に興味をもっていること ・豊富な運動経験が必要です(レベルは問わない) ・授業内容は毎年進化します ・教員志望者には必須科目です
定期試験		○			80%	
授業内レポート		○			20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度				○	減点対象	
出席		○			欠格条件	
関連科目	スポーツ技術観察論、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論			関連資格	保健体育科教員	
教科書				参考書	「コツとカンの運動学」日本スポーツ運動学会編 大修館	
オフィスアワー	水曜13:00-14:30			その他	tt-kawaguchi@sendai-u.ac.jp	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		運動障害救急法(含実習) Emergency Care for Sports Injury (L.)			担当教員	橋本 実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する。 スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう。						i
授業の一般目標						
スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる。 固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する。				
■	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明する [授業外学修]プリントを配布するので参考にすること			⑨	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	
②	[テーマ] 外傷 [内容] 外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の分類、重症度などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	
③	[テーマ] 外傷の新しい治療 [内容] 外傷の新しい治療について説明する [授業外学修]授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の対処方法、予防法などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	
④	[テーマ] 固定法 [内容] 様々な方法による上肢の固定法について説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 心肺蘇生法 [内容] 心肺蘇生法について説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	
⑤	[テーマ] 止血法 [内容] 様々な方法による止血法について説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] AEDを使った心肺蘇生法 [内容] AEDを使った心肺蘇生法について説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること	
⑥	[テーマ] 脳震盪 [内容] 脳震盪の分類、重症度などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] AED、AED実習器具を使って実習する [授業外学修]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる	
⑦	[テーマ] 頭部外傷 [内容] 頭部外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学修]授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	
⑧	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] 包帯、三角巾の使用法、RICE、傷の治療を実習する [授業外学修]1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学修]講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	
成績評価方法(方針)						
基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
定期試験		◎			95%	
授業内レポート						
授業外レポート		○			5%	
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書	運動障害救急法 講義ノート				参考書	特になし
オフィスアワー	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	衛生・公衆衛生学 Public Health(L.)			担当教員	小松正子／高橋弘彦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
人々の健康を守るために疾病予防、環境衛生、保健統計等について、現代のトピック、理論と実際等を講義する。					i、ii、iii
授業の一般目標					
衛生・公衆衛生学の目的である人々の健康を守ることに必要な知識の習得をめざす。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	衛生・公衆衛生学の基礎的事項・重要事項について説明できる。			
■	情意的領域	知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
テキスト、配布資料、パワーポイントをもとに講義を中心に行う。学習効果を高めるための小問も随時課し、提出させる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 衛生・公衆衛生学とは(小松) [内容] 衛生・公衆衛生学の定義とその内容について説明する。公衆衛生と社会の関わりの実例を学ぶ。 [授業外学修]社会における役割について復習しておくこと		⑨	[テーマ] 環境の把握とその評価(1)(高橋) [内容] 地球環境問題について説明する(温暖化、砂漠化、食物連鎖等)。 [授業外学修]地球環境問題とその影響についてについて復習しておくこと	
②	[テーマ] 健康の概念、医事法規(小松) [内容] 健康と健康増進(WHO憲章、オタワ憲章等)、病気の経過およびその各段階における予防手段を知り、医事法規等の制度についても学ぶ。 [授業外学修]他者に説明できるよう復習する。		⑩	[テーマ] 環境の把握とその評価(2)(高橋) [内容] 生活環境問題について説明する(アルコール、騒音、廃棄物等)。 [授業外学修]生活環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと	
③	[テーマ] 生活習慣病概論(小松) [内容] 生活習慣病の定義、各生活習慣と疾患の関連を知り、生活習慣変容の重要性を理解する。事例として、特定健診・特定保健指導についても学ぶ。 [授業外学修]各自の生活習慣を見直して、考察する。		⑪	[テーマ] 環境の把握とその評価(3)(高橋) [内容] 化学的環境問題について説明する(環境汚染物質、喫煙等)。 [授業外学修]化学的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと	
④	[テーマ] 健康づくり施策(小松) [内容] 第1次健康づくり対策から健康日本21まで健康づくり対策の変遷。健康診断現場での実務経験も活かし、大局的観点から現状をとらえ考察する。 [授業外学修]他者にも説明できるように復習する。		⑫	[テーマ] 環境の把握とその評価(4)(高橋) [内容] 生物的環境問題について(ウイルス感染症、HIV、AIDS他) [授業外学修]生物的環境問題とその人体影響についてについて復習しておくこと	
⑤	[テーマ] 禁煙など [内容] 公衆衛生上の身近な課題として、禁煙(運動の健康行動への影響等)、食中毒、有機溶剤などについて学ぶ。生活習慣変容を理解する。 [授業外学修]各自の生活を見直して、考察する。		⑬	[テーマ] 物理的環境要因(1)(高橋) [内容] 気温、気湿(湿度)、熱輻射、気流(風速)の人体影響について説明する。 [授業外学修]生活を取り巻く物理的環境の影響について復習しておくこと	
⑥	[テーマ] 運動基準・運動指針(小松) [内容] 健康づくりのための身体活動基準2013とアクティブガイド等を理解する。運動前のメディカルチェック(健診)の実務経験に基づくことにも触れる。 [授業外学修]各自の運動習慣を見直して、考察する。		⑭	[テーマ] 物理的環境要因(2)(高橋) [内容] 熱中症の現状とその予防法について説明する。 [授業外学修]学校現場における熱中症の発生状況とその予防法について復習しておくこと	
⑦	[テーマ] 介護予防概論(小松) [内容] 高齢社会で公衆衛生上の重要課題である介護予防について、考え方や実践例について学ぶ [授業外学修]他者にも説明できるように復習する。		⑮	[テーマ] まとめ(高橋) [内容] 全体を振り返る。 [授業外学修]各自、理解不足の箇所を補習すること	
⑧	[テーマ] 軽度認知障害、認知症 [内容] 現代の課題である認知症や関連疾患について学ぶ [授業外学修]他者にも説明できるように復習する。		⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 全15回の内容について知識の確認をする。 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)					
期末試験をもって評価する。6割以上の得点を合格とする。そのほか、理解度確認のための小問を時折行い、その回答をまとめたものの配布・解説などとする。試験の結果は希望者には開示・解説を行う。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート			○		
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					注意参照
出席					
関連科目	学校保健学等			関連資格	保体科教諭、健康運動指導士・実践指導者(健福)、社会福祉主任任用資格等
教科書	衛生・公衆衛生学(アイ・ケーコーポレーション)			参考書	特になし
オフィスアワー	小松正子(火2・F棟2階)、高橋弘彦(木4・C棟3階)			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ栄養学 Sports Nutrition			担当教員	岩田 純
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
栄養学を基本としてトレーニング前後や試合前後などのスポーツ特有の場面に応じた食事や運動によって活動量が増加した分の栄養摂取、あるいは増量・減量を含めた競技種目に適した身体作りなどについて講義を行う。					i
授業の一般目標					
運動をする人の健康維持やスポーツ選手の競技力向上のための栄養摂取について理解できる。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	エネルギーや各栄養素と運動の関係や運動時の様々な場面における食事のとり方を説明できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
教科書および配布資料を使い授業を進める。オリエンテーション後の3週分の授業内容は栄養学の基礎知識に関する説明を多く実施し、その後にスポーツに特有な応用的内容を加えていく。3～4つの単元ごとに小テストを実施する。また、筆記試験の前週には試験範囲と同様の内容で確認のテストを実施する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業内容と進め方、成績評価の方法、スポーツ栄養学とは何かを説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] トレーニング期の食事 [内容] トレーニング期の疲労回復のための食事について説明する。 [授業外学修] テキストのトレーニング期の章を読んでおくこと
②	[テーマ] 運動時のエネルギー源(糖質・脂質) [内容] 運動時にエネルギー源となる糖質と脂質の役割について説明する。 [授業外学修] テキストの栄養素(糖質・脂質)の章を読んでおくこと			⑩	[テーマ] 体重調節と食事 [内容] 減量や増量を行う際の食事のとり方や注意事項などについて説明する。 [授業外学修] テキストの体づくりの章を読んでおくこと
③	[テーマ] からだ作りとたんぱく質 [内容] たんぱく質の構造、体内での役割・代謝、必要量などについて説明する。 [授業外学修] テキストの栄養素(たんぱく質)の章を読んでおくこと			⑪	[テーマ] 試合期の食事 [内容] 試合1週間前から前日、当日などの食事のとり方や注意事項などについて説明する。 [授業外学修] テキストの試合期の食事の章を読んでおくこと
④	[テーマ] 代謝調節とビタミン・ミネラル [内容] ビタミン・ミネラルの主な働きや体の機能維持にどのような関わりがあるのかを説明する。 [授業外学修] テキストの栄養素(ビタミン・ミネラル)の章を読んでおくこと			⑫	[テーマ] 小テスト [内容] ⑧～⑪までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学修] ⑨～⑪までの内容を復習し、小テストにそなえること
⑤	[テーマ] スポーツ選手の身体組成 [内容] スポーツ選手の身体組成の評価方法について説明する。また、授業の最初に②～④までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学修] ②～④までの内容を復習し、小テストにそなえること			⑬	[テーマ] 運動時の体温調節と水分補給 [内容] 運動時の体温調節の仕組みや水分補給について説明する。 [授業外学修] テキストの熱中症予防と水分補給の章を読んでおくこと
⑥	[テーマ] 身体組成の測定方法 [内容] 身体組成の測定方法について紹介し、それぞれの長所や短所について説明する。 [授業外学修] 前回の授業で扱った身体組成の評価方法を復習しておくこと			⑭	[テーマ] まとめ [内容] これまでの授業内容についてのまとめを行う。また、確認のテストを実施する。 [授業外学修] 確認のテストでわからなかったところを復習しておくこと
⑦	[テーマ] 推定エネルギー必要量 [内容] 1日のエネルギー消費にはどんな因子があり、エネルギー消費量の測定方法や推定式を用いた算出方法を説明する。 [授業外学修] テキストの食事摂取基準の章を読んでおくこと			⑮	[テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験 [授業外学修] 試験に備えて復習しておくこと
⑧	[テーマ] 日常の食事 [内容] 食事バランスガイドを用いた食事の診断方法を説明する。また、授業の最初に⑤～⑦までの内容を範囲とする小テストを実施する。 [授業外学修] ⑤～⑦までの内容を復習し、小テストにそなえること			⑯	[テーマ] 試験問題の解説 [内容] 筆記試験問題の解説を行う。 [授業外学修] 不正解だった問題を確認して理解すること
成績評価方法(方針)					
筆記試験(評価割合100%)で成績評価を行うが、授業内で実施する小テストの点数が6割未満の場合は筆記試験の得点から減点され、8割以上の場合は加点される。筆記試験は翌週に返却して解説を行う。小テストは実施直後に解説をしながら自己採点してもらう。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート		○			加点・減点あり
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目				関連資格	レクリエーション指導者、JPSUスポーツトレーナー
教科書	スポーツ・健康栄養学(化学同人)			参考書	
オフィスアワー	前期:水4時限、後期:月4時限			その他	岩田研究室:D棟2階

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		学校保健学 School Health(L.)			担当教員	小松正子/小浜明/高橋弘彦/入澤裕樹	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	健康診断実務経験を有する(小松)	
	履修の方法	選択	単位数	2			
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)	
児童生徒の健康の保持増進についての講義を行なう。						ii、iii	
授業の一般目標							
学校保健の概要と心身両面からの保健管理(対人管理・環境管理)・保健教育(保健学習・保健指導)を学び、理解することを目標とする。							
授業の到達目標							
■	認知的領域	体育・スポーツ、健康や栄養、武道等に関する専門的・応用的知識を基礎に、学校教育に関わる上で学校保健の果たす役割を深く理解している					
■	情意的領域	子どものいのちと健康を守ることを目的とする学校保健への関心や意欲が高く、子どもの健康課題を深く探求し、主体的に課題解決に取り組もうとしている					
□	技能表現的領域						
授業計画(全体)							
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるためのICTも用いる。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、授業の進み具合によっては、共同作業としてのグループワークやレポートの発表等も行うこともある。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(小松) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]配布資料あり。オリエンテーションは必ず出席してください。				⑨	[テーマ] 保健室の役割(小松) [内容] 保健室の役割について [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
②	[テーマ] 「学校保健」とは何か(小松) [内容] 学校保健を探す [授業外学修]レポート提出の指示がある場合はそれに従うこと				⑩	[テーマ] 学校でみられる疾病(小松) [内容] 学校で多く見られる疾病・異常等について [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
③	[テーマ] 身体の発育・発達(小浜) [内容] 学童期の身体の発育・発達の特徴について [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる				⑪	[テーマ] 性教育・薬物中毒・小児生活習慣病(小松) [内容] 避妊、薬物、小児糖尿病等に関する知識をビデオ供覧もいながら修得する [授業外学修]気になった点を参考書や図書館資料を使い調べる	
④	[テーマ] 健康状態の評価(小浜) [内容] 児童生徒の健康状態を把握するための指標について [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる				⑫	[テーマ] 学校でみられる重要な疾患(小松) [内容] 心臓病、腎臓病など生活管理指導が特に必要な疾患について [授業外学修]難しく感じた点、興味が沸いた点は図書館で調べる	
⑤	[テーマ] 健康診断(小浜) [内容] 学校で行われる健康診断について、健康診断現場での実務経験も活かし講義を行う。 [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる				⑬	[テーマ] 学校管理下の事故の実態と防止(高橋) [内容] 小・中・高校における事故発生状況とその予防について説明する [授業外学修]学校区分ごとの事故発生状況とその要因を復習すること	
⑥	[テーマ] 児童生徒の健康状態(小浜) [内容] 児童生徒の健康状態の変遷と現在の課題について [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる				⑭	[テーマ] 学校環境衛生(高橋) [内容] 点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと [授業外学修]点検項目と実施上の留意点について復習しておくこと	
⑦	[テーマ] 児童生徒の健康と教育(小浜) [内容] 保健学習・保健指導について [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる				⑮	[テーマ] まとめ(入澤) [内容] これまでの学習についてまとめる。 [授業外学修]これまで学習したところを復習しておくこと	
⑧	[テーマ] 心の発達と諸問題(入澤) [内容] 事例を中心にして考える [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる				⑯	[テーマ] テスト(小浜・小松・高橋・入澤) [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学修]テストに備えて復習をすること	
成績評価方法(方針)							
期末試験(1回)と、授業内レポート(2回程度)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席・授業内レポートは、評価割合に加えず、欠格条件となる。なお、試験の結果は開示希望者を対象に開示しながら解説をする。							
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。(欠格条件) ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと。・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。このシラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行うこと。・授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。	
定期試験		◎			100%		
授業内レポート		◎	◎		欠格条件		
授業外レポート							
演習・実技							
授業態度					欠格条件		
出席					欠格条件		
関連科目	衛生・公衆衛生学(2年)、保健体育科教育論Ⅱ(3年)				関連資格	教員免許(中・高 保健体育)、養護教諭1種普通免許(健福)	
教科書	新版・基礎から学ぶ学校保健(建帛社)				参考書	特に指定しない	
オフィスアワー	小松(木2)、小浜(火4)、高橋(木4)、入澤(木4)				その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	トップアスリート論			担当教員	阿部(肇), 武石, 名取, 南條, 吉井, 桑原, 鈴木(良), 他	
	Top Athlete Coaching(L.)					
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
トップアスリート養成に必要な指導法を探求しながら, 特にトップアスリート育成の実践的なコーチ自身の資質・必要条件について学ぶ。授業後半は全日本レベルのコーチ経験を有する本学教員をはじめ, 外部著名指導者を招きながら, トップアスリートの在り方や, 独自の指導術をオムニバス形式の講義で学ぶ。					ii	
授業の一般目標						
将来, 世界や日本一を目指すトップアスリートの育成に必要な知識や実践力を身に付ける為, 指導の基礎から輝かしい実績を誇る指導経験者の「指導術」ともいべき生の声を通して自己独自の指導法を身に付ける事を望む。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	豊かな指導経験のある各著名コーチの話を通して, 自己のコーチングスタイルを示すことができる。				
■	情意的領域	競技活動, 選手育成に携わってきた指導者の体験談を基にしたノウハウを指導現場に寄与する意欲を持たせる。				
■	技能表現的領域	各講義での体験談や知識を基に, 自己の指導スタイルを描き実践する事が出来る。				
授業計画(全体)						
総括は児玉が担当, 前半はトップアスリート概論に関する講義を行う。後半は本学教員および外部講師若干名が担当。オムニバス形式の講義で進めて行く。そこでは各講義毎にレポート提出(小テスト)をしてもらう。最終的に, 全体のまとめとしてアスリートに関するテーマにディベート方式で考える。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス (阿部) [内容] 授業内容や担当者の日割り日程等を説明する [授業外学修] 従来のコーチング(事例参考)についてイメージしておく			⑨	[テーマ] オリンピックを, 世界一を目指して(仮)(鈴木良太) [内容] 体操競技ナショナルチーム経験者である指導者からの講話 [授業外学修] 講義配布資料を復習してみる	
②	[テーマ] トップアスリート論の概論・定義(阿部) [内容] 授業の主要な部分を取り上げ, アスリートと指導者に必要な要素について考えていく。 [授業外学修] 自己のコーチ観と授業時提供のコーチ像とを比較してみる			⑩	[テーマ] 日本ラグビーから見た社会人スポーツの成功例(仮)(武石) [内容] 社会人ラグビー選手(日本一)経験者の講話 [授業外学修] 講義配布資料を復習してみる	
③	[テーマ] トップアスリート育成の指導法の仕組み (I)(阿部) [内容] 指導方法を段階的・系統的に理解し, 各内容について触れる。指導理念や目標について考える [授業外学修] 授業資料のコーチング特性について考察しておく			⑪	[テーマ] サッカー競技の世界観(仮)(吉井) [内容] 本学サッカー部, ベガルタ仙台へと, サッカー開拓の道のりの講話 [授業外学修] 講義配布資料を復習してみる	
④	[テーマ] トップアスリート育成の指導法の仕組み (II)(阿部) [内容] 指導方法を段階的・系統的に理解し, 各内容について触れる。トレーニング計画の作成等 [授業外学修] 配布資料について予習しておく			⑫	[テーマ] 日本柔道の国際的役割と責任(仮)(南條) [内容] 全日本女子柔道チーム監督就任から現在までの指導経験談 [授業外学修] 講義配布資料を復習してみる	
⑤	[テーマ] アスリートと指導者 (I)(阿部) [内容] トップアスリートについて考えてみる。それぞれのトピックに触れる [授業外学修] 配布資料について予習しておく			⑬	[テーマ] オリンピックまでの歩み(仮)(外部講師) [内容] 全日本チームの監督を招き, 国際大会で出場の意義について触れる [授業外学修] 講義配布資料を復習してみる	
⑥	[テーマ] アスリートと指導者 (II)(桑原) [内容] ハンドボール競技を通して, 指導者のあり方と取り組み姿, 資質と条件について [授業外学修] 配布資料について予習しておく			⑭	[テーマ] アスリート・コンディションの実際(仮)(阿部) [内容] 全日本トップアスリート・トレーニングコーチのコンディショニングに関する最新情報の提供 [授業外学修] 講義配布資料について復習してみる	
⑦	[テーマ] 日本一「愛される」チームを目指して(仮)(名取) [内容] 速さを追求する厳しい陸上競技の世界をわかりやすく説明。トップチーム育成の秘話を聞く [授業外学修] 講義配布資料を復習してみる			⑮	[テーマ] 資料作成(阿部) [内容] 各招聘講師の聴講内容から, コーチの指導理念等を整理し, 独自の指導計画の作成 [授業外学修] 事前資料を予習しておく	
⑧	[テーマ] 世界を目指して(仮)(加畑) [内容] 新体操競技から見た日本代表チームの使命についての講話 [授業外学修] 講義配布資料を復習してみる			⑯	[テーマ] 筆記試験(児玉) [内容] 指導者に求められる理論的理解度を評価する [授業外学修] 事前資料を予習しておく	
成績評価方法(方針)						
出席状況および小テスト(講演時感想レポート)と本筆記試験成績を重視, 提出されたレポートはチェックをした上で返却する						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・講師招聘授業においては, 時間配分として講師紹介, 各講師に1時間程の自論を講演してもらう。質疑応答時間を設ける。また, 各講師のスケジュールについては講師の都合により若干の変更が考えられる。 ・最終段階で各講師の指導理念について小テストという形で感想レポートを提出してもらうので, 講師招聘授業を欠席すると評価において極めて不利となる。
定期試験		○	○		30%	
授業内レポート		◎	◎	○	35%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技					評価対象外	
授業態度		○	○	○	30%	
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツコーチングコース系設置科目				関連資格	
教科書	なし				参考書	なし
オフィスアワー	火曜日 10:20 ~12:00				その他	研究室 A棟406室

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツマーケティング論 Sport Marketing (L)			担当教員	弓田恵里香/マーティ・キーナート
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	プロスポーツチーム経営の実務経験を有する
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツの特性やスポーツ消費者の性質を理解した上で、スポーツマーケティング理論や戦略について学ぶ。身近なケースと照らし合わせながらより理解を深められるよう、授業内外での作業を行う。また、プロスポーツチーム経営の実務経験を活かし国内外のスポーツマーケティング事例も紹介していく。					i、iv、v
授業の一般目標					
スポーツマーケティングの基本、特性、戦略を理解することで、より顧客志向な考え方ができるようになる。また、身近なスポーツ現場を取り上げ実際に作業することで、幅広く、また柔軟な思考が身につく。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツマーケティングの基本、特性、戦略について説明でき、顧客志向でスポーツプロダクトやサービスについて考えることができる。				
■ 情意的領域	身近なスポーツ事業において顧客志向で取り組むことができる。				
■ 技能表現的領域	SWOT分析やマーケティング・ミックスなど、さまざまな手法を場面に応じて活用できる。				
授業計画(全体)					
第1回～第12回までは弓田が担当し、スポーツマーケティングの理論について幅広く概説する。第13回～第15回はキーナートが担当し、海外を中心としたスポーツマーケティングの事例を中心に解説する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(弓田) [内容] 担当教員、授業の目標と進め方、成績評価方法などについて説明し、顧客志向について導入部分を概説する。 [授業外学修] 顧客と販売志向の違いについて理解を深める。			⑨	[テーマ] ブランディング(弓田) [内容] スポーツプロダクトやサービスのブランディングについて理解を深める。 [授業外学修] 身近な事例を用いてどうブランディングできるか考える。
②	[テーマ] スポーツマーケティングとは(弓田) [内容] 一般的なマーケティングの定義を踏まえ、スポーツマーケティングについて説明する。また、重要な3つのポイントを示す。 [授業外学修] マーケティングに重要な点についてまとめる。			⑩	[テーマ] スポーツ消費者行動(弓田) [内容] スポーツ消費者のニーズ把握から購買に至るまで、その後のサイクルについて概説する。 [授業外学修] 身近な事例を用いて消費者行動について理解を深める。
③	[テーマ] スポーツプロダクトとは(弓田) [内容] スポーツマーケティングが対象とするプロダクトやサービスについて説明する。 [授業外学修] 身近なスポーツプロダクトの性質について理解を深める。			⑪	[テーマ] ソーシャルメディアマーケティング(弓田) [内容] 近年重要度を増しているソーシャルメディアとスポーツマーケティングの関係性について説明する。 [授業外学修] SNSの効果的な利用方法について考えをまとめる。
④	[テーマ] スポーツ消費者とは(弓田) [内容] スポーツマーケティングで対象とするスポーツ消費者について理解を深める。 [授業外学修] スポーツ消費者と一般消費者の違いについてまとめる。			⑫	[テーマ] 中間テスト(弓田) [内容] ①～⑪までの内容について、授業内にテストを実施する。 [授業外学修] スポーツマーケティングとは、が説明できること。
⑤	[テーマ] STP戦略(弓田) [内容] 集めた情報をもとに実施するセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて説明する。 [授業外学修] なぜターゲティングが重要か考えをまとめる。			⑬	[テーマ] スポーツマーケティングの実際①(キーナート) [内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(野球)。 [授業外学修] 授業内で紹介した野球の事例について考えをまとめる。
⑥	[テーマ] 環境分析(弓田) [内容] マーケティング・プランでまず必要となる情報収集で、基本となる環境分析について学ぶ。 [授業外学修] 身近な事例を用いてSWOT分析を行う。			⑭	[テーマ] スポーツマーケティングの実際②(キーナート) [内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(サッカー、バスケットボール)。 [授業外学修] 授業内で紹介したサッカーなどの事例について理解をする。
⑦	[テーマ] マーケティング・プラン(弓田) [内容] マーケティングで基本となるマーケティング・プラン(ステップ)について概説する。 [授業外学修] 実際にマーケティング・プランを立てる。			⑮	[テーマ] スポーツマーケティングの実際③(キーナート) [内容] スポーツマーケティングの実例を紹介する(海外のスポーツ)。 [授業外学修] 授業内で紹介したことを踏まえ日米比較を行う。
⑧	[テーマ] マーケティング・ミックス(弓田) [内容] マーケティングをしていく中で必要となる4Pについて理解し、身近な例を使って作業を行う。 [授業外学修] 実際にマーケティング・ミックスを用いて立案する。			⑯	[テーマ] 授業外レポート(各教員) [内容] 各教員が課したテーマについて授業外レポートに取り組む。 [授業外学修] 根拠を示すためにも資料を用いて作成にあたること。
成績評価方法(方針)					
弓田が80%、キーナートが20%評価する。評価方法は各担当によって異なるが、主に授業内レポート、授業内テストで総合的に評価する。出席は評価割合に加えない。詳細についてはオリエンテーション及び各担当者より授業時に説明がある。なお、提出された授業内レポートは授業で解説をしながら返却する。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					100%
授業内レポート		◎	○		
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		減点あり
出席			○		欠格条件
関連科目	スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツマネジメント概論など			関連資格	
教科書				参考書	原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高編著(2018)『スポーツマーケティング』大修館書店
オフィスアワー	弓田(火4)、キーナート(月4)			その他	弓田連絡先: er-yumita@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ産業論 Sports Industry (L)			担当教員	弓田恵里香/マーティ・キーナート
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
まず、スポーツが我々の生活でどのような位置づけであり、どのような役割を持つかという基本的概念を復習する。その上で、「体育」とは異なる「ビジネス」としてのスポーツの捉え方を学んでいく。国内の市場規模やスポーツ産業の各領域について理解を深め、それらに関連する概念、理論を紹介していく。また、後半では海外のスポーツビジネスと比較しながら日本の現状や可能性について考察していく。					i、iv、v
授業の一般目標					
スポーツ産業における各領域の特色を理解する。また、それら領域を多面的に捉えるために必要となるデータや概念を説明できるようになる。さらに、国内外の事例と照らし合わせながら学習することで、実際にスポーツ産業界で起こっている現象を分析し、思考する能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ産業の概要、各領域が説明でき、国内外の事情の相違点についても考えることができる。			
■	情意的領域	スポーツの「体育」ではなく、「産業(ビジネス)」としての側面に関心が高まる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
第1回～第10回までは弓田が担当し、日本のスポーツ産業について幅広く概説する。第11回～第15回はキーナートが担当し、米国のスポーツ産業を中心に解説する。キーナートはプロスポーツチーム経営の実務経験も踏まえて講義を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(弓田) [内容] 担当教員、授業の目標と進め方、成績評価方法などについて説明する。スポーツ産業におけるスポーツの捉え方を紹介する。 [授業外学修] スポーツビジネスに含まれる事象について理解を深めること。			⑨	[テーマ] スポーツイベント産業(弓田) [内容] 参加型や観戦型のスポーツイベントの種類やそれらがもたらすインパクトについて理解を深めていく [授業外学修] イベントがもたらす功罪について考えをまとめること。
②	[テーマ] 日本のスポーツ産業の現状(弓田) [内容] 他主要産業と比較しどの程度の規模なのか、どのような領域から成り立っているのか、その全体像について紹介する。 [授業外学修] 伝統的3領域について説明できるようになること。			⑩	[テーマ] 中間テスト(弓田) [内容] 第1回～9回までの授業内容について学習到達度の確認を行う。 [授業外学修] 十分に理解できていなかった箇所について復習すること。
③	[テーマ] スポーツ用品産業(弓田) [内容] 日本のスポーツ産業を支えるスポーツ用品の現状とその発展について説明する。 [授業外学修] 品質と価格戦略の違いについて理解を深めること。			⑪	[テーマ] 米国のスポーツ事情①(キーナート) [内容] 米国のプロスポーツについて解説する。 [授業外学修] 関心あるチームや競技について調べる。
④	[テーマ] スポーツ施設空間産業(弓田) [内容] する・見るスポーツ現場には欠かせないスポーツ施設とそのビジネス化について説明する。 [授業外学修] ネーミングライツなど施設特有のビジネスについて理解すること。			⑫	[テーマ] 米国のスポーツ事情②(キーナート) [内容] 米国のプロスポーツについて解説する。 [授業外学修] 講義を踏まえ、日本での事例について考える。
⑤	[テーマ] スポーツサービス産業①(弓田) [内容] 「見る」スポーツにおけるサービスの仕組みを概説し、ファンビジネスにまつわる特性について紹介する。 [授業外学修] ファンビジネスの特有の課題を捉えられるようになること。			⑬	[テーマ] 米国のスポーツ事情③(キーナート) [内容] 米国のプロスポーツについて解説する。 [授業外学修] 講義を踏まえ、日米の違いについて考えをまとめる。
⑥	[テーマ] スポーツサービス産業②(弓田) [内容] 「する」スポーツにおけるサービスに着目し、スクールやフィットネス、スポーツクラブについて解説する。 [授業外学修] クラブ事業におけるホスピタリティについて検討してみる。			⑭	[テーマ] 米国のスポーツ事情④(キーナート) [内容] 米国のプロスポーツについて解説する。 [授業外学修] 講義を踏まえ、日米の類似点をまとめる。
⑦	[テーマ] 複合産業としてのスポーツツーリズム(弓田) [内容] 新たな成長産業のひとつとして期待されるスポーツツーリズムの可能性や課題について解説する。 [授業外学修] スポーツツーリズムと関連ある産業について認識すること。			⑮	[テーマ] 米国のスポーツ事情⑤(キーナート) [内容] 米国のプロスポーツについて解説する。 [授業外学修] 講義を踏まえ、日本でも実践可能な点について考える。
⑧	[テーマ] スポーツITおよびメディア産業(弓田) [内容] 魅力的なメディアコンテンツとなるスポーツについて理解を深め、進むIT化や多様なメディアについても触れていく。 [授業外学修] スポーツとITやメディアの相性について考えをまとめること。			⑯	[テーマ] 授業外レポート(各教員) [内容] 各教員が課したテーマについて授業外レポートに取り組む。 [授業外学修] 根拠を示すためにも資料を用いて作成にあたること。
成績評価方法(方針)					
弓田が65%、キーナートが35%分評価する。各担当によって評価方法は異なるが、主に授業内レポート、授業内テストなどで総合的に評価する。出席は評価割合に加えない。詳細についてはオリエンテーション及び各担当者より授業時に説明がある。提出された授業内レポートは授業で解説をしながら返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎	○		100%
授業外レポート					
演習・実技					評価対象外
授業態度			○		減点あり
出席			○		欠格条件
関連科目	スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツマネジメント概論、スポーツマーケティング論など				関連資格
教科書					参考書
オフィスアワー	弓田(火4)、キーナート(月4)				その他
					原田宗彦編著(2011)『スポーツ産業論第5版』杏林書院
					弓田連絡先: er-yumita@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	地域スポーツ戦略論 Sport in Community (L)			担当教員	永田秀隆
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本講義では、スポーツイベント開催を通じた地域活性化やスポーツを通じたまちづくり等についての事例を紹介しながら、スポーツが地域に果たす役割について解説する。					i、v
授業の一般目標					
地域スポーツの現状と課題について学び、地域スポーツの意義について理解できるようになる。また、地域の活性化やまちづくりを念頭においたスポーツイベントやスポーツ活動を企画する力を身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	地域の現状や地域活性化の方法、および地域スポーツの意義や課題について説明できる。				
■ 情意的領域	地域と地域スポーツに興味・関心をもち、積極的にスポーツイベント等に参加できるようになる。				
■ 技能表現的領域	地域活性化やまちづくりを視野にスポーツイベントやスポーツ活動を企画できるようになる。				
授業計画(全体)					
資料を用いた講義を中心とする。前半は、スポーツイベントとしてのオリンピック競技大会を対象に、さまざまな視点から地域スポーツについて考える機会とする。後半、地域活性化やまちづくりをねらいとしたスポーツイベントやスポーツ活動の企画に向けて各テーマについて解説する。授業内課題に個人またはグループで取り組むことによって、理解を深める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 地域スポーツとは [内容] 本授業で取り扱う地域スポーツの射程について解説するとともに、授業計画、成績評価方法等について説明する。 [授業外学修] 自分が暮らす地域の現状について発表できるようにしておく			⑨	[テーマ] 体育・スポーツ行政の仕組みと組織(2) [内容] 日本の地方自治体における体育・スポーツ行政の仕組みと組織について解説する。 [授業外学修] 地方自治体について調べておくこと
②	[テーマ] ママさんバレーと東洋の魔女 [内容] ママさんバレーを地域スポーツの萌芽ととらえ、コミュニティの課題解決手段としてのスポーツについて解説する。 [授業外学修] 東洋の魔女について調べておくこと			⑩	[テーマ] スポーツ実施状況の現状と課題 [内容] 第2期スポーツ基本計画の概要を説明し、日本におけるスポーツの実施状況の現状と課題について解説する。 [授業外学修] 第2期スポーツ基本計画について調べておくこと
③	[テーマ] オリンピック競技大会が地域にもたらすもの(1) [内容] 1964年東京大会を対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。 [授業外学修] 1964年東京大会について調べておくこと			⑪	[テーマ] 生涯スポーツと総合型地域スポーツクラブ [内容] 生涯スポーツという概念について解説するとともに、総合型地域スポーツクラブの理念や課題について説明する。 [授業外学修] 自分が暮らす地域のクラブについて調べておくこと
④	[テーマ] オリンピック競技大会が地域にもたらすもの(2) [内容] 1998年長野冬季大会を対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。 [授業外学修] 1998年長野冬季大会について調べておくこと			⑫	[テーマ] 運動部活動問題 [内容] 運動部活動における諸問題を概観し、地域スポーツの視点から課題解決の方策について探る。 [授業外学修] 運動部活動にかかわる問題について調べておくこと
⑤	[テーマ] オリンピック競技大会が地域にもたらすもの(3) [内容] 聖火リレーを対象にスポーツイベントが地域にもたらすものについて解説する。 [授業外学修] 聖火リレーについて調べておくこと			⑬	[テーマ] 大学スポーツと地域 [内容] 大学スポーツと地域の関わりについて国内の事例を紹介し、日本版NCAA構想の可能性について議論する。 [授業外学修] 日本版NCAA構想について調べておくこと
⑥	[テーマ] 2020年東京大会の検証 [内容] 2020年東京大会が地域にもたらすものとは何か。大会計画を解説し、個別及びグループワークを通じて検証する。 [授業外学修] 2020年東京大会の開催計画を調べておくこと。			⑭	[テーマ] 企業スポーツと地域 [内容] 国内のバレーボールチームの状況を概観しながら、企業スポーツと地域の関係について解説する。 [授業外学修] 企業とは何かについて発表できるようにしておくこと
⑦	[テーマ] スポーツイベント×地域 [内容] これまでの講義内容を整理し、スポーツイベント開催を通じた地域の活性化やまちづくりの可能性について解説する。 [授業外学修] これまでの授業内容について復習する			⑮	[テーマ] 本講義のまとめ [内容] 授業内容の振り返りを行い、事前に出題された課題に関する解説を行う。 [授業外学修] 出題された課題に取り組むこと
⑧	[テーマ] 体育・スポーツ行政の仕組みと組織(1) [内容] 日本の中央政府における体育・スポーツ行政の仕組みと組織について解説する。 [授業外学修] 文部科学省とスポーツ庁の関係について調べておく			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] 授業の理解度を確認するため、筆記試験を行う。 [授業外学修] 授業内容を振り返り、試験準備をおこなうこと
成績評価方法(方針)					
テスト(50%)、授業内課題(30%)、授業外課題(20%)、以上を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは授業において解説し、内容についてフィードバックを行う。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			50%
授業内レポート		○	◎		30%
授業外レポート		○	◎		20%
演習・実技					
授業態度			○		加点
出席					欠格条件
関連科目	スポーツ社会学(1年)、スポーツ経営学(1年)、スポーツマーケティング論(2年)、スポーツ産業論(3年)				関連資格
教科書	指定なし				参考書
オフィスアワー	木曜3限				その他
					ai-aramaki@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	企業スポーツ論 Corporate Sports			担当教員	日下三男/学外講師(ベガルタ仙台役員)	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	新聞社での実務経験あり/J1クラブ現役役員
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
日本独自のスポーツ文化といえる企業スポーツの歴史、現状や実務経験を踏まえたプロスポーツ企業の実態を学びながら、これからの企業スポーツのあり方を考え、体育系大学生として将来の職業選択を含めた知識を蓄える。					i、ii、v	
企業スポーツ全般についての知識を学ぶ。自分が関与していたり、興味を持っていたりするスポーツと企業との関係を知り、職業選択の一助とする。自分が興味を持っているスポーツの意味をほかの人にも理解してもらい知識と技術を学ぶ。授業では講義内容の感想を小作文で表すことができ、文章表現にも慣れる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	企業活動とスポーツとの関連性に関する総合的な知識を修得する					
■ 情意的領域	企業スポーツの実例に対して評価をすることができる					
■ 技能表現的領域	企業スポーツの課題と展望に関して意見を述べる事ができる					
授業計画(全体)						
講義を進めるなかで、それぞれのテーマについて知識や問題意識を高め、企業スポーツ全体についての理解を深めるようにする						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] なぜ企業スポーツを学ぶのか(日下) [内容] 企業スポーツ論を学ぶ意義と授業計画についてオリエンテーションする。 [授業外学修]実業団スポーツの全般について調べる			⑨	[テーマ] 第2章:事例研究リーグを考える④(学外講師担当) [内容] ④の試合運営は多くの人手が必要とする。クラブ職員だけでは間に合わず、ボランティアに業務をお願いしているのが実態である。興行の実務を考える。 [授業外学修]リーグ各クラブの興行実績を調べる	
②	[テーマ]第1章:企業スポーツの歴史①(日下) [内容] 日本における明治以降のスポーツそのものの歴史とあわせながら、戦前までの企業スポーツの歴史を解説する。 [授業外学修]日本における野球の歴史を調べること			⑩	[テーマ] 第2章:事例研究リーグを考える⑤(学外講師担当) [内容] 強いクラブ、弱いクラブの差は歴然となっている。格差は解消するのか。なぜ地域差が出てしまうのか。リーグで顕在化する「二極化」の光と影を追う。 [授業外学修]第二章を総括復習する	
③	[テーマ]第1章:企業スポーツの歴史②(日下) [内容] 企業スポーツが興隆した戦後の歴史をたどる。とくに、女子バレーなどオリンピックへの企業スポーツの貢献を解説する。 [授業外学修]高校の教科書で日本の近代史・現代史を読み直すこと			⑪	[テーマ] 第2章の総括とレポート作成(日下) [内容] リーグの誕生から現在に至るまでの歴史と現状を総括し、課題提起レポートを作成する。 [授業外学修]リーグとは別のプロリーグの実態を調べる	
④	[テーマ] 第1章:企業スポーツの歴史③(日下) [内容] バブル崩壊以降、休部や廃部が相次いだ企業スポーツの現在の動向を解説する。 [授業外学修]新聞・テレビの経済ニュースで廃部情報を集めること。			⑫	[テーマ] 第3章:企業スポーツの現在と未来①(日下) [内容] 企業スポーツの現況に関する実例を基に、現状の課題と将来への展望を考察する。「東京2020」への影響はあるのか? [授業外学修]授業で扱う実例についてより詳しく調べること	
⑤	[テーマ] 第1章の総括とレポート作成(日下) [内容] 企業スポーツ発祥から発展の歴史を総括し、レポートを作成する。 [授業外学修]リーグの運営母体を調べる			⑬	[テーマ] 第3章:企業スポーツの現在と未来②(日下) [内容] 海外事情を詳しく解説する。企業スポーツの現況に関する実例を基に、現状の課題と将来への展望を考察する。 [授業外学修]授業で扱う実例についてより詳しく調べること	
⑥	[テーマ] 第2章:事例研究リーグを考える①(学外講師担当) [内容]ベガルタ仙台の誕生を振り返る。前身ブランメル仙台の創設前夜の歴史を丹念に説明する。チームは企業名との決別を迫られる。 [授業外学修]実業団クラブの歴史を調べる			⑭	[テーマ] 第3章:企業スポーツの現在と未来③(日下) [内容] 企業スポーツの現況に関する実例を基に、現状の課題と将来への展望、可能性を考える。 [授業外学修]授業で扱う実例についてより詳しく調べること	
⑦	[テーマ]第2章:事例研究リーグを考える②(学外講師担当) [内容] 企業スポーツの実業団がプロリーグの発足で、どう変質したかを学ぶ。J57クラブの地域における挑戦はいかなるものだったのか。 [授業外学修]リーグの成り立ちをHPで調べること			⑮	[テーマ] 小論文(日下) [内容] これまでの講義の総括と小論文の作成。 [授業外学修]小論文の論旨をまとめておくこと	
⑧	[テーマ] 第2章:事例研究リーグを考える③(学外講師担当) [内容]リーグのクラブにとってプロ化の道は険しいものだった。スポンサー企業の獲得はどのように行われたのか。そして現状は? [授業外学修]試合運営を補助するボランティアの実態を調べる			⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
授業は3章で構成。各章終了時点で中間レポート、再講義終了後に小論文を提出、知識修得度と課題形成視点等を中心に総合評価する。提出されたレポートは解説しながら返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと ・私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。 ・出席日数が2/3に満たない場合は欠格となります。
定期試験		◎	◎	◎	40%	
授業内レポート		◎	◎	◎	60%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席		◎			欠格条件	
関連科目				関連資格		
教科書	特になし			参考書	特にないが、なるべく多くの競技連盟や企業のHPを参照すること	
オフィスアワー	(月)10:20-11:50			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		スポーツ政策論 Sport Policy(L.)			担当教員	永田秀隆
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツ政策の理論と制度について説明し、主に国によるスポーツ政策、地域のスポーツ政策、スポーツの国際政策について講義を行う。具体的な政策課題を取り上げながら、スポーツに関する政策の主体と構造を踏まえ、その決定プロセスについて解説する。						i
授業の一般目標						
国や地域、国際的なスポーツ政策に関する基礎的な知識を修得し、スポーツ政策をめぐる諸問題について理解を深める。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	国や地域、国際的なスポーツ政策に関する基礎的な知識を身につけ、特に日本におけるスポーツ政策の現状と課題について説明できる。				
■	情意的領域	スポーツ政策の視点から、身近なスポーツに関する事業に興味を持つことができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
資料を用いた講義を中心とする。スポーツ政策の理論と制度について解説した後、国によるスポーツ政策、地域のスポーツ政策、スポーツの国際政策について説明する。授業内課題に個人やグループで取り組むことにより理解を深める。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] スポーツ政策とは [内容] 授業の概要、進め方について説明する。また、政策科学という領域について紹介しながら、スポーツ政策とは何かについて紹介する。 [授業外学修]政策とは何か発表できるようにしておくこと			⑨	[テーマ] 国によるスポーツ政策(4) [内容] 日本の学校体育政策について、特に運動部活動の政策的展開と体育教員をめぐる諸課題について解説する。 [授業外学修]運動部活動とは何かについて発表できるようにしておくこと	
②	[テーマ] 日本のスポーツ行政組織 [内容] 日本のスポーツ行政組織を対象に、国と地方公共団体のスポーツ行政組織について説明する。 [授業外学修]スポーツに振興に関わる関連中央省庁について調べておくこと			⑩	[テーマ] 地域のスポーツ政策(1) [内容] 地方自治体のスポーツ行政について説明する。また、国民体育大会の現状と課題についても解説する。 [授業外学修]国民体育大会の歴史について調べておくこと	
③	[テーマ] スポーツ政策の形成過程 [内容] スポーツ基本法について紹介し、国レベルと地方公共団体におけるスポーツ政策の形成過程について説明する。 [授業外学修]スポーツ基本法の前文を読んでおくこと			⑪	[テーマ] 地域のスポーツ政策(2) [内容] 地方自治体によるスポーツ産業振興について、プロ・スポーツチームの誘致やスポーツイベント開催等の事例を用いて解説する。 [授業外学修]地方自治体によるスポーツ産業振興の事例を調べておくこと	
④	[テーマ] スポーツ政策の体系と実施 [内容] 日本のスポーツの行政計画について説明し、諸外国のスポーツ振興計画についても紹介する。 [授業外学修]自分が関心のある国のスポーツ振興計画について調べておくこと			⑫	[テーマ] スポーツの資格と雇用 [内容] 日本におけるスポーツに関わる資格について説明する。特に、日本体育協会の資格認定制度について紹介する。 [授業外学修]スポーツに関わる資格にどんなものがあるか調べておくこと	
⑤	[テーマ] スポーツ政策の主体と構造 [内容] 日本のスポーツ統括団体の役割を中心に、スポーツ政策の主体とその構造について説明する。 [授業外学修]日本のスポーツ統括団体について調べておくこと			⑬	[テーマ] スポーツの国際政策 [内容] ヨーロッパを中心に、国際的なスポーツに関わる憲章等について紹介するとともに、国際連合のスポーツ政策についても解説する。 [授業外学修]政策の評価とはどのようなことか説明できるようになること	
⑥	[テーマ] 国によるスポーツ政策(1) [内容] スポーツの公共性という視点から、生涯スポーツという概念や日本の健康体力政策について説明する。 [授業外学修]生涯スポーツという概念について調べておくこと			⑭	[テーマ] オリンピックと政策 [内容] オリンピック競技大会の招致等のプロセスについて説明し、スポーツ政策の視点からオリンピック・ムーブメントについて解説する。 [授業外学修]諸外国におけるスポーツ政策について説明できるようになること	
⑦	[テーマ] 国によるスポーツ政策(2) [内容] 日本の競技スポーツ政策について説明する。また、アンチ・ドーピング政策についても解説する。 [授業外学修]アンチ・ドーピングに関する活動について調べておくこと			⑮	[テーマ] 本講義のまとめ [内容] 授業内容の振り返りを行い、事前に出題された課題に関する解説を行う。 [授業外学修]出題された課題に取り組むこと	
⑧	[テーマ] 国によるスポーツ政策(3) [内容] 日本のスポーツ施設の現状と政策課題について解説する。また、スポーツ施設の設置基準と整備計画、管理運営についても説明する。 [授業外学修]日本のスポーツ施設の現状について調べておくこと			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] 授業の理解度を確認するため、筆記試験を行う。 [授業外学修]授業内容を振り返り、試験準備をおこなうこと	
成績評価方法(方針)						
テスト(50%)、授業内課題(30%)、授業外課題(20%)、以上を総合して成績評価を行う。提出された課題は授業において解説し、返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業は静粛を条件とし、質問に対しては積極的に発言すること。 ・授業計画は、進捗状況により変更することがある。
定期試験		◎			50%	
授業内レポート		○	◎		30%	
授業外レポート		○	◎		20%	
演習・実技						
授業態度			○		加点	
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツ経営学(1年)、スポーツ社会学(1年)、スポーツマネジメント概論(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)			関連資格		
教科書	指定しない			参考書	菊幸一ら編(2011)スポーツ政策論. その他授業中に適宜紹介する。	
オフィスアワー	木曜3限			その他	ai-aramaki@sendai-u.ac.jp	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	レジャー・レクリエーション論 Theory of leisure and recreation (L.)			担当教員	仲野 隆士
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本講義は社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解すると共に、レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を講義形式で概説する。レク指導者養成テキスト作成等の実務経験を活かし、国内外におけるレジャー・レクの現状や課題、意義や価値といった観点から講義を行う。					i、ii、iv
授業の一般目標					
社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解する。レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値観の変化、ライフスタイルへ取り入れることの重要性などが具体的にわかる			
■	情意的領域	レジャー・レクリエーションが心身の調和に果たす機能や役割を理解し、積極的活用を心がけるような行動変容を習得する			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
レジャーやレクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や自由時間増大に伴う生涯学習社会において重要な役割を担っている。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらいたい。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーションとイントロダクション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学修] シラバスを読んでおくこと			⑨	[テーマ] レジャー・レクリエーション活動の動向に関する国際比較 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション活動と健康の関係 [内容] 教員が作成したビデオを通して健康に果たすレクリエーション活動の機能や役割を理解する [授業外学修] 配布資料で復習しておくこと			⑩	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(性・年齢などの比較を通して) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと
③	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念1 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと			⑪	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(時代の変遷との関連) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと
④	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念2 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと			⑫	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法1 高齢社会の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと
⑤	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史の変遷・1 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと			⑬	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法2 少子化の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと
⑥	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史の変遷・2 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと			⑭	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法3 地域の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション運動の変遷 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修] 配布された資料を復習しておくこと			⑮	[テーマ] レクリエーション事業の計画と安全 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと
⑧	[テーマ] レジャー・レクリエーションの機能 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学修]			⑯	[テーマ] テスト [内容] 持込可の筆記試験を実施する [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
筆記試験の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○		50%
授業内レポート		◎	○		50%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目	レク支援論、野外・レク・マネジメント論(含演習)など			関連資格	レクリエーション・インストラクター レクリエーション・コーディネーター
教科書	『レクリエーション支援の基礎』(財)日本レク協会編			参考書	『やさしいレクリエーション実践』(財)日本レクリエーション協会編
オフィスアワー	金曜日2限(10:20-11:50)			その他	A棟508・仲野研究室

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	レクリエーション支援論 Instruction method for recreation activities(L.)			担当教員	仲野 隆士
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本講義では、レクリエーション運動を推進する上で多領域において重要な役割を担うであろうレクリエーション支援者が理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に概説する。レク指導者養成テキスト作成等の実務経験を活かし、他領域におけるレク支援の観点から講義を行う。					i、ii、iv
授業の一般目標					
レクリエーション運動を推進するレクリエーション支援者として理解すべき諸理論並びに支援技術、時代が求めるレクリエーションの新たなビジョンなどを具体的に理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	支援者として求められる問題解決技法、レジャーカウンセリング、イベント企画などの基礎がわかる				
■ 情意的領域	支援者として支援する楽しさや喜びがわかる				
■ 技能表現的領域	グループワークやプレゼンテーション資料の作成などを通して、支援に必要な技術を高める				
授業計画(全体)					
新世紀を迎えた現在、私達はこれまでにない多くの自由時間を得ている。その余暇社会の中において、レクリエーション支援者の果たすべき役割は過去のどの時代よりの重要になっていくであろう。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらいたい。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業オリエンテーション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学修] シラバスを読んでおくこと			⑨	[テーマ] レクリエーションサービス論 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学修] 配布資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション支援者の支援場面に学ぶ [内容] レクリエーションのベテラン支援者の支援場面のビデオを観察し、どのような点で優れているのか、個々の支援者の個性はどうなのか、自分ならどのように [授業外学修] 授業で気づいたことをまとめておくこと			⑩	[テーマ] レクリエーション・マーケティング1 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学修] 配布資料を復習しておくこと
③	[テーマ] レクリエーション指導・支援の意味と役割 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと			⑪	[テーマ] レクリエーション・マーケティング2 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学修] 配布資料を復習しておくこと
④	[テーマ] レクリエーション指導・支援の原則 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと			⑫	[テーマ] ネットワーキング [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学修] 配布資料を復習しておくこと
⑤	[テーマ] レクリエーション指導・支援の技術 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと			⑬	[テーマ] プレゼンテーション [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学修] 配布資料を復習しておくこと
⑥	[テーマ] レクリエーション指導・支援の内容と支援者に求められる資質 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと			⑭	[テーマ] プロモーション [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学修] 配布資料を復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション支援の理論 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学修] 書き写したノートを復習しておくこと			⑮	[テーマ] 会議の持ち方、経理・財務管理 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学修] 配布資料を復習しておくこと
⑧	[テーマ] レクリエーション組織の経営論 [内容] 資料を配布し、説明する [授業外学修]			⑯	[テーマ] テスト [内容] 持ち込み「可」による筆記試験を実施(レポート形式) [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
筆記試験(レポート形式)の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○		40%
授業内レポート		◎	○		40%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技			○	◎	20%
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目	レジャー・レクリエーション論、野外レクマネ論(含む演習)			関連資格	レクリエーション・コーディネーター
教科書	『レクリエーション・コーディネートのすすめ方』(財)日レク協会編			参考書	『レクリエーションマネジメント』・『レジャーカウンセリング』(財)日本レクリエーション協会編
オフィスアワー	金曜2限			その他	仲野研究室・A棟508

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	体操(含体づくり運動) Gymnastic(P.A.)			担当教員	溝口 絵里加
開講内容	学年・学期	1・半年期	授業方法	実技	実務経験の有無 教育現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業では、さまざまな運動の実践を通して各自が体を動かすことの楽しさや面白さを知り、教員あるいはスポーツ指導者として、体づくり運動に必要な基本的運動技能を獲得するとともに、その教材開発や指導法を学ぶことをねらいとする。教育現場での経験を活かして説明をする。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
①体づくり運動の領域特性とその目的を理解することができる。 ②体づくり運動で行う運動内容やその実施方法を理解できる。 ③運動対象者に応じた運動指導法を身につけることができる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	体づくり運動の特性および学校体育での位置付けについて説明できる。				
■ 情意的領域	仲間と協力して身体表現をすることができる。周囲の学生に対し適切なサポートをすることができる。				
■ 技能表現的領域	体づくり運動の指導ができる。指導者としてふさわしい手本を見せることができる。ねらいに応じた体操を創ることができる。				
授業計画(全体)					
実技を通して体づくり運動に関する専門的な指導方法を学んでいく。リズム体操の個人技能試験や、ねらいに応じた創作体操の発表により、指導方法や手本の仕方を身に付ける。また個人学習ノート(リフレクティブジャーナル)の記入(評価割合30%)を毎回の授業で行う。実技試験や授業に取り組む態度等を総合して成績評価を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]			⑨	[テーマ] 組み体操、組み立て体操(基礎) [内容] 2人組みや多人数での基礎的な動きを修得する。 [授業外学修] 組み体操、組み立て体操について予習及び復習しておくこと
②	[テーマ] 体づくり運動とは [内容] 体づくり運動について配布資料を元に学ぶ。 [授業外学修] 体づくり運動について予習しておくこと			⑩	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり(創作体操) ①導入 [内容] 対象者を設定する。動きの種類を出し合う。運動強度の設定をし運動内容を調整する。 [授業外学修] 運動プログラムについて予習しておくこと
③	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操 [内容] 正しい行い方でストレッチを行う。体ほぐしを行いながら仲間と交流を深める。柔軟体操。 [授業外学修] 柔軟体操について予習しておくこと			⑪	[テーマ] ねらいに合わせた運動プログラムづくり ②運動強度 [内容] 運動強度の設定をし運動内容を調整する。 [授業外学修] 運動プログラムについて予習しておくこと
④	[テーマ] 音楽に合わせた動き(基礎) [内容] 徒手でのリズム体操の紹介。基礎的な動きを修得する。 [授業外学修] リズム体操の予習しておくこと			⑫	[テーマ] ねらいに合わせた運動プログラムづくり ③師範について [内容] 手本となるような動きの見せ方について工夫する。 [授業外学修] 運動プログラムについて予習しておくこと
⑤	[テーマ] 音楽に合わせた動き(応用) [内容] 個人テストでもあるリズム体操の紹介。 [授業外学修] リズム体操の復習しておくこと			⑬	[テーマ] ねらいに合わせた運動プログラムづくり ④まとめ [内容] 運動プログラムを仕上げ、出来栄が良くなるように工夫する。フォーメーションの変化も取り入れる。 [授業外学修] 運動プログラムについて復習しておくこと
⑥	[テーマ] 用具体操・リズム体操 [内容] 用具を使った運動あそびの紹介。また、グループごとに考案し実践する。リズム体操の動きを確認する。 [授業外学修] リズム体操の復習しておくこと			⑭	[テーマ] ねらいに合わせた運動プログラムづくり ⑤グループ発表 [内容] 各グループで創作した運動プログラムを相互に発表。評価する。 [授業外学修] 運動プログラムについて復習しておくこと
⑦	[テーマ] 指導方法について [内容] 指導者の在り方や指導方法について学ぶ。次週のリズム体操個人テストに向けて動きの質を高める。 [授業外学修] 指導方法について復習しておくこと			⑮	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。 [授業外学修] 授業全体の復習しておくこと
⑧	[テーマ] リズム体操個人テスト [内容] リズム体操の個人テストを行う。 [授業外学修] テストに向けて事前にリズム体操の復習しておくこと			⑯	[テーマ] 個人レポートの提出 [内容] 授業を振り返りレポートを作成する。 [授業外学修] 授業全体の復習しておくこと
成績評価方法(方針)					
個人技能の出来栄とグループ活動における課題達成度(評価割合70%)と、個人学習ノートの記入(評価割合30%)を総合して成績評価を行う。提出された個人学習ノートはコメントを付したうえで返却をする。また、受講態度が劣悪な場合と、欠席が4回以上の場合、欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	○	○			30%
授業外レポート					
演習・実技	○	○		◎	70%
授業態度					減点対象
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	特になし				参考書
オフィスアワー	前/月14:30~16:00 後/金10:30~12:00				その他
					教員免許状(中高保健)・ジュニアスポーツ指導員・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者・健康運動実践指導士
					体づくり運動一授業の考え方と進め方 文部科学省
					連絡先 er-mizoguchi@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	レクリエーション実技 I				担当教員	南條/伊藤、小池/高崎
	Practical Skill on Recreation I (P.A.)					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	レク指導者や社会教育主事講習などの実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
レク支援者は、単にレク種目(レク財)を伝達するだけではない。人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめる、価値ある人生と社会への一歩を築く方向性めざす支援を行う。ここでは、レク指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクなどでの支援能力を養成する。						i、iii、v
授業の一般目標						
実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目(レクリエーション財)について。					
■ 情意的領域	様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる					
■ 技能表現的領域	ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。					
授業計画(全体)						
基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。各教員がレクをはじめ専門指導者資格養成の講師の実務経験を活かし、発想力や応用力の観点から実技の授業を展開していく。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション 南條/伊藤、小池/高崎 [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け [授業外学修] 授業ノート・1回目に記入			⑨	[テーマ] 体づくりゲーム 南條、高崎 [内容] 学校体育で展開されている体づくりの内容をゲーム化して紹介する(ハードル設定を用いる) [授業外学修] 授業ノート・9回目に記入	
②	[テーマ] 室内ゲーム1 伊藤、小池 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングゲームを紹介する [授業外学修] 授業ノート・2回目に記入			⑩	[テーマ] 体解しゲーム 南條、高崎 [内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する(ハードル設定を用いる) [授業外学修] 授業ノート・10回目に記入	
③	[テーマ] 室内ゲーム2 伊藤、小池 [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソングゲームで、前回とは異なる内容を紹介する [授業外学修] 授業ノート・3回目に記入			⑪	[テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ1 南條、高崎 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:インディアカ) [授業外学修] 授業ノート・11回目に記入	
④	[テーマ] 福祉レクリエーションを意識した活動 伊藤、小池 [内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動 [授業外学修] 授業ノート・4回目に記入			⑫	[テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ2 南條、高崎 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ペタンク)※インドア、アウトドア両方 [授業外学修] 授業ノート・12回目に記入	
⑤	[テーマ] コミュニケーション・ワーク 伊藤、小池 [内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験 [授業外学修] 授業ノート・5回目に記入			⑬	[テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ3 南條、高崎 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:フライングディスク)※ゴルフ、アキュラシー [授業外学修] 授業ノート・13回目に記入	
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス 伊藤、小池 [内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンス(音楽に合わせた身体活動を含む) [授業外学修] 授業ノート・6回目に記入			⑭	[テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ4 南條、高崎 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ユニバーサルホッケー) [授業外学修] 授業ノート・14回目に記入	
⑦	[テーマ] 身近なものを利用したレクリエーション 伊藤、小池 [内容] 新聞紙等を用いたレクリエーション種目(レクリエーション財)の体験(CSSプロセスを用いる) [授業外学修] 授業ノート・7回目に記入			⑮	[テーマ] 生涯スポーツ・ニュースポーツ5 南條、高崎 [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:チャレンジ・ザ・ゲーム)※4種目 [授業外学修] 授業ノート・15回目に記入	
⑧	[テーマ] 室外ゲーム 伊藤、小池 [内容] 様々な室外ゲームを紹介する(CSSプロセスを用いる) [授業外学修] 授業ノート・8回目に記入			⑯	[テーマ] 総括 南條/伊藤、小池/高崎 [内容] 体験学習したレクリエーション種目(レクリエーション財)を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
出席状況、学習態度、授業ノートの内容により総合的に評価する 授業ノートはコメントを付した上で返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験					評価対象外	
授業内レポート		◎	○		80%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技		○	○	◎	20%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	レク実技II、レジャー・レク論、野外・レク・マネジメント論など				関連資格	各種レクリエーション指導者資格
教科書	特に無し				参考書	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』日本レクリエーション協会編
オフィスアワー	小池:水4限、高崎:水4限				その他	F棟2F

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		レクリエーション実技Ⅱ Practical Skill on Recreation II (P. A.)			担当教員	仲野・小池・高崎・井上
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	レク指導者や社会教育主事講習などの実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
仲野:コミュニケーションワーク・レクダンス創作 小池:支援実習1(レク種目指導) 高崎:支援実習2(レク活動の創作) 井上:支援実習3(スタンツ) 学校での授業や事業、地域レクリエーションなどにおける支援能力を養成する。						i、iii、v
授業の一般目標						
様々なレクリエーションのジャンルにおいて、支援者に必要な資質をグループワークを中心に体験的に習得する						
授業の到達目標						
■	認知的領域	創作や演出の基本や留意点が理解できる				
■	情意的領域	人前で個性を発揮する場面(意図的に設定)を通して、支援者に必要な演出・話術・支援力などが身につく				
■	技能表現的領域	レクダンス・レクゲーム・スタンツなどを創作し発表することで、創作力や応用力が身につく				
授業計画(全体)						
<ローテーション> はじめの6回は、全体で仲野担当。7～15の9回は、3回毎にローテーションとする(担当:小池・高崎・井上)						
①クラス(1体→4体→剣道) ②クラス(4体→剣道→1体) ③クラス(剣道→1体→4体) 各教員がレクをはじめ専門指導者資格養成の講師の実務経験を活かし、発想力や応用力の観点から実技の授業を展開していく。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション・仲野1 [内容] 授業の全体像を理解する・アイスブレイクの技法:受講生全員並びに班分けされた班員相互の雰囲気作りをねらいとしたアイスブレイキングの進め方を実演し、その効果的な進め方を学ぶ			⑨	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池3 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価 ④レクリエーション指導のまとめ	
②	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニング 仲野2 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニングその1:1対1(2人)→2対2(4人)→4対4(8人)というように、コミュニケーションワークを進めながらグループへと発展していくプロセスを体験させる			⑩	[テーマ] レク活動の創作1・高崎1 [内容] レクリエーション活動の創作について、1)その学習の必要性、2)基本的な創作の方法について、バリエーションアップシートによる演習により、体験学習する。	
③	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニング 仲野3 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニングその2 リポートトークやローテーショントークといったコミュニケーションワークを通して、積極的傾聴の留意点やポイントを理解する			⑪	[テーマ] レク活動の創作2・高崎2 [内容] バリエーションシートの完成後、創作したレクリエーション活動をグループ別に発表するためのリハーサルや役割分担の確認を行う。	
④	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野4 [内容] レクリエーションダンスの技法:ダンスとゲームの接点に位置する様々なレクダンスを紹介し、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさや面白さを体感する。後半に、オリジナルレクダンスのテーマ曲を発表し、創作への手順や留意点を説明する。			⑫	[テーマ] レク活動の創作3・高崎3 [内容] 創作したレクリエーション活動の発表会を実施し、その発表を振り返りながら、レクリエーション活動の創作について、ポイントを整理しまとめる。	
⑤	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野5 [内容] レクリエーションダンスの検索:設定されたテーマ曲を確認し、曲のイメージやリズムを意識した上で、各班ごとにオリジナルな振り付けをしていき、レクダンスを完成させる。			⑬	[テーマ] スタンツとは 井上1 [内容] スタンツがどのようなものかを体験的に学ぶ。まずスタンツについて説明を行い、導入ゲームを行った後、お題に基づいてスタンツを作成し、発表する。 [授業外学修]	
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野6 [内容] レクリエーションダンスの発表会:最終リハーサルが終了したら、オリジナルレクダンスの発表会を実施する(ビデオで撮影する)。終了後に、振り付けをした動きを説明した説明用紙を提出する。			⑭	[テーマ] スタンツのバリエーション 井上2 [内容] 楽しく面白いスタンツを作るための導入ゲームをいくつか紹介する。その後、共通テーマを設けてグループごとにストーリーを考え、スタンツの練習を行う。 [授業外学修]	
⑦	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池1 [内容] ①指導演習の進め方のオリエンテーション ②指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ③グループによる指導演習(ロールプレイ) ④指導演習評価			⑮	[テーマ] スタンツの発表 井上3 [内容] グループごとにスタンツを発表し、受業生同士で評価し合う。レクリエーションとしてスタンツを用いる際の留意点を説明する。 [授業外学修]	
⑧	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池2 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
出席、学習態度、授業ノートにより総合的に評価する						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験					70%	
授業内レポート					70%	
授業外レポート	◎	○				
演習・実技		◎	◎		30%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	レク実技Ⅰ、レジャー・レク論、レク支援論など				関連資格	各種レクリエーション指導者資格
教科書	特に無し				参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
オフィスアワー	仲野:月3限、小池:水4限、高崎:水4限、井上: 限				その他	A棟508、F棟2F、F棟2F、

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		エアロビックダンス Aerobic Dance			担当教員	渋谷 祐子
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	インストラクターとしての実務経験あり
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業は健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスを理解し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して、安全で効果的なエアロビックダンスの運動プログラムを習得する。また、対象者に応じた運動プログラム・指導法・指導上の留意点などについて学習する。						iii、iv
授業の一般目標						
エアロビックダンスの基本、低体力者からフィットネス領域での運動を知り、コミュニケーションスキルの向上、指導法、運動のプログラム作成ができるようになる。その他、ストレッチングや筋コンディショニング、リラクゼーション、ヨガなどのさまざまなフィットネスプログラムの体験を通じて、健康づくりの運動指導者に必要な知識、技術を身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	健康・体力づくり運動の理解、指導法など運動指導者に必要な知識を身につけることができる。				
■	情意的領域	身近な運動に興味を持ち主観的、客観的に健康づくりを考えることができる。				
■	技能表現的領域	エアロビックダンスの動作習得により、姿勢改善、正しい身体の使い方ができるようになる。指導法を学習することでプレゼンテーション能力が向上する。				
授業計画(全体)						
各授業はテーマに沿った資料を用いて実技中心だが講義も行う。各授業毎に、前週の内容を復習し理解度・到達度を確認する。また、協同作業としてのグループワークを行い、集団での発表の場を設ける。場合によってはレポート提出を実施する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、健康運動実践指導者資格受講について。 [授業外学修] 授業の振り返り			⑨	[テーマ] 指導法1 [内容] 集団の運動指導について説明する。 配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解	
②	[テーマ] エアロビックダンス体験1 [内容] 一般的なエアロビックダンスについて説明する。 [授業外学修] 授業の振り返り			⑩	[テーマ] 指導法2 [内容] 集団の運動指導について説明する。 配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解	
③	[テーマ] エアロビックダンス体験2 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する、エアロビックダンスのストレッチングについて説明する。実技のため体調管理、ケガの予防を伝える。 [授業外学修] 授業の振り返り			⑪	[テーマ] プログラム作成1 [内容] メインエクササイズの運動プログラム作成について説明する。 配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解	
④	[テーマ] エアロビックダンス体験3 [内容] エアロビックダンスの基本動作を体験する。筋力トレーニング(自重負荷運動)について説明する。実技のため体調管理、ケガの予防を伝える。 [授業外学修] 授業の振り返り			⑫	[テーマ] プログラム作成2 [内容] 作成したプログラムの修正を行う(グループ発表)プログラムを覚え指導練習をすること。 [授業外学修] 指導練習の反復	
⑤	[テーマ] エアロビックダンスの基礎理論 [内容] エアロビックダンスの基本的な考え方、特性・効果・運動プログラムについて説明する。配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解			⑬	[テーマ] プログラム作成と指導1 [内容] 作成したプログラムを指導する(グループ発表) [授業外学修] 指導練習の反復	
⑥	[テーマ] メインエクササイズの種類について [内容] 指導者、参加者側双方からみた有酸素運動の運動強度について説明する。配布資料を理解しておくこと。 [授業外学修] 配布資料の理解			⑭	[テーマ] プログラム作成と指導2 [内容] 作成したプログラムを指導する(グループ発表)テストに備えて復習をすること。 [授業外学修] 復習	
⑦	[テーマ] 対象者別の運動プログラム体験 [内容] 対象者に合わせた運動プログラムを理解し、考慮した点や動作上の注意点等を理解する。 [授業外学修] 授業の振り返り			⑮	[テーマ] テスト1 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テスト対策	
⑧	[テーマ] 筆記テスト [内容] 健康運動実践指導者テキストからエアロビックダンスに係わる問題を出題する。 [授業外学修] テスト対策			⑯	[テーマ] テスト2 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テスト対策	
成績評価方法(方針)						
試験は、実技試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内筆記テスト(評価割合30%)と、学習態度(評価割合10%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(放棄とみなす)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。見学者は申告すること。 ・授業中は携帯電話をかばんの中にしまい、マナーモードにすること。 ・実技中心なのでシューズ、ウェア、水分を各自用意すること。
定期試験				◎	60%	
授業内レポート		◎		◎	30%	
授業外レポート					予定なし	
演習・実技			◎		10%	
授業態度			◎		減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目				関連資格	健康運動実践指導者・健康運動指導士	
教科書	特に指定しない			参考書	「健康運動実践指導者用テキスト」(健康・体力づくり事業財団)、「エアロビックダンスEX理論」(社)日本フィットネス協会	
オフィスアワー				その他	非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通しとすること。	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ニューゲームズ New Games(P.A.)			担当教員	仲野隆士・弓田恵里香・佐藤周平	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	
	履修の方法	選択	単位数			1
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本授業では、これまでに考案されてきたニュー・ゲームを領域毎に紹介し実践する。さらに、最後の2回は全体授業とし、新しいオリジナルゲームを考案する方法について学習した上で、グループ毎に実際にオリジナルゲームを考案し、他のグループに対して発表する場面を設定する。					i、iii、v	
授業の一般目標						
限られた用具(体育館の倉庫に配置されているボールやネットなど)を用い、創意工夫を凝らして新しいオリジナルゲームを考案し提供する能力(応用力)を習得する。最終的には、学校での授業や行事、地域でのレクリエーションなどで指導・支援できる能力を養成する。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	ルールや用具などのアレンジの仕方がわかる・できる					
■ 情意的領域	ルールを変えることで面白さが変化することを知り、ルールを変える遊び心と好奇心の大切さがわかる					
■ 技能表現的領域	既存のスポーツをアレンジすることで新たに出てくるニューゲームの楽しみ方を実践を通して理解できる					
授業計画(全体)						
* 全体を3つに分けたグループ毎に、各教員の授業を4回受ける。4回終了したら、次の教員の授業を4回というようにローテーションしていく。なお、最後の2回は仲野・弓田・佐藤の3名が合同で担当する。14回目以降は1体に集合し、全体で実施する。最終回は各班が考案したオリジナルニューゲームを発表する(説明書は提出)。各教員がレクをはじめ専門指導者資格養成の講師の実務経験を活かし、発想力や応用力の観点から実技の授業を展開していく。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(仲野・弓田・佐藤) [内容] 授業の全体像の理解と教員の把握、班分けと名簿作成 [授業外学修]			⑨	[テーマ] フライングディスク(弓田4) [内容] フライングディスク その3 これまでの技能を用いてアルティメットを体験し、グループで戦術的課題を考案し、挑戦する [授業外学修]	
②	[テーマ] バスケットボール型(仲野1) [内容] バスケットボール型ニューゲームの概要を説明し、体験していく中でオリジナルなバスケットボール型ニューゲームについて思案する [授業外学修]			⑩	[テーマ] ラケット型1・テニスのアレンジ1(佐藤1) [内容] 体育館の室内で実施可能なテニスをベースとしたパドルテニス・ラケットテニス・フリーテニスについて体験的に学習する [授業外学修]	
③	[テーマ] バレーボール型1(仲野2) [内容] バレーボール型ニューゲームの概要を説明し、既に紹介されているバレーボール型のニューゲームを体験していく [授業外学修]			⑪	[テーマ] ラケット型2・テニスのアレンジ2(佐藤2) [内容] テニスコートにてプレーステイのボールを用いたテニス形のアレンジを学ぶと共に、テニス型のニューゲームを思案する [授業外学修]	
④	[テーマ] バレーボール型2(仲野3) [内容] バレーボールのルールや用具をアレンジしてできる様々なバリエーションを体験するとともに、バレーボール型のニューゲームズを思案する [授業外学修]			⑫	[テーマ] ラケット型3・バドミントンのアレンジ(佐藤3) [内容] バドミントンコートを使用し、バドミントンをアレンジしたニューゲーム(含むリングテニス・フリゴ)を体験的に学ぶと共にニューゲームを思案する [授業外学修]	
⑤	[テーマ] サッカー型(仲野4) [内容] サッカー型ニューゲームの概要を説明し、体験していく中でオリジナルなサッカー型ニューゲームについて思案する [授業外学修]			⑬	[テーマ] ラケット型4・卓球のアレンジ(佐藤4) [内容] 卓球をアレンジした様々なニューゲームを体験的に学ぶと共に卓球方のニューゲームを思案する [授業外学修]	
⑥	[テーマ] フライングディスク(弓田1) [内容] フライングディスク その1 フライングディスクの種目等について概説し、基本的なスローを用いてアキュラシーなどを体験する [授業外学修]			⑭	[テーマ] ニューゲーム作成の考え方と方法の理解(仲野・弓田・佐藤) [内容] ニューゲームを考案するには、どのような考え方や作成手順が必要か理解する。その上で、班毎にニューゲーム考案の作業を開始する [授業外学修]	
⑦	[テーマ] フライングディスク(弓田2) [内容] フライングディスク その2 子どもから高齢者まで楽しめるドッジビーを用いたゲームを体験する [授業外学修]			⑮	[テーマ] オリジナルニューゲームの作成と説明書作成(仲野・弓田・佐藤) [内容] オリジナルニューゲームを完成させ、指定された用紙にまとめる。授業後半に、作成したニューゲームズを他の班に紹介する。 [授業外学修]	
⑧	[テーマ] フライングディスク(弓田3) [内容] フライングディスク その3 基本スロー以外の応用について学習し、アルティメットの基礎についても学習する [授業外学修]			⑯	[テーマ] レポート提出 [内容] 体験したことについて各自が振り返り、それをレポートにまとめ提出する [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
出席を重視すると共に、レポート提出内容、グループ毎の授業への取り組みや態度を考慮して、総合的に判断して評価を出す。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					0	
授業内レポート		◎	○		20%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技			○	◎	40%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	レクリエーション実技Ⅰ、レクリエーション実技Ⅱなど				関連資格	レクリエーション・コーディネーター
教科書	特に無し				参考書	『新しい軽スポーツのすすめ』仲野隆士・原田宗彦 杏林書院
オフィスアワー	仲野:金2限、弓田:火4限、佐藤:金4限				その他	A508、A504、LC棟2F

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ソフトボール Softball (P.A.)			担当教員	入澤裕樹・森本吉謙・小野寺和也
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実務経験の有無	高校での教員経験を有する 高校部活動での外部指導者の経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
ソフトボールは、投・打・走・捕など、基本的運動の多くが含まれるベースボール型のスポーツ種目である。本授業では、ベースボール型種目指導の実務経験のある教員が基本的な技術や戦術を概説し、また、それらを習得するための各種の練習方法を紹介する。加えて、ゲームを通じて、実際のゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。					i、iii、v
授業の一般目標					
ソフトボールにおける技術や戦術の基本、およびそれらを習得する練習の具体的な方法論を学習して実践できるようになり、かつ集団競技の中で他所との関わりを積極的に持つことが出来るようになる。特にソフトボール特有の技術であるウインドミル投法に関しては、最終的に自身が出来るようになると同時に、適切な指導法を身に付ける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	ソフトボールの基本的な技術や戦術およびそれらの練習方法を説明できる。				
■ 情意的領域	集団競技として積極的に他社との関わりを持てるようになる。				
■ 技能表現的領域	理解したことを実践でき、加えてウインドミル投法ができるようになる。				
授業計画(全体)					
毎時間テーマに沿った各技術を学習した後、それらの技術を発揮しやすいケースで試合形式の実践を行う。まずキャッチボール、投手のウインドミル投法、野手の守備といった個人の防御技術、および、基本的な打撃、バントやヒットエンドラン等の戦術的な打撃といった個人の攻撃技術を学習する。その後、併殺プレイや内外野の連携プレイといった集団における防御技術の学習へと発展する。最終的にはチームに分かれてリーグ戦を行い、実際のゲームの中で勝敗を競い合う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 講義ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを事前に読むこと			⑨	[テーマ] 集団の防御技術⑨ (送球および併殺プレイ) [内容] 主に内野における連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する [授業外学修]ベースボール型種目の戦術に関する教本を読むこと
②	[テーマ] 個人の防御技術① (キャッチボールの基本) [内容] キャッチボールの基本を学び各種ドリルを実践する [授業外学修]ベースボール型種目の守備に関する教本を読むこと			⑩	[テーマ] 集団の防御技術⑩ (内外野の連携プレイ) [内容] 内外野の連携プレイを習得するための各種ドリルを実践する [授業外学修]ベースボール型種目の戦術に関する教本を読むこと
③	[テーマ] 個人の防御技術② (ウインドミル投法その1) [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する [授業外学修]ソフトボールの投手の投法について調べておくこと			⑪	[テーマ] 審判法 [内容] 試合における審判の判定方法およびジェスチャーを学ぶ [授業外学修]ソフトボールのルールブックを事前に読むこと
④	[テーマ] 個人の防御技術③ (ウインドミル投法その2) [内容] ウインドミル投法習得のためのドリルを実践する [授業外学修]ソフトボールの投手の投法について調べておくこと			⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] 各班に分かれリーグ戦を行う(第1節) [授業外学修]事前にゲーム構造や運営方法について調べておくこと
⑤	[テーマ] 個人の防御技術④ (野手の基本技術) [内容] ゴロ処理、フライ処理の習得のためのドリルを実践する [授業外学修]ベースボール型種目の守備に関する教本を読むこと			⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] 各班に分かれリーグ戦を行う(第1節) [授業外学修]事前にゲーム構造や運営方法について調べておくこと
⑥	[テーマ] 個人の攻撃技術⑤ (打撃の基本技術その1) [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する [授業外学修]ベースボール型種目の打撃教本を読むこと			⑭	[テーマ] ゲーム③ [内容] 各班に分かれリーグ戦を行う(第1節) [授業外学修]事前にゲーム構造や運営方法について調べておくこと
⑦	[テーマ]個人の攻撃技術⑥ (打撃の基本技術その2) [内容] 打撃の基本技術を習得するための各種ドリルを実践する [授業外学修]ベースボール型種目の打撃教本を読むこと			⑮	[テーマ] ゲーム④ [内容] 各班に分かれリーグ戦を行う(第1節) [授業外学修]事前にゲーム構造や運営方法について調べておくこと
⑧	[テーマ]個人の攻撃技術⑦ (戦術的な攻撃と走塁) [内容] バント、ヒットエンドラン等の戦術的な打撃を習得するための各種ドリルを実践する [授業外学修]ベースボール型種目の戦術に関する教本を読むこと			⑯	[テーマ] テスト(実技試験) [内容] 授業の理解度、技術の習熟度をテストする [授業外学修]示される実技試験内容について事前に練習すること
成績評価方法(方針)					
試験は、授業内にて実技試験を1回実施する(評価割合100%)。試験後には評価についての振り返りを行う。授業中における態度は試験結果からの減点対象となる。出席は欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技		◎	○	◎	
授業態度			○		
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
					ジュニアスポーツ指導員
教科書					参考書
オフィスアワー					その他
木曜日 14:20~15:50 (入澤)					研究室(入澤):A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	新体操 Rhythmic Gymnastic (P.A)				担当教員	神野未来	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	実務経験の有無	(公財)日本スポーツ協会 公認コーチ(新体操)の現場での実務経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数	1			
授業の概要							DPとの関連性(表紙裏参照)
新体操における基本動作について学ぶ。また、徒手や手具を用いた演技についても触れ、新体操における動作やリズムの取り方、表現的な動きについて学ぶ。(公財)日本スポーツ協会公認コーチ(新体操)の現場での実務経験を活かし、競技・指導者育成の観点から授業を行う。							i
授業の一般目標							
学生のレベルに応じて動作能力を成長させるとともに、新体操に関する知識を習得するとともに意識を高める。							
授業の到達目標							
■ 認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。						
■ 情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することが出来る。						
■ 技能表現的領域	新体操の演技をフレーズで創ることができる。						
授業計画(全体)							
新体操の各基本動作を習得してから、演技創作・発表会へと展開していく。技能習得のレベルに応じて、グループ分けを行う場合もある。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業の目標と進め方 [授業外学修] 軽度の運動を行い、身体のコンディションを整える				⑨	[テーマ] フープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のフープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とフープの基本操作を覚える。	
②	[テーマ] ロープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ロープの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とロープの基本操作について、ポイントを整理する。				⑩	[テーマ] フープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのフープの操作と連係をもとに演技を創作する。 [授業外学修] 事前にフープの操作方法について復習してくる。	
③	[テーマ] ロープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のロープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とロープの基本操作を覚える。				⑪	[テーマ] リボン① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・リボンの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とリボンの基本操作について、ポイントを整理する。	
④	[テーマ] ロープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのロープの操作と連係をもとに演技を創作する。 [授業外学修] 事前にロープの操作方法について復習してくる。				⑫	[テーマ] リボン② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のリボンの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とリボンの基本操作を覚える。	
⑤	[テーマ] ボール① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ボールの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とボールの基本操作について、ポイントを整理する。				⑬	[テーマ] リボン③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのリボンの操作と連係をもとに演技を創作する。 [授業外学修] 事前にリボンの操作方法について復習してくる。	
⑥	[テーマ] ボール② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のボールの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とボールの基本操作を覚える。				⑭	[テーマ] クラブ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・クラブの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とクラブの基本操作について、ポイントを整理する。	
⑦	[テーマ] ボール③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのボールの操作と連係をもとに演技を創作する。 [授業外学修] 事前にボールの操作方法について復習してくる。				⑮	[テーマ] クラブ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のクラブの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とクラブの基本操作を覚える。	
⑧	[テーマ] フープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・フープの基本動作と様々な操作方法を覚える。 [授業外学修] 徒手動作とフープの基本操作について、ポイントを整理する。				⑯	[テーマ] 演技発表会 [内容] ・創作した演技を発表する。 [授業外学修] 事前に創作した演技を復習してくる。	
成績評価方法(方針)							
個人の創作演技の内容と、発表会でのスキル、新体操への理解度も含め、総合して成績評価を行う。授業内での協力的な貢献度や授業態度についても、成績評価の判断の材料とする。尚、発表会で求める個人のスキルについては、評価の基準を授業内で説明する。							
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 	
定期試験				◎	70%		
授業内レポート							
授業外レポート							
演習・実技	○			○	20%		
授業態度			○		10%		
出席					欠格条件		
関連科目					関連資格		
教科書					参考書		
オフィスアワー	水曜日 14:20～15:50				その他	研究室:第4体育館1階	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ダンスⅡ DANCEⅡ(P.A)			担当教員	山梨 雅枝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	実務経験の有無 ダンス振付及び公演運営の実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本授業では[ダンスⅠ(1・半期)]で学んだ内容に加え、実務経験を生かして、舞台効果(音響、照明、構成など)について学ぶ。授業の最終目標としては、会場を貸し取り、地域の方々も交えたダンス発表会(DanDanDance&Sports)へ出演する。これらの活動から、催し物の企画・運営能力も養う。					i、v
授業の一般目標					
互いが持つ能力を互いに享受し合い、創作作品を創り上げていく。また、舞台に立つ体験することでしか得ることのできない学び、個人が持つ「表現力」の多様性を実感する。運営委員として公演開催に関する準備にも積極的に関わり、責任をもって行動する能力を養う。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	公演の運営に携わることで、自分ができる仕事を自ら見つけ、責任を持って実行する力がある。			
■	情意的領域	表現することに興味・関心を持ち、公演をきっかけに多くの人々と触れ合う中で心動かされる体験をする。			
■	技能表現的領域	身体表現を通じて、見る側と見られる側とのコミュニケーションを行う。			
授業計画(全体)					
動きを引き出す為に必要と思われる方法を互いに持ち寄り、実践しながら検討する。その過程でよい方法を導き出し、作品づくりへと移行していく。最終的には、4分程度の発表会への参加作品を創り、出演する。 ダンス発表会へは実行委員として関る。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容]担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法について。 [授業外学修]鑑賞したDVDについてレポートを作成する			⑨	[テーマ]創作活動③ [内容]創作活動を進める。 [授業外学修]選曲を行う
②	[テーマ]演歌で踊ろう① [内容]歌詞内容に合った振付を考える。 [授業外学修]			⑩	[テーマ]創作活動④ [内容]創作活動を進める。 [授業外学修]振付を考える
③	[テーマ]演歌で踊ろう② [内容]歌詞内容に合った振付を考える。 [授業外学修]演歌の選曲を行う			⑪	[テーマ]創作活動⑤ [内容]創作活動を進める。また、衣装を考える。 [授業外学修]衣装を作成する
④	[テーマ]演歌で踊ろう③ [内容]歌詞内容に合った振付を考える。 [授業外学修]演歌の歌詞について確認する			⑫	[テーマ]中間発表 [内容]グループごとに、創作作品を発表する。VTRに記録し、自分たちで確認、改善する。 [授業外学修]自班の作品についてレポートを作成する
⑤	[テーマ]演歌で踊ろう④ [内容]歌詞内容に合った振付を考える。 [授業外学修]振付を考える			⑬	[テーマ]創作活動⑥ [内容]改善すべき箇所の検討、作品を完成度を高める。また、照明案・音響案を作成する。 [授業外学修]照明案について考える
⑥	[テーマ]学内発表 [内容]観客を招き、学内発表を行う。 [授業外学修]衣装を作成する			⑭	[テーマ]創作活動⑦ [内容]作品を完成させる。また、照明案・音響案を作成する。 [授業外学修]作品の練習を行う
⑦	[テーマ]創作活動① [内容]前年度までの受講生が実施した、Dandandance&SportsのDVDを観て、作品づくりの手がかりとする。 [授業外学修]鑑賞したDVDについてのレポートを作成する			⑮	[テーマ]リハーサル [内容]発表会作品のリハーサルに加え、運営全般の最終確認を行う。 [授業外学修]衣装や舞台の出入りについて確認する
⑧	[テーマ]創作活動② [内容]作品のテーマ、曲などについて話し合いを進める。話し合いの内容を記録し、次週に活動を繋げる。 [授業外学修]作品のテーマを考える			⑯	[テーマ]公演 [内容]作品を発表するとともに、他の作品を鑑賞し、表現の多様性について学ぶ。 [授業外学修]公演についてのレポートを作成する
成績評価方法(方針)					
ダンス公演「DAN DAN DANCE & SPORTS 16th」に参加作品を創作し、出演することが単位取得の最低条件である。公演当日をまでの積極的な取り組みや出席状況を総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	50%
授業内レポート		○	○		5%
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度			◎	◎	15%
出席					欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業を通じて自己の身体に興味を持つこと。 ・体調管理を怠らない。(飲み物を各自準備する。但し、蓋のある容器のみ持込可。) ・体育館使用上のルール、授業を受ける最低限のマナーを守る。 ①授業中、周囲に目を配り、互いがより良く学びあえる空間を築く様、努めること。 ②活動の妨げになるものは一切身につけないこと。 ③服装については、授業担当者の指示に従うこと。 					
関連科目	ダンスⅡ			関連資格	教員免許状(中高保体)、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー
教科書	適宜資料を配布する。			参考書	ナンシー・レイノイズ、マルコム・マコーミック『20世紀ダンス史』慶応義塾大学出版,2013
オフィスアワー	火曜日:13:00~15:30			その他	山梨研究室:第4体育館1階

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ゴルフ Golf (P.A.)			担当教員	内野秀哲
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実技	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
ゴルフの歴史、ルール、マナー・エチケット等の関連知識、及びゴルフに必要なスキルなどについて、実技実習などを通して解説する					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
ゴルフの種目特性を理解し、適切に競技進行するための基礎知識・技能を習得する					
授業の到達目標					
■	認知的領域	用具の役割や特徴が説明できる			
■	情意的領域	状況や自身の能力に応じて、適切な道具が選択できる			
■	技能表現的領域	状況に応じて適切に道具を使用できる			
授業計画(全体)					
本実習は実技実習を学外の一般施設で行うため、便宜上2コマ連続の8週分の期間で実施する。基礎理論の学習の後、難易度の低い用具から順に効率的に実習を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 1週目①:オリエンテーションのグループ編成 [内容] 授業の履修方法と実習時のグループ編成などについて説明する [授業外学修] 配布されたオリエンテーション資料をよく読んでおくこと			⑨	[テーマ] 5週目⑨:ロングアイアン1 [内容] #4アイアンまでのクラブの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと
②	[テーマ] 1週目②:ゴルフの基礎知識 [内容] ゴルフの基礎知識について説明する [授業外学修] 図書館などを活用し、ゴルフの概要程度の知識を得ておくこと			⑩	[テーマ] 5週目⑩:ロングアイアン2 [内容] #3アイアンまでのクラブの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと
③	[テーマ] 2週目③:ゴルフの競技・コースの解説 [内容] ゴルフの競技方法、競技コースの解説を行う [授業外学修] 図書館などを活用し、ゴルフ競技の実例を調べておくこと			⑪	[テーマ] 6週目⑪:ウッド1 [内容] パフィーまでのクラブの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと
④	[テーマ] 2週目④:ルールと用具の解説 [内容] 競技ルールとマナー・エチケット、用具の解説を行う [授業外学修] 図書館などを活用し、ルールとマナーについて調べておくこと			⑫	[テーマ] 6週目⑫:ウッド2 [内容] スプーンまでのクラブの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと
⑤	[テーマ] 3週目⑤:ショートアイアン1 [内容] サンドウェッジ、ピッチングウェッジの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと			⑬	[テーマ] 7週目⑬:ウッド3 [内容] ドライバーまでのクラブの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと
⑥	[テーマ] 3週目⑥:ショートアイアン2 [内容] #9アイアン、#8アイアンの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと			⑭	[テーマ] 7週目⑭:ウッド3 [内容] ドライバーまでのクラブの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと
⑦	[テーマ] 4週目⑦:ミドルアイアン1 [内容] #7アイアン、#6アイアンの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと			⑮	[テーマ] 8週目⑮:ショートゲーム1 [内容] バンカーからのショット [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと
⑧	[テーマ] 4週目⑧:ミドルアイアン2 [内容] #5アイアンまでのクラブの実技実習 [授業外学修] 授業内で扱う用具の特性などについて調べておくこと			⑯	[テーマ] 8週目⑯:ショートゲーム2(テスト) [内容] ショートアイアンによる距離と方向のコントロール [授業外学修] これまでの学修を振り返って整理をして下さい。
成績評価方法(方針)					
成績は最終日に課すショートゲームの結果を評価し、ショートゲームの判定は実施後に通知する。出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験			○	◎	100%
授業内レポート					加減点要素
授業外レポート					加減点要素
演習・実技		○		○	加減点要素
授業態度		○		○	加減点要素
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	使用しない(電子媒体の教材をLMSにて運用)				参考書
オフィスアワー	4体1F 内野研究室 火曜14:20-15:50				その他
					必要に応じて授業内で提示
					連絡先:hd-uchino@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スキー II Ski II (P.A.)			担当教員	井上 望・柴山一仁・高橋弘彦
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	実務経験の有無 スキー指導経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スキー I で習得したスキーの理論及び技術をさらに発展させる。また、スキーの指導法及び指導者としての資質を身につける。実習は、1月前半に、山形温泉蔵王温泉スキー場で実施する。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
各技能ごとに班分けを行い、各自のスキー技術習得を目指す。教員の実務経験を活かし、中級者は2級、上級者は1級以上の技能獲得をできるように努める。また、学外実習や集団生活の運営方法を身につけ、指導できるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	各自のレベルにおけるスキー技術について理解し、説明・指導ができる			
■	情意的領域	スキー及びスノースポーツに興味を持ち、熱意を持って取り組める			
■	技能表現的領域	自身の上達を実感し、各自のレベルに応じてスキー滑走・指導ができる			
授業計画(全体)					
初日に技術レベルごとに班編成をする。技術習得の効率を高めるため、原則として1班5名程度とする。午前・午後是指導員による講習を受講し、ナイターは各自の課題をもって班ごとの自主練習を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] パラレルターンへの展開1 [内容] パラレル形状(板を並行に揃えた状態)で、横滑りができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑨	[テーマ] カービングターン3 [内容] カービングの要素を強めたパラレルターンの小回りができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
②	[テーマ] パラレルターンへの展開2 [内容] シュテムターン(ハの字に開き出してターンし、後半にスキーを揃える)ができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑩	[テーマ] 不整地1 [内容] 吸収動作や横滑りを駆使し、コブを滑れるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
③	[テーマ] パラレルターンへの展開3 [内容] ブルークボーグンの外足荷重を強め、内膝を返したブルークターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑪	[テーマ] 不整地2 [内容] ボトムターンやバンクターンなど、様々なコブの滑り方を身につける。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
④	[テーマ] パラレルターン1 [内容] 両足同時操作による、安定したパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑫	[テーマ] 不整地3 [内容] 雪から受ける抵抗をうまく利用しながら、新雪やナチュラルバーンを滑れるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑤	[テーマ] パラレルターン2 [内容] ターン弧や身体の傾きを調整して、様々な斜面を滑ることができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑬	[テーマ] 総合滑降・リズム変化 [内容] 斜面・雪質に合わせて、リズム変化を伴いながら、スピード感のある総合滑降ができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑥	[テーマ] パラレルターン3 [内容] リズムやスピードを調整し、パラレルターンの小回りができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑭	[テーマ] 指導演習1 [内容] 中級者を対象としたスキーの指導法を考え、指導実践を行い、フィードバックを受ける [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑦	[テーマ] カービングターン1 [内容] カービングターンの要素を加え、速度の要素を減らしながらパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑮	[テーマ] 指導演習2 [内容] 上級者を対象としたスキーの指導法を考え、指導実践を行い、フィードバックを受ける [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑧	[テーマ] カービングターン2 [内容] カービングの要素を強め、加速しながらスピード感のあるパラレルターンができるようになる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑯	[テーマ] ふりかえり [内容] 学んだスキー技術、指導法、集団生活の過ごし方などをふりかえり、まとめる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
成績評価方法(方針)					
スキーへの取り組み、講習中およびホテルでの態度を総合的に評価する。スキー技術へのフィードバックは、班別レッスンの中で随時行う。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	○	○	○	○	50%
授業態度	○	○	○	○	50%
出席					欠格条件
関連科目	スキー I (1年)			関連資格	特になし
教科書	特になし			参考書	日本スキー教程(山と溪谷社)
オフィスアワー	木曜4限			その他	不明な点や相談があれば、事前に担当教員を訪ねること

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	マリンスポーツ I Marine Sports I (P.A.)			担当教員	高橋 弘彦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スクーバダイビングを実施する。コンファインドウォーター(プール)において基本的な潜水技術を習得し、それを基にオープンウォーター(海洋)において応用技術を修得する。またスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学に関する知識も習得する。オープンウォーター実習(海洋実習)は、山形県鶴岡市にて実施する。					v
授業の一般目標					
スクーバダイビングに必要な水中技能を習得し、水中における物理学、生理学、医学等の分野について理解することにより、各自で安全にオープンウォーターでのダイビング活動が行えるようになる。 同時にNAUI SCUBA DIVERの資格認定を受ける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	水中におけるダイバーの行動と安全性に関連する、物理学、生理学、医学等の分野について説明できる。			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	インストラクターの管理なしでオープンウォーターにおけるダイビング活動を行う事が出来るようになる。			
授業計画(全体)					
①水泳技能、②スキンドIVING技能、③スクーバダイビング技能と、段階的に技能を習得させていく。技能習得が不十分な場合には次の段階には進むことはできない。その場合、各自での個別練習が必要となる。併せてスクーバダイビングに必要な物理学、生理学、医学等に関する理論講義及び筆記試験も実施する。海洋でのダイビング本数は6本を予定。安全性確保の観点から、受講希望者が指導可能人数を超えた場合は、水泳技能上位者から受講を許可していく。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業内容、日程等に関する説明 [授業外学修]シラバスを熟読する事			⑨	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習5 [内容] マスククリア・脱着、レギュレータクリア・リカバリー [授業外学修]教科書による方法・手順の予習および復習
②	[テーマ]水泳技能 [内容] 長時間水泳、生存水泳、水平潜水 [授業外学修]泳力を高めるための個別練習			⑩	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習6 [内容] エア切れ対処法、浮力コントロール [授業外学修]教科書による方法・手順の予習および復習
③	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習1 [内容] マスク、スノーケル、フィンの使用 [授業外学修]受講技能を高めるための個別練習			⑪	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング1 [内容] ライン潜行・浮上、浮力コントロール、安全停止 [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入
④	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習2 [内容] マスククリア、スノーケルクリア、フィンスイミング [授業外学修]受講技能を高めるための個別練習			⑫	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング2 [内容] マスククリア・脱着、浮力コントロール [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入
⑤	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習3 [内容] マスク・スノーケル脱着、サーフェスダイブ [授業外学修]受講技能を高めるための個別練習			⑬	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング3 [内容] レギュレータクリア・リカバリー、浮力コントロール [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入
⑥	[テーマ] 学科講習1 [内容] 空気・水の物理的特性、水中における身体と圧力 [授業外学修]教科書による予習および復習			⑭	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング4 [内容] エア切れ対処法、浮力コントロール [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入
⑦	[テーマ] 学科講習2 [内容] ダイビング環境、潜水計画、器材の使用方法、筆記試験 [授業外学修]教科書による予習および復習			⑮	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング5 [内容] コンパスナビゲーション・浮力コントロール [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入
⑧	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習4 [内容] スクーバシステムの組み立て・装着、潜行、浮上 [授業外学修]教科書による方法・手順の予習および復習			⑯	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング6 [内容] フリー潜航・浮上、浮力コントロール [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入
成績評価方法(方針)					
修得技能と授業参加態度を総合して評価する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				◎	100%
授業態度					欠格条件
出席					欠格条件
関連科目	マリンスポーツ II (3年)			関連資格	NAUI ADVANCED SCUBA DIVER
教科書	NAUI SCUBA DIVER テキスト			参考書	特に指定しない
オフィスアワー	木曜日 14時20分～15時50分			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	マリンスポーツⅡ Marine SportsⅡ (P.A.)			担当教員	高橋 弘彦	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	実務経験の有無	
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
マリンスポーツⅠでNAUI SCUBA DIVERとしての認定を受けた者に対し、各種のダイビング活動を紹介・実施させるとともに、海外リゾートにおけるダイビングスタイルを経験させる。 実習は、11月下旬から12月中旬の間に4泊5日の日程でグアムにて実施する。					v	
授業の一般目標						
マリンスポーツⅠで修得した水中技能をさらに高め、様々なダイビングスタイルを経験することにより、さらに安全なダイビング活動が行えるようになる。同時にNAUI ADVANCED SCUBA DIVERの資格認定を受ける。NAUI ADVANCED SCUBA DIVER所持者に関しては、各種SPECIALTY DIVERの認定を受ける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	複数のダイブプランを作成できるようになる。				
□	情意的領域					
■	技能表現的領域	様々な条件下におけるダイビング活動を安全に行う事が出来るようになる。				
授業計画(全体)						
スクーバダイビングの経験本数を増やすことにより、ダイビングスキルを向上させていく。特にボートダイビング、ナビゲーション、ディープダイビングにおけるスキルを向上させる。 ダイビング本数は8本を予定。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業内容、日程等に関する説明 [授業外学修]シラバスを熟読する事			⑨	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング1 [内容] ボートダイビング、マスク脱着、レギュレタリカバリ、浮力コントロール、安全停止 [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入	
②	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習1 [内容] マスククリア、スノーケルクリア、フィンスイミング [授業外学修]スキンドビング技能を高めるための個別練習			⑩	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング2 [内容] ボートダイビング、ドリフトダイビング、安全停止 [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入	
③	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習2 [内容] マスク・スノーケル脱着、サーフェスタイブ [授業外学修]スキンドビング技能を高めるための個別練習			⑪	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング3 [内容] ボートダイビング、ドリフトダイビング、安全停止 [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入	
④	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習3 [内容] スクーバシステムの組み立て・装着、潜行、浮上 [授業外学修]教科書による方法・手順の復習			⑫	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング4 [内容] ボートダイビング、ディープダイビング、安全停止 [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入	
⑤	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習4 [内容] マスククリア・脱着、レギュレタリカバリ [授業外学修]教科書による方法・手順の復習			⑬	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング5 [内容] ボートダイビング、ディープダイビング、安全停止 [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入	
⑥	[テーマ] コンファインドウォーター(プール)実習5 [内容] エア切れ対処法、浮力コントロール [授業外学修]教科書による方法・手順の復習			⑭	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング6 [内容] ボートダイビング、コンパスナビゲーション [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入	
⑦	[テーマ] 学科講習1 [内容] ボートダイビング、ディープダイビング [授業外学修]教科書による予習および復習			⑮	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング7 [内容] ボートダイビング、フリー潜航・浮上、ナチュラルナビゲーション [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入	
⑧	[テーマ] 学科講習2 [内容] ナビゲーション、潜水計画 [授業外学修]教科書による予習および復習			⑯	[テーマ] オープンウォーター(海洋)トレーニング8 [内容] ボートダイビング、フリー潜航・浮上、ナチュラルナビゲーション [授業外学修]トレーニング・レクリエーションログの記入	
成績評価方法(方針)						
修得技能と授業参加態度を総合して評価する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験						<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・履修は、原則としてマリンスポーツⅠの単位修得者とする。 ・履修希望者は必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合は、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。 ・オリエンテーションは5月中旬を予定。 ・費用(概算)は、テキスト(含む申請料)10000円、旅費150000円、出入国税・旅行保険10000円、ダイビング費用500ドルである。
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技				◎	100%	
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
関連科目	マリンスポーツⅠ(2年)			関連資格	NAUI SCUBA DIVER	
教科書	NAUI ADVANCED SCUBA DIVER テキスト			参考書	特に指定しない	
オフィスアワー	木曜日 14時20分～15時50分			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会調査法 I Social Research I (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
社会調査に関する基本的な事柄について解説する。具体的には、社会調査の目的やその歴史、社会調査の種類、社会調査を実施する者の心構えなどである。また、講義後半には質的な模擬調査を行い、社会調査の難しさを体感してもらう。なお、本科目は社会調査士資格認定【A科目】に該当する。					v
授業の一般目標					
① 社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。					
② 与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会調査に関する基本的な事柄について理解できる。			
■	情意的領域	社会調査の面白さと不完全さに関心を向ける。			
■	技能表現的領域	調査結果を適切にまとめることができる。			
授業計画(全体)					
11回目までは、社会調査とは何か、いかに行うかといった基本的な事柄について、講義形式で解説する。そのうち6～10回目は、様々な種類の社会調査の結果をまとめたものを読みながら、社会調査が具体的にどのように社会に還元されるかを学び取る。12回目以降は、実際に模擬調査を行い、社会調査の難しさを体感してもらう。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法を説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読して科目の趣旨と授業計画を確認する。			⑨	[テーマ] 調査技法③: 参与観察 [内容] 参与観察について解説し、参与観察の結果をまとめた論文を読む。 [授業外学修] トロブリアント諸島の「クラリング」について復習する。
②	[テーマ] 社会調査とは何か [内容] 社会調査の意義と目的について解説する。 [授業外学修] 「実証主義」の概念をノートに整理する。			⑩	[テーマ] 量的調査の二次分析 [内容] 量的調査の結果の読解の仕方を解説する。 [授業外学修] 刑法犯認知件数の推移を『犯罪白書』で分析する。
③	[テーマ] 社会調査の歴史 [内容] 社会調査の歴史(社会調査史)について、主要な先行研究をレビューしながら解説する。 [授業外学修] デュルケム『自殺論』を復習する。			⑪	[テーマ] 中間試験 [内容] これまでの授業の理解度と関心度を問う記述方式のテストを行い、前半の講義を振り返る。 [授業外学修] 中間試験の反省、模擬調査の計画を行う。
④	[テーマ] 社会調査の倫理 [内容] 社会調査の倫理について、人権の尊重と個人情報保護の概念について解説する。 [授業外学修] 日本社会学会等の倫理綱領を確認する。			⑫	[テーマ] 質的調査の実際① [内容] 質的な模擬調査を行うための下準備を行う。 [授業外学修] 調査対象者の選定、質問項目準備を進める。
⑤	[テーマ] 社会調査法の分類 [内容] 量的調査と質的調査の違いを解説する。 [授業外学修] 量的/質的調査の特徴をノートに整理する。			⑬	[テーマ] 質的調査の実際② [内容] 質的な模擬調査を行う。 [授業外学修] ICレコーダ等の使用方法を習熟する。
⑥	[テーマ] 実際の調査例 [内容] 国勢調査・公式統計・学術調査・世論調査・市場調査といった各種社会調査の違いを解説する。 [授業外学修] 各種調査の目的、手法、対象者をノートに整理する。			⑭	[テーマ] 質的調査の実際③ [内容] 模擬調査の結果をまとめる方法を解説する。 [授業外学修] 報告書の構成について復習する。
⑦	[テーマ] 調査技法①: 質問紙調査 [内容] 質問紙調査について解説し、その結果をまとめた論文を読む。 [授業外学修] SSM調査の特徴をノートに整理する。			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本講義を総括し、社会調査法Ⅱ(B科目)で必要となる知識を整理する。 [授業外学修] 量的調査の種類と特徴をノートに整理する。
⑧	[テーマ] 調査技法②: インタビュー調査 [内容] インタビュー調査について解説し、それに関する論文を読む。 [授業外学修] 論文の分析方法の特徴をノートに整理する。			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 期末レポートを作成する。 [授業外学修] 講義全体の復習、社会調査法Ⅱの予習をする。
成績評価方法(方針)					
中間試験(50%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。試験Ⅰはいわゆる「ペーパーテスト」。試験Ⅱはいわゆる「レポート」「論述」。なお、追試などは一切行わない。また、成績を掲示板等に貼り出すこともしない。全日程の2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○	○	50%
授業内レポート		○	◎	◎	50%
授業外レポート		○	◎	◎	50%
演習・実技					
授業態度					欠格条件
出席					欠格条件
関連科目	社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習			関連資格	社会調査士
教科書	特に指定しない			参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 篠原清夫ほか編『社会調査の基礎』弘文堂、2010
オフィスアワー	火曜日14:20～15:50			その他(連絡先等)	tk-mitani@sendai-u.ac.jp (三谷)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会調査法Ⅱ Social Research II (L.)			担当教員	田中智仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
社会調査の方法に焦点を当てて解説する。具体的には、社会調査の企画・設計から資料やデータの収集、収集されたデータを分析できる形に整理する方法を理解し、具体的な調査スキルを獲得してもらう。また、講義後半には量的な模擬調査を行い、データを分析し、発表する。なお、本科目は社会調査士資格認定【B科目】に該当する。					iv、v
授業の一般目標					
① 社会調査には様々な種類が存在することを知り、自ら社会調査を行う際に、適切な技法を選択できる。					
② 与えられたテーマに沿って、自ら模擬調査を実施し、それをまとめることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会調査に関する基本的な事柄について理解する。			
■	情意的領域	社会調査の面白さに気づき、興味関心を持つ。			
■	技能表現的領域	適切に調査を行い、結果をまとめることができるようになる。			
授業計画(全体)					
9回目までは、調査の方法論について講義形式で解説する。10回目以降は、量的調査を実際に行うために必要な具体的な手続きについて詳しく説明しながら、準備を進めていく。12回目に授業内で調査を行い、その結果をまとめて、発表する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法を説明する。 [授業外学修]シラバスを熟読して科目の趣旨と授業計画を確認する。			⑨	[テーマ] 調査データの整理 [内容] 調査データの整理について、コーディング、スクリーニングなどの方法を説明する。 [授業外学修]コーディングの種類と方法を復習する。
②	[テーマ]社会調査の目的と方法 [内容] 社会調査の目的と方法について、社会調査法Ⅰ(A科目)で学んだ内容を確認しながら説明する。 [授業外学修]量的調査と質的調査の違いを復習する。			⑩	[テーマ] 量的調査の実際① [内容] テーマの決定及び仮説の構築について説明する。授業内調査のテーマを決定し、先行研究をレビューした上で、仮説を構築する。 [授業外学修]先行研究をまとめ、調査計画書を作成してくる。
③	[テーマ] 調査方法の決め方 [内容] 調査方法の決め方について、調査対象者の属性などに注目し、量的先行研究をレビューしながら説明する。 [授業外学修]興味のあるテーマを一つ選び、レビューをまとめる。			⑪	[テーマ] 量的調査の実際② [内容] 調査票の配布、回収、分析の方法について説明する。受講生は、調査の変数を決定し、調査票を作成する。 [授業外学修]調査計画書を修正し、調査用紙を作成してくる。
④	[テーマ] 量的調査の企画と設計 [内容] 量的調査をどのように企画し、調査票を設計するかについて、量的先行研究をレビューしながら説明する。 [授業外学修]調査票の標準的な構成を確認する。			⑫	[テーマ] 量的調査の実際③ [内容] 授業内で調査を行う。データ入力の方法を説明し、受講生は、実際にデータを入力する。 [授業外学修]データ入力を終わらせ、分析しやすい形に整える。
⑤	[テーマ] 量的調査の仮説構成 [内容] 量的調査の仮説構成について、量的先行研究をレビューしながら調査対象者の属性や事象の社会的背景を踏まえて説明する。 [授業外学修]仮説検証型研究と事実探索型研究の違いを復習する。			⑬	[テーマ] 量的調査の実際④ [内容] データ分析と発表の仕方について説明する。受講生は、実際に入力したデータについて分析を行い、発表の準備を行う。 [授業外学修]分析を行い、結果を発表できるようにまとめる。
⑥	[テーマ] 量的調査のサンプリング [内容] 量的調査のサンプリングについて、母集団とサンプルの違いを踏まえながら無作為抽出の方法を説明する。 [授業外学修]悉皆調査と標本調査の違いを復習する。			⑭	[テーマ] 量的調査の実際⑤ [内容] 受講生が調査結果を発表し、その内容について解説する。 [授業外学修]発表をしてアドバイスされたところを修正する。
⑦	[テーマ] 調査票の構成と質問文の作り方 [内容] 調査票の構成と質問文の作り方について、ダブルバーレル、ワーディング、キャリアオーバーなどの注意点を説明する。 [授業外学修]質問文の例文を作成し、プリテストする。			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 本講義を総括し、社会統計学Ⅰ(C科目)・社会統計学Ⅱ(D科目)で必要となる知識を整理する。 [授業外学修]15回分の講義をふりかえり、レポートを作成する。
⑧	[テーマ] 調査の実施方法 [内容] 調査の実施方法について、面接、留置、郵送などの手法の違いを確認した上で、調査票の配布方法について説明する。 [授業外学修]各種実施方法の経費や期間等の制約を検討する。			⑯	[テーマ] 期末課題 [内容] 期末レポートを提出する。 [授業外学修]事前に期末レポートを作成すること。
成績評価方法(方針)					
調査結果の発表と期末レポートを評価対象とする。具体的には、①調査票が適切に設計されているか、②仮説構成が妥当か、③調査の実施方法および分析方法が適切であるかを評価の基準とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎	◎	○		50%
授業外レポート	○	○	◎		50%
演習・実技					
授業態度					欠格条件
出席					欠格条件
関連科目	社会調査法Ⅰ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習			関連資格	社会調査士
教科書	特になし			参考書	大谷信介ほか2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
オフィスアワー	水曜日10:30～12:00			その他(連絡先等)	田中研究室(第五体育館3階) tm-tanaka@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会統計学 I Social Statistics I (L.)			担当教員	栗木一博	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	-	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
社会調査では様々な社会的現象についてデータを収集し、そのデータを分析することで結論や知見を得る。その際、データ収集の計画立案からデータの集計分析まで統計的な知識が不可欠である。この授業では、社会調査において用いられる記述統計的な手法について考える。なお、本科目は社会調査士資格認定【C科目】に該当する。					i	
授業の一般目標						
調査で得られたデータの集計や、データの特徴を表わす指標の算出の仕方を理解し、実際にそれらが行えるようになること、また、官庁統計や論文などにおける統計的な記述を読み解くことができるようになることが目標である。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	社会調査における統計の手法の意味やその基礎的な概念を理解すること。					
■ 情意的領域	様々な社会的現象に対して、客観的かつ論理的に考えようとする態度を持つこと。					
■ 技能表現的領域	基礎的な統計の手法を使えるようになること。					
授業計画(全体)						
統計の基礎的な概念について説明する。また、実際にデータを扱うことを通して記述統計の手法の理解と習得を目指す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 社会調査において統計的手法を使うことの意味について考える。 [授業外学修]新聞記事の中から社会的統計データを集める。			⑨	[テーマ] クロス集計①離散変数の場合 [内容] 離散変数データのクロス集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学修]クロス集計表作成の練習問題をする。	
②	[テーマ] 社会統計の基礎 [内容] 社会調査における測定と、測定に用いられる尺度について考える。 [授業外学修]種々の調査が何を測定しているかを考えてみる。			⑩	[テーマ] クロス集計②連続変数の場合 [内容] 連続変数データのクロス集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学修]クロス集計表作成の練習問題をする。	
③	[テーマ] 度数分布①離散変数の場合 [内容] 離散変数の度数データの集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学修]度数分布表とヒストグラム作成の練習問題をする。			⑪	[テーマ] 相関関係と因果関係 [内容] 二つの現象の間の関係性について、特に、相関関係と因果関係の区別について考える。 [授業外学修]相関を用いている調査を探してみる。	
④	[テーマ] 度数分布②連続変数の場合 [内容] 連続変数データの度数の形で集計と、その図的な表現について学ぶ。 [授業外学修]度数分布表とヒストグラム作成の練習問題をする。			⑫	[テーマ] 離散変数データ間の連関 [内容] 二つの離散変数間の連関の程度を表わす指標の種類とその求め方について学ぶ。 [授業外学修]連関係数等の求め方の練習問題をする。	
⑤	[テーマ] 代表値とは [内容] データの特徴を記述するための指標としての代表値の意味と、その種類について学ぶ。 [授業外学修]種々の調査で用いられる代表値を調べてみる。			⑬	[テーマ] 連続変数データ間の相関 [内容] 相関係数とその求め方について学ぶ。 [授業外学修]相関の求め方の練習問題をする。	
⑥	[テーマ] 代表値の求め方 [内容] 具体的なデータをもとに平均値や中央値などの代表値の求め方を学ぶ。 [授業外学修]代表値計算の練習問題をする。			⑭	[テーマ] 統計データを読む① [内容] 官公庁などが公表している調査の中の統計資料を選び、統計資料の読み解き方について学ぶ。 [授業外学修]社会調査の統計資料を集めてみる。	
⑦	[テーマ] 散布度とは [内容] 標準偏差や分散など、データの特徴としての散らばりを記述する方法について考える。 [授業外学修]種々の調査で現われる散布度を調べてみる。			⑮	[テーマ] 統計データを読む② [内容] 研究論文の中の統計資料を選び、統計資料の読み解き方について学ぶ。 [授業外学修]研究論文の中の統計資料を集めてみる。	
⑧	[テーマ] 散布度の求め方 [内容] 具体的なデータをもとに標準偏差などの散布度の求め方を学ぶ。 [授業外学修]散布度計算の練習問題をする。			⑯	[テーマ] 学期末レポート [内容] 全15回の内容を踏まえてレポートを作成する。 [授業外学修]計算問題もあわせて復習する。	
成績評価方法(方針)						
レポートを8回課し、その評価(評価割合20%×4)と授業態度(評価割合20%)によって成績を決定する。 レポートは評価後返却すると同時に、解答の求め方について解説する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験						
授業内レポート		◎		◎	80%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度			◎		20%	
出席					欠格条件	
関連科目	社会統計学Ⅱ、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習				関連資格	社会調査士
教科書	使用しない				参考書	授業時に指示する
オフィスアワー	前期・月曜日2時限、後期・木曜日3時限				その他(連絡先等)	kz-awaki@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会統計学Ⅱ Social Statistics II (L.)			担当教員	荒井龍弥	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	—	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
社会調査では様々な社会的事象についてデータを収集し、そのデータを分析することで結論や知見を得る。その際、検定と推測統計的に関する知識が不可欠である。この授業では、社会調査において用いられる推測統計的な手法について考える。なお、本科目は社会調査士資格認定【D科目】に該当する。					i	
授業の一般目標						
統計的検定に関わる基礎的な概念について理解すること、そして、社会調査で用いられる統計的検定の手法を習得し、実際に使用することができるようになることが目標である。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	社会調査で用いられる統計的手法と、その基礎をなす概念を理解すること。					
■ 情意的領域	様々な社会的事象に対して、客観的かつ論理的に考えようとする態度を持つこと。					
■ 技能表現的領域	基礎的な統計的手法を使えるようになること。					
授業計画(全体)						
社会統計学Ⅰで学んだことを基礎にし、与えられたデータに実際に適用してみることを通して、推計統計の手法の理解と習得を目指す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 基本的な統計量(平均値、標準偏差、相関係数など)について復習する。 [授業外学修]新聞記事などにある調査結果の具体例をもとに復習をする。			⑨	[テーマ] 比率の差の検定 [内容] 二つの集団間での比率の差の検定の方法について学ぶ。 [授業外学修] 比率の差の検定の練習問題をする。	
②	[テーマ] 確率論の基礎 [内容] 統計的手法な推測や検定の基礎をなす確率論の考え方について考える。 [授業外学修] 確率に関する練習問題をする。			⑩	[テーマ] カイ二乗検定 [内容] クロス表データでの比率の差の検定について学ぶ。 [授業外学修] カイ二乗検定の練習問題をする。	
③	[テーマ] 正規分布と標準化 [内容] 正規分布の特徴と、標準化の意味について考える。 [授業外学修] 標準化についての練習問題をする。			⑪	[テーマ] 相関係数の検定 [内容] 相関係数が統計的に有意かどうかについての検定の方法を学ぶ。 [授業外学修] 相関係数の検定の練習をする。	
④	[テーマ] 中心極限定理 [内容] 標本データと母集団の特性値を結ぶ中心極限定理について考える。 [授業外学修] サイコロ投げを例に中心極限定理を実際に確認する。			⑫	[テーマ] 回帰分析 [内容] 複数の事柄の間の因果関係を分析する方法について学ぶ。 [授業外学修] 回帰分析の練習をする。	
⑤	[テーマ] 平均値の区間推定 [内容] 標本の平均値データから母集団の平均値を推測する方法について学ぶ。 [授業外学修] 推定の練習問題をする。			⑬	[テーマ] 分散分析① [内容] 三つ以上の平均値の差の検定の方法(1要因の分散分析)について学ぶ。 [授業外学修] 分散分析の練習をする。	
⑥	[テーマ] 比率の区間推定 [内容] 標本の比率データから母集団の平均値を推測する方法について学ぶ。 [授業外学修] 推定の練習問題をする。			⑭	[テーマ] 分散分析② [内容] 2要因配置の分散分析の方法について学ぶ。 [授業外学修] 分散分析の練習をする。	
⑦	[テーマ] 仮説検定 [内容] 仮説検定の手順について学ぶ。 [授業外学修] 仮説検定について復習をする。			⑮	[テーマ] 多変量解析 [内容] 種々の多変量解析の手法を紹介する。 [授業外学修] まとめ復習をする。	
⑧	[テーマ] 平均値の差の検定(t検定) [内容] 二つの集団間での平均値の差の検定の方法について学ぶ。 [授業外学修] 検定の練習問題をする。			⑯	[テーマ] 学期末レポート [内容] 全15回の内容を踏まえてレポートを作成する。 [授業外学修] 計算問題もあわせて復習する。	
成績評価方法(方針)						
レポートを8回課し、その評価(評価割合20%×4)と授業態度(評価割合20%)によって成績を決定する。レポートは評価後返却すると同時に、解答の求め方について解説する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					80%	
授業内レポート		◎		◎		
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度			◎		20%	
出席					欠格条件	
関連科目	社会統計学Ⅰ、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、社会調査演習、社会調査実習				関連資格	社会調査士
教科書	使用しない				参考書	授業時に指示する
オフィスアワー	荒井A309 前期 月 4時限、後期 月3時限				その他(連絡先等)	tt-arai@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会調査演習 Social Research (L.)			担当教員	田中智仁
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本演習では、社会調査の質的分析の方法に特化し、質的データの収集方法と分析方法を習得する。インタビュー、フィールドワーク、内容分析のいずれかを選択し、課題設定、調査計画の立案、調査対象の選定、調査実施、データ分析、調査報告という一連の手順を実践する。なお、本科目は社会調査士資格認定【F科目】に該当する。					i、v
授業の一般目標					
社会調査の質的分析の方法を理解し、実践を通じて体得する。具体的には、参与観察、インタビュー、内容分析などでおこなわれる質的データの収集とその分析を行うことができるようになる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	質的分析の方法を理解し、データの収集とその分析方法について説明できる。				
■ 情意的領域	質的分析に興味を示し、自発的に調査活動に参加することができる。				
■ 技能表現的領域	少なくとも1つの質的分析を用いて成果を発表することができる。				
授業計画(全体)					
本演習は、次のような手順で課題に取り組む。(1)テーマごとにグループに分かれ、(2)課題の設定と質的調査の分析方法を検討する。(3)各グループで生じた問題を教員は個別に解説する。(4)グループで質的分析を用いて調査を行い、その成果を発表する。(5)各グループでおこなわれた質的分析の方法のちがいを全体に解説する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法を説明する。 [授業外学修]社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱを復習する。			⑨	[テーマ] 実査(1) [内容] 設定した質的分析を用いて調査を実施し、特にラポールの重要性を検討する。 [授業外学修]実施で生じた問題を整理する。
②	[テーマ] 質的調査法の種類 [内容] 参与観察、インタビュー、内容分析などの質的調査の種類を確認し、各種の手法にどのような特徴があるかを説明する。 [授業外学修]質的分析を用いた先行研究を調べる。			⑩	[テーマ] 実査(2) [内容] 設定した質的分析を用いて調査を実施し、特にラポールに基づくスノーボール式で調査対象者を拡大する。 [授業外学修]実施で生じた問題の解決策を検討する。
③	[テーマ] 参与観察法(フィールドワーク) [内容] 参与観察法(フィールドワーク)の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学修]ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』を読む。			⑪	[テーマ] 質的データの処理 [内容] 質的データの分析の仕方(特に適切なコーディングの仕方)を適宜解説しながらデータの処理をおこなう。 [授業外学修]記述的コーディングについて復習する。
④	[テーマ] インタビュー調査 [内容] インタビュー調査の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学修]ベッカー『アウトサイダーズ』を読む。			⑫	[テーマ] 質的データの分析 [内容] 質的データの分析の仕方(特にグラウンデッド・セオリー・アプローチ)を適宜解説しながらデータの処理をおこなう。 [授業外学修]グラウンデッド・セオリー・アプローチについて復習する。
⑤	[テーマ] 内容分析および言説分析 [内容] 内容分析および言説分析の実施方法と主な先行研究について説明する。 [授業外学修]赤川学『セクシュアリティの歴史社会学』を読む。			⑬	[テーマ] グループ発表(1) [内容] 参与観察およびインタビューの調査結果を発表し、内容分析や二次データの質的分析との差異を検討する。 [授業外学修]発表結果を調査報告としてまとめる。
⑥	[テーマ] グループ化と調査課題の設定 [内容] 受講生同士でグループを結成し、グループごとに調査課題を設定する。 [授業外学修]メンバー同士で意見交換し、課題を明確化する。			⑭	[テーマ] グループ発表(2) [内容] 内容分析および言説分析の調査結果をグループで発表し、参与観察およびインタビューとの差異を検討する。 [授業外学修]発表結果を調査報告としてまとめる。
⑦	[テーマ] 調査方法の設定 [内容] 質的調査にはさまざまな分析方法があることを適宜確認し、調査課題に適した質的分析の方法を検討する。 [授業外学修]選択した質的分析の特徴を復習する。			⑮	[テーマ] グループ発表の総括 [内容] グループで用いられた質的分析の差異を解説し、特に同一対象に実施した参与観察とインタビューとの違いを検討する。 [授業外学修]調査報告をレポートとしてまとめる。
⑧	[テーマ] 調査計画の設定 [内容] 質的分析を実際におこなうための計画を立案し、一次データの収集の仕方を検討する。 [授業外学修]実査に向けた準備を進める。			⑯	[テーマ] 最終レポートの提出 [内容] 調査結果およびグループ発表の結果をレポートにまとめ、提出する。 [授業外学修]本演習全体を復習する。
成績評価方法(方針)					
レポート(50%)およびグループ(個人)発表(50%)の結果にもとづき、総合的に評価する。質的調査の講義・演習科目であるという性質上、調査実施、データ分析、調査報告を評価対象とする。そのため、調査が実施できない場合もしくは調査の成果を報告できない場合は単位を認定しない。また、量的調査(アンケートなど)は評価対象としない。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート		◎	◎	○	50%
演習・実技		○	○	◎	50%
授業態度					欠格条件
出席					欠格条件
関連科目	社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査実習			関連資格	社会調査士
教科書	特に指定しない			参考書	谷富夫ほか編『よくわかる質的社会調査法(プロセス編/技術編)』ミネルヴァ書房
オフィスアワー	水曜日10:30~12:00			その他(連絡先等)	田中研究室(第五体育館3階) tm-tanaka@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会調査実習-① Field Experience of Social Research (F.E.)			担当教員	内野秀哲・三谷高史
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
実際の社会調査現場で行われている調査を参観、体験すると共にデータ収集、結果の整理および分析などを実際に試みてもらう。また結果からの考察についても相互に討論する。これらにより社会調査の基本的な方法および調査研究の流れを把握してもらう。なお、本科目は社会調査士資格認定【G科目】に該当する。					iv、v
授業の一般目標					
社会調査の目的および実施上の諸問題について自分なりの見通しを持つことができる。また、得られたデータから自分なりの結論や考察を引き出すことができる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	社会調査の諸方法を列挙することができる。また、仮説にあわせて調査計画を立案することができる。				
■ 情意的領域	社会調査の楽しさを理解し、適切な社会調査を実施する意義を体得することができる。				
■ 技能表現的領域	調査結果を集計・トラスクリプトし、統計分析やドキュメント分析をすることができる。				
授業計画(全体)					
「スポーツ傷害の克服」を共通テーマとして、量的な意識調査、質的な当事者の経験等を社会調査の手法を用いて明らかにする。スポーツ傷害に関して教員および受講者が持つ具体的な問題意識に基づき、複数のグループに分かれて研究プロジェクトを組織する。プロジェクトごとに調査計画を立案し、相互に討論する。立案した計画に基づいて調査を実施するとともに、結果を分析・考察して報告書を作りまとめる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 本科目の趣旨とスケジュール、社会調査士資格認定【G科目】の要件を説明する。 [授業外学修]G科目の要件を細部まで確認する。			⑨	[テーマ] 調査票およびインタビューガイドの設計 [内容] ワーディング、ダブルバーレル、キャリアオーバー等に注意しながら調査票およびインタビューガイドを設計する。 [授業外学修]先行研究の調査票およびインタビューガイドを確認する。
②	[テーマ]社会調査の種類を決める [内容] 量的調査と質的調査の差異を確認した上で、調査実施に向けた基礎知識を解説する。 [授業外学修]社会調査法Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習する。			⑩	[テーマ] プリテストの実施 [内容] 調査票およびインタビューガイドの原案を使用してプリテストを実施する。 [授業外学修]プリテストで不都合があった点を修正する。
③	[テーマ] 量的調査の一次データ収集と二次分析 [内容] 量的調査を実施するために必要となる一次データの収集法と、二次データの分析方法を解説する。 [授業外学修]社会統計学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習する。			⑪	[テーマ] プリテストの結果報告 [内容] グループごとにプリテストの結果を報告し、教員等からの指摘を反映して調査票およびインタビューガイドを再設計する。 [授業外学修]調査票およびインタビューガイドの確定版を作成する。
④	[テーマ] 質的調査の技術とプロセス [内容] 質的調査を実施するために必要となる一次データの収集法と、二次データの分析方法を解説する。 [授業外学修]社会調査演習で学んだ内容を復習する。			⑫	[テーマ] 調査対象者へのアポイントメント [内容] 調査対象者に調査の趣旨等を説明し、実施に向けた準備を進める。 [授業外学修]調査対象者の連絡先や予定を確認する。
⑤	[テーマ] 共通テーマ発表と調査実施に向けたグループ編成 [内容] 「スポーツ傷害の克服」を共通テーマについて、各競技に臨む選手の意識、または過去の経験を調査するための準備をする。 [授業外学修]各競技の特徴を整理し、傷害の発生状況を調べる。			⑬	[テーマ] 調査実施(1) [内容] 調査票の封入・発送(郵送法)、調査票の配布(留置法)または参与観察地・インタビュー実施地を訪問する。 [授業外学修]旅費・通信費等を用意する。
⑥	[テーマ] 仮説の設計 [内容] グループごとに調査対象とする競技にどのようなスポーツ傷害があり、選手がいかにかに傷害と向き合っているか仮説を立てる。 [授業外学修]意識と経験の両面で仮説を検討する。			⑭	[テーマ] 調査実施(2) [内容] 調査票の回収または参与観察・インタビューを実施する。 [授業外学修]旅費・謝礼品等を用意する。
⑦	[テーマ] 調査法の選定 [内容] グループごとに調査対象とする競技を決め、量的・質的のどちらでアプローチするか調査法を選定する。 [授業外学修]各競技団体等の情報を収集する。			⑮	[テーマ] 調査実施(3) [内容] 調査票のナンバリング・データ入力、フィールドノートもしくはインタビューデータを文字化する。 [授業外学修]表計算ソフトの操作要領、トランスクリプト要領を確認する。
⑧	[テーマ] 調査対象者の選定 [内容] 具体的な調査対象者を選定し、調査実施に向けた計画を立案する。量的調査では多段階抽出等の手法を用いる。 [授業外学修]調査対象者の競技歴等の情報を収集する。			⑯	[テーマ] 調査実施の経過報告 [内容] グループごとに調査実施の経過報告を行い、計画上の問題点等の有無を確認する。 [授業外学修]グループごとに報告資料を作成する。
成績評価方法(方針)					
調査や討論への参加状況および発表資料が主な評価材料となるが、グループごとに社会調査協会へ提出する最終報告書を作成し、これを確認材料に含める。詳細は社会調査協会が定める【G科目】の要件に従う。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得を本科目受講の必須要件とする。 ・2/3以上出席しない学生は、出席数不足として、成績は「放棄」となる。グループごとに行なうことが多いので、できるだけ互いに連絡をとりあい、主体的に参加してほしい。 ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート		○	○	50%	
演習・実技	○	○	○	50%	
授業態度				欠格条件	
出席				欠格条件	
関連科目	社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習			関連資格	社会調査士
教科書	特に指定しない			参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992
オフィスアワー	火曜日14:20～15:50(4体1F 内野研究室)			その他(連絡先等)	tk-mitani@sendai-u.ac.jp(三谷)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		社会調査実習-② Field Experience of Social Research (F.E.)			担当教員	内野秀哲・三谷高史
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
実際の社会調査現場で行われている調査を参観、体験すると共にデータ収集、結果の整理および分析などを実際に試みてもらう。また結果からの考察についても相互に討論する。これらにより社会調査の基本的な方法および調査研究の流れを把握してもらう。なお、本科目は社会調査士資格認定【G科目】に該当する。						iv、v
授業の一般目標						
社会調査の目的および実施上の諸問題について自分なりの見通しを持つことができる。また、得られたデータから自分なりの結論や考察を引き出すことができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	社会調査の諸方法を列挙することができる。また、仮説にあわせて調査計画を立案することができる。				
■	情意的領域	社会調査の楽しさを理解し、適切な社会調査を実施する意義を体得することができる。				
■	技能表現的領域	調査結果を集計・トランスクリプトし、統計分析やドキュメント分析をすることができる。				
授業計画(全体)						
「スポーツ傷害の克服」を共通テーマとして、量的な意識調査、質的な当事者の経験等を社会調査の手法を用いて明らかにする。スポーツ傷害に関して教員および受講者が持つ具体的な問題意識に基づき、複数のグループに分かれて研究プロジェクトを組織する。プロジェクトごとに調査計画を立案し、相互に討論する。立案した計画に基づいて調査を実施するとともに、結果を分析・考察して報告書を取りまとめる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
⑰	[テーマ] 調査実施(4) [内容] 経過報告で指摘された事項を踏まえて、調査を継続する。調査対象者(標本数等)の追加や調査対象地の範囲拡大等に対応する。 [授業外学修]必要に応じて調査計画を再検討する。			⑳	[テーマ] 検定、エスノメソドロジー [内容] 量的データのt検定、カイ二乗検定等の手法を用いて検定する。質的データをエスノメソドロジーの手法で分析する。 [授業外学修]検定法またはエスノメソドロジーについて復習する。	
⑱	[テーマ] 調査実施(5) [内容] 調査票の封入・発送(郵送法)、調査票の配布地(留置法)または参与観察地・インタビュー実施地を繰り返し訪問する。 [授業外学修]旅費・通信費等を用意する。			㉑	[テーマ] 一次データ分析のまとめ [内容] 有意差等に留意しながら量的データの分析結果をまとめる。エスノメソドロジーで質的に調査対象者の自明性を明らかにする。 [授業外学修]手法ごとに先行研究を確認し、分析方法を復習する。	
㉒	[テーマ] 調査実施(6) [内容] 調査票の回収または参与観察・インタビューを継続的に実施する。質的調査ではラポールに基づき、スノーボール式で調査を進める。 [授業外学修]旅費・謝礼品等を用意する。			㉒	[テーマ] 概念モデル作成、グラウンデッド・セオリー・アプローチ [内容] 量的データの分析結果に基づいて概念モデルを作成する。グラウンデッド・セオリー・アプローチで質的データを再検証する。 [授業外学修]グラウンデッド・セオリー・アプローチについて復習する。	
㉓	[テーマ] 調査実施(7) [内容] 調査票のナンバリング・データ入力、フィールドノートもしくはインタビューデータを文字化する。 [授業外学修]表計算ソフトの操作要領、トランスクリプト要領を確認する。			㉓	[テーマ] 仮説検証 [内容] データ分析の結果、仮説が支持されたか否かを検証し、考察の前提となるエビデンスを明確化する。 [授業外学修]図表等を作成してエビデンスを整理する。	
㉔	[テーマ] 調査結果の集計、エディティング [内容] データ入力済みの一次データを集計し、エディティングする。 [授業外学修]データ入力作業を完了する。			㉔	[テーマ] 調査結果の考察 [内容] 仮説検証の結果を踏まえて、その結果に至った要因を考察する。 [授業外学修]グループディスカッション繰り返す。	
㉕	[テーマ] 記述統計、コーディング [内容] 量的データをSPSS等のソフトウェアで度数分布表・クロス集計表にまとめる。質的データをコーディングする。 [授業外学修]ソフトウェアの操作要領等について復習する。			㉕	[テーマ] 調査結果および分析結果の最終報告 [内容] グループごとに調査結果および分析結果の最終報告を行い、総括的に討論する。 [授業外学修]最終報告資料を作成する。	
㉖	[テーマ] 推測統計、コーディング(1) [内容] 量的データをSPSS等のソフトウェアを用いて分散・回帰等の手法で分析する。質的データのコーディングを進める。 [授業外学修]統計手法またはコーディングについて復習する。			㉖	[テーマ] 報告書の作成 [内容] 調査結果および分析結果を報告書にまとめる。 [授業外学修]報告書執筆作業を適宜進める。	
㉗	[テーマ] 推測統計、コーディング(2) [内容] 量的データをSPSS等のソフトウェアを用いて多変量解析等の手法で分析する。質的データのコーディングを完了する。 [授業外学修]統計手法またはコーディングに誤りがないか確認する。			㉗	[テーマ] 報告書の提出 [内容] 調査結果および分析結果を報告書にまとめ、担当教員および連絡責任者へ提出する。 [授業外学修]報告書を校正する。	
成績評価方法(方針)						
調査や討論への参加状況および発表資料が主な評価材料となるが、グループごとに社会調査協会へ提出する最終報告書を作成し、これを確認材料に含める。詳細は社会調査協会が定める【G科目】の要件に従う。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査法Ⅰ・Ⅱの単位修得を本科目受講の必須要件とする。 ・2/3以上出席しない学生は、出席数不足として、成績は「放棄」となる。 ・グループごとに行なうことが多いので、できるだけ互いに連絡をとりあい、主体的に参加してほしい。 ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート			○	○	50%	
演習・実技	○		○	○	50%	
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
関連科目	社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会統計学Ⅰ、社会統計学Ⅱ、社会調査演習				関連資格	社会調査士
教科書	特に指定しない				参考書	森岡清志『ガイドブック社会調査』日本評論社、1998 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992
オフィスアワー	火曜日14:20~15:50(4体1F 内野研究室)				その他(連絡先等)	tk-mitani@sendai-u.ac.jp(三谷)

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育の基礎理論A				担当教員	山谷 幸司
	Fundamental Theory of Education (L.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
教育とは人間にとってどのような営みであるのか。本講義では、(1)教育という言葉、(2)教育の必要性、(3)能力・特性の形成と教育、(4)教育のスタイルの歴史展開、(5)教育観(思想)の諸類型の5テーマのもとに、教育の意義や役割、そのスタイルの歴史的展開等について概説する。						i、v
授業の一般目標						
「教育とは何か」という問いをもとに、(1)教育の基本概念と教育を成り立たせる諸要因、(2)教育の歴史的展開(教育および学校の変遷)、(3)教育や学校に関する様々な考え方や思想を理解する。また、以上の理解を土台として、教育に関して客観的な根拠にもとづき、できるだけ本質的に考えることができる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	「教育とは何か」について、本授業で取り上げたテーマにそくして理解できる。また、教育に関して自分の意見を論理的に述べることができる。					
■ 情意的領域	「教育とは何か」という問題について関心をもち、主体的に探究することができる。					
■ 技能表現的領域	「教育とは何か」という問題について、他者に説明することができる。					
授業計画(全体)						
(1)教育という言葉、(2)教育の必要性、(3)能力・特性の形成と教育、(4)教育のスタイルの歴史展開、(5)教育観の諸類型の5テーマから、「教育とは何か」という問題について概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので各自が講義を聞き、板書を見ながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に「感想カード」を書いてもらう。授業内容に対する意見や疑問点、あるいは教師への要望を自由に書いてもらいたい。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教育とは何か [内容] 教育の基礎理論で学ぶ内容、担当教員の紹介、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを読んでおくこと				⑨	[テーマ] 改めて、教育とは何か [内容] 本講義前半8回の内容を踏まえ、改めて教育とは何かを、グループ討議を通じて考える ※講義の進行状況により実施しないことがある [授業外学修]教育とは何かについて、各自の考えをまとめる
②	[テーマ] 教育という言葉(1) [内容] 「教」と「育」の字源 [授業外学修]授業に即して「教育」という言葉を考える				⑩	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開(1) [内容] 人間形成の多様性と無意図的教育 [授業外学修]授業に即して教育のスタイルのあり方を考える
③	[テーマ] 教育という言葉(2) [内容] 「教育」という言葉の日用化の謎 [授業外学修]テーマI全体の復習				⑪	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開(2) [内容] 意図的教育と学校教育の特質 [授業外学修]授業に即して教育のスタイルのあり方を考える
④	[テーマ] 教育は人間に必要なのか(1) [内容] 動物としての人間の特殊性と教育①－哺乳類のなかの人間－ [授業外学修]授業に即して教育の必要性についての考える				⑫	[テーマ] 教育のスタイルとその歴史的展開(3) [内容] 近代学校制度の成立と学校 [授業外学修]テーマ4全体の復習
⑤	[テーマ] 教育は人間に必要なのか(2) [内容] 動物としての人間の特殊性と教育②－学ぶ動物としての人間－ [授業外学修]授業に即して教育の必要性についての考える				⑬	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型(1) [内容] 大工型モデルの教育観(思想) [授業外学修]授業に即して教育観の諸相を考える
⑥	[テーマ] 教育は人間に必要なのか(3) [内容] 社会的隔離児の記録が示すこと [授業外学修]テーマ2全体の復習				⑭	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型(2) [内容] 農民型モデルの教育観(思想) [授業外学修]授業に即して教育観の諸相を考える
⑦	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか(1) [内容] 能力・特性の形成と遺伝・環境 [授業外学修]授業に即して教育の役割を考える				⑮	[テーマ] 教育観(思想)の諸類型(3) [内容] 経験主義モデルの教育観(思想) [授業外学修]テーマ5全体の復習
⑧	[テーマ] 能力・特性の個人差は教育によって生ずるのか(3) [内容] 遺伝と環境の相互作用と教育の役割 [授業外学修]テーマ3全体の復習				⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学修]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する
成績評価方法(方針)						
期末試験の結果に、受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。試験の結果は、随時研究室で開示し、内容を説明する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・教師になるということは、学ぶ立場から、それをサポートする立場に変わることの意味する。しかし、学ぶことができない者が、学びをサポートすることなど到底できない。つまり、謙虚にかつ意欲的に学ぶことができるということが、教師になるための最低条件となる。このことを十分に自覚して、授業にのぞんでほしい。
定期試験		◎	○	○	95%	
授業内レポート					実施せず	
授業外レポート					実施せず	
演習・実技					実施せず	
授業態度			△	△	5%	
出席					欠格条件	
関連科目	教職論A(1年)、教職論B(1年)、教育の制度(2年)				関連資格	教員免許状(全免許)
教科書	授業時に配布するプリントを使用する。				参考書	授業時に紹介する。
オフィスアワー	火曜日午前10時20分～午前11時50分				その他	特になし

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育の心理 Educational Psychology			担当教員	荒井龍弥	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	小学校の教員経験、中学校長の実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
学習援助をより効果的にするためには、教育の場にあるさまざまなものごと(学ぶ者、援助する者、教える行為など)を要因群として捉える分析的な観点が重要である。これらのうち、学習過程ならびに心身の発達を中心とした諸概念について概説するとともに、学習結果を捉える枠組みとしての教育評価についてもとりあげる。					iv、v	
授業の一般目標						
学習・発達・人格・知能・評価等、教育心理学で取りあげられる諸概念に関し、一般に信じられている常識的言説を再認できるようになるとともに、それらの言説に対して一定の根拠をもって自分なりの見解を述べられるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。				
■	情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。				
■	技能表現的領域	学習者の視座を推測し、それに対する指導者としての向き合い方について間主観的な表現をすることができる。				
授業計画(全体)						
教育心理学の学問領域を学習過程ならびに心身の発達、さらには教育評価の3領域に大きく分け、各領域の知見に関する講義を行うとともに、それに対する考え方を築くための時間も設ける。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教育心理学とはどんな学問かを説明し、その意義や必要性を考える。 [授業外学修] 教育心理学の必要性について自分なりに考えてみる。			⑨	[テーマ] 発達② より配慮を必要とする児童生徒の特徴 [内容] 特別支援教育内外の障がいにかかわる事例や発達障がいの症例等を紹介し、教育の役割について改めて考える。 [授業外学修] 特に発達障がいの症例についてまとめておく。	
②	[テーマ] 学習と知識の獲得 [内容] 学習、知識の獲得をめぐる一般的信念と2種の心理学的アプローチについて検討し、教師として生徒に得させるべき知識内容を考える。 [授業外学修] 二種の心理学的アプローチについてより深く調べること。			⑩	[テーマ] 発達③ 障がいのある子どもの発達の促進 [内容] ヴィゴツキーの最近接領域理論の観点から、障がいを抱えた子どもの発達事例を紹介し、教育の役割について再検討する。 [授業外学修] 特定の児童生徒への対応について原案を作成してみる。	
③	[テーマ] 学習内容の表象 [内容] 学習した内容の適用範囲により2通りの考え方があることを紹介し、この枠組みから教師が獲得させたい学習内容について再検討する。 [授業外学修] 具体例で生産的学習と再生的学習を当てはめてみる。			⑪	[テーマ] 知能と知能検査 [内容] 知能という概念の必要性と検査内容、ならびに知能指数をめぐる諸説を紹介し、自らの知能観を吟味する。 [授業外学修] 知能という観点から児童生徒理解する方法を考える。	
④	[テーマ] 動機づけと欲求・要求 [内容] 動機づけの2分類を紹介するとともに、内発的動機を高める取り組みについて考える。 [授業外学修] 自分の行動を動機付けの観点から自省すること。			⑫	[テーマ] 評価① 教育評価と測定 [内容] 教育評価と測定の違いを通じ、評価の目的について考える。また、具体的事例により課題空間・測定空間について検討する。 [授業外学修] 任意の実技について評価計画を考えてみる。	
⑤	[テーマ] 原因帰属 [内容] 内発的動機を高める方策として原因帰属に着目し、それらの違いによる効果を考えてみる。 [授業外学修] 自己効力感を高めるとされる取り組みについて調べること。			⑬	[テーマ] 評価② 完全習得学習と実技における評価 [内容] ブルームの完全習得学習の枠組みや比較対象としての絶対評価・相対評価等を検討し、体育実技での評価を検討する。 [授業外学修] 自分の評価計画をブラッシュアップすること。	
⑥	[テーマ] 人格① ささまざまな人格検査 [内容] 人格検査のいろいろについて検討するとともに、それぞれのメリット・デメリットとその効用について考える。 [授業外学修] 興味のある人格検査について調べてみる。			⑭	[テーマ] 学習集団の質と特徴 [内容] 学習集団のモラル等の諸特徴について紹介し、教師として必要な「集団づくり」の重要性について考える。 [授業外学修] 「学級開き」で何をすべきか、まとめておく。	
⑦	[テーマ] 人格② 人格の諸理論 [内容] 類型論、特性論、状況主義といった人格をめぐる諸理論を紹介し、自らの人格観を再検討する。 [授業外学修] 状況主義の観点から生徒指導について考えてみる。			⑮	[テーマ] まとめ 教育現場における教育心理学の発展 [内容] 小・中学校による実務経験に照らし、教育現場での学習者像とその検討を紹介することにより、教育心理学的観点を再確認する。 [授業外学修] 紹介した検討事項について自分なりに考えてみる。	
⑧	[テーマ] 発達① ささまざまな発達段階説 [内容] 各種の発達段階説について紹介するとともに、特に生徒の道徳的発達段階について検討する。 [授業外学修] 各種発達段階説を整理しておく。			⑯	[テーマ] テスト [内容] これまでの学習内容について互いの評価を目的としたテストを行う。 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。なお、得点状況によってはテスト後にレポートを追加して課す場合がある。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 マークシート等も利用するので、シャープペンシルないし鉛筆を用意のこと。 他の講義同様、本講で扱う知見も、さまざまな対象・場面に適用可能なものである。自分なりの例を探して当てはめることでその妥当性を判断する作業をしてほしい。こういった作業が内容理解の定着につながり、ひいては教員採用試験などの対策にもつながる。
定期試験		◎			40%	
授業内レポート		◎	○	○	50%	
授業外レポート		○	◎	○	10%	
演習・実技					対象としない	
授業態度					加減点要素	
出席					欠格条件	
関連科目	教育方法論、教職総合演習、教職キャリア演習			関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭・社会教育主事任用資格	
教科書				参考書	本郷・八木編 シードブック教育心理学 建帛社 宇野編授業に学ぶ授業を作る教育心理学第二版中央法規	
オフィスアワー	荒井A309 前期 月 4時限、後期 月3時限			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育の制度A System of Education (L.)				担当教員	金井里弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
近年の教育問題と教育制度の歴史的変遷を踏まえながら、教育制度や行政のあり方について講義する。						v
授業の一般目標						
①学校教育制度の成り立ちと、現状を理解する。 ②実際の教育問題との関連において、教育制度の観点から望ましい教育のあり方を考える。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	日本における学校教育制度の成り立ちと現状を説明できる。				
■	情意的領域	現在の教育問題について、教育制度の観点から自分の意見を述べることができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
教育法規の基礎を紹介したうえで、教育の様々な側面から具体的な制度の在り様を見ていく。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を知る。 [授業外学修] シラバスを読んでおくこと。			⑨	[テーマ] 学校・学級内の制度 [内容] 出席停止、懲戒、学校の設備を中心に、学校・学級内の制度を理解する。 [授業外学修] 関連法規の主要な条文の内容を予習する。	
②	[テーマ] 日本の教育制度史 [内容] 現在の教育制度がいかんして成立してきたのか、近代以降を中心に理解する。 [授業外学修] 講義内容を予習・復習。			⑩	[テーマ] 教育職員制度 [内容] 教員の身分や服務、処分等の教員に関する制度を理解する。 [授業外学修] 関連法規を予習する。	
③	[テーマ] 教育法規の基礎知識 [内容] 教育制度の基盤となる法規の種類と体系を踏まえた上で、憲法上の教育に関する権利について理解する。 [授業外学修] 教育法規について予習・復習する。			⑪	[テーマ] 教員養成と教員免許制度 [内容] 日本における教員養成制度の展開を知るとともに、教員免許のしくみを理解する。 [授業外学修] 関連法規を予習する。	
④	[テーマ] 教育基本法 [内容] 教育基本法の史的展開を踏まえた上で、その内容と現在の学校教育との関連性を理解する。 [授業外学修] 教育基本法について予習・復習する。			⑫	[テーマ] 社会背景と新たな教育課題 [内容] Society5における新たな教育課題とそれに応じた教育の在り方について理解する。 [授業外学修] Society5の特徴について予習する。	
⑤	[テーマ] 学校の種類と義務教育 [内容] 学校の種類とそれらの種類に応じた制度的特徴、義務教育のあり方について理解する。 [授業外学修] 学校教育法における義務教育制度を予習・復習する。			⑬	[テーマ] 教育課程と教科書制度 [内容] 教育課程の編成、近年の改革動向、教科書の使用、検定、採択について理解する。 [授業外学修] 関連法規を予習する。	
⑥	[テーマ] 中央教育行政の理解 [内容] 中央教育行政の仕組みと、その働きを理解する。 [授業外学修] 文部科学省および内閣府の教育政策について調べる。			⑭	[テーマ] 学校の安全管理と安全教育 [内容] 学校教育における安全管理と安全教育の指針と内容について理解する。 [授業外学修] 近年の安全教育の動向について調べる。	
⑦	[テーマ] 地方教育行政の理解 [内容] 地方教育行政の仕組みと、その働きを理解する。 [授業外学修] 地方教育行政の仕組みについて予習・復習する。			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本講義の要点を確認し、全体の総括を行う。 [授業外学修] 本講義の要点の確認とその復習を行う。	
⑧	[テーマ] 学校の設置と管理運営 [内容] 学校の設置主体、学校法人、学校の設置義務および基準、管理に関する法令を理解する。 [授業外学修] 関連法規を予習する。			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 本講義での理解度、学習到達度を確認する。 [授業外学修] 本講義の要点の確認とその復習を行う。	
成績評価方法(方針)						
期末試験を100%とするが、宿題や授業参加の程度によって総合点に点数を加減する。 なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 試験およびレポートの採点結果は、期末試験後に開示する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。 ・毎回の予習(宿題)を必須とする。 ・指定している教科書は毎回必ず持参すること。 ・学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。 ・※学習環境を損なう行為については厳格に対処する。 ・履修希望者は第1回のオリエンテーションには必ず出席するものとし、欠席する場合には事前にオリエンテーション資料をもらいに来ること。
定期試験		◎			100%	
授業内レポート		◎	○		加減点あり	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度					加減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	教職論A・B、教育課程論、生徒指導論			関連資格	教員免許状(全免許種)	
教科書	『必携教職六法』(2020 or 2021年度版)			参考書	授業時に紹介する。	
オフィスアワー	木曜日12:40~14:10 (研究室:A棟304)			その他	問合せ:kyoikunoseido@gmail.com	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育課程論 Theory of Curriculum (L.)			担当教員	山谷 幸司	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
学校での教育活動の全体計画である教育課程について、その意義、法令上のきまり、編成の実際等について概説する。とくに学校での教育課程編成の基準となる「学習指導要領」に関しては、その意義や変遷とともに、平成29年と30年に改訂された新「学習指導要領」の方針や内容を詳述する。					i、v	
授業の一般目標						
(1)教育課程の意義、(2)教育課程に関するきまり、(3)教育課程編成の実際、(4)教育課程の実施と評価について、概要を理解する。そして、このことを通して、学校教師として、教育課程を実際に編成するための基礎的な力量を養う。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について理解できる。					
■ 情意的領域	学校での教育課程のあり方について関心を持ち、自分の意見を論理的に述べるができる。					
■ 技能表現的領域	教育課程に関して、その意義、きまり、編成の実際、実施と評価について他者に説明できる。					
授業計画(全体)						
教育課程について、(1)教育課程の意義、(2)教育課程に関するきまり、(3)教育課程編成の実際、(4)教育課程の実施と評価の4テーマから概説する。講義は、授業時に配布するプリントにもとづいて進めるが、プリントには空欄を多く設けているので講義を聞き、テキストを参照しながら完成させるよう努めてほしい。なお、授業終了時に各回のテーマに関する小テストを行う。どの程度まで講義内容が理解できたかを確認してもらいたい(小テストは評価に反映させない)。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 学校教育の不思議 [内容] 担当教員の紹介、教育課程論で学ぶ内容、授業の進め方、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを読んでおくこと			⑨	[テーマ] 学習指導要領②-教育課程に関するきまり⑦ [内容] 現行学習指導要領の内容と特質 [授業外学修]授業に即して現行の学習指導要領について振り返る	
②	[テーマ]教育課程とは何か [内容] 学校教育の性質と教育課程の意義 [授業外学修]授業に即して教育課程の意義について振り返る			⑩	[テーマ] 学習指導要領③-教育課程に関するきまり⑧ [内容] 新学習指導要領の内容と特質 [授業外学修]授業に即して新学習指導要領について振り返る	
③	[テーマ] 教育の目的・目標①-教育課程に関するきまり① [内容] 教育の目的・目標に関するきまりの体系と教育全体の目的・目標 [授業外学修]授業に即して教育の目的・目標に関するきまりを振り返る			⑪	[テーマ] 学習指導要領④-教育課程に関するきまり⑨ [内容] 総合的な学習の時間の意義と内容 [授業外学修]授業に即して総合的な学習の時間について振り返る	
④	[テーマ] 教育の目的・目標②-教育課程に関するきまり② [内容] 義務教育(小学校・中学校)の目的と教育目標 [授業外学修]授業に即して教育の目的・目標に関するきまりを振り返る			⑫	[テーマ] 教育課程編成の実際① [内容] 教育課程編成の主体、基本方針、留意事項 [授業外学修]授業に即して教育課程の編成について振り返る	
⑤	[テーマ] 教育の目的・目標③-教育課程に関するきまり③ [内容] 高校の目的と教育目標 [授業外学修]授業に即して教育の目的・目標に関するきまりを振り返る			⑬	[テーマ] 教育課程編成の実際② [内容] 教育課程編成の手順 [授業外学修]授業に即して教育課程の編成について振り返る	
⑥	[テーマ] 教育内容と授業時数等①-教育課程に関するきまり④ [内容] 教育内容・授業時数等に関するきまりの体系と義務教育(小学校・中学校)における教育内容・授業時数等 [授業外学修]授業に即して教育の内容等に関するきまりを振り返る			⑭	[テーマ] 教育課程の実施と評価① [内容] 指導計画と学習指導案 [授業外学修]授業に即して教育課程の実施等について振り返る	
⑦	[テーマ] 教育内容と授業時数等②-教育課程に関するきまり⑤ [内容] 高校における教育内容・授業時数 [授業外学修]授業に即して教育の内容等に関するきまりを振り返る			⑮	[テーマ] 教育課程の実施と評価② [内容] 教育課程の点検と評価(カリキュラムマネジメント) [授業外学修]授業に即して教育課程の実施等について振り返る	
⑧	[テーマ] 学習指導要領①-教育課程に関するきまり⑥ [内容] 学習指導要領の意義と変遷 [授業外学修]授業に即して学習指導要領について振り返る			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業全体を振り返り、理解を深める [授業外学修]試験内容を振り返り、理解が不十分な箇所を復習する	
成績評価方法(方針)						
期末試験の結果に、受講態度を加味して評価する。なお、教師の発問に積極的に答えるなど意欲的に受講した場合は、期末試験に加点する。試験の結果は、随時研究室で開示し、内容を解説する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎	○	○	95%	
授業内レポート					反映させない	
授業外レポート					実施せず	
演習・実技					実施せず	
授業態度			△	△	5%	
出席					欠格条件	
関連科目	教育の制度(1年)、道徳教育論(2年)、特別活動論(2年)、保健体育教育論Ⅰ(2年)				関連資格	教員免許状(全免許)
教科書	学校教育小六法、中学校・高等学校学習指導要領				参考書	授業時に紹介する。
オフィスアワー	火曜日午前10時20分～午前11時50分				その他	特になし

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科教育論 I Pedagogy of Physical Education I (L.)			担当教員	井上雅勝
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
実務経験の有無					高校での教員経験を有する
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
高等学校「体育」の学習指導を中心に保健体育科教育の基本的な考え方を、高校での指導経験を生かし基礎的な内容とその実際を具体的に説明する。					iii
高等学校「体育」の学習指導を中心に保健体育科教育の基礎的な内容とその実際を具体的に理解し、授業づくりを知る。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	高等学校の「体育」の学習指導についての基礎的な内容とその実際を説明できる。				
■ 情意的領域	高等学校の「体育」の学習指導についての基礎的な内容とその課題の検討に参加できる。				
■ 技能表現的領域	高等学校の「体育」の学習指導についての基礎的な内容を、「指導案」などに表すことができる。				
授業計画(全体)					
講義形式で授業を進める。必要事項などを書き込めるプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワーポイントなどに沿って授業を展開する。期間中に数回のレポートを作成し、その成果をもフィードバックしながら授業を進める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業のねらいと進め方、成績評価等について説明する [授業外学修] 新学習指導要領における教科の目標を調べておくこと			⑨	[テーマ] 体育の学習指導(授業評価・学習形態) [内容] 体育の学習指導(授業評価・学習形態)について概説する [授業外学修] 授業評価のねらい・形態の種類について調べておくこと
②	[テーマ] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件 [内容] 体育の基本的性格と体育科教育に関わる制度的条件について概説する [授業外学修] 配付資料に関する教育法規などを調べておくこと			⑩	[テーマ] 体育科の指導計画(学習指導計画) [内容] 体育科の指導計画について概説する [授業外学修] 学習指導計画作成の意義について調べておくこと
③	[テーマ] 体育科教育の目的(新学習指導要領改訂の趣旨) [内容] 体育科教育の目的を新学習指導要領改訂の趣旨から概説する [授業外学修] 新学習指導要領の改訂の趣旨などを調べておくこと			⑪	[テーマ] 体育科の指導計画(年間計画)を作成する [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 年間計画) [授業外学修] レポート作成に必要な資料などを準備しておくこと
④	[テーマ] 体育科教育の目標及び内容(高等学校の学習指導要領) [内容] 体育科教育の目標及び内容を高等学校の学習指導要領を中心に概説する [授業外学修] 新学習指導要領における体育科の目標などを調べておくこと			⑫	[テーマ] 体育科の指導計画(単元・時案計画)を作成する [内容] 体育科の指導計画を作成する(レポート作成 単元・時案計画) [授業外学修] レポート作成に必要な資料などを準備しておくこと
⑤	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:体づくり運動) [内容] 体育科教育の内容として、「体づくり運動」を具体的に概説する [授業外学修] 新学習指導要領の体づくり運動を調べておくこと			⑬	[テーマ] 体育科の学習指導(よい体育授業の条件) [内容] よい体育授業の条件について概説する [授業外学修] よい体育授業の考え方や具体的な条件を調べておくこと
⑥	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:球技) [内容] 体育科教育の内容として、「球技」を具体的に概説する [授業外学修] 新学習指導要領の球技を調べておくこと			⑭	[テーマ] 教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連(運動部) [内容] 教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連(運動部)について 概説する [授業外学修] 運動部活動の現状について調べておくこと
⑦	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:武道) [内容] 体育科教育の内容として、「武道」を具体的に概説する [授業外学修] 新学習指導要領の武道を調べておくこと			⑮	[テーマ] 体育の事故防止 [内容] 体育及び学校管理下における事故について概説する [授業外学修] 事故の実態について調べておくこと
⑧	[テーマ] 体育科教育の内容(学習指導要領解説から:水泳) [内容] 体育科教育の内容として、「水泳」を具体的に概説する [授業外学修] 新学習指導要領の水泳を調べておくこと			⑯	[テーマ] レポート作成及び提出 [内容] 体育科の授業づくり等に関する具体的な内容のレポートを作成し提出する。 [授業外学修] これまで配布した資料などをまとめておくこと
成績評価方法(方針)					
提出されたレポートなどを中心に評価する。なお、その結果については提出ごとにフィードバックするとともに授業内で解説し返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎	○	◎	80%
授業外レポート		○	◎	○	20%
演習・実技					評価対象外
授業態度			○		評価対象外
出席					欠格条件
関連科目	保健体育科教育論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			関連資格	中・高保健教員免許
教科書	高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編			参考書	講義中、必要に応じて提示する
オフィスアワー	火曜日3時限			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科教育論Ⅱ Pedagogy of Health Education Ⅱ (L.)			担当教員	入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					高校での教員経験を有する
中学校・高等学校における「保健」の学習指導についての基本的な考え方とその実際について学ぶ。					DPとの関連性(表紙裏参照) i、ii、iii
授業の一般目標					
「保健」学習指導の基礎・基本について知り、児童生徒の実態を通じて保健の授業を構成・展開できるようになる。特に、保健の授業を模擬的に実施することで、実践能力の基礎を身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	学習指導要領に示された目標や内容について説明できる。児童生徒の健康課題を考えることができる。				
■ 情意的領域	保健科教育の内容について興味・関心を示し、意欲的な態度で受講することができる。				
■ 技能表現的領域	具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。				
授業計画(全体)					
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるための視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認したり、アクティブラーニングの観点から協同作業としてのグループワークによる指導案の作成や模擬授業も行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 保健科教育の位置づけ(オリエンテーション含む) [内容] 学校保健活動と保健科教育の関わりについて学習する。教員紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価について通知する。 [授業外学修]シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] 保健科の学習指導1 [内容] 授業の学習形態と模擬授業の実施方法について理解する。 [授業外学修] 学習形態の種類について調べておく
②	[テーマ] 保健科教育の位置づけ2 [内容] カリキュラムに関する基本的事項を押さえ、実施・運用に必要な力を養う。 [授業外学修]カリキュラムについて指定教科書で調べておく			⑩	[テーマ] 保健科の学習指導2 [内容] ICT活用を含めた教材・教具について理解すると共に単元に見合った教材・教具を発案しあう。 [授業外学修] ICT教育の事例を調べておく
③	[テーマ] 保健科教育の背景となる学問領域の理解と教材研究への活用 [内容] 戦後の授業観・学習観の変遷を学び、自身の『観』を形成するための信念や考え方を考察する。 [授業外学修]学習指導要領の変遷について調べておく			⑪	[テーマ] 保健科の学習指導3 [内容] 良い保健授業の条件について理解する。 [授業外学修] 授業の構成要素について調べておく
④	[テーマ] 保健科教育の発展的な学習内容と学習指導への活用 [内容] 諸外国の保健教育の現状を知り、我が国と比較しつつ、現状や課題を見出す力を養う。 [授業外学修]諸外国での保健科教育について指定教科書で調べておく			⑫	[テーマ] 保健科の指導計画1 [内容] 児童・生徒に深い学びをもたらすための学習指導案とはどのようなものかを考察する。 [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する
⑤	[テーマ] 保健科教育の目的 [内容] 現行学習指導要領の改定とその趣旨について学習する。 [授業外学修]学習指導要領について事前に調べておく			⑬	[テーマ] 保健科の指導計画2 [内容] 児童・生徒に深い学びをもたらすための学習指導案を作成する。 [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する
⑥	[テーマ] 保健科教育の目標 [内容] 学習指導要領を中心に戦後の保健科教育における目的・目標の変遷について学習する [授業外学修]過去の学習指導要領を熟読しておく			⑭	[テーマ] 保健科の指導計画3 [内容] 児童・生徒に深い学びをもたらすために作成した学習指導案を発表し合い、議論する。 [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調査する
⑦	[テーマ] 保健科教育の内容1 [内容] 多様な保健科教育の全体像と系統性について学習する。 [授業外学修]系統性とは何か調べておく			⑮	[テーマ] 保健科の学習・授業評価方法 [内容] 児童・生徒に対する授業に対する理解力や思考力の評価方法について学習する。実務経験を基にした評価の事例も取り上げ紹介する。 [授業外学修] 授業評価に関する資料を読む
⑧	[テーマ] 保健科教育の内容2 [内容] 単元計画の把握と構造図について理解し、作成する。 [授業外学修]単元計画について調べておく			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを実施する。 [授業外学修] 過去の授業の資料やノートを見直す
成績評価方法(方針)					
期末試験を1回実施する(評価割合60%)。場合によっては模擬授業に替える場合もある。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す予定。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。レポート等については授業内で解説しながら返却する。出席は評価割合に加え、欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎	◎	60%
授業内レポート		◎	◎		40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は原則携帯電話をかばんの中にしなすこと。 授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。					
関連科目	保健体育科教育論Ⅳ(3年),保健体育授業研究Ⅰ(3年),保健体育科授業研究Ⅱ(3年)			関連資格	教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養)
教科書	保健科教育法入門(大修館書店)			参考書	中・高保体教科書,中・高校学習指導要領解説・保健体育編
オフィスアワー	木曜日 14:20~15:50			その他	研究室:A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科教育論 III Pedagogy of Education III (L.)				担当教員	郡山孝幸・入澤裕樹・山梨 雅枝	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無	小・中・高校での勤務経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数	2			
授業の概要							DPとの関連性(表紙裏参照)
「保健体育科教育論 I」での学びを踏まえ、中学校・高等学校における「体育」の実技指導場面の指導方法を紹介するとともに、および指導内容の在り方について検討させる機会とする。また、中学校(小・高校を含む)での実務経験を活かし、教具の工夫や安全面の配慮の観点から講義・演習を行う。							iii、iv
授業の一般目標							
中学校・高等学校における「体育」の学習指導について、教育の質を向上させるための授業の在り方を知り、授業実践を行うことで指導方法を探求していく。							
授業の到達目標							
■	認知的領域	学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる。					
■	情意的領域	より良い体育学習の進め方を見出すことができる。					
■	技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる。					
授業計画(全体)							
・2～9回目は、受講者を2つの教室に振り分け授業を行う。内容は、郡山が運動領域「陸上競技、水泳、球技、武道」、山梨が運動領域「体づくり運動、器械運動、ダンス」を担当する。 ・模擬授業は、小グループを編成し、グループ内で体育の学習指導についての具体的な進め方を検討したり、実際に授業を組み立てて実践する。							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学修] シラバスに目を通す。「保健体育科教育論 I」を思い出す				⑨	[テーマ] 「G. ダンス」について [内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学修] 運動領域に関して学習指導要領を確認する	
②	[テーマ] 学習指導要領改訂について [内容] 保健体育科教育論 I で学んできた内容を想起し、体育の授業づくりについて考えを深める。 [授業外学修] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑩	[テーマ] 模擬授業に関するガイダンス [内容] 模擬授業 グループ編成&指導領域の割り振り 各班で指導内容の検討・指導案作成 [授業外学修] グループ毎に指導案の作成	
③	[テーマ] 「A. 体づくり運動」について [内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学修] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑪	[テーマ] 模擬授業の実践 ① [内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学修] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する	
④	[テーマ] 「B. 器械運動」について [内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学修] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑫	[テーマ] 模擬授業の実践 ② [内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学修] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する	
⑤	[テーマ] 「C. 陸上競技」について [内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学修] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑬	[テーマ] 模擬授業の実践 ③ [内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学修] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する	
⑥	[テーマ] 「D. 水泳」について [内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学修] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑭	[テーマ] 模擬授業の実践 ④ [内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学修] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する	
⑦	[テーマ] 「E. 球技」について [内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学修] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑮	[テーマ] 模擬授業の実践 ⑤ [内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学修] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する	
⑧	[テーマ] 「F. 武道」について [内容] 各領域の特性について学び、実践場面を想定して具体的な指導方法を学び、考える [授業外学修] 運動領域に関して学習指導要領を確認する				⑯	[テーマ] 模擬授業の実践 ⑥ [内容] 学生は指導者役、生徒役として全員授業に参加する [授業外学修] 指導の「ねらい」と内容とが合致していることを確認する	
成績評価方法(方針)							
・2～5回目、6～9回目は、授業担当者による授業後のレポート内容について評価する。10～16回目においては模擬授業における指導案作成、指導内容・指導過程・声かけの仕方について等、生徒役のグループによる授業評価と照らし合わせて総合的に評価する。その結果については提出ごと、実践授業ごとにフィードバックするとともに講義演習内で適宜解説する。							
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・「体育」の授業を「指導者」の立場で考えながら本講義を受講する。 ・講義を一方向的に受けるのではなく、積極的に参加する。 ・授業をきっかけに、毎度共に過ごす学生以外の学生と交流を持ち、互いの情報交換を積極的に行う。 ・数多く指導場面に足を運ぶ様、努める(指導のボランティアなど)。 ・各自の専門性を活かし、互いに情報交換を行うことで互いに学びあう姿勢を持って授業に参加することを望む。	
定期試験					評価対象外		
授業内レポート		◎			50%		
授業外レポート					評価対象外		
演習・実技			○	◎	50%		
授業態度			○		評価対象外		
出席			○		欠格条件		
関連科目	保健体育科教育論 I ・保健体育科教育論IV 各領域の実技授業				関連資格	教員免許状(中・高保健体育)	
教科書	中学校学習指導要領解説保健体育編				参考書		
オフィスアワー	火曜日:13:00～15:30				その他	郡山研究室(LC棟204)、山梨研究室(第4体育館1F)、入澤研究室(A棟3階)	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		保健体育科教育論IV Pedagogy of Health and Physical Education IV (L.)			担当教員	入澤裕樹・小浜明・郡山孝幸・井上雅勝
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	中学校・高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
保健体育科教育論Ⅰ～Ⅲの学習を踏まえ、生徒の学力や経験等を想定しながら中学・高校における「保健」と「体育」の学習指導に関する模擬授業を実施し、その展開の仕方を学ぶ。						iii、iv
授業の一般目標						
保健体育の単元計画、学習指導案づくり、模擬授業を通して、授業の実践的能力の基礎・基本を身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	体育・スポーツ、健康や栄養、武道等に関する専門的・応用的知識を基礎に、保健体育科の教育内容について深く理解している				
■	情意的領域	体育・スポーツ、健康や栄養、武道等に関する専門的・応用的知識を基礎に、生徒の実態に合わせて授業を構想できる				
■	技能表現的領域	体育・スポーツ、健康や栄養、武道等に関する専門的・応用的知識を基礎に、教科指導の導入・展開を的確に表現することができる				
授業計画(全体)						
保健および体育の授業づくりの概要について知り、小グループ(あるいは個人)で、模擬授業を実施する。授業は中学・高校の実務経験を活かし、科学的概念と学習者の知識の葛藤を生じさせようとする観点からの講義と演習を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] 体育の授業をつくる① [内容] 球技(ゴール型①)の模擬授業を行う [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
②	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)① [内容] 心身の発達と心の成長の分野で模擬授業を実施する [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑩	[テーマ] 体育の授業をつくる② [内容] 球技(ゴール型②)の模擬授業を行う [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
③	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)② [内容] 環境と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑪	[テーマ] 体育の授業をつくる③ [内容] 球技(ゴール型③)の模擬授業を行う [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
④	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)③ [内容] 傷害の防止の分野で模擬授業を実施する [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑫	[テーマ] 体育の授業をつくる④ [内容] 球技(ネット型①)の模擬授業を行う [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
⑤	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校)④ [内容] 健康な生活と病気の予防の分野で模擬授業を実施する [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑬	[テーマ] 体育の授業をつくる⑤ [内容] 球技(ネット型②)の模擬授業を行う [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
⑥	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)① [内容] 現代生活と健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑭	[テーマ] 体育の授業をつくる⑥ [内容] 球技(ネット型③)の模擬授業を行う [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
⑦	[テーマ] 保健の授業をつくる(高等学校)② [内容] 生涯を通じる健康の分野で模擬授業を実施する [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑮	[テーマ] 体育の授業をつくる⑦ [内容] 球技(ベースボール型)の模擬授業を行う [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる	
⑧	[テーマ] 保健の授業をつくる(中学校・高等学校) [内容] 全体をまとめる [授業外学修]図書館等で疑問点、発展的内容を調べる			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修]場合によっては指導案の提出やレポートに替える場合もある。	
成績評価方法(方針)						
模擬授業、学生相互評価、振り返りシートによるリフレクションとこれらを基にした感想文の提出によって評価する(評価割合100%)。模擬授業後のリフレクションでは、学生とディスカッションを行いながら授業づくりの奥深さへの相互理解を深める。感想文の返却希望者には解説しながら返却する。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。詳細はオリエンテーション時に説明するので、欠席しないこと。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・4/5以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと。 ・大学設置基準において、90分の授業に対して、予習・復習を各90分行うことが義務付けられている。シラバスを参考にしっかりと予習・復習を行うこと。 ・授業計画は、授業の進展により、多少前後したり、内容変更がある。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技		◎	◎	◎	100%	
授業態度					評価対象外	
出席					欠格条件	
関連科目	保健体育科教育論Ⅰ(2年)、保健体育科教育論Ⅱ(3年)、保健体育科教育論Ⅲ(3年)			関連資格	特に指定しない	
教科書	特に指定しない			参考書	中学、高校版・「授業書」方式による保健の授業(大修館書店)・中学校及び高等学校学習指導要領解説(保健体育編)	
オフィスアワー	A棟3階306 前後期:火曜日 14:20～15:50			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育方法論A Educational Methodology A (L.)			担当教員	荒井 龍弥
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					小学校の教員経験、中学校長の実務経験を有する
教育場面を改善するためには、教える側および学習者双方のさまざまな要素を考慮に入れなくてはならない。本講では、よりよい教育場면을創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。					DPとの関連性(表紙裏参照) iv、v
授業の一般目標					
学習を支援するという立場から、特定の目標を実現するための計画を案出できる。また計画を実施した際の学習者の反応や支援側の応答など、教育場面の展開を明示的に予想できる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	授業をはじめとする教育場面のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようすることができる。				
■ 情意的領域	学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。				
■ 技能表現的領域	発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒・学習者の反応の違いを予想することができる。				
授業計画(全体)					
教育場面の計画・実施、とりわけ授業を実践する側として検討すべきことに焦点を絞り、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられていくのかについても説明を加える。これらをもとに指導者の立場から指導スタイルの確立やその改善向上を目指すべく援助していく。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション～教育場面・授業の道具立て [内容] 学習効果を左右する諸要因について解説し、その必要性と学習結果におよぼす影響を知る。 [授業外学修] 理想的な道具立てについて考えてみること			⑨	[テーマ] 指導言② 指示 [内容] 指示の内容とタイミングの重要性について検討するとともに、実際に自らも指示を試行してみる。 [授業外学修] 様々な場面で指示内容を改善してみること
②	[テーマ] 目標・目標行動と型わけ [内容] 各種教育課程で理解や技能のパターンがあることを紹介し、そのパターンに基づいて教育評価がなされていることを示す。 [授業外学修] 身近な教材で、自分自身の理解を検討すること。			⑩	[テーマ] 指導言③ 発問 [内容] 発問の重要性について検討し、その違いにより生じる授業の流れの違いを考える。 [授業外学修] 発問をさらに変化させ、その経過を考えてみること。
③	[テーマ] 学習指導案と評価規準 [内容] 学習指導案を検討するとともに、目標行動としての評価規準の考え方にふれる。 [授業外学修] 自らも学習指導案を試作してみること			⑪	[テーマ] 指導言④ 発問作成練習 [内容] 特定の単元をとりあげ、自分だったらどんな発問を行うか考えてみる。また、どんな発問がよいかを受講者間で検討する。 [授業外学修] 自分が作成した発問案をさらに修正してみること。
④	[テーマ] 学習指導の基礎理論～ルレグシステム [内容] 説明や発問検討のための枠組みとして、ルレグシステムについて説明をする。さらに教科書等の記述を分析してみる。 [授業外学修] 他の単元、テキスト等でも分析してみること。			⑫	[テーマ] 板書の方法及びノンバーバル・コミュニケーション [内容] 板書の際の留意点について検討すると共に、立ち位置、巡回方法、視点等の影響について考える。 [授業外学修] 他の授業などでも教師の振る舞いを観察すること
⑤	[テーマ] 学習者の理解と教授ストラテジー [内容] 小・中学校の実務経験を踏まえ、学習者の理解の様相とそれに応じた教授方略(教授ストラテジー)について紹介する。 [授業外学修] 気に入ったストラテジーを用いた発問系列を考えてみること。			⑬	[テーマ] 情報機器の活用① 教育場面で用いられるメディアの発展 [内容] 教育場面で用いられる各種メディアを紹介し、その得失と使用上の留意点を中心に述べる。 [授業外学修] 自分なりにメディアの利用上の得失について検討すること。
⑥	[テーマ] 発問とアクティブ・ラーニング [内容] 学習者の反応を無視した一方的知識技能伝達による教授法の否定として提唱されているアクティブラーニングの諸事例を紹介する。 [授業外学修] 身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考えること			⑭	[テーマ] 情報機器の活用② 自作動画の制作と効果 [内容] 教育における映像教材作成上の留意点を中心に情報機器の活用について述べる。 [授業外学修] 任意の内容で自作映像の内容や構成について考えてみること
⑦	[テーマ] 教育評価のサイクル [内容] 一連の授業の計画、実施、振り返りにおける教育評価のポイントとその繰り返しによる授業改善の必要性について考える。 [授業外学修] 各時点における評価内容について整理しておくこと。			⑮	[テーマ] 情報機器の活用③ 双方向型情報機器の活用 [内容] 教育場面で有用性が期待されるICT関連のメディアを中心にその有効性と留意点、情報モラルの問題を紹介する。 [授業外学修] 教育者の情報モラルについて改めて整理しておくこと
⑧	[テーマ] 指導言① 説明 [内容] 説明の種類とその学習効果、抽象度操作のためのキーワードなどについて紹介する。また特定の単元で説明を試みる。 [授業外学修] 身近な例で抽象度操作を試みること。			⑯	[テーマ] まとめ [内容] 授業実践を深め、検討する方法についてまとめ、教職を基盤とした自らの人生について改めて考える。 [授業外学修] 自らの指導者としてのライフコースについて改めて考えること
成績評価方法(方針)					
相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを毎回課す。これらの結果と、レポート試験、出席状況、テストの結果を材料として成績評定を行う。提出されたレポートについては、事後授業内でコメントを付しフィードバックする。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		○	40%
授業内レポート		◎	○	△	50%
授業外レポート				○	10%
演習・実技					対象としない
授業態度					加減点要素
出席					欠格条件
関連科目	教育方法論、教職総合演習、教職キャリア演習				関連資格
教科書					参考書
オフィスアワー	荒井A309 前期 月 4時限、後期 月3時限				その他
					中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭 社会教育主事(生涯学習支援論の一部に充当)
					宇野編 授業に学び授業を作る教育心理学第二版 中央法規

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		教育相談 School Educational Counseling (L)			担当教員	青沼 一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	小・中学校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
教育相談は生徒指導・学習指導と同様に重要である。教育相談学は、その理論と内容・方法・技術・校内指導体制・校外機関との連携・生徒理解・関係心理学等を体系的に講義する。また、教育現場の実務経験を活かし、いじめや不登校、虐待、発達障害等の直面する問題の現状と課題を把握し、どのような支援・対応が望ましいのかについて講義形式で解説する。さらに、外部講師を招いて、専門的知見を活かし講義を行う。						iv、v
授業の一般目標						
学校における教育相談活動の歴史、意義と原理、目的、方法、内容、技法、関連する心理学的基礎、指導体制、生徒指導等を理解する。さらに、不登校・いじめ・虐待・発達障害等の様々な教育相談上の現状と課題を把握・理解し、教育現場での活用に繋げられるよう考察する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	教育相談の歴史、意義、原理、目的、内容、方法、技法、関係心理学、指導体制、生徒指導等について理解する。また、教育相談上の現状と課題を把握・理解し、望ましい教育相談や対応を説明する。				
■	情意的領域	生徒のよりよい人格の発達や有意義で興味深く、充実した学校生活を送れるような相談支援を理解し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、教育相談を実践する力を養うことができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
各授業のテーマに沿った講義が中心となり、実践的力が高められるように校外学習への率先した取り組みや自主的な教育ボランティア等の体験を勧める。また、実践事例の紹介や視聴覚資料を通して対応の在り方を考察する。さらに、教育相談の周辺領域に係る科目(学校保健学・臨床心理学・精神保健学・心理学概論・教育心理学)等を並行受講することで更なる地域の定着と構造化が図られる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員免許取得における位置づけ、本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項について説明する。 [授業外学修]シラバス・教科書(生徒指導提要)を準備する。			⑨	[テーマ] 教育相談の進め方・技法、保護者面接、心理教育と基礎理論等について [内容] 教育相談の進め方と技法と保護者面接の在り方、心理教育とこそ理論、心理療法等を概説し、視聴覚資料で補充する。 [授業外学修]図書館、PCで調べ学習を行う。	
②	[テーマ] 教育相談の歴史と理念(沿革と発展) [内容] 我が国における教育相談の歩みとアメリカにおけるスクールカウンセリングとの関係、スクールカウンセラー制度について概説する。 [授業外学修]プリントで復習するとともに興味ある箇所をさらに追求する。			⑩	[テーマ] 教育相談の課題(1)-① [内容] 「いじめ」の構造・態様・変容・現状と課題等について解説する。 [授業外学修]学習プリント・PC等で考察する。	
③	[テーマ] 教育相談の意義・目的・役割・機能など [内容] 教育相談の意義、目的、役割、機能等について解説する。 [授業外学修]学習指導要領総則・特活編等を復習する。			⑪	[テーマ] 教育相談の課題(1)-② [内容] 「いじめ」の理解を深め、相談対応のあり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化を図る。 [授業外学修]図書館、新聞、PC等で「いじめ」問題に関連する記事で考察する。	
④	[テーマ] 教育相談と生徒指導、教育相談の特質・方法・形態など [内容] 教育相談と生徒指導との関係、教育相談の特質、方法、形態などについて解説する。 [授業外学修]学習プリントをもとに復習する。			⑫	[テーマ] 教育相談の課題(2)-① [内容] 「不登校」の構造・態様・変容・現状と課題について解説する。 [授業外学修]学習プリント・PC等で考察する。	
⑤	[テーマ] 校内外の教育相談体制と連携、各教員の役割、教育相談の基本など [内容] 学校内外における教育相談体制づくりと連携、学級担任を中心とした多様な教員による教育相談の在り方を解説する。 [授業外学修]プリントをもとに復習する。			⑬	[テーマ] 教育相談の課題(2)-② [内容] 「不登校」の理解を深め、相談対応のあり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化を図る。 [授業外学修]図書館、新聞、PC等で不登校問題に関する記事で考察する。	
⑥	[テーマ] 教育相談と児童生徒理解(心理アセスメント含)の方法 [内容] 効果的な教育相談の実践を支える児童生徒理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する。 [授業外学修]プリント及び図書館学習で復習する。			⑭	[テーマ] 教育相談の課題(3)-① [内容] 「発達障害」「虐待」「少年非行」等の理解、現状と課題について解説する。 [授業外学修]学習プリント、PC等で復習する。	
⑦	[テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見1 [内容] 教育相談を支える児童・青年期の心理と発達、様々な欲求と行動、欲求不満、心の構造等について解説する。 [授業外学修]図書館、PCで調べ学習を行う。			⑮	[テーマ] 教育相談の課題(3)-② [内容] 「発達障害」の理解を深め、相談対応あり方を視聴覚資料の活用を通して考察し、集団討議で深化を図る。 [授業外学修]学習プリント、新聞、PC等で発達障害関連の記事を読み考察する。	
⑧	[テーマ] 教育相談を支える関係心理学の基礎的知見1 [内容] 教育相談を支える関係心理学における葛藤、適応と不適応並びに適応(防衛)機制の特徴等について説明する。 [授業外学修]図書館、PCで調べ学習を行う。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、達成度を確かめるために期末テストを実施する。 [授業外学修]これまでの学習の復習をしっかり行い対策を図る。	
成績評価方法(方針)						
定期の筆記試験の結果(80%)に、受講態度や授業内レポート・意欲・関心(20%)を加味して評価する。なお、学則に従い総授業回数のうち3/2以上の出席のない者定期試験の受験資格がない。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ①教員志望で意欲のある学生の受講を基本 ②授業態度や確認小テストも評価の観点として加点、自己都合による20分以上の遅刻は欠席 ③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届け出を提出しても欠席 ④授業は意欲や視力、希望等を考慮した座席指定制として初回授業で決定。初回授業欠席の場合は事前相談を必ず行うこと。⑤授業の進捗で内容の前後や変更の可能性もあり得る。詳細は初回授業で説明する。
定期試験		◎			80%	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技					評価対象外	
授業態度		◎	◎		20%	
出席					欠格条件	
関連科目	生徒指導論、教育心理学、臨床心理学、精神保健学等			関連資格	中・高校教員免許	
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)			参考書	学習指導要領(解説含)	
オフィスアワー	火曜日の10:20～11:50			その他	連絡先: 青沼研究室(A313)	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	生涯学習概論A			担当教員	門真 洋
	Introduction to Lifelong Learning A (L.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実務経験の有無	社会教育主事としての実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>授業では、生涯学習の理念を確認した上で、わが国における社会教育についての基本的事項を概説する。近代の社会教育の特性と対比させながら、現代の社会教育の基本的性格ならびに社会教育活動を支える施設や職員に関する基本的事項について説明し、さらに生涯学習と社会教育をめぐる諸問題について説明を行なう。</p>					iv
授業の一般目標					
<p>生涯学習と社会教育の関係を理解するとともに、わが国の社会教育の歴史をふまえて生涯学習社会における社会教育に関わる施設、職員の役割について理解する。また、その理解をもとに現代社会における社会教育に関心を持ち、その問題点について主体的に考えることができるようになる。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	1. 生涯学習、社会教育とは何か、さらに社会教育の歴史についての説明ができる。 2. 生涯学習社会における社会教育の課題を説明できる。				
■ 情意的領域	生涯学習社会および社会教育について関心と問題意識を持ち主体的に考えることができる。また自ら生涯をみずえての学習をすることができる。				
□ 技能表現的領域					
授業計画(全体)					
<p>本授業は社会教育主事任用資格取得のための導入的な授業である。下記の関連科目を履修する上でどうしても理解しておくべき基本的事項を扱うので、その理解という点を重視して授業を行なう(よって、上記の認知的領域に重点を置く)。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 社会教育主事任用資格の概要を説明したのち、本授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。</p>			⑨	<p>[テーマ] 社会教育教育主事の役割と職務(1) [内容] 社会教育主事の役割について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>
②	<p>[テーマ] 生涯学習とは何か [内容] 生涯学習という概念の意味について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>			⑩	<p>[テーマ] 社会教育教育主事の役割と職務(2) [内容] 社会教育主事の資質・能力について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>
③	<p>[テーマ] 社会教育とは何か [内容] 生涯学習社会における社会教育という教育領域の位置づけについて説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>			⑪	<p>[テーマ] 社会教育に関する団体と指導者 [内容] 社会教育関係団体の法的位置づけと実態および社会教育行政との関係について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>
④	<p>[テーマ] 日本における社会教育の歴史(1) [内容] 社会教育の歴史的展開について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>			⑫	<p>生涯学習社会と家庭教育(1) [内容] 家庭教育支援の現状と課題について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>
⑤	<p>[テーマ] 日本における社会教育の歴史(2) [内容] 社会教育の歴史的展開について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>			⑬	<p>生涯学習社会と家庭教育(2) [内容] 生涯学習社会における家庭教育支援の役割について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>
⑥	<p>[テーマ] 社会教育の基本法令・施策 [内容] 社会教育関係法令について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>			⑭	<p>[テーマ] 生涯学習社会と学校教育(1) [内容] 生涯学習と学校教育の関係について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>
⑦	<p>[テーマ] 社会教育行政の組織と役割 [内容] 社会教育行政の意義・組織・役割について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>			⑮	<p>[テーマ] 生涯学習社会と学校教育(2) [内容] 学校・家庭・地域の連携・協働の意義について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>
⑧	<p>[テーマ] 社会教育行政における委員 [内容] 設置の意義と根拠・職務と役割について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。</p>			⑯	<p>[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学修] テストに備えて授業内容全体の十分な復習をしておく。</p>
成績評価方法(方針)					
<p>上記の授業計画の項で述べたように、本授業は生涯学習、社会教育に関する基本的事項の理解という点に重点を置くので、期末試験により認知的領域を中心として成績評価を行なう。また、習熟度を図る上で授業内でふりかえりのレポートを毎回課し、成績評価に加味する。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート			◎		40%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
<p>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・13回以上の出席がないと単位を修得することはできない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。飲食物の持ち込みは禁止。 ・携帯、スマホ等は授業開始前にカバンの中へ入れる。 ・受講者多数の場合は、レポート作成(400字)させ、そこから選抜。 ・私語は絶対に慎むこと。(他人に迷惑をかける) ●資格取得に必要な科目である。該当の資格に関心をもって受講すること。 ※学生証は、忘れないこと。(忘れた場合は、欠席扱い)</p>					
関連科目	生涯学習概論B、教育社会学、社会教育計画A、社会教育演習A、社会教育計画B、社会教育演習B			関連資格	社会教育主事任用資格
教科書	講義の中で指示			参考書	講義の中で指示
オフィスアワー				その他	非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	生涯学習概論B			担当教員	門真 洋	
	Introduction to Lifelong Learning B (L.)					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	社会教育主事としての実務経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
「生涯学習概論A」の内容をふまえて、大きく変動しつつある現代社会に生きる人間の生涯にわたる発達ということと関連づけながら、わが国の社会教育の各領域の直面する課題及び関連する理論について概説する。また、各領域の社会教育活動の事例として、わが国の代表的社会教育施設である公民館等における諸実践を紹介していく。					iv	
授業の一般目標						
人間の発達・社会化に関する基本的事項、現代社会の特徴について理解するとともに、社会教育の各領域が直面する課題およびそれに関連する理論を理解する。また、その理解にもとづいて、社会教育の各領域の問題に関心をもち主体的に考えることができる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	人間の発達・社会化と現代社会の特徴の理解をふまえて、社会教育各領域の課題、関連する理論を理解する。					
■ 情意的領域	社会教育に対する関心の幅を広げ、問題意識を高めるとともに社会教育の各領域の問題について主体的に考えることができる。					
□ 技能表現的領域						
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿った資料や情報等を用いた講義が中心であるが、前半終了時と学期末にそこまでの授業内容についてのレポートを課し、授業内容をふまえて社会教育の各領域の問題について主体的に考察してもらう。また、講義のふりかえりとして発表も行なう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。			⑨	[テーマ] 青少年問題と社会教育(1) [内容] 青少年の教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
②	[テーマ] 社会教育施設の種類と役割(1) [内容] 社会教育施設の法的根拠と公民館の役割・機能について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑩	[テーマ] 青少年問題と社会教育(2) [内容] 青少年の教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
③	[テーマ] 社会教育施設の種類の役割(2) [内容] 社会教育施設の図書館と博物館の役割・機能について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑪	[テーマ] 青少年問題と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
④	[テーマ] 社会教育施設の種類の役割(3) [内容] その他の社会教育施設(青少年教育施設・スポーツ施設・生涯学習センター等)の役割・機能について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑫	[テーマ] 高齢化と社会教育(1) [内容] 高齢化の問題に関する基本的事項について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
⑤	[テーマ] 家庭教育と社会教育(1) [内容] 家庭教育に関する基本的事項について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑬	[テーマ] 高齢化と社会教育(2) [内容] 高齢化の問題と教育の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
⑥	[テーマ] 家庭教育と社会教育(2) [内容] 家庭教育をめぐる近年の問題状況について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑭	[テーマ] 高齢化と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
⑦	[テーマ] 家庭教育と社会教育(3) [内容] 前々回および前回の授業内容をふまえて、社会教育施設におけるこの分野の近年の実践事例を紹介する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑮	[テーマ] 現代社会における社会教育 [内容] これまでの単元で扱った内容を総合的に検討し、現代社会における社会教育の課題について考察する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
⑧	[テーマ] レポート作成(1) [内容] ここまでの授業内容に関してレポートを作成する。 [授業外学修] レポート作成に向けて準備をしておく。			⑯	[テーマ] レポート作成(2) [内容] ここまでの授業内容に関してレポートを作成する。 [授業外学修] レポート作成に向けて準備をしておく。	
成績評価方法(方針)						
前半終了時と学期末にレポートを課す(評価割合100%)。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。レポートは講評を付して返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					評価対象外	
授業内レポート		◎	◎		100%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技					評価対象外	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	生涯学習概論A、教育社会学、社会教育計画A、社会教育演習A、社会教育計画B、社会教育演習B				関連資格	社会教育主事任用資格
教科書	二訂 生涯学習概論 馬場裕次郎(ぎょうせい) 概論Aで使用				参考書	※左記の教科書は②・③・④・⑤・⑥・⑨の時間で使用予定
オフィスアワー					その他	非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会教育計画A Social Education Planning A(L.)			担当教員	針生 弘・郡山 孝幸
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	小学校教員及び社会教育現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
社会教育現場での実務経験を活かし、現代における社会教育計画の基本的なプロセス、並びに各種社会教育施設の基本的性格、運営の実際と課題について概説し、生涯学習体制のもとでの計画の在り方と生涯学習まちづくりの関連について紹介していく。					iv、v
授業の一般目標					
生涯学習のまちづくりとの関連における社会教育計画の作成ができるようになる。また、社会教育主事として各種社会教育施設の特徴を知り、計画作成、事業のあり方について思考する能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会教育計画を作成できる。			
■	情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた計画作成に取り組めるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
社会教育現場による実務経験を活かし、生涯学習の観点から講義を行う。各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために生涯学習施設等の見学や地域住民との交流を行う。また授業の感想と課題を何回か授業内レポートとして提出させることで、理解度、到達度を確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	[テーマ] 社会教育施設計画(3) [内容] 博物館の役割について説明する。 [授業外学修] 博物館の役割について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 生涯学習社会における社会教育の役割 [内容] 生涯学習の概念および社会教育のあり方について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑩	[テーマ] 社会教育施設計画(4) [内容] 青少年教育施設の役割について説明する。(特に仙台市の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学修] 青少年教育施設の役割について説明できるようにしておくこと。
③	[テーマ] 生涯学習振興と社会教育計画 [内容] 生涯学習振興と社会教育計画の関連について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑪	[テーマ] 社会教育施設計画(5) [内容] 青少年教育施設の事業と計画について説明する。(特に宮城県内の自然の家の役割について学ぶ) [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
④	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(1) [内容] 市町村の事例(特に柴田町の事例)をもとに説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑫	[テーマ] 社会教育施設計画(6) [内容] 女性教育施設の役割について説明する。(特に男女共同参画社会のあり方を仙台市のエルソーラ仙台の事業を例に学ぶ) [授業外学修] 女性教育施設について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 生涯学習の推進と社会教育計画(2) [内容] 宮城県内の生涯学習の事例をもとに説明する。(仙台市及び県内他市町村の事例を紹介) [授業外学修] 授業の復習をし、事例について説明できるようにしておくこと。			⑬	[テーマ] 社会教育施設計画(7) [内容] 社会体育施設の役割について説明する。 [授業外学修] 社会体育施設について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育計画の作成 [内容] 社会教育計画作成の手順について生涯学習事業の様子を見学することにより学ぶ(移動学習) [授業外学修] 社会教育計画作成の手順について説明できるようにしておくこと。			⑭	[テーマ] 社会教育施設計画(8) [内容] 生涯学習センターの役割について説明する。(仙台市の生涯学習施設を見学しながら学ぶ) [授業外学修] 生涯学習センターについて説明できるようにしておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育施設計画(1) [内容] 公民館の役割について説明する。 [授業外学修] 公民館の役割について説明できるようにしておくこと。			⑮	[テーマ] 生涯学習時代における社会教育施設の役割と計画 [内容] 社会教育施設の現代的役割について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育施設計画(2) [内容] 図書館の役割について説明する。 [授業外学修] 図書館の役割について説明できるようにしておくこと。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。
成績評価方法(方針)					
試験は期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)の内容を評価する。その結果については、提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			60%	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後する事がある。
授業内レポート		◎		40%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席				欠格条件	
関連科目	「生涯学習概論」「社会教育計画B」			関連資格	社会教育主事任用資格
教科書	特に指定しない			参考書	社会教育法
オフィスアワー	針生:火曜Ⅲコマ			その他	研究室電話番号 0224-55-1484

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会教育計画B Social Education Planning B(L.)			担当教員	郡山 孝幸・針生 弘
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
「社会教育計画A」の内容を踏まえ、社会教育現場での実務経験を生かし社会教育事業のあり方を具体例をもとに説明するとともに、小学校教員の経験を生かし学校教育との連携をもとにした地域づくりについて具体例をもとに説明する。					iv、v
授業の一般目標					
社会教育事業の企画と実践の仕方を考えることができるようになる。また、学社連携の実践について具体的に思考できる能力を身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	社会教育事業の企画と実践について考えることができる。				
■ 情意的領域	社会教育事業の発展として学社連携を捉えることができるようになる。				
■ 技能表現的領域	社会教育事業の広報活動の意義を理解できるようになる。				
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために現地見学や地域住民との交流を行う。またこれまで生活をしてきた柴田町の行政や地域の特徴を知るために、生涯学習に関する広報紙を作成するなどの活動を通じ、主体的な取り組みを促す。理解度、到達度の確認のために授業後の感想と課題を授業内レポートとして提出させることがある。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学修] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	[テーマ] 社会教育事業の展開(8) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 社会教育事業の展開(1) [内容] 社会教育事業の企画のあり方について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。			⑩	[テーマ] 社会教育事業の展開(9) [内容] 仙台市の生涯学習の概要について説明する。(特に高齢者教育について学ぶ) [授業外学修] 「高齢者教育」の実践について考えておくこと。
③	[テーマ] 社会教育事業の展開(2) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に行政機関による事業について) [授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。			⑪	[テーマ] 社会教育事業の展開(10) [内容] 社会教育事業の計画を立てる。(仙台市内の生涯学習センターを見学する) [授業外学修] 「生涯学習センター」の実践について考えておくこと。
④	[テーマ] 社会教育事業の展開(3) [内容] 柴田町の生涯学習の事業について説明する。(主に民間による事業推進について) [授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。			⑫	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(1) [内容] 学社連携・融合の事業計画をもとに具体的に説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑤	[テーマ] 社会教育事業の展開(4) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内生涯学習センター等を見学する) [授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。			⑬	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(2) [内容] 学校支援地域本部、コミュニティスクールの役割等について具体的に説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして内容について説明できるようにしておくこと。
⑥	[テーマ] 社会教育事業の展開(5) [内容] 柴田町の生涯学習事業について現地で学ぶ(柴田町内各地域における生涯学習の取り組みを見学する) [授業外学修] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。			⑭	[テーマ] 学校教育と社会教育の連携・融合(3) [内容] 宮城県内の学社連携・融合の事業推進について現地で学ぶ(各小学校における学校支援地域本部を見学する) [授業外学修] 「学校支援地域本部」の実践について考えておくこと。
⑦	[テーマ] 社会教育事業の展開(6) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙作成のための計画を立案する) [授業外学修] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。			⑮	[テーマ] 社会教育主事の役割 [内容] 生涯学習時代における社会教育主事の役割について説明する。 [授業外学修] 社会教育主事の役割について説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 社会教育事業の展開(7) [内容] 柴田町の生涯学習や観光資源について調査を行う。(広報紙の編集・印刷を行う) [授業外学修] 柴田町の生涯学習について幅広く知識を得ること。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度確かめるために期末テストを行う。 [授業外学修] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。
成績評価方法(方針)					
試験は期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート			◎		40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席			◎		欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入れておくこと。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 					
関連科目	生涯学習概論			関連資格	社会教育主事任用資格
教科書	特に指定しない			参考書	社会教育法
オフィスアワー	主担当郡山のオフィスアワー 火曜Ⅲコマ			その他	郡山研究室電話番号 0224-55-1491

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会教育演習A Seminar on Social Education A(S.)			担当教員	門真 洋	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	社会教育主事としての実務経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて社会教育施設と連携して演習を行ない、地域の生涯学習、社会教育のあり方について考察する。					iv	
授業の一般目標						
(1) 授業で取り上げる生涯学習の基本的状況について理解する。 (2) 演習をとおして生涯学習の基本的状況に関心を持ち、その特質について社会状況と関連させながら主体的に考察することができる。 (3) 演習をとおして生涯学習、社会教育について主体的に考察することができる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	授業で取り上げる生涯学習の基本的状況について説明できる。					
■ 情意的領域	授業で取り上げる生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考察することができる。					
■ 技能表現的領域	上記の考察の結果をまとめて講座を企画・立案して実践化することができる。					
授業計画(全体)						
オリエンテーションのあと、演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて、連携先の社会教育施設との演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。			⑨	[テーマ] 社会教育施設講座企画(1)「個人」 [内容] 「高齢者教育」の(企画講座)の立案をする。 [授業外学修] 発表者は原稿を作成する。	
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義を行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑩	[テーマ] 社会教育施設講座企画(2)「個人」 [内容] 「高齢者教育」の講座を企画・立案したものを発表する。 [授業外学修] 発表者は原稿を作成する。	
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義を行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑪	[テーマ] 社会教育施設講座全体企画(1) [内容] 講座を企画・立案する。 [授業外学修] 講座企画について事前に十分考察する。	
④	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 演習を進めるにあたって社会教育施設の概要についての講義を行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑫	[テーマ] 社会教育施設講座全体企画(2) [内容] 講座を企画・立案する。 [授業外学修] 前時に作成した講座企画について事前に十分考察する。	
⑤	[テーマ] 社会教育施設演習(1) [内容] 社会教育施設の現場で学習し、概要を学ぶ。(船岡生涯学習センター) [授業外学修] 社会教育施設の概要について事前に調べておく。			⑬	[テーマ] 社会教育施設講座全体企画(3) [内容] 講座を企画・立案する。 [授業外学修] 前時に作成した講座企画について事前に十分考察する。	
⑥	[テーマ] 社会教育施設演習(2) [内容] 社会教育施設の現場で学習し、講座を見学する。(船岡生涯学習センター) [授業外学修] 社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。			⑭	[テーマ] 学生企画講座実施(1) [内容] 社会教育施設において企画講座の実践を行なう。 [授業外学修] 役割分担を含め、事前に十分考察する。	
⑦	[テーマ] 社会教育施設演習(3) [内容] 船岡生涯学習センターでの演習したことの反省会を行なう。 [授業外学修] 社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。			⑮	[テーマ] 学生企画講座実施(2) [内容] 社会教育施設において企画講座の実践を行なう。 [授業外学修] 役割分担を含め、事前に十分考察する。	
⑧	[テーマ] 社会教育施設演習(4) [内容] 「高齢者教育」のイベント(企画講座)を見学する。 [授業外学修] 社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。			⑯	[テーマ] レポート作成 [内容] 演習全体のまとめとして期末のレポートを書く。 [授業外学修] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく。	
成績評価方法(方針)						
演習形式で行なう授業においては毎回発表者とメンターを割り当てるが、その企画内容、コメントの内容、毎回の授業のまとめとして全員に書いてもらう小レポートの内容及び期末のまとめのレポートの内容にて評価する。また、企画出席は評価割合に加え、欠格条件となる。発表・コメント・小レポートについては評価して返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					評価対象外	
授業内レポート		◎	◎	◎	60%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技		◎	◎	◎	40%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	生涯学習概論A、生涯学習概論B、教育社会学、社会教育計画A、社会教育計画B、社会教育演習B				関連資格	社会教育主事任用資格
教科書	特に指定しない。				参考書	特に指定しない。
オフィスアワー					その他	非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	社会教育演習B Seminar on Social Education B(S.)			担当教員	門真 洋	
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	実務経験の有無	社会教育主事としての実務経験を有する	
	履修の方法	選択	演習 単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて次の2つのテーマで演習を行ない、関係施設において実践化する。 1. 「地域社会と教育」をテーマとする企画・立案をととして、具体的に考察する。 2. 「学社融合」をテーマとする企画・立案をととして、具体的に考察する。					iv	
授業の一般目標						
(1) 「地域社会と教育」に関する基本的事項について説明できる。 (2) 「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。 (3) 上記の分野に関連する内容について主体的に考察できる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	「地域社会と教育」、「学社融合」に関する基本的事項について説明できる。					
■ 情意的領域	上記の分野に関心を持ち、関連する演習をととして主体的に考察できる。					
■ 技能表現的領域	上記の考察の結果を論理的にまとめて発表・講座開設することができる。					
授業計画(全体)						
演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。受講生が各自講座やイベントを企画したものを発表、コメントをしながら演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、講座やイベントを実践化させる。さらに学期末には授業全体のまとめのレポートを書いてもらう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。			⑨	[テーマ] 基本的事項の講義(3) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社連携と学社融合」)を行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
②	[テーマ] 基本的事項の講義(1) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会の社会学」)を行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑩	[テーマ] 基本的事項の講義(4) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「学社融合と社会教育施設」)を行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
③	[テーマ] 基本的事項の講義(2) [内容] 演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義(「地域社会と教育」)を行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑪	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする演習(1) [内容] 関係する分野の社会教育施設を調査して演習を行なう。(前半のふりかえりを生かすようにする) [授業外学修] 学社融合の内容について授業前に十分考察しておく。	
④	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする演習(1) [内容] 関係する分野の地域調査をして演習を行なう。 [授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。			⑫	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする演習(2) [内容] 関係する分野の社会教育施設を調査して演習を行なう。 [授業外学修] 学社融合の内容について授業前に十分考察しておく。	
⑤	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする演習(2) [内容] 関係する分野の地域調査をして演習を行なう。 [授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。			⑬	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする演習(3) [内容] 関係する分野の社会教育施設を調査して演習を行なう。(施設におけるイベントの準備を行なう) [授業外学修] 学社融合の内容について授業前に十分考察しておく。	
⑥	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする演習(3) [内容] 関係する分野の地域調査をして演習を行なう。 [授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。			⑭	[テーマ] 「学社融合」をテーマとする演習(4) [内容] 関係する分野の社会教育施設を調査して演習を行なう。(施設においてイベントを実施する) [授業外学修] 学社融合の内容について授業前に十分考察しておく。	
⑦	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする演習(4) [内容] 関係する分野の地域調査をして演習を行なう。(施設におけるイベントの準備を行なう) [授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。			⑮	[テーマ] レポート作成 [内容] 授業全体のまとめとしてイベントのレポートを書く。 [授業外学修] レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく。	
⑧	[テーマ] 「地域社会と教育」をテーマとする演習(5) [内容] 地域調査を基にして演習を行なう。(施設においてイベントを実施する) [授業外学修] 地域調査の内容について授業前に十分考察しておく。			⑯		
成績評価方法(方針)						
演習形式で行なう授業における発表・コメントの内容、各回の授業内容についての小レポートの内容および期末のまとめのレポートの内容により評価する。また、イベント企画内容も評価対象として重視していく。出席は評価割合に加え欠格条件となる。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験					評価対象外	
授業内レポート		◎	◎	◎	60%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技		◎	◎	◎	40%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	生涯学習概論A、生涯学習概論B、教育社会学、社会教育計画A、社会教育演習A、社会教育計画B				関連資格	社会教育主事任用資格
教科書	特に指定しない。				参考書	特に指定しない。
オフィスアワー					その他	非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育社会学 Sociology of Education (L.)			担当教員	門真 洋	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実務経験の有無	社会教育主事としての実務経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
(1) 現代社会が直面する各分野の問題及び関連する教育の課題について理解すると共に、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。 (2) 上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。					iv	
授業の一般目標						
(1) 現代社会が直面する各分野の問題及び関連する教育の課題について理解すると共に、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。 (2) 上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	現代社会が直面する各分野の問題および関連する教育の課題を理解するとともに、こうした問題についての教育社会学の理論を理解する。					
■ 情意的領域	上記の諸問題についての関心を持ち、授業内容をふまえて現代社会における社会教育について主体的に考察することができる。					
□ 技能表現的領域						
授業計画(全体)						
各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心である。各単元ごとに基本的事項の解説、近年の具体的状況の説明をし、それをふまえて教育施設における実践活動について紹介・検討することで社会教育の各領域の問題についての受講生の主体的考察につなげる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。 ※レポート作成で受講者選抜 [授業外学修] シラバスを熟読して内容を理解する。			⑨	[テーマ] 子どもの社会学(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、この分野のまとめを行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
②	[テーマ] 教師の社会学(1) [内容] 教師に関する基本的事項について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑩	[テーマ] 非行/逸脱・教育問題(1) [内容] 社会の変化と教育問題について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
③	[テーマ] 教師の社会学(2) [内容] 教師の役割について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑪	[テーマ] 非行/逸脱・教育問題(2) [内容] 不登校・長期欠席・不就学等の教育問題について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
④	[テーマ] 教師の社会学(3) [内容] 教師・子ども・保護者の関係をめぐる近年の状況について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑫	[テーマ] 非行/逸脱・教育問題(3) [内容] 児童虐待・少年非行の社会学について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
⑤	[テーマ] 教師の社会学(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、この分野のまとめを行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑬	[テーマ] 非行/逸脱・教育問題(4) [内容] (1)～(3)の内容をふまえて、この分野のまとめを行なう。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
⑥	[テーマ] 子どもの社会学(1) [内容] 子どもの社会学に関する基本的事項について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑭	[テーマ] 現代社会における社会教育 [内容] ここまで扱ったさまざまな問題を抱える現代社会における社会教育の役割について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	
⑦	[テーマ] 子どもの社会学(2) [内容] 子どもと教育の関係に関する基本的事項について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑮	[テーマ] テスト [内容] 授業内容の理解度を確かめるために期末テストを行なう。 [授業外学修] テストに備え授業内容全体の十分な復習をしておく。	
⑧	[テーマ] 子どもの社会学(3) [内容] 子ども教育の関係に関する近年の状況について説明する。 [授業外学修] 授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。			⑯		
成績評価方法(方針)						
学期末に授業内容全体の理解度を確かめるためのテストを実施し、その結果で成績評価を行なう。出席は評価割合に加えず欠格条件となる。試験の答えは講評とともに返却する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎		60%	
授業内レポート		◎	◎		40%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技					評価対象外	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	生涯学習概論A、生涯学習概論B、社会教育計画A、社会教育演習A、社会教育計画B、社会教育演習B				関連資格	社会教育主事任用資格
教科書	特になし				参考書	特になし
オフィスアワー					その他	非常勤講師のため連絡は教育企画室を通して行なうこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ボランティア活動実践A Voluntary Activity Practice A			担当教員	大山 さく子
開講内容	学年・学期	1・通年	授業方法	実習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。					iv、v
授業の一般目標					
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。			
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。			
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。			
授業計画(全体)					
ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通じたボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること		⑨	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
②	[テーマ]ボランティア事前研修① [内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑩	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
③	[テーマ] ボランティア事前研修② [内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑪	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
④	[テーマ] ボランティア事前研修③ [内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑫	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑤	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑬	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑥	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑭	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑦	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑮	[テーマ] ボランティア活動のまとめと報告 [内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける [授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる	
⑧	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑯	[テーマ] テスト(レポート課題) [内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する [授業外学修]レポート作成のため整理をすること	
成績評価方法(方針)					
本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート		◎	◎	◎	50%
演習・実技		◎	◎	◎	50%
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)				参考書
オフィスアワー	(前期)火曜日 12:40~14:10				その他
					連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ボランティア活動実践B Voluntary Activity Practice B			担当教員	大山 さく子
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。					iv、v
授業の一般目標					
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。				
■ 情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。				
■ 技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。				
授業計画(全体)					
ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通じたボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること		⑨	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
②	[テーマ]ボランティア事前研修① [内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑩	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
③	[テーマ] ボランティア事前研修② [内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑪	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
④	[テーマ] ボランティア事前研修③ [内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑫	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑤	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑬	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑥	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑭	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑦	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑮	[テーマ] ボランティア活動のまとめと報告 [内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける [授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる	
⑧	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑯	[テーマ] テスト(レポート課題) [内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する [授業外学修]レポート作成のため整理をすること	
成績評価方法(方針)					
本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート		◎	◎	◎	50%
演習・実技		◎	◎	◎	50%
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)				参考書
オフィスアワー	(前期) 火曜日 12:40~14:10				その他
					連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ボランティア活動実践C Voluntary Activity Practice C			担当教員	大山 さく子
開講内容	学年・学期	3・通年	授業方法	実務経験の有無	-
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。					iv、v
授業の一般目標					
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。				
■ 情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。				
■ 技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。				
授業計画(全体)					
ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通じたボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること		⑨	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
②	[テーマ]ボランティア事前研修① [内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑩	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
③	[テーマ] ボランティア事前研修② [内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑪	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
④	[テーマ] ボランティア事前研修③ [内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑫	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑤	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑬	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑥	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑭	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑦	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑮	[テーマ] ボランティア活動のまとめと報告 [内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける [授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる	
⑧	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑯	[テーマ] テスト(レポート課題) [内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する [授業外学修]レポート作成のため整理をすること	
成績評価方法(方針)					
本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート		◎	◎	◎	50%
演習・実技		◎	◎	◎	50%
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)				参考書
オフィスアワー	(前期)火曜日 12:40~14:10				その他
					連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	ボランティア活動実践D Voluntary Activity Practice D			担当教員	大山 さく子
開講内容	学年・学期	4・通年	授業方法	実習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。					iv、v
授業の一般目標					
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。				
■ 情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。				
■ 技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。				
授業計画(全体)					
ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通じたボランティア活動に参加する。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、活動の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]シラバスを熟読すること		⑨	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
②	[テーマ]ボランティア事前研修① [内容] ボランティア活動を実践するための手続きについて説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑩	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
③	[テーマ] ボランティア事前研修② [内容] ボランティアを始める前の基礎知識や留意点について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑪	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
④	[テーマ] ボランティア事前研修③ [内容] ボランティア活動の紹介とボランティアコーディネーターの役割について説明する [授業外学修]配布資料を熟読する		⑫	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑤	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑬	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑥	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑭	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する	
⑦	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑮	[テーマ] ボランティア活動のまとめと報告 [内容]ボランティア活動の学びを報告し、指導者より助言・指導を受ける [授業外学修]ボランティア活動ノートを完成させる	
⑧	[テーマ] ボランティア活動実践 [内容]学内外、地域、学校等の希望する場において、ボランティア活動の実践を通し学ぶ [授業外学修]ボランティア活動ノートに振り返りを記録する		⑯	[テーマ] テスト(レポート課題) [内容]ボランティア活動の学びと評価をレポートで整理する [授業外学修]レポート作成のため整理をすること	
成績評価方法(方針)					
本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後にコメントを付けたうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート		◎	◎	◎	50%
演習・実技		◎	◎	◎	50%
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目					関連資格
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)				参考書
オフィスアワー	(前期)火曜日 12:40~14:10				その他
					連絡先 sk-oyama@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	北米のプロスポーツ事情(S) Pro Sports in North America			担当教員	マーティ・キーナート/ Marty Kuehnert
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
世界の何処をみわたしても、北米のスポーツカルチャーのような文化は存在しない。スポーツはもはや北米の多くの人々にとっては“病みつき”といっていいほどのものである。スポーツビジネスを勉強する際、北米の事情を知らなければ始まらないだろう日本のスポーツ産業界にとっても学べる事は多い、と同時に学生はその異常なまでの極端さも考えて欲しい。最新の北米スポーツ事情とスポーツを検証し考える。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
学生は、北米における主なメジャースポーツの現在の事情を検証し、理解し、そしてその課題点について考える。最大のスポーツビジネス王国である北米においてそのビジネスの仕組み、現状と問題点を学ぶ。期末レポートでは、各自選択したテーマにおいて、自分で調査・研究した内容と共に自分の視点を述べる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。			
■	情意的領域	北米のプロスポーツとそのビジネスの仕組み、現状、問題点を最新の各事例を通して学ぶ。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
各授業テーマに沿った資料、視聴覚教材を基に、北米のプロスポーツ業界の歴史、構造、現状、問題点を解説する。期末には、学生各自が選んだ課題のレポートを提出、各自が研究した内容と共に自分の視点を述べる事により、各スポーツの現状と課題点を考え、まとめる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の内容とスケジュールの紹介 球団経営の実務経験から現状に沿った講義を行う。 [授業外学修] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。			⑨	[テーマ] NHL(ナショナルアイスホッケーリーグ)について [内容] 1918年からのプロ・ホッケーリーグとしての歴史、組織・収益構造等 レポートB:期末レポートアウトライン提出 [授業外学修] 次回内容のNBAについて、調査してくる事。
②	[テーマ] MLB(メジャーリーグ・ベースボール)について I [内容] 1869年からのプロ・ベースボールとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学修] 次回内容のMLBについて、調査してくる事。			⑩	[テーマ] MLS(メジャーリーグ・サッカー)について [内容] 1967年からのプロ・サッカーリーグとしての歴史、変遷、各国の事情 [授業外学修] 次回内容のTV放送について、調査してくる事
③	[テーマ] MLB(メジャーリーグ・ベースボール)について II [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学修] 期末レポートの題目次週提出の準備			⑪	[テーマ] TV放映と放映権について [内容] プロスポーツの重要な収入源であるTV放映権の仕組みと内容 [授業外学修] 次回内容のスタジアムについて、調査してくる事。
④	[テーマ] マイナーリーグ プロベースボールについて [内容] MLBの強みは1901年に始まるマイナーリーグの組織構造、実情と役割等レポートA: 期末レポート課題題目提出 [授業外学修] 期末レポートの題目次週提出の準備			⑫	[テーマ] スタジアムについて [内容] 成功するスポーツフランチャイズの条件としてスタジアムその実例と条件 [授業外学修] 今週のフレーズとセンテンスを習得
⑤	[テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について I [内容] 1922年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学修] 次回内容のNFLについて、調査してくる事。			⑬	[テーマ] アマチュアスポーツについて [内容] 北米におけるカレッジスポーツはすでにプロ化している。その現状と問題点。 [授業外学修] 次回内容のエージェントについて、調査してくる事
⑥	[テーマ] NFL(ナショナルアメリカンフットボールリーグ)について II [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学修] 次回内容のNBAについて、調査してくる事。			⑭	[テーマ] エージェント [内容] エージェントの役割と仕組み、北米と日本スポーツの現状と事情 [授業外学修] レポートC: 期末レポート提出 / 質疑応答とまとめ
⑦	[テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について I [内容] 1947年からのプロ・フットボールリーグとしての歴史、その変遷と内容 [授業外学修] 次回内容のNBAについて、調査してくる事。			⑮	[テーマ] ドラッグ [内容] プロスポーツ界全体、そしてオリンピックにおけるドラッグの現状、問題点。 [授業外学修] 質疑応答の内容を考えてくる事
⑧	[テーマ] NBA(ナショナルバスケットボールリーグ)について II [内容] 現在の強・弱点、その組織・収益構造、問題点等 [授業外学修] 期末レポートのアウトラインを、次週提出の準備			⑯	[テーマ] 質疑応答/ 期末アンケート [内容] 質疑応答、レポートおよび授業についてのディスカッション [授業外学修] 質疑応答の内容を考えてくる事
成績評価方法(方針)					
出席率30%、小テスト授業内レポートで20%、期末レポート50%					
成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					50%
授業内レポート		◎	◎		20%
授業外レポート		◎	◎		
演習・実技					
授業態度		○	○		
出席		○			欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・講義受講人数は80人に限定。それ以上の受講希望者がいた場合は、抽選にて選考。 ・16回講義中、正当な理由なしに5回以上欠席は、単位習得不可。 ・20分以上の遅刻は欠席扱い、居眠りお喋り携帯使用厳禁 3回目以上注意者は退室。 ・自分でリサーチし自分の視点を述べた期末レポートを重視します。 ・期末レポート不提出は、単位修得不可。 ・講義の進行具合によって、授業計画は多少変更します。 					
関連科目					関連資格
教科書	教科書は使用しない。その都度プリント配布。				参考書
オフィスアワー	月曜12:00 - 13:30				その他
					m=kuehnert@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海外短期研修A			担当教員	国際交流センターセンター長	
	Brief Seminar Abroad A					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					iv、v	
授業の一般目標						
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。					
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。					
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。					
授業計画(全体)						
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー</p> <p>デンマーク ノアフュンス国民大学 デンマーク国における健康教育プログラム</p> <p>フィンランド カヤーニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム</p> <p>台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学</p> <p>タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム</p> <p>ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修</p> <p>中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム</p> <p>韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム</p> <p>ニュージーランド カンタベリー大学CCEL 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>						
成績評価方法(方針)						
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと 研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること 本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。
定期試験						
授業内レポート		○		○	10%	
授業外レポート		○		○	10%	
演習・実技			○	○	30%	
授業態度			○		50%	
出席					欠格条件	
関連科目	海外短期研修B・C・D				関連資格	
教科書	各研修の担当者が指示する				参考書	各研修の担当者が指示する
オフィスアワー	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海外短期研修B			担当教員	国際交流センター長
	Brief Seminar Abroad B				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					iv、v
授業の一般目標					
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。				
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。				
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。				
授業計画(全体)					
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー</p> <p>デンマーク ノアフュンス国民大学 デンマーク国における健康教育プログラム</p> <p>フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム</p> <p>台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学</p> <p>タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム</p> <p>ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修</p> <p>中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム</p> <p>韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム</p> <p>ニュージーランド カンタベリー大学CCEL 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		○		○	10%
授業外レポート		○		○	10%
演習・実技			○	○	30%
授業態度			○		50%
出席					欠格条件
関連科目	海外短期研修A・C・D				関連資格
教科書	各研修の担当者が指示する				参考書
オフィスアワー	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海外短期研修C			担当教員	国際交流センター長
	Brief Seminar Abroad C				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					iv、v
授業の一般目標					
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。				
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。				
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。				
授業計画(全体)					
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー</p> <p>デンマーク ノアフュンス国民大学 デンマーク国における健康教育プログラム</p> <p>フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム</p> <p>台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学</p> <p>タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム</p> <p>ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修</p> <p>中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム</p> <p>韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム</p> <p>ニュージーランド カンタベリー大学CCEL 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		○		○	10%
授業外レポート		○		○	10%
演習・実技			○	○	30%
授業態度			○		50%
出席					欠格条件
関連科目	海外短期研修A・B・D				関連資格
教科書	各研修の担当者が指示する				参考書
オフィスアワー	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				その他

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	海外短期研修D			担当教員	国際交流センター長
	Brief Seminar Abroad D				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					iv、v
授業の一般目標					
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。				
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。				
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。				
授業計画(全体)					
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー</p> <p>デンマーク ノアフュンス国民大学 デンマーク国における健康教育プログラム</p> <p>フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム</p> <p>台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学</p> <p>タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム</p> <p>ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修</p> <p>中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム</p> <p>韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム</p> <p>ニュージーランド カンタベリー大学CCEL 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の一種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート		○		○	10%
授業外レポート		○		○	10%
演習・実技			○	○	30%
授業態度			○		50%
出席					欠格条件
関連科目	海外短期研修A・B・C				関連資格
教科書	各研修の担当者が指示する				参考書
オフィスアワー	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				その他

5. 教職に関する科目

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職論A			担当教員	大内悦夫・井上雅勝・末永精悦・江尻雅彦・高橋仁
	Introduction to Teaching Profession A				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
教員の意識、教員の役割、職務内容等に関する理解を深め、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適正を考慮し、教職への意欲や一体感を養う。同時に、教職の希望実現に向けた学習計画の立案ができるようにする。					i、iii、iv、v
授業の一般目標					
次の四つの視点から学ぶ。①教職とはどんなものか、教職に就くための学習など教職に関する基盤になることを理解する。②教員養成、教員免許制度、教員採用、研修制度などについて理解を深める。③教職の服務規程、教育基本法を中心に知識を習得する。④教員としての資質・力量、理想の教師像など実際に教員になった場合に必要となる人間のあり方について学習し、自分の教員に関する考え方を豊かにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。			
■	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。			
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。			
授業計画(全体)					
教員免許取得のための教育課程についての学習、教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度などの学習、関係法規に関する学習、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、教科書と配布資料(プリント)等で講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 教員の身分と関係法規(江尻) [内容] 教員の身分の法的位置づけ [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習			⑨	[テーマ] 教員の採用と研修(井上) [内容] 優れた人材確保と教員研修。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習
②	[テーマ] 学習指導要領と教員(江尻) [内容] 学習指導要領とその変遷。学習指導要領と法的拘束力。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習			⑩	[テーマ] 教科指導と教員(高橋) [内容] 教科指導の意義、指導計画と学習指導案、教材研究と授業、教科指導の評価。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習
③	[テーマ] 特別支援教育(江尻) [内容] 特別支援教育のあり方。通常の学級における特別支援教育のあり方。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習			⑪	[テーマ] 教科外指導と教員(高橋) [内容] 教科外指導の特質、教科外指導の課題、これからの教科外指導。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習
④	[テーマ] 教職と関係法規Ⅰ(大内) [内容] 日本国憲法と教育基本法、学校教育法。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習			⑫	[テーマ] 学級経営、校務分掌と教員(高橋) [内容] 望ましい学級経営、校務分掌のあり方と教員。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習
⑤	[テーマ] 教職と関係法規Ⅱ(大内) [内容] 学校教育法。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習			⑬	[テーマ] 教員の服務規程Ⅰ(末永) [内容] 教員の服務規定について。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習
⑥	[テーマ] 教職と関係法規Ⅲ(大内) [内容] 学校教育法施行規則、学校保健安全法。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習			⑭	[テーマ] 教員の服務規程Ⅱ(末永) [内容] 教員の身分保障と分限・懲戒規定。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習
⑦	[テーマ] これからの教員に求められる資質・能力(井上) [内容] 望ましい教師像を求めて、いつの時代にも求められる教師像と今後求められる教師像についての概説。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習			⑮	[テーマ] チーム学校への対応、学校における防災教育(末永) [内容] チーム学校としての対応の方法、防災教育のあり方について。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習
⑧	[テーマ] 教員養成と教員免許制度(井上) [内容] 教員養成制度と教員免許法。本学における履修のあり方。 [授業外学修] 授業で指示されたレポート作成、本時の復習			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
筆記試験の結果(100%)に授業態度を勘案して評価する。また、授業時数の2/3以上の出席を必要とする。授業内外のレポートについては点検し、次の授業で内容を検討する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	75%
授業内レポート		○		○	10%
授業外レポート		○		○	10%
演習・実技					
授業態度			○		5%
出席					欠格事項
関連科目					関連資格
教科書	「必修教職六法」(協同出版)				参考書
オフィスアワー	火曜日 11:50~12:40				その他
					教員免許状
					「学習指導要領」
					問い合わせ先 A303 大内研究室

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		道徳教育論 Theory of Moral Education (L)			担当教員	久能和夫
開講内容		学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	小学校での教員経験を有する
		履修の方法	選択	単位数		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
学校現場による実務経験を活かし、アクティブラーニングを主にした観点から講義を行う。小・中・高等学校の道徳教育を通じ、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自立し、健全な自尊感情を持ち、主体的・自律的に生きる力を育成するために道徳性を養う。						iv、v
授業の一般目標						
基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度、伝統や文化を尊重する態度などを育成するにはどう指導するかを理解する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	道徳教育に関する歴史的歩みについて学び、現在の学習指導要領について学ぶ。				
■	情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」について、どう意欲的に取り組むか理解する。				
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。				
授業計画(全体)						
授業は、基本的にはプリントを用意し、それを基に講義中心に行うが、多くの機会にレポートを提出、常に道徳教育についての課題意識を持つようにする。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 道徳教育とは何か [内容] 今、求められている規範意識について学び、規範の根拠としての人間尊重の精神について考える [授業外学修] 慣習、法律、倫理と道徳の関係についての書籍を読む			⑨	[テーマ] 道徳科の授業と評価 [内容] 「特別の教科 道徳科」で示されている評価の在り方を基にして、「道徳科の教育における評価」について考える [授業外学修] 「道徳科」が目指す評価の方向性を調べる	
②	[テーマ] 戦後の教育改革と道徳教育 [内容] 戦後の教育改革で、一番の課題は道徳教育であったことを学ぶ [授業外学修] 道徳教育に関わる学習指導要領の変遷について調べる			⑩	[テーマ] 道徳科の授業と体験学習 [内容] 体験活動の教育的意義、「特別の教科 道徳」と体験活動のかかわりについて考える [授業外学修] 学習指導要領を読む	
③	[テーマ] 学習指導要領と道徳的価値 [内容] 教育基本法と道徳教育、学習指導要領と道徳的価値の関連について学ぶ [授業外学修] 学習指導要領の内容項目について調べる			⑪	[テーマ] 個性の尊重 [内容] 「個性」に対する日本と欧米の違い(価値観の相違)を分析し、学校教育における「個性」の伸長について考える [授業外学修] 学習指導要領における「個性」の取り上げ方の変遷を調べる	
④	[テーマ] 道徳授業の現状とその改善方法 [内容] これまでの「道徳の時間」をめぐる課題、その中での本質的問いとして「徳」は教えられるのかを考える [授業外学修] 道徳の授業で大切にしなければならないことについて考える			⑫	[テーマ] 道徳授業のアプローチ① [内容] 道徳科における学習指導案の構成について理解する。道徳の授業の実践についての映像を観る [授業外学修] 学習指導案の作成	
⑤	[テーマ] 道徳教育と家庭・地域社会の協力 [内容] 家庭・地域社会における道徳教育の現状と課題を分析し、学校と家庭・地域社会の連携・協力について考える [授業外学修] 新聞の関連ニュースを読む			⑬	[テーマ] 道徳授業のアプローチ② [内容] 道徳科の学習指導案(展開場面)を作成する。道徳の授業の実践についての映像を観る [授業外学修] 学習指導案の作成	
⑥	[テーマ] 道徳授業の充実と教師の生き方 [内容] 「道徳教育における教師の役割」について述べている論文を読み、レポートを書く [授業外学修] 「教師論」に関する書籍を読む			⑭	[テーマ] 道徳授業のアプローチ③ [内容] 道徳科の学習指導案(主題設定の理由を中心として)を作成する。道徳授業の実践についての映像を観る [授業外学修] 学習指導案の作成	
⑦	[テーマ] 学生の価値意識と「道徳教育の研究」 [内容] 道徳性の発達(コールバーグ理論)と相対主義を踏まえ、若者と規範意識について考える [授業外学修] 「道徳性の発達」に関する書籍を読む			⑮	[テーマ] 国際化社会における愛国心教育と国旗・国歌 [内容] 戦後日本の「愛国心」論の類型を知り、教育基本法・学習指導要領における「愛国心」教育の進め方について理解する [授業外学修] 関連する書籍を読む	
⑧	[テーマ] 高校における道徳教育の位置づけ [内容] 学習指導要領において「道徳教育の全体計画」の作成が義務づけられている高等学校における「道徳教育」の進め方について考える [授業外学修] 高等学校学習指導要領を読む			⑯	[テーマ] テスト [内容] 道徳教育論を学習してのまとめを行う [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
提出されたレポートは内容に応じてディスカッションや解説を行いながら返却する。レポート等のポートフォリオ評価資料と筆記試験の結果に、受講態度(出席状況含む)等を加味して評価する。なお、欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 講義を中心に進めるが、自分が学習した道徳教育を振り返りながら、教師を目指す者として、常に課題意識を持って学んで欲しい。
定期試験		◎		○	70%	
授業内レポート			○	◎	20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度			○		10%	
出席					欠格条件	
関連科目				関連資格		
教科書	中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」			参考書	授業時に紹介する	
オフィスアワー	久能研究室(A307) 金(10:20~11:50)			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		生徒指導論A Theory of student guidance A (L.)			担当教員	江尻 雅彦	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	高校での教員経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数	2			
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)	
<p>本講義では、生徒指導提要並びに学習指導要領に基づき、実際の教育現場で行われる生徒・進路指導及びキャリア教育の意義や原理と指導法、校内体制と家庭や関係機関との連携の在り方、個別の指導、指導上の課題に向き合う考え方を教育相談等の方法も含め38年間の高等学校教育現場経験を踏まえ解説する。</p>						iv、v	
授業の一般目標							
<p>生徒指導の意義・目的・原理・内容・方法等や自らの生き方・在り方である進路指導の理論・内容・実践等を理解する。また、校内における生徒指導や進路指導体制と家庭や関係機関との連携の在り方、教育相談や発達障害への具体的対応等を理解する。加えて、目まぐるしく変化する生徒指導の現状と課題を理解し、すべての児童生徒の良好な人格形成に繋げられる実践力を養う。</p>							
授業の到達目標							
■	認知的領域	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。また、生徒・進路指導上の現状と課題を把握し、より望ましい指導の在り方を指摘できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援の在り方を説明できる。					
■	情意的領域	授業に真剣に臨むことを理解し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活が送れるような支援を目指し、常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら具体的な課題解決に向けて思考・判断し生徒指導を実践する力を養うことができる。					
□	技能表現的領域						
授業計画(全体)							
<p>各授業のテーマに基づく講義が中心となる。講義ではこれまで高校の教育現場で経験した生の事例を取り上げ、児童・生徒、教師、保護者、地域住民のそれぞれの立場で考えさせる演習も行う。また、実践の力を高めるため、授業外学修や教育ボランティアへの積極的参加を勧める。さらに、マスメディアを活用し、国や地方における生徒指導に係る教育施策や法的対応等の動向を把握させ、当事者意識を高揚させ、思考・判断や態度・行動と直結させ、実践力の向上への起点となる。</p>							
授業計画(各回のテーマ等)							
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容		
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員免許取得における位置付け、本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項等について説明する。 [授業外学修]教科書(生徒指導提要)p1～21について予習する。</p>			⑨	<p>[テーマ]進路指導の歴史と理念及び基礎理論 [内容]進路指導のねらい(定義)と意義、歴史、基礎理論と教育課程における位置づけ、生徒指導との関連について解説する。 [授業外学修]学習プリントと配付資料等に基づきながら学習を深める。</p>		
②	<p>[テーマ]生徒指導の意義と原理・方法(1) [内容]生徒指導の意義・目標・原理・方法・内容と自己指導能力を育成する三機能、指導上の留意点等について解説する。 [授業外学修]教科書p1～p13、学習指導要領総則・特活等で学習を深める。</p>			⑩	<p>[テーマ]進路指導の実践的展開とキャリア教育 [内容]進路指導の基本的性格と原理、キャリア教育の意義と内容を解説し、具体的な進路指導(キャリア教育)の計画・展開、実践例を概説する。 [授業外学修]配付資料に基づき、進路指導とキャリア教育の学習を深める。</p>		
③	<p>[テーマ] 生徒指導の意義と原理・方法(2) [内容]生徒指導における集団指導と個別指導及び課題解決的・予防的・成長を促す生徒指導、学校運営と生徒指導等について解説する。 [授業外学修]教科書p14～22や学習プリントをもとに学習を深める。</p>			⑪	<p>[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(1) [内容] 少年非行等・暴力行為・薬物乱用・喫煙・飲酒の現状と課題並びに対応、非行少年の処遇について解説する。 [授業外学修]教科書p163～172やWeb等で考察を深める。</p>		
④	<p>[テーマ] 児童生徒理解の意義と方法 [内容] 生徒指導と生徒理解の関係、児童生徒理解の方法・対象並びに技術の概要、また、教師の認知評定上の留意事項について解説する。 [授業外学修]教科書p40～41、66～74と学習プリントで学習を深める。</p>			⑫	<p>[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(2) [内容]いじめの現状と課題並びに対応について、また、いじめに関する関係法令・各種通知等について解説する。 [授業外学修]教科書p173～174やWebで文科省関係資料等に当たる。</p>		
⑤	<p>[テーマ] 教育相談と発達障害・生徒指導との関係 [内容] 生徒指導と教育相談・発達障害の関係、学校教育相談の特質・方法・対象・形態・技術について解説する。 [授業外学修]教科書p50～53、92～117を中心に学習を深める。</p>			⑬	<p>[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(3) [内容]不登校の歴史の変遷、昨今の不登校の現状と課題並びに対応について、また、不登校に関する関係法令・各種通知等について解説する。 [授業外学修]教科書p187～189やWebで文科省関係資料等に当たる。</p>		
⑥	<p>[テーマ] 生徒指導体制と生徒指導の進め方 [内容] 教職員の役割と守秘義務、生徒指導体制(組織・生徒指導主事)のあり方、年間指導計画と基本的な生活習慣と校内規律等を解説する。 [授業外学修]教科書p75～91、127～147と学習プリントで復習する。</p>			⑭	<p>[テーマ]個別の課題を抱える児童生徒への指導(4) [内容] その他の生徒指導上における課題(虐待・高校中途退学・自殺等)の現状と課題並びに対応と各種通知について解説する。 [授業外学修]教科書p175～190やWeb等で関係省庁資料に当たる。</p>		
⑦	<p>[テーマ]生徒指導と危機管理について [内容]学校における生徒指導と危機管理体制と安全教育、家庭・地域と関係機関との連携について解説する。 [授業外学修]教科書p148～151、208～218で学習を深める。</p>			⑮	<p>[テーマ]生徒指導に関する法制度等 [内容]懲戒と体罰・校則・出席停止等の課題と現状、関係法制度や各種通知等について解説する。 [授業外学修]教科書p192～197やWebで文科省資料等に当たる。</p>		
⑧	<p>[テーマ]教育課程と生徒指導 [内容]教育課程(教科・道徳教育・総合的な学習・特別活動等)と生徒指導・進路指導との関連について解説する。 [授業外学修]教科書P23～39で生徒指導と教育課程の相互関連をまとめる。</p>			⑯	<p>[テーマ]期末テスト [内容]授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(筆答試験)を行う。 [授業外学修]学習プリントを中心に学習を深める。</p>		
成績評価方法(方針)							
<p>定期の筆記試験の結果(70%)に、授業態度や授業内レポート・意欲・関心(30%)を加味して評価する。なお、提出されたレポート等は、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。学則に従い総欠席数が6回以上の者は評価対象外(放棄)とする。</p>							
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)			
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ①教師になろうという強い意欲のある学生の受講を基本とする。 ②授業態度や確認小テストも評価の観点とし加点し、次時に解説する。また、自己都合による20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ③資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席扱いとする。 ④授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る。詳細については、第一回授業時に紹介する。大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行うこと。 	
定期試験		◎			70%		
授業内レポート							
授業外レポート					実施せず		
演習・実技					評価対象外		
授業態度		◎	◎		30%		
出席					欠格条件		
関連科目	教育心理、教育相談、その他教職関連科目						
教科書	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)					参考書	学習指導要領(総則・特別活動、含解説)・教育小六法
オフィスアワー	火曜日11:00～12:30					その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	特別活動論 Theory of Extracurricular Activities (L.)				担当教員	金井・針生・末永
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	小学校、中学校での実務経験を有する。
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
学校における特別活動の制度的枠組みとその内容を踏まえたうえで、実際に、学級活動をデザインし、実践する。						iv、v
授業の一般目標						
①特別活動の目標と内容について理解する。 ②特別活動の指導計画を踏まえて、学級活動を計画する方法を身につける。 ③学活の実践を通して、特別活動の目標と内容に対する理解を体験的に深めるとともに、学級活動において求められる指導力を知る。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	特別活動の意義や原理、目的、内容、方法、理論等について理解する。				
■	情意的領域	児童生徒のよりよい人格の発達や有意義で、興味深く、充実した学校生活がおくれるような支援について、具体的に考えられるようにする。				
■	技能表現的領域	学級活動をデザインし、実施することにより、実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、教師として活用できるようにする。				
授業計画(全体)						
特別活動の意義、原理、目的、内容、方法、理論等を最初の4コマで扱い、5コマ目以降は、グループワークによる学級活動のデザインと模擬授業を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション、特別活動の内容と目標 [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を理解する。その後、特別活動の内容と目標を理解する。 [授業外学修] 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を読んでおく。			⑨	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	
②	[テーマ] 特別活動の史的変遷 [内容] 日本における特別活動がいかなる史的変遷のもとで展開し、成立してきたのかを理解する。 [授業外学修] 日本史を復習する。			⑩	[テーマ] 学級活動の実践 朝の会編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	
③	[テーマ] 学級・ホームルーム活動 [内容] 学級・ホームルーム活動の内容と目標、その意義、そしてその指導計画の手順について理解する。 [授業外学修] 学習指導要領解説の特別活動編を読む。			⑪	[テーマ] 学級活動の実践 朝の会編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	
④	[テーマ] 学校行事 [内容] 学校行事の内容と目標、その指導計画の手順について理解する。 [授業外学修] 学習指導要領解説の特別活動編を読む。			⑫	[テーマ] 学級活動の実践 文化祭編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	
⑤	[テーマ] 中間試験 [内容] 特別活動の意義、目的、内容、指導方法に関する知識の定着を図る。 [授業外学修] 特別活動の意義、目的、内容、指導方法の復習。			⑬	[テーマ] 学級活動の実践 文化祭編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	
⑥	[テーマ] 学級活動の目標の理解と授業設計 [内容] グループごとに、与えられたテーマにおける学級活動の目標を理解し、それを達成するための授業をデザインする。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。			⑭	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	
⑦	[テーマ] 学活の教材および学習指導案の作成 [内容] グループごとに、模擬授業において使用する教材および学習指導案を作成する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。			⑮	[テーマ] 学級活動の実践 修学旅行編② [内容] 作成した学習指導案に基づき、学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。	
⑧	[テーマ] 学級活動の実践 学校生活編① [内容] 作成した学習指導案に基づき、学校生活に関する学級活動を実施し、その内容を検討する。 [授業外学修] グループワークの進捗状況によって授業外での作業を行う。			⑯	[テーマ] まとめ [内容] 本授業の全体を振り返り、グループごとに作成した成果物を提出する。 [授業外学修] 本授業の全体を復習する。	
成績評価方法(方針)						
(1) 中間試験(50%)、(2) 授業内レポート・作成物(20%)、(3) 模擬授業(30%) なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 各評価結果については授業内でフィードバックする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。 ・第2～4回の講義回は予習(宿題)を必須とする。 ・指定している教科書は第1回講義回から使用する。毎回必ず持参すること。 ・学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。 ※学習環境を損なう行為については厳格に対処する。 ・履修希望者は第1回のオリエンテーションには必ず出席するものとし、欠席する場合には事前にオリエンテーション資料をもらいに来ること。
定期試験		◎			50%	
授業内レポート		◎	○	◎	20%	
授業外レポート						
演習・実技		◎	○	◎	30%	
授業態度					加減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	教職論A・B、教職課程論、生徒指導論、教育相談			関連資格	教員免許状(小・中・高)	
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年7月～平成29年告示』			参考書	授業時に紹介する。	
オフィスアワー	木曜日12:40～14:10 (研究室:A棟304)			その他	問合せ: tokkatsu304@gmail.com	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職総合演習 Seminar of Teaching Profession			担当教員	山谷・大内・渡邊・青沼・久能・荒井・入澤・金井・井上・針生・郡山・菊地博・末永・江口・江尻・高橋仁	
	開講内容	学年・学期	3・半期			授業方法
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
本演習では、学校教師として身につけることが必要な学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的知識と技能について実践的に養う。なお、後者においては、東日本大震災での教訓を踏まえ、児童生徒が身体の安全をおびやかされるような緊急事態に遭遇した場合でも安全に行動できるようにするために必要な指導のあり方も教授する。						iv、v
授業の一般目標						
学習指導に関しては、学校教師として授業を構想し、準備し実践するために必要な知識・技能を理解し、実践できる。生徒指導(集団行動)に関しては、児童生徒が集団としての行動を秩序正しく、かつ安全で能率的に行うことができるよう指導するために必要な知識・技能を理解し、かつ実践できる。本演習では班分けを行い、各担当教員により授業を実施する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な知識について理解する。				
■	情意的領域	内容を確実に理解するために授業に積極的に参加し、他の受講者と協力して学習を進めることができる。				
■	技能表現的領域	学習指導と生徒指導(集団行動)に関する基本的な技能を身につけ、実践できる。				
授業計画(全体)						
(1)演習は15名程度の班ごとに実施する。(2)学習指導に関しては授業の構想(5回)と授業の実践(5回)に分け、授業の構想では教材研究、授業デザイン、学習指導案作成などの要点と技法を概説し、学習指導案を作成する。授業の実践では、作成した学習指導案にもとづき模擬授業を実施する。(3)生徒指導(集団行動)に関しては、班合同で実施する。集団行動の基本的な行動様式と指導上の留意点について概説し、学生が相互に指導を実践する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 全体オリエンテーション [内容] 担当者の紹介、演習の内容・進め方、評価の方法、班編成 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] 授業の実践(3) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学修] 模擬授業についての振り返り	
②	[テーマ] 授業の構想(1)-授業構想のプロセス- [内容] 授業構想のプロセスと各段階での必要事項を理解する。 [授業外学修] 授業に即して授業構想について振り返り			⑩	[テーマ] 授業の実践(4) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学修] 模擬授業についての振り返り	
③	[テーマ] 授業の構想(2)-教材研究- [内容] 教育内容と教材の違い、教材理解(解釈)と教材づくりについて理解する。 [授業外学修] 授業に即して授業構想について振り返り			⑪	[テーマ] 授業の実践(5) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学修] 模擬授業についての振り返り	
④	[テーマ] 授業の構想(3)-授業のデザイン- [内容] 授業のデザインとは何か、授業のデザインの必要事項、手順などについて理解する。 [授業外学修] 授業に即して授業構想について振り返り			⑫	[テーマ] 集団行動の指導(1)-集団行動の基本的な行動様式- [内容] 集団行動の基本的な行動様式について理解する。 [授業外学修] 授業に即して集団行動指導について振り返り	
⑤	[テーマ] 授業の構想(4)-学習指導案の作成- [内容] 学習指導案とは何か、学習指導案の構成要素、作成手順と留意点について理解する。 [授業外学修] 授業に即して学習指導案作成について振り返り			⑬	[テーマ] 集団行動の指導(2)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点1- [内容] 基本的な行動様式(姿勢・方向転換・集合・整頓)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学修] 授業に即して集団行動指導について振り返り	
⑥	[テーマ] 授業の構想(5)-学習指導案の作成- [内容] 前回の授業を踏まえ、学習指導案を実際に作成する。 [授業外学修] 学習指導案の完成			⑭	[テーマ] 集団行動の指導(3)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点2- [内容] 基本的な行動様式(列の作り方)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学修] 授業に即して集団行動指導について振り返り	
⑦	[テーマ] 授業の実践(1) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学修] 模擬授業についての振り返り			⑮	[テーマ] 集団行動の指導(4)-基本的な行動様式の要領と指導上の留意点3- [内容] 基本的な行動様式(開列、行進、足踏み、礼)の要領と指導上の留意点を実践的に理解する。 [授業外学修] 授業に即して集団行動指導について振り返り	
⑧	[テーマ] 授業の実践(2) [内容] 作成した学習指導案にもとづき、模擬授業を実施する。 [授業外学修] 模擬授業についての振り返り			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
学習指導および生徒指導(集団行動)の担当者が、受講者の課題への取り組み状況、積極性、課題の達成度について協議し、総合的に成績を評価する。課題の達成度等は各担当者の研究室において随時、理由を含めて解説する。欠席に関してはやむを得ない理由がある場合を除き、原則として認めない。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・本演習で取り上げる内容は、学校教師として必ず身につけておかなければならないものであるため、各時間ともに真剣に受講して欲しい。また、受講者の主体的な授業参加が演習の充実度を左右するので、一人ひとりが演習を運営するという自覚をもって望んでほしい。
定期試験					実施しない	
授業内レポート					実施しない	
授業外レポート					実施しない	
演習・実技		◎	◎	◎	80%	
授業態度		○	○	○	20%	
出席					欠格条件	
関連科目	既習の教職関連科目			関連資格	教員免許状(全免許)	
教科書	学習指導要領、同解説(保健体育)、中高保健体育教科書			参考書	授業時に紹介する	
オフィスアワー	山谷: 火曜日午前10時20分～午前11時50分			その他		

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職総合実技 Exercise of teaching profession(P.A)			担当教員	入澤裕樹 他	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	高校での教員経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数			1
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
本授業は、将来教職に就くことを強く希望している学生を対象とし、学校体育の現場における体育授業に関わる基本的な技術・技能の習得を目指すものである。学生自身に各授業回に受講する種目を選択させ展開していく。					i、iii	
授業の一般目標						
保健体育の教員として、授業に関わる各実技種目の基本的な技術・技能を習得する。また、各実技種目において、履修計画の中で選択的に不得手なものを受講していき、その克服していく過程において、運動が苦手な生徒に対する実技指導に必要な要点を学習する。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	各実技種目の要点を理解する。					
■ 情意的領域	「できる」喜びを身をもって知る。					
■ 技能表現的領域	体育授業に関わる基本的な技術・技能を身につける。					
授業計画(全体)						
種目は教員採用試験内容を想定し、【ハードル走、マット運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、柔道、剣道、ダンス等】から選択制とする。5種目を選択し、それぞれ3回ずつ受講するものとする。(5種×3講義=15コマ相当)出席については各実技担当教員の受講認定印を所定の出席票に記録する形で進めていく。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、目標の進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意 [授業外学修] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(武道②) [内容] 柔道・剣道に関する「わざ」についての基本的技術・技能を学ぶ。 [授業外学修] 武道に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。	
②	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(ハードル走①) [内容] ハードル走における「抜き足」に関する正しい基本的技術・技能を学ぶ。 [授業外学修] ハードル走に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。			⑩	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(武道①) [内容] 乱取りや切り返しなどを繰り返し行い、「わざ」の技術向上を図る。 [授業外学修] 武道に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。	
③	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(ハードル走②) [内容] ハードル走における「踏切位置」に関する正しい基本的技術・技能を学ぶ。 [授業外学修] ハードル走に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。			⑪	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(水泳・マット運動①) [内容] クロールの基本的技術・技能を学ぶ。【水泳】 前転(後転)に関する基本的技術・技能を学ぶ。【マット運動】 [授業外学修] 各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。	
④	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(ハードル走③) [内容] 複数のハードルを連続して越えることができるように、リズムと姿勢について正しい基本的技術・技能を学ぶ。 [授業外学修] ハードル走に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。			⑫	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(水泳・マット運動②) [内容] 平泳ぎの基本的技術・技能を学ぶ。【水泳】 開脚(開脚)前転(後転)に関する基本的技術・技能を学ぶ。【マット運動】 [授業外学修] 各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。	
⑤	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(ダンス①) [内容] フォークダンスについての基本的技術・技能を学ぶ。 [授業外学修] ダンスに関する体育実技指導書を熟読しておくこと。			⑬	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(水泳・マット運動③) [内容] ターンの基本的技術・技能を学ぶ。【水泳】 「わざ」の組み合わせに関する基本的技術・技能を学ぶ。【マット運動】 [授業外学修] 各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。	
⑥	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(ダンス②) [内容] 創作ダンスについての基本的技術・技能を学ぶ。 [授業外学修] ダンスに関する体育実技指導書を熟読しておくこと。			⑭	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(球技①) [内容] サーブに関する基本的技術・技能を学ぶ。【バレー】 ドリブルに関する基本的技術・技能を学ぶ。【バスケット】 [授業外学修] 各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。	
⑦	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(ダンス③) [内容] 現代的なダンスについての基本的技術・技能を学ぶ。 [授業外学修] ダンスに関する体育実技指導書を熟読しておくこと。			⑮	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(球技②) [内容] アンダー(オーバー)ハンドパスの基本的技術・技能を学ぶ。【バレー】 チェスト(バウンド)パス等の基本的技術・技能を学ぶ。【バスケット】 [授業外学修] 各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。	
⑧	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(武道①) [内容] 柔道・剣道に関する作法について基本的技術・技能を学ぶ。 [授業外学修] 武道に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。			⑯	[テーマ] 基本的技術・技能の習得(球技③) [内容] スパイクの基本的技術・技能を学ぶ。【バレー】 シュートの基本的技術・技能を学ぶ。【バスケット】 [授業外学修] 各種目に関する体育実技指導書を熟読しておくこと。	
成績評価方法(方針)						
成績評価は、履修した各実技種目における到達レベルを総合的に判断する。(評価割合80%) 各種目の要点を整理したレポートを提出する。(評価割合20%)レポートはコメントを付したうえで返却する。 授業中における態度は減点対象とし、出席については欠格条件とする。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験		◎			20%	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技		○	◎	◎	80%	
授業態度			◎			
出席					欠格条件	
関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅲ、陸上、器械運動、水泳、バレーボール、バスケットボール、柔道、剣道、ダンスⅠ				関連資格	教員免許状(保健体育)
教科書	特になし				参考書	
オフィスアワー	木曜日 14:20~15:50				その他	研究室:A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職実践演習【中高教(保体)】				担当教員	大内・井上・山谷・針生・郡山・渡邊・青沼・入澤・金井・末永・江尻・関矢
	Seminar for Teaching Profession					
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	演習	実務経験の有無	—
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
次の4テーマについて演習を行う。①教師としての使命感、責任感、教育的愛情②社会性、対人関係能力③生徒理解、学級経営④教科の指導力。各テーマに関する講義ののち、自己評価シート作成および教育実習の振り返りを行う。学校2校を訪問し学校現場の実践を観察。自分の教育実習との比較、各学校の対応等を発表する。						i、iv、v
授業の一般目標						
教職課程の履修を通じてこれまでに学んだ知識技能と教育実習、また、学校現場の実践の観察から得られた教科指導、生徒指導に関する知見を有機的に統合することによって、使命感や教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質能力の最終的な形成を図ると共に、あわせてその確認を行う。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	教職の実践的指導力について理解する。				
■	情意的領域	教職に実践的指導力についての理解と指導力形成に向けて、各学校の実践を意欲的に観察する。				
■	技能表現的領域	教職の実践的指導力について基礎的・基本的技能を習得する。				
授業計画(全体)						
(1)演習は20名程度の班毎に実施する。(2)教育実習のレポート作成、その発表を行う。(3)各学校に訪問する場合の観察観点や留意事項を作成する。(4)各学校を訪問し、その実践を観察する。(5)(3)で作成した目標と(4)の観察等を比較し、また、自分の教育実習での経験を踏まえ、レポートの作成、その発表を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の説明 [授業外学修]シラバスを熟読する。				⑨	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。
②	[テーマ]本演習の取り組み [内容] 本演習に対する基本的な取り組みの意識について説明する。訪問校の調査をする。 [授業外学修]自身の教育実習の内容をまとめる。				⑩	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。
③	[テーマ] 教育実践自己評価シートの作成 [内容] 教育実習の振り返り。教育実践自己評価シートを作成し、訪問校における観察の観点や留意事項を作成する。 [授業外学修]自分、班員の教育実習で気づいたことをまとめておく。				⑪	[テーマ] 学校参観の振り返り。 [内容] 学校参観の振り返りをし、レポートを作成する。 [授業外学修]各学校での観察をまとめる。
④	[テーマ] 訪問校の概要と留意点の説明。 [内容] 訪問校の概要の説明並びに各校毎の留意事項の確認をする。 [授業外学修]訪問する学校の概要を事前に調査しておく。				⑫	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学修]発表レポートの作成。
⑤	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。				⑬	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学修]発表レポートの作成。
⑥	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。				⑭	[テーマ] グループ討議 [内容] 各個人毎に作成したレポートを基にした発表およびグループ討議。 [授業外学修]発表レポートの作成。
⑦	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。				⑮	[テーマ] 良い教師になるための課題の再確認 [内容] 本授業の目標をテーマにしたグループ討議。良い教師になるための今後の課題等を再確認する。 [授業外学修]発表レポートをまとめる。
⑧	[テーマ] 各学校での実践を観察する。 [内容] 各学校の実践を観察し、その内容をまとめる。 [授業外学修]各学校の概要の調査、観察後のまとめの作成。				⑯	[テーマ] まとめ [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)						
課題への取り組み状況、各学校の実践を観察する姿勢など、総合的に評価する。欠席は原則として認めない。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 本演習は、教員を目指す学生が中心となるはずなので、各講義とも真剣に受講すること。特に各高等学校での公開授業の参観をすることで、「教師になる」という高い意識を持ち行動すること。レポートはその都度評価し、次の授業に於いて内容を検討する。
定期試験					実施しない	
授業内レポート		◎		◎	30%	
授業外レポート			○		10%	
演習・実技		◎	◎	◎	30%	
授業態度		○	◎	○	30%	
出席					欠格条件	
関連科目	教育実習Ⅲ、Ⅳ				関連資格	教員免許状
教科書	使用しない				参考書	授業時に紹介する
オフィスアワー	火曜日 11:50～12:40				その他	問い合わせ先 A303 大内研究室

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職キャリア演習 I Special Seminar for Teacher I			担当教員	山谷幸司・荒井龍弥・金井里弥・末永精悦
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本演習では、授業について多角的に考えることができる力と基礎的な授業実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある学校を訪問し、先生方の授業実践を参観するとともに、学生自身が授業実践を体験する。この体験をとおして授業、あるいは学校や教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。					iii、iv、v
授業の一般目標					
学校教師の職務や授業実践に必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識・技能を身につける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	学校教師の職務や授業実践に必要な力について理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知識・技能を理解する。				
■ 情意的領域	学校教師としてのものの見方、考え方に興味をもつとともに、学校教師になるための各自の課題を主体的に考えることができる。				
■ 技能表現的領域	授業実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。				
授業計画(全体)					
学校での6～9日間の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに学校訪問時に体験する「生徒への指導実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと。			⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 学校を訪問し、授業を参観するとともに、中学校の現状や課題を理解する。 [授業外学修] 体験のふりかえり
②	[テーマ] 超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるために克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学修] 時間内に完了しなかったデータ整理			⑩	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校訪問におけるスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学修] 校訪問のスケジュール、留意事項等を確認する。
③	[テーマ] 超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるために克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学修] 時間内に完了しなかったデータ整理			⑪	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校・小学校における指導実践① [授業外学修] 体験のふりかえり
④	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解① [内容] 学習指導要領における連携授業単元の規定内容を理解する。 [授業外学修] 学習指導要領の該当部分を熟読する。			⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の中学校・小学校における指導実践② [授業外学修] 体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 学習指導要領・指導法の理解② [内容] 参考資料にもとづき連携授業単元の指導内容や指導方法を調べる。 [授業外学修] 学習内容のふりかえり			⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の中学校・小学校における指導実践③ [授業外学修] 体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学修] 連携プログラムの内容・スケジュールを確認する。			⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(4時間扱いの4時間目) [内容] 連携先の中学校・小学校における指導実践④ [授業外学修] 体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する。 [授業外学修] 学習内容のふりかえり			⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学修] 体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の中学校・小学校を訪問し、授業を参観するとともに、学校の現状や課題を理解する。 [授業外学修] 体験のふりかえり			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。提出されたレポートは必要に応じて、コメントを付して返却する。また、成績は各担当者の研究室において随時、理由を含めて開示する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除きみとめない。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施せず
授業内レポート					実施せず
授業外レポート		△	△	△	15%
演習・実技		◎	◎	◎	70%
授業態度			△		15%
出席					欠格条件
関連科目	教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度			関連資格	教員免許状(中高/保健体育・小学校)
教科書	小学校・中学校学習指導要領			参考書	中学校体育実技(学研)
オフィスアワー	山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分			その他	特になし

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教職キャリア演習Ⅱ Special Seminar for Teacher II			担当教員	渡邊康男・江口千恵
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	演習	実務経験の有無 学校教員として勤務経験を有する。
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何か。本演習では、養護教諭・栄養教諭の職務について多角的に考えることができる力とその基礎的な実践力を養うことをねらいとして、本学と連携関係のある小学校を訪問し、先生方の実践を参観するとともに、学生自身が実践を体験する。この体験をとおして教師の仕事についての理解の深化を図ってほしい。養護教諭・栄養教諭免許希望者限定。					i、iii
授業の一般目標					
養護教諭・栄養教諭になるために必要な力とは何かを、上記の体験を通じて理解する。また、養護教諭・栄養教諭として必要となる基礎的な知識・技能を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	養護教諭・栄養教諭に必要な力について理解する。また、養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な基礎的な知識を理解する。			
■	情意的領域	養護教諭・栄養教諭としてのものの見方、考え方に興味をもつとともに、養護教諭・栄養教諭になるための各自の課題を主体的に考えることができる。			
■	技能表現的領域	養護教諭・栄養教諭の職務実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。			
授業計画(全体)					
小学校での2回の体験活動を中心に、そのための事前準備、事後のふりかえり等により授業を構成する。とくに第二回目以降の学校訪問時に体験する「職務実践」の準備については、学生自身が主体的かつクリエイティブに取り組むことになる。なお、演習での様々な活動はグループ単位で行う場合が多いので、相互に協力する姿勢が強く求められる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業担当者の紹介、演習の内容・スケジュールを理解する。 [授業外学修] シラバスを熟読しておくこと。			⑨	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学修] 体験のふりかえり
②	[テーマ] 超えなければならない「壁」を知ろう① [内容] 学校教員になるために克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学修] 時間内に完了しなかったデータ整理			⑩	[テーマ] 年間保健室経営計画・年間給食指導計画等の理解 [内容] 保健室経営計画、給食指導計画等を通して、連携先の小学校における養護教諭・栄養教諭の職務に係わる学校経営計画を理解する。 [授業外学修] 学習内容のふりかえり
③	[テーマ] 超えなければならない「壁」を知ろう② [内容] 学校教員になるために克服しなければならない各自の課題を確認する。 [授業外学修] 時間内に完了しなかったデータ整理			⑪	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション② [内容] 第二回学校訪問のスケジュール、留意事項等を理解する。 [授業外学修]
④	[テーマ] 養護教諭・栄養教諭の職務の理解① [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学修] 学習内容のふりかえり			⑫	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践① [授業外学修] 体験のふりかえり
⑤	[テーマ] 養護教諭・栄養教諭の職務の理解② [内容] 養護教諭・栄養教諭の職務を、学校現場での実際にそくして理解する。 [授業外学修] 学習内容のふりかえり			⑬	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの2時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践② [授業外学修] 体験のふりかえり
⑥	[テーマ] 学校訪問オリエンテーション① [内容] 連携プログラムの内容・スケジュールを理解する。授業担当チームを作る。 [授業外学修]			⑭	[テーマ] 第二回学校訪問(3時間扱いの3時間目) [内容] 連携先の小学校における指導実践③ [授業外学修] 体験のふりかえり
⑦	[テーマ] 授業の見方 [内容] 授業の見方、指導の仕方、授業記録の意義、記録作成の方法を理解する(担当:学外講師)。 [授業外学修] 学習内容のふりかえり			⑮	[テーマ] 学校訪問体験のふりかえり [内容] 受講者各自の活動体験をふりかえり、学んだことがらを共有する。 [授業外学修] 体験レポートの作成
⑧	[テーマ] 第一回学校訪問(2時間扱いの1時間目) [内容] 連携先の小学校を訪問し、先生方へのインタビュー等を通じて、養護教諭・栄養教諭の職務の現状や課題を理解する。 [授業外学修] 体験のふりかえり			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
演習における諸課題に対する日常的な取り組み方を重視し、それに最終レポートの内容を加味する。欠席に関しては、やむを得ない場合を除き、原則みとめない。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施せず
授業内レポート					実施せず
授業外レポート	○				25%
演習・実技	◎	◎	◎		50%
授業態度		○			25%
出席					欠格条件
関連科目	教職論A・B、教育の基礎理論、教育の心理、教育の制度			関連資格	
教科書	使用しない			参考書	授業時に紹介する
オフィスアワー	木 10:20-11:50			その他	A315 渡邊研究室

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	保健体育科授業研究 I Health and Physical Education Research I			担当教員	小浜 明・入澤裕樹	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	中学・高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
担当教員の中学・高校での実務経験を活かし、保健体育科の教員として必要な知識や授業方法を身に付けるために、保健及び体育の学習指導をみる、考える、実際に行ってみる。					i、iii、v	
授業の一般目標						
保健と体育の学習指導を、「みる」、「考える」を通して、実際に「行ってみる」といった実習形式のプレゼンテーションから、実践的指導力を養う。プレゼンテーション後には授業の省察として、ディスカッションをおこなう。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる				
■	情意的領域	保健・体育の学習指導について興味・関心を示し、意欲的な態度で受講することができる				
■	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる				
授業計画(全体)						
保健・体育の授業を実際に見学したり、ビデオを視聴して、授業分析を行う。この分析をベースとしながら、アクティブラーニングの観点による協同作業としてのグループワークでの指導案の作成を行い、保健体育の学習指導のポイント、課題等について議論をおこなったり、実際に授業(模擬授業)をおこなう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学修]シラバスの内容を事前に把握すること			⑨	[テーマ] 保健授業を分析するー心身の機能の発達と心の健康 [内容] 心身の機能の発達と心の健康領域の授業を分析する [授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく	
②	[テーマ] 体育授業を分析するー球技(ネット型) [内容] 球技領域の授業を分析する [授業外学修]球技領域で取り扱われる領域について調べておく			⑩	[テーマ] 保健授業を分析するー健康と環境 [内容] 健康と環境領域の授業を分析する [授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく	
③	[テーマ] 体育授業を分析するー球技(ゴール型) [内容] 球技領域の授業を分析する [授業外学修]球技領域で取り扱われる種目について調べておく			⑪	[テーマ] 保健授業を分析するー傷害の防止 [内容] 傷害の防止領域の授業を分析する [授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく	
④	[テーマ] 体育授業を分析するー陸上競技 [内容] 陸上競技領域の授業を分析する [授業外学修]陸上競技で取り扱われる内容について調べておく			⑫	[テーマ] 保健授業を分析するー健康な生活と疾病の予防 [内容] 健康な生活と疾病の予防領域の授業を分析する [授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく	
⑤	[テーマ] 体育授業を分析するー器械運動 [内容] 器械運動領域の授業を分析する [授業外学修]器械運動で取り扱われる内容を調べておく			⑬	[テーマ] 保健授業を分析するー現代社会と健康 [内容] 現代社会と健康領域の授業を分析する [授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく	
⑥	[テーマ] 体育授業を分析するー体操(体づくり運動) [内容] 体操(体づくり運動)領域の授業を分析する [授業外学修]体づくり運動で取り扱われる内容について調べておく			⑭	[テーマ] 保健授業を分析するー生涯を通じる健康 [内容] 生涯を通じる健康領域の授業を分析する [授業外学修]テーマに関する内容について事前に調べておく	
⑦	[テーマ] 体育授業を分析するー球技(ベースボール型) [内容] 球技領域の授業を分析する [授業外学修]球技領域で取り扱われる領域について調べておく			⑮	[テーマ] グループワークでの指導案作成② [内容] 前時までの分析を基に保健の指導案作成を行う [授業外学修]教育実習や研究授業等の指導案を事前に読んでおく	
⑧	[テーマ] グループワークでの指導案作成① [内容] 前時までの分析を基に体育の指導案作成を行う [授業外学修]教育実習や研究授業等の指導案を事前に読んでおく			⑯	[テーマ] まとめ [内容] 前時までの内容を振り返り、レポートを作成する。 [授業外学修]前回までの資料をすべて整理しておくこと	
成績評価方法(方針)						
討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する。自身の模擬授業の振り返り等に関するレポートを作成する。提出されたレポートは講評を付して返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・教師になることを強く希望する学生のみを受講対象者とする。
定期試験					30%	
授業内レポート		○				
授業外レポート						
演習・実技		◎	◎	◎	70%	
授業態度			○			
出席			○		欠格条件	
関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅱ(選択履修)			関連資格	教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養)	
教科書				参考書	中・高保体教科書,中・高校学習指導要領解説・保健体育編	
オフィスアワー	木曜日 14:20~15:50			その他	研究室:A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		保健体育科授業研究Ⅱ Health and Physical Education Research II			担当教員	小浜 明・入澤裕樹
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	中学・高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>中学・高校での実務経験を有する担当教員が、保健体育科の教員として必要な知識や授業方法を身につけるために、保健及び体育の学習指導の構成を考えさせ、模擬授業を実際に行わせる。</p>						i、iii、v
授業の一般目標						
保健と体育の学習指導について考え、「授業書」等を参考に模擬授業を実際に行うことで実践的指導力を養う。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	保健・体育の学習指導についての基本的な考え方と具体的な進め方を理解することができる				
■	情意的領域	保健体育の学習指導について興味・関心を示し、意欲的な態度で受講することができる				
■	技能表現的領域	保健・体育の学習指導についての具体的な進め方を実践することができる				
授業計画(全体)						
保健体育科授業研究Ⅰで実施した内容をベースとしながら、保健体育の学習指導についての授業(模擬授業)をおこなう。授業者は指導案作成はもちろんのこと、授業揭示物等の教具等についても自作する。授業見学者は保健体育科授業研究Ⅰで実施した分析シートを基に、他者の授業評価を実施することで、自身の実践的指導力を養う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意 [授業外学修] シラバスの内容を事前に熟読すること			⑨	[テーマ] 体操(体づくり運動)の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 体操(体づくり運動)領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 体づくり運動に関する学習指導要領を熟読しておく	
②	[テーマ] 模擬授業の作成に関する指導① [内容] 保健体育各領域についての指導案の作成ポイントや模擬授業の設計について説明する [授業外学修] 過去の指導案等の資料について調べておく			⑩	[テーマ] 球技の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 球技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 球技に関する学習指導要領の範囲を熟読すること	
③	[テーマ] 模擬授業の作成に関する指導② [内容] 保健体育各領域についての指導案を作成し、発表する [授業外学修] 過去の指導案等の資料について調べておく			⑪	[テーマ] 水泳の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 水泳領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 水泳に関する学習指導要領の範囲を熟読すること	
④	[テーマ] 陸上競技の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 陸上競技領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 陸上競技に関する学習指導要領の範囲を熟読すること			⑫	[テーマ] 健康な生活と疾病の予防の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 健康な生活と疾病の予防領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 「授業書」を読み、関連する内容について調べておく	
⑤	[テーマ] 器械運動領域の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 器械運動領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 器械運動に関する学習指導要領の範囲を熟読すること			⑬	[テーマ] 現代社会と健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 現代社会と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 「授業書」を読み、関連する内容について調べておく	
⑥	[テーマ] 心身の機能の発達と心の健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 心身の機能の発達と心の健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 「授業書」を読み、関連する内容について調べておく			⑭	[テーマ] 生涯を通じる健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 生涯を通じる健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 「授業書」を読み、関連する内容について調べておく	
⑦	[テーマ] 健康と環境の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 健康と環境領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 「授業書」を読み、関連する内容について調べておく			⑮	[テーマ] 社会生活と健康の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 社会生活と健康領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 「授業書」を読み、関連する内容について調べておく	
⑧	[テーマ] 傷害の防止の授業をおこなう(模擬授業) [内容] 傷害の防止領域の模擬授業をおこない、授業を評価する [授業外学修] 「授業書」を読み、関連する内容について調べておく			⑯	[テーマ] 模擬授業の振り返り [内容] 前時までの内容を振り返り、レポートを作成する [授業外学修] 前時までの内容についての資料等を整理しておく	
成績評価方法(方針)						
討議・模擬授業等における、認識・技能の変容を総合的に評価する。自身の模擬授業の振り返り等に関するレポートを作成する。提出されたレポートは講評を付して返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・教師になることを強く希望する学生のみを受講対象者とする。
定期試験					30%	
授業内レポート		○				
授業外レポート						
演習・実技		◎	◎	◎	70%	
授業態度			○			
出席			○		欠格条件	
関連科目	保健体育科教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(免許取得に必要な講義) 保健体育科教育論Ⅳ・保健体育科授業研究Ⅰ(選択履修)			関連資格	教員免許状(中高保体、参考:養護、栄養)	
教科書				参考書	中・高保体教科書, 中・高校学習指導要領解説・保健体育編	
オフィスアワー	木曜日 14:20~15:50			その他	研究室:A棟3階302 yu-irisawa@sendai-u.ac.jp	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育実習 I Student-Teacher Training I (F. E.)			担当教員	山谷・大内・久能・郡山・末永・渡邊・入澤・金井
開講内容	学年・学期	3-4・半期	授業方法	実務経験の有無	小・中・特別支援学校での教員経験を有する。
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
4年次で実施される教育実習(Ⅲ・Ⅳ)の事前指導(実習現場の理解、授業設計の基礎、教育実習へのこころ構え等)及び事後指導を行う。教育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。					iv、v
授業の一般目標					
教育実習に参加する基礎的基本的な知識・技能を習得し、併せて教育実習に臨む心構え、態度等を身に付ける。また、教育実習を振り返り、学校教師になるための自己の課題を理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	教育実習の意義を理解するとともに、教育実習に必要な基礎的基本的な知識を習得するとともに、学校教師になるための自己の課題が分かる。				
■ 情意的領域	教育実習に参加する意欲をもつ。				
■ 技能表現的領域	教育実習の基礎的基本的技能を習得する。				
授業計画(全体)					
教育実習の意義、教育実習現場の理解(中学校・高校)、教育実習の心構え、教育実習の方法・流れ、学習指導案の作成、教育実習事後報告書の作成等					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(3年)(山谷・渡邊・金井) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法 [授業外学修] シラバスを読んでおくこと。			⑨	[テーマ] 教育実習の反省と総括(山谷・渡邊・金井) [内容] 教育実習の反省と総括を行い、必要書類を期日までに提出する。 [授業外学修] 教育実習後の自己の課題を考える
②	[テーマ] 教育実習の意義と内容(大内) [内容] 教育実習の意義と内容を理解する。 [授業外学修] 授業に即して実習の意義等について振り返り			⑩	[テーマ] [内容] [授業外学修]
③	[テーマ] 実習現場の理解(末永) [内容] 中学校・高校の教育現場の現状を理解する。 [授業外学修] 授業に即して教育現場の現状等について振り返り			⑪	[テーマ] [内容] [授業外学修]
④	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(保健)(入澤) [内容] 保健指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学修] 授業に即して保健指導のあり方について振り返り			⑫	[テーマ] [内容] [授業外学修]
⑤	[テーマ] 授業設計と指導技術の基礎(体育)(郡山) [内容] 体育指導のあり方と学習指導案の作成法について理解する。 [授業外学修] 授業に即して体育指導のあり方について振り返り			⑬	[テーマ] [内容] [授業外学修]
⑥	[テーマ] オリエンテーション(4年)(山谷・渡邊・金井) [内容] 必要書類・教育実習日誌等の書き方、教育実習巡回指導などについて理解する。 [授業外学修] 指導された内容の確認			⑭	[テーマ] [内容] [授業外学修]
⑦	[テーマ] 教育実習の心構え(1)(久能) [内容] 教育実習の流れ・方法、教育実習をめぐる学校現場の「声」について理解する。 [授業外学修] 授業に即して実習の心構え等について振り返り			⑮	[テーマ] [内容] [授業外学修]
⑧	[テーマ] 教育実習の心構え(2)(山谷) [内容] 教育実習に臨むにあたっての心構え、留意事項について理解する。 [授業外学修] 授業に即して実習の心構え等について振り返り			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
授業態度及び実習報告書を中心に評価する。実習報告書はコメントを付して返却する。成績は担当者の研究室において随時、理由を含めて開示する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施しない
授業内レポート					実施しない
授業外レポート	○	△	○		80%
演習・実技					実施しない
授業態度	△	○	△		20%
出席					欠格条件
関連科目	3年次までに開講する教職関連科目すべて			関連資格	教員免許状(中高保体・高福祉)
教科書	仙台大学編『教育実習の手引き』、学習指導要領			参考書	授業時に紹介する。
オフィスアワー	山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育実習Ⅲ Student-Teacher Training Ⅲ (F. E.)			担当教員	山谷・大内・久能・末永・入澤・金井・郡山	
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実務経験の有無	小学校・中学校・高校での教員経験を有する	
	履修の方法	選択	単位数			2
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。					i、ii、iii、iv、v	
授業の一般目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。 ・生徒の実態、学校の組織・運営体制を理解する。 ・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。 						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	学校教員として必要な資質や能力を確認し、学校教員の職務を遂行するために必要な基礎的な知識を身につける。					
■ 情意的領域	学校教員としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を見つける。					
■ 技能表現的領域	学校教員の職務を遂行するために必要な基礎的な技能を身につける。					
授業計画(全体)						
高校における保健体育科・福祉科の2週間以上の教育実習を実施する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 教育実習 [内容] 実習のスケジュールの確認、生徒及び授業の観察 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑨	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
②	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営・授業の観察 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑩	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
③	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営・授業の観察 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑪	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
④	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成 [授業外学修]実習の副帰りと課題の確認・実施			⑫	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
⑤	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑬	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
⑥	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑭	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
⑦	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑮	[テーマ] 教育実習 [内容] 教育実習全体の振り返りと学校教員になるための課題の確認 [授業外学修]実習の振り返り	
⑧	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑯	[テーマ] 教育実習 [内容] 実習日誌の完成、実習日誌等に示されたレポートの作成 [授業外学修]実習の振り返り	
成績評価方法(方針)						
実習校における成績評価を基礎とし、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。評価の結果は随時、担当者の研究室において開示し、内容を説明する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート		△	△	△	5%	
演習・実技		◎	◎	◎	95%	
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	教職関連科目すべて				関連資格	教員免許状(高校)
教科書	学習指導要領、高校の保健体育科の教科書				参考書	特になし
オフィスアワー	山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分				その他	特になし

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	教育実習Ⅳ Student-Teacher Training IV (F. E.)			担当教員	山谷・大内・久能・末永・入澤・金井・郡山	
開講内容	学年・学期	4・集中	授業方法	実習	実務経験の有無	小学校・中学校・高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接ふれ合い、指導教員の指導を受けながら教育者に求められる知識、技能、態度を修得する。そして、実際の教育指導実践を通して、子ども理解や教者としての使命感を養う。					i、ii、iii、iv、v	
授業の一般目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教員の職務について理解するとともに、教師として必要な知識・技能・態度を身につける。 ・生徒の実態、学校の組織・運営体制を理解する。 ・学校教員になるために克服しなければならない自己の課題を明確にする。 						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	学校教員として必要な資質や能力を確認し、学校教員の職務を遂行するために必要な基礎的な知識を身につける。					
■ 情意的領域	学校教員としての適性を確認するとともに、学校教員になるために必要な自己の課題を見つける。					
■ 技能表現的領域	学校教員の職務を遂行するために必要な基礎的な技能を身につける。					
授業計画(全体)						
中学校・高校における保健体育科の3週間以上の教育実習を実施する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 教育実習 [内容] 実習のスケジュールの確認、生徒及び授業の観察 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑨	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
②	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営・授業の観察 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑩	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
③	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営・授業の観察 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑪	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
④	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成 [授業外学修]実習の副帰りと課題の確認・実施			⑫	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
⑤	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑬	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
⑥	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑭	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施	
⑦	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒・学校運営の観察、授業への参加、学習指導案の作成 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑮	[テーマ] 教育実習 [内容] 教育実習全体の振り返りと学校教員になるための課題の確認 [授業外学修]実習の振り返り	
⑧	[テーマ] 教育実習 [内容] 生徒指導・学校運営への参加、学習指導案の作成、学習指導案に基づく授業の実施 [授業外学修]実習の振り返りと課題の確認・実施			⑯	[テーマ] 教育実習 [内容] 実習日誌の完成、実習日誌等に示されたレポートの作成 [授業外学修]実習の振り返り	
成績評価方法(方針)						
実習校における成績評価を基礎とし、教育実習日誌等の内容を加味して評価する。評価の結果は随時、担当者の研究室において開示し、内容を説明する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・中学校、高校の保健体育免許取得希望者を対象とする。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート		△	△	△	5%	
演習・実技		◎	◎	◎	95%	
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	教職関連科目すべて			関連資格	教員免許状(中・高)	
教科書	学習指導要領、中高の保健体育科の教科書			参考書	特になし	
オフィスアワー	山谷:火曜日午前10時20分～午前11時50分			その他	特になし	

6. 自由科目

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	野外教育・活動論 Outdoor Education & Outdoor Activity			担当教員	井上 望	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無	キャンプ指導および野外教育指導者育成の経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
野外教育及び野外活動に関する基礎的な理論と現場における実践例(担当教員の実務経験から)を紹介する。前半は、野外教育及び野外活動についての考え方や用語を整理し、冒険教育や環境教育の歴史や実践例を学ぶ。後半は、組織キャンプの意義や組織、指導者や参加者、自然環境などについて学ぶ。					i、ii、iii、iv、v	
授業の一般目標						
野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を理解する。野外教育のプログラム及び指導法について理解し、指導者としての資質を高める。自然の中で活動することの意味を認識し、適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自然体験活動について、自分なりの意見を持ち、他者に伝えられるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できるようになる。				
■	情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。				
■	技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。				
授業計画(全体)						
前半は配布資料とパワーポイントの説明によって授業を進める。後半は「キャンプディレクター2級」の資格取得に必要なカリキュラムに沿って授業を進める。講義だけではなく、グループワークやディスカッション、スタンプの作成・発表などを行う。また、毎回授業の終わりにリアクションペーパーに感想や簡単な課題を記入する。最終回には、授業内容の確認のための筆記試験を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、キャンプインストラクターの資格について説明する。 [授業外学修] シラバスを熟読する。			⑨	[テーマ] キャンプと人 [内容] キャンプ参加者の特性や対象に応じた対応について説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。	
②	[テーマ] 野外教育と野外活動 [内容] グループワークのための班分け、自己紹介、野外教育・野外活動についての用語や概念について説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。			⑩	[テーマ] キャンプと自然 [内容] キャンプにおける自然との関わり方や、人間と自然の関係の歴史の変遷を説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。	
③	[テーマ] 冒険教育とは [内容] 冒険教育の考え方やプログラム例を説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。			⑪	[テーマ] キャンプのルールとマナー [内容] キャンプにおけるルールやマナーの必要性、自然への配慮の方法を説明する。 [授業外学修] 必要に応じてグループで集まり、課題に取り組む。	
④	[テーマ] 冒険教育の実際 [内容] 冒険教育団体の理念・歴史・活動内容などを説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。			⑫	[テーマ] Leave No Trace [内容] 自然の中で活動する時の7つの原則(技能や倫理観)を説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。	
⑤	[テーマ] 環境教育とは [内容] 環境教育の考え方や歴史、プログラム例を説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。			⑬	[テーマ] キャンプの安全管理1 [内容] キャンプにおけるリスクマネジメントの考え方について説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。	
⑥	[テーマ] 環境教育の実際 [内容] 環境教育プログラムを体験し、パッケージドプログラムについて理解する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。課題レポートに取り組む。			⑭	[テーマ] キャンプの安全管理2 [内容] キャンプ中に起こりえる事態に対する対処法について説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。	
⑦	[テーマ] キャンプの特性 [内容] キャンプの意義や目的、組織の種類について説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。			⑮	[テーマ] まとめと振り返り [内容] 授業のふりかえりを行い、筆記試験の対策を行う。 [授業外学修] これまでの授業資料を元に復習し、筆記試験に備える。	
⑧	[テーマ] キャンプの指導 [内容] キャンプ指導者の役割や資質、スキルについて説明する。 [授業外学修] 配布資料をもとに復習しておく。			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] 筆記試験を実施する。 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
授業での小レポート:20点 → 毎回の授業の最後に提出する。次回の授業でそのコメントに対して回答する。 課題(課題レポートとグループ課題発表):30点 → 小レポートとグループ課題について、授業内で発表、ディスカッション及び解説を行う 筆記試験(期末試験):50点 → 試験終了後、試験問題についての解説を行う						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・第2回以降、班を決めて班ごとに着席します。また、毎回グループワークを行います。グループの中でディスカッションをしたり、発表をしたりします。
定期試験		◎			50%	
授業内レポート		○	◎	○	20%	
授業外レポート		◎	○	◎	15%	
演習・実技		○	◎	◎	15%	
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目	キャンプ(1年)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)			関連資格	(公社)日本キャンプ協会「キャンプディレクター2級」	
教科書	特になし			参考書	杏林書院「野外教育の理論と実践」	
オフィスアワー	木曜4限			その他	特になし	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	野外・レクリエーション・マネジメント論(含む演習) management of outdoor and school recreation activities(L. S.)			担当教員	仲野隆士・高崎義輝・井上 望
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	レク指導者講習や野外教育講習などの実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
野外・学校レクリエーション・イベント企画について、企画立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について事例を用いたり実際にグループワークを通して習得させる。また、国民に親しまれている「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レク・イベントの実際について習得させる。					i、iii、v
授業の一般目標					
企画、立案、プロモーション、プレゼンテーションまでの過程について実際にグループワークを通して学習し理解する。「ウォークラリー」をテーマに、コマ図作成から企画と運営を模擬的に体験する中で野外・学校レクリエーション・イベントの実際について理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	野外・学校レクリエーションのマネジメントに必要な基礎的な知識や技術を説明できる				
■ 情意的領域	野外・学校レクリエーション活動の楽しさや面白さなどを体験を交えて伝えることができる				
■ 技能表現的領域	ウォークラリーや簡単な野外・学校レクリエーションの企画と運営ができる				
授業計画(全体)					
レクリエーションや野外活動などの指導者が地域や職場、学校などで野外における活動支援(イベントや教室を含む)を実施する場合に要求されるレクリエーション・マネジメントの部分を主眼に学習を進める。ウォークラリーの企画と運営は、実際に作成したコマ図を基にコースを歩き体験する。その他は野外・学校レクリエーション事業のマネジメントの授業を7回展開する。各教員の専門領域における指導者養成講習の実務経験を活かし、具体的なGWを通して講義と演習を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(仲野・高崎・未定) [内容] ・担当教員の紹介、授業目標と進め方、成績評価の方法 ・野外レクリエーションの実際(ウォークラリーの事例) [授業外学修] シラバスを読んでおく。			⑨	[テーマ] 野外教育プログラム指導 [内容] グループごとに開発したイニシアティブゲームを、実際に指導する。参加者からのフィードバックをもとに、アクティビティを完成させる。 [授業外学修] フィードバックをもとにアクティビティを完成させレポートを作成する。
②	[テーマ] ウォークラリー・イベント企画1 [内容] ・ウォークラリー・イベント企画のための基礎知識 ・ウォーキングマップの作成のための現場下見 [授業外学修] 配付資料をもとに復習しておくこと			⑩	[テーマ] 野外・学校レクのマネジメントの実際 仲野1 [内容] 野外・学校レクのマネジメントの実際:目玉っこコンクールを題材に3人1組で実践 [授業外学修] 野外レクリエーションの面白さを理解する
③	[テーマ] ウォークラリー・イベント企画2 [内容] ・ウォーキングマップの作成 [授業外学修] 配付資料をもとに復習しておくこと			⑪	[テーマ] 野外・学校レクのマネジメントの実際 仲野2 [内容] 目玉っこコンクールを実施し、表彰までを演出する [授業外学修] 身近なテーマでできる野外レクイベントを理解する
④	[テーマ] ウォークラリー・イベント企画3 [内容] ・ミニウォークラリー大会の実施 [授業外学修] 配付資料をもとに復習しておくこと			⑫	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野3 [内容] 学校や地域におけるレクリエーション・イベント企画のための基礎理論の学習 [授業外学修] レジャー・レクリエーション関連のイベントについて話ができるようにしておくこと
⑤	[テーマ] ウォークラリー・イベント企画4 [内容] ・ミニウォークラリー大会の振り返りとまとめ [授業外学修] 配付資料をもとに復習しておくこと			⑬	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野4 [内容] 具体的な事例に基づくレクリエーション・イベントの立案 分けられた班毎に取り組む [授業外学修] 配布されたイベント立案に必要な資料を予め予習しておくこと
⑥	[テーマ] 野外教育プログラム体験 [内容] 少人数グループに分かれて野外教育プログラムの一つであるイニシアティブゲーム(ASE:)を体験する。その理論と実践方法を体験的に学習する。 [授業外学修] イニシアティブゲーム開発のアイデアを考えてくる。			⑭	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野5 [内容] レクリエーション・イベント企画案のプレゼンテーションの準備 [授業外学修] 時間内にまとめきれない場合は、班毎に集まり完成させておくこと
⑦	[テーマ] 野外教育プログラム体験及び開発 [内容] 引き続き、イニシアティブゲームを体験する。授業後半は、プログラム開発に取り組む。 [授業外学修] イニシアティブゲーム開発のアイデアを考えてくる。			⑮	[テーマ] 野外・学校レクイベント企画のための基礎理論の学習 仲野6 [内容] レクリエーション・イベント企画案プレゼンテーションの実施:各班10分程度のプレゼンテーションとする [授業外学修] プレゼンテーションのためのパワーポイントスライドを完成させておく
⑧	[テーマ] 野外教育プログラム開発及び改善 [内容] イニシアティブゲームの開発を行う。グループごとにアクティビティを考案し、実験を重ね、改善する。 [授業外学修] 必要に応じてグループで集まり、アクティビティ開発に取り組む。			⑯	[テーマ] 総括:全体のまとめ 修了レポート作成 [内容] [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
イベント企画の企画書の内容、ウォークラリーのコマ図の完成度、野外教育プログラムの完成度、プレゼンテーションなどを基に、総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		○			40%
授業外レポート				◎	30%
演習・実技				◎	30%
授業態度				◎	減点あり
出席					欠格条件
関連科目	レジャー・レク論、レク支援論、野外教育・活動論など			関連資格	レクリエーション・コーディネーター
教科書	特に無し			参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
オフィスアワー	仲野:月3限、高崎水4限:、未定: 限			その他	A棟508、F棟2F

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツマネジメント実習			担当教員	井上望・仲野隆士・永田秀隆・弓田恵里香・馬佳濠
	Practice at Community Physical-Education Facility(F.E.)				
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実務経験の有無	-
	履修の方法	コース必修	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
本実習は、社会教育施設における6日間の実習を通して、スポーツマネジメント関連の授業で修得した知識・技能を実学の場を通して発揮し、指導者としての資質を高めるものである。実習施設は、宮城県蔵王自然の家、宮城県志津川自然の家、国立花山青少年自然の家を予定している(自分で実習先を選ぶことはできないが、夏季や冬季の希望は出せる)。					i、ii、iii、iv、v
授業の一般目標					
オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、社会教育施設に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協調を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	実習先の業務内容を理解し、説明できる。			
■	情意的領域	実習先で積極的に取り組む。仲間と協力することができる。			
■	技能表現的領域	実習先の日々の成果を日誌にまとめることができる。			
授業計画(全体)					
本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを3回行う。体育学科スポーツマネジメントコース(コース必修)は4月、それ以外のコース・学科の学生(選択)は5月に最初のオリエンテーションを行う。実習施設の代表者による最終オリエンテーションを受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に一週間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によって異なる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]オリエンテーション、導入 [内容] 授業の概要を理解する。社会教育施設の意義や現状、実習の意味を理解する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑨	[テーマ] 施設的环境整備1 [内容] 施設内外を点検し、活動しやすいように改善する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
②	[テーマ]施設の理解1 [内容] 施設職員からの説明を受け、受入先の施設の特徴、歴史、活動及び実習の内容を理解する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑩	[テーマ] 施設的环境整備2 [内容] 活動前は備品の準備・点検、活動中は利用者への貸出・管理、活動後は備品の確認を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
③	[テーマ]施設の理解2 [内容] 施設を利用しながら、施設の利用方法、利用者への説明の仕方などを学ぶ。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑪	[テーマ] 指導演習準備1 [内容] 各施設で与えられた事業の準備に取り組む。職員の指示のもと、実習生で協力して準備する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
④	[テーマ] 指導体験1 [内容] 朝、夕の集いにおける司会、ラジオ体操などの指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑫	[テーマ] 指導演習準備2 [内容] 各施設で与えられた事業の準備に取り組む。職員の指示のもと、実習生で協力して準備する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑤	[テーマ] 指導体験2 [内容] レクリエーションやゲーム・ソングなどの指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑬	[テーマ] 指導演習1 [内容] 各施設で与えられた事業の運営・指導にあたる。職員の指示のもと、実習生で協力して事業の運営・指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑥	[テーマ] 指導体験3 [内容] 団体利用者に対して、野外炊事の指導・支援を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑭	[テーマ] 指導演習2 [内容] 各施設で与えられた事業の運営・指導にあたる。職員の指示のもと、実習生で協力して事業の運営・指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑦	[テーマ] 指導体験4 [内容] 団体利用者に対して、ハイキングやクラフトなどの野外活動の指導・支援を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑮	[テーマ] 指導演習の評価 [内容] 指導演習及び実習を評価する。職員や利用者からフィードバックをもとに、自身の指導の良かったところ・改善点を整理する。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
⑧	[テーマ] 利用者の生活指導 [内容] 施設利用者に対して、施設内の利用の仕方や生活指導を行う。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。			⑯	[テーマ] ふりかえり [内容] 実習を通して学んだことをふりかえり、実習日誌にまとめる。 [授業外学修]学習内容と自身の課題を整理し、次回への目標を設定する。
成績評価方法(方針)					
実習先の指導担当者による評価及び、事前・事後のオリエンテーション・作業に取り組む態度などを基に、総合的に成績評価を行う。実習日誌は学生に返却し、状況に応じて、解説・ディスカッションを行う。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	○	○	○	○	50%
授業態度	○	○	○	○	50%
出席					欠格条件
関連科目	スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツクラブ・マネジメント実習(3年)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)			関連資格	レクリエーション・コーディネーター、レクリエーション・インストラクター、ジュニアスポーツ指導員
教科書	特になし			参考書	特になし
オフィスアワー	木曜4限			その他	相談・提出は各施設担当者へ

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツクラブ・マネジメント論(含演習) Management of Sport Clubs (L.(S.))			担当教員	永田秀隆・弓田恵里香	
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義・演習	実務経験の有無	第8回、第12回の授業担当者が実務経験を有する
	履修の方法	選択必修	単位数			
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)	
スポーツを指導・振興する上で、経営的なものの見方や考え方は公共・民間を問わず重要である。スポーツ組織としての各種スポーツクラブに着目し、そこでのマネジメントの現状を踏まえ、今後よりよく実践していくためにはどのような視点、あるいは技術が必要となるのか、認識した上で実践できるようにする。					i、ii、iv、v	
授業の一般目標						
各種のスポーツクラブ等におけるマネジメントに関する知識を理解するとともに、その知識を踏まえ現場で実践できるような技術を身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツクラブにおけるマネジメントの基本構造が説明できる。				
■	情意的領域	総合型地域スポーツクラブや民間スポーツクラブでのマネジメントを職業としても意識することができる。				
■	技能表現的領域	スポーツクラブでのマネジメントの理解を通して、実際にクラブを経営できる量と同程度程度の技能を身につけることができる。				
授業計画(全体)						
本授業はスポーツクラブ・マネジメント実習にスムーズに取り組めるための前提科目と考えており、より現場を意識した実践的な授業内容(演習の要素が強い)となる。授業方法はティーム・ティーチング方式を取り入れ、個々の学生やグループワークにキメの細かい対応ができるように心がける。テーマに沿った資料を必要に応じて配布し、また理解を深めるため映像機器等も活用する。数回授業内容に沿ったレポートを課すので、授業内容を各自が理解しておくことが重要である。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション／生涯スポーツ論 [内容] 教員紹介、授業概要(目標、進め方、シラバス、成績評価方法等)の説明。／生涯スポーツの概念、必要性や方法について概説する。 [授業外学修]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] クラブのつくり方 [内容] 事業計画(ビジネスプラン)作成に向け組織・プロセス・法人格といった構成要素の説明も含めDVD等の視聴により総合型クラブの実際の姿をイメージする。 [授業外学修]総合型クラブのモデル例を踏まえ今後の具体化に備える	
②	[テーマ] スポーツクラブの意義 [内容] 総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)や民間スポーツクラブが必要なものか、その意義や役割について解説し、考察する。 [授業外学修]スポーツクラブとはどのようなものか調べておく			⑩	[テーマ] マーケティング [内容] スポーツクラブのマーケティングにおける意義、プロセス、広告・宣伝・会員募集戦略等について説明し、実際の方法について考える。 [授業外学修]マーケティングとは何か、復習しておく	
③	[テーマ] 地域におけるスポーツ行政 [内容] 総合型クラブの場合、行政との関わりは必要不可欠であることが多いことから、地域社会における総合型クラブと行政との連関について考える。 [授業外学修]行政がクラブにどのような役割を果たすか考える			⑪	[テーマ] スポーツ施設・設備の管理 [内容] スポーツ施設や設備等といった、特にハード面の経営・管理について概説し、近年注目される指定管理者制度との兼ね合いについても述べる。 [授業外学修]指定管理者となっているスポーツクラブの事例を収集しておく	
④	[テーマ] クラブの事業計画と事業内容 [内容] クラブのミッションやビジョンに基づき、スポーツクラブの柱となる事業について、その計画の立て方や内容について説明する。 [授業外学修]クラブの事業内容に関するイメージを膨らませておく			⑫	[テーマ] 財源の確保と効率的な資金運用(会計事務管理含む) [内容] 上記テーマについて、専門的な立場の方をお招きし、その詳細及び具体例について実務経験も踏まえ解説いただき、また試算等を体験する。 [授業外学修]スポーツクラブにおける支出の項目(費目)を考えてくる	
⑤	[テーマ] 事業評価(経営評価)と結果の活用 [内容] 前回授業の事業計画と内容を評価することの必要性とその仕方、また結果をその後へ活用させることの意義等について述べる。 [授業外学修]経営評価とはどういうことか調べておく			⑬	[テーマ] リスクマネジメント [内容] 指導レベルでのリスクのみならず、クラブ運営にまつわるリスクの存在を列挙し、そのことについて考察を深める。 [授業外学修]リスクマネジメントの定義を調べておく	
⑥	[テーマ] 事業評価(経営評価)の実際 [内容] 事業評価(経営評価)の考え方の中から、特に住民側の評価(経営成績の評価)について、質問紙調査を想定し、実際にアンケートを作成する。 [授業外学修]質問紙を下書きし、ワープロで打ち、期限までに提出する			⑭	[テーマ] 事業計画書(ビジネスプラン)の作成① [内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する。 [授業外学修]クラブが対象とする地域的な範囲や特性について調べる	
⑦	[テーマ] クラブマネジャーの役割 [内容] クラブの核となるクラブマネジャーの役割、資質等について解説し、その後チェックシートにて各自のマネジャーとしての能力・資質を確認する。 [授業外学修]マネジャーの役割についてイメージを膨らませておく			⑮	[テーマ] 事業計画書(ビジネスプラン)の作成② [内容] これまでの講義・演習の内容を最大限に活かし、より具体的かつ実践可能性の高い計画書を作成する、という前回の続きだが、ワープロで仕上げる。 [授業外学修]事業計画書(ビジネスプラン)の書式をフォーマットしておく	
⑧	[テーマ] ホスピタリティ・マネジメント [内容] 現場で活躍するクラブマネジャー(相当の方)を外部講師で招き、実務経験について、ホスピタリティ・マネジメントの考え方も交え報告いただく。 [授業外学修]当該スポーツクラブのことを事前に調べておく			⑯	[テーマ] レポート [内容] レポートの振り返り。可能であれば一部受講者による好事例のプレゼンテーション。 [授業外学修]	
成績評価方法(方針)						
授業外レポート(50%)、授業内レポートとリアクションペーパー(50%)の結果に基づき、総合的に評価する。 授業内レポート・リアクションペーパーは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・スポーツクラブ・マネジメント実習の前提科目との位置づけでもあるので、前記実習を志望する学生は、特に皆出席を目指してもらいたい。 ・2/3以上の出席がない学生は単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・15分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
定期試験					評価対象外	
授業内レポート		◎			50%	
授業外レポート		◎	◎	◎	50%	
演習・実技					評価対象外	
授業態度			○		加減点アリ	
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツマーケティング論、地域スポーツ戦略論、スポーツクラブ・マネジメント実習、スポーツ政策論など			関連資格	レクリエーション・コーディネーター	
教科書				参考書	(財)日本体育協会『総合型クラブ創設ガイド』、武藤泰明『プロスポーツクラブのマネジメント』東洋経済新報社他	
オフィスアワー	永田(火2)、弓田(火4)			その他	永田(hd-nagata@sendai-u.ac.jp)	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名		音楽・器楽演奏 Instrumental music performance			担当教員	荒井 富雄
開講内容	学年・学期	4・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	高校での教員経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>本学は体育系大学として、各専門スポーツで培ったチームワークのよさを、音楽実技を通してコミュニケーション能力を高め、他を思いやる心の育成を計る。</p>						iv
授業の一般目標						
音楽のもつ多様なコミュニケーション能力を用いて、人間関係を円滑で豊かにする資質を養う。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	音楽の三要素の一つであるリズムは、体育活動においても重要な要素であることを認識できるようになる。				
■	情意的領域	音楽活動を通して音楽の一体化を図れるようになる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
<p>1.キーボードを使って各自のレベルに応じた曲を弾く 2.二部合唱練習 3.有名作曲家の物語りを通して作品や時代背景等の学習(ビデオやDVDの鑑賞)</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学修]オリエンテーション後の授業テーマの取り組みについて考える</p>			⑨	<p>[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習 ②器楽による小アンサンブル練習 [授業外学修]合唱・器楽を通して仲間との心の問題を考える</p>	
②	<p>[テーマ] 音楽の三要素 [内容] ①音楽の三要素 ②これからの合唱における各パート決め [授業外学修]音楽の三要素の成り立ち、自己の声域について考える</p>			⑩	<p>[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習 ②器楽による小アンサンブル練習 [授業外学修]合唱・器楽を通して仲間との心の問題を考える</p>	
③	<p>[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習 ②器楽による小アンサンブル練習 [授業外学修]自己パート反復練習</p>			⑪	<p>[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表 ②発表結果を互いに比較検討する [授業外学修]仲間の表現力や曲想への考え方を考える</p>	
④	<p>[テーマ] 合唱練習 [内容] ①合唱練習 ②器楽による小アンサンブル練習 [授業外学修]自己パート反復練習</p>			⑫	<p>[テーマ] 器楽演奏発表 [内容] 器楽演奏発表 [授業外学修]音楽を表現する前の心の準備や精神力の持ち方を考える</p>	
⑤	<p>[テーマ] 合唱発表 [内容] ①合唱発表 ②発表結果を互いに比較検討する [授業外学修]合唱効果を高める練習方法の思考</p>			⑬	<p>[テーマ] 鑑賞 [内容] 鑑賞 [授業外学修]鑑賞することにより、心の変容がどうか検討する</p>	
⑥	<p>[テーマ] 鑑賞 [内容] 鑑賞 [授業外学修]鑑賞した曲との関連作品を聴く</p>			⑭	<p>[テーマ] 鑑賞 [内容] 鑑賞(鑑賞結果のディスカッション) [授業外学修]自他との鑑賞成果を評価する</p>	
⑦	<p>[テーマ] 鑑賞 [内容] 鑑賞(鑑賞結果のディスカッション) [授業外学修]自他との鑑賞成果を評価する</p>			⑮	<p>[テーマ] まとめ(レポート) [内容] まとめ(レポート) [授業外学修]自他との精神面や技術面での関わり方について思考する</p>	
⑧	<p>[テーマ] 音楽心理学 [内容] ①音楽心理学 ②ボディパーカッション(リズムアンサンブル) [授業外学修]音楽を通じての感情の持ち方、心の変化を考える</p>			⑯	<p>[テーマ] テスト [内容] 実技テスト [授業外学修]</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>毎時間の授業態度(興味・関心・意欲・態度)など50点、実技試験30点、レポート20点の配分で総合的に評価する。 出席率が2/3以上に達しない者は、原則として評価の対象外とする。(各時間毎に、準備した評価カードに学生の自己評価を記入させる。)</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業中は携帯電話をかばんの中にする。 ・毎週の90分の授業参加では、単位を修得できないと肝に銘じておくこと。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート		◎			20%	
演習・実技				◎	30%	
授業態度		◎			50%	
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	
教科書					参考書	
オフィスアワー					その他	非常勤講師のため、連絡は教育企画室を通して行うこと。

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツターフ管理概論 I				担当教員	小島 文雄
	Introduction to Sport Turf Management I					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	スポーツ施設工事現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
<p>受講生は80名以内(実習バスの定員)とし、希望者多数の時は初回の小テストの総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理についてスポーツ施設建設工事現場での実務経験を生かして講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生への知識や技術を身につけ授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業を目指す学生も同様である。芝草管理技術者3級の資格修得を目指す。</p>						i、ii、iii、v
授業の一般目標						
<p>(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関することなど幅広い専門知識を修得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来るようになる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付けるようになる。(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、商業スポーツターフ施設の「経営理念」、「社是」、「社訓」を考察する事が出来るようになる。</p>						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べる事が出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を修得できる。					
■ 情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について関心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つことが出来るようになる。施設を大切に扱う様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。					
■ 技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出すことが出来るようになる。面接などで優位に立てるようになる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。					
授業計画(全体)						
<p>授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アメフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来るようになる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] オリエンテーション。二つの資格について解説する [内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学修] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する</p>			⑨	<p>[テーマ] 商業スポーツターフ施設の経営理念 その1、第1回小テスト [内容] 経営理念・社是・社訓はどのように考えられ、実施されているかを説明。企業経営の目的や経営方針書について説明する [授業外学修] 自ら経営する商業施設を仮想し、顧客満足度の高揚を考察する</p>	
②	<p>[テーマ] 構内芝生における実習その1 [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する</p>			⑩	<p>[テーマ] 芝生管理機械、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 草刈り機の種類と機能、2. 管理機械の種類と機能、3. 今後の管理機械について [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する</p>	
③	<p>[テーマ] 芝草入門 I、芝草学会講師による講義 [内容] 芝生概説、芝生概論について説明する。芝生の持つ機能について、芝生の一般的な特性について [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する</p>			⑪	<p>[テーマ] 芝生の雑草管理、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 雑草防除の基礎、2. 芝草雑草の特徴、3. 除草剤の作用特性、4. 芝地における雑草 [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する</p>	
④	<p>[テーマ] 芝草入門 II、芝草学会講師による講義 [内容] 暖地型芝草の種類と特性、寒地型芝草の種類と特性について [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する</p>			⑫	<p>[テーマ] 構内芝生における実習その4 [内容] 芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。小テストの実施と解説 [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する</p>	
⑤	<p>[テーマ] 構内芝生における実習その2 [内容] 芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する</p>			⑬	<p>[テーマ] 商業スポーツターフ施設の経営理念(課題発表会)、第2回小テスト [内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画) D(実施) C(点検) A(改善)サイクルで改善する [授業外学修] 授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する</p>	
⑥	<p>[テーマ] 芝生の一般管理、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 芝生の管理とは、2. 芝生の刈り込み、3. 芝生の施肥、4. 芝生の灌水について説明する [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する</p>			⑭	<p>[テーマ] 定期試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために定期試験を実施する。自己採点が出来る様に解説する。 [授業外学修] 定期試験に備えて復習する</p>	
⑦	<p>[テーマ] 構内芝生における実習その3 [内容] 芝生の種類(暖地型洋芝、寒地型洋芝)を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する</p>			⑮	<p>[テーマ] 学外施設見学会および実習=スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 泉パークタウンゴルフ倶楽部を見学して、芝生の維持管理について説明。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学修] 芝生管理の機械類にはどのようなものがあるか説明出来る様にす</p>	
⑧	<p>[テーマ] 芝生に関する療法的知識、学外講師による講義 [内容] 芝生の生理的、心理的效果をストレス緩和や療法的効果に活かす手法について説明する [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する</p>			⑯	<p>[テーマ] 学外施設見学会および実習=スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 土曜日2コマ分の所要時間で20人位ずつの参加人数に組み分けして⑮と⑯を連続で実施する。3回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学修] 上記と同じ</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>定期試験を1回実施、実技テストおよび授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。定期試験問題・解答は返却しないが、自己採点出来る様に解説する。小テストは解説をしながら返却する。出席は欠格条件となる。欠席届(0.4ポイント扱い)と自習成果表(0.4から0.6ポイント扱い)を提出する。授業外実習(約60分)は0.7ポイントとする。</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・同名IIを先に受講する事が出来る ・2/3以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない ・授業中の私語厳禁(指定席制も実施予定) ・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない ・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中
定期試験		◎	○		60%	
授業内レポート		◎	○		20%	
授業外レポート		◎	◎	◎	20%	
演習・実技			○	◎	減点あり	
授業態度			○		減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツターフ管理概論II、スポーツ施設管理概論I、スポーツ施設管理概論II スポーツ施設の経営管理				関連資格	芝草管理技術者資格3級、スポーツターフ管理士(準備中)
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)				参考書	* 体育・スポーツ系大学生のための論文・レポートの書き方 * 屋外体育施設の建設指針 * ほか
オフィスアワー	A棟1階管理室 : 火曜日10:20~11:50				その他	Email: fm-ojima@sendai-u.ac.jp TEL: 0224-55-1579

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツターフ管理概論 II			担当教員	小島 文雄
	Introduction to Sport Turf Management II				
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実務経験の有無	スポーツ施設工事現場での実務経験を有する
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
受講生は80名以内(実習バスの定員)とし、希望者多数の時は初回の小テストの総合評価で上位者とする。スポーツターフの構造をベースとして、施設管理についてスポーツ施設建設工事現場での実務経験を生かして講義を行う。教員を目指す学生に対し校庭芝生への知識や技術を身につけて授業や部活の運営に役立てる事を指導する。体育施設を運営する企業を目指す学生も同様である。芝草管理技術者3級の資格修得を目指す。					i、ii、iii、v
授業の一般目標					
(1)スポーツターフ施設の構造を把握し、管理方法に加え、関連法規、経済性および自然環境保全に関する事など幅広い専門知識を修得して顧客満足度を満たす管理の仕方を考える事が出来るようになる。(2)スポーツターフ施設が安全に保たれる管理手法を身に付けるようになる。(3)以上を踏まえて、授業外課題に取り組み、スポーツターフ施設の管理の実際を考察する事が出来るようになる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツターフ施設管理の構造と維持管理及び経営管理について説明できる。授業で取り上げた問題について、自分の意見を述べる事が出来る。二つの資格の研修会と同等の芝生管理技術者に必要な初歩的な知識や芝生に関する療法的知識を修得できる。				
■ 情意的領域	スポーツターフ施設の経営管理について関心を深め、自らの力で授業外課題を設定し探求する意欲を持つ事が出来るようになる。施設を大切に扱う様になり、興味関心のある内容に意欲的に取り組む様になる。相手に優しく接する気持ちが養われる。				
■ 技能表現的領域	課題を文章に表現し、口頭で発表出来るようになる。インターネットを駆使して企業の経営理念、社是、社訓や企業業績を探し出す事が出来る様になる。面接などで優位に立てる様になる。体育施設維持管理の道具や機器を操作して、均一な整備を知る。				
授業計画(全体)					
授業テーマに沿った資料を用いた講義と第二グラウンドラグビー・アマフト天然芝生での実習が中心で、実物見本やプロジェクターを用いて管理作業方法を知る。数回の授業時にアンケートで、感想・興味度・理解度・到達度を確認する。また課題を考察し発表も行う。理念に基づいた目標設定は就職活動や人生設計への応用が出来る様になる。連絡事項や資料は一斉メールで送信するので、学内の所定の手続きをする。文科省が定める予習・復習の時間として授業時間外実習も行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション、二つの資格について解説する [内容] 担当教員の紹介、授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する。芝生維持管理に関する資格について説明する [授業外学修] シラバスと学生便覧の資格に関する該当項目を熟読する		⑨	[テーマ] 農業気象学、課題提出期限、第1回小テスト [内容] 1. 農業気象の基礎、2. 主な農業気象災害、3. 異常気象と地球環境 [授業外学修] 平日頃、身の回りに起きている異常気象に関心を持つ様にする	
②	[テーマ] 芝生の土壌・肥料、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 土壌の種類と組成、2. 物理性、3. 化学性、4. 微生物性、5. 芝生の土壌改良、6. 肥料の有効成分、7. 芝地の施肥法 [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する		⑩	[テーマ] 農薬概論と関係法令、学外講師による講義 [内容] 1. 農薬の定義、2. 農薬の作用特性、3. 農薬のリスクと安全確保、4. 農薬に関わる法令、5. 農薬取締り法の概説 [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する	
③	[テーマ] 測量理論の解説、芝生の造成 [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明する。利用水準と管理手法について解説し、現場の状況から考察する。 [授業外学修] 利用者の要求と管理者の維持管理水準を比較する様心掛ける		⑪	[テーマ] 構内芝生における実習その4 [内容] 春季、夏季の除草剤、防虫剤、殺菌剤などの散布や散水を観察したり実習する。 [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	
④	[テーマ] 構内芝生における実習その1(芝生に関する工学的知識) [内容] 芝生造成地の高低測量学について説明し、オートレベルを使用して操作方法を学習し、実際に数箇所のポイントの高さを測量する。 [授業外学修] スポーツターフ施設の表面勾配を観察する		⑫	[テーマ] 構内芝生における実習その5 [内容] 春季における芝生の成長を観察し、芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。 [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する	
⑤	[テーマ] 芝生の病害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 植物病理学概論、2. 芝草病害概論、3. 芝草病害防除の基本、4. 今後の問題点 [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する		⑬	[テーマ] 課題(維持管理機械の操作マニュアル)の発表会、第2回小テスト [内容] 課題を発表し、プレゼンテーション力を養う。P(計画) D(実施) C(点検) A(改善)サイクルで改善する [授業外学修] 授業外課題を見直し改善すべき所がある時は再提出する	
⑥	[テーマ] 構内芝生における実習その2、課題の取り組み [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。各自のポットに芝草の種をまき成長を観察する [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する		⑭	[テーマ] 定期試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために定期試験を実施する。自己採点が出る様に解説する。 [授業外学修] 定期試験に備えて復習する	
⑦	[テーマ] 構内芝生における実習その3、 [内容] 芝刈り機械(手押し方式、乗用方式)の操作方法を実習する。春季、夏季の土壌改良(エアレーション)などを実践する。 [授業外学修] 構内芝生の育成を常に興味を持って観察する		⑮	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] エアテックススタジアムを見学して、芝生の維持管理について説明する。各種維持管理機械を見学し作業状況を説明する。 [授業外学修] 芝生管理の機械類の各種類について説明出来る様にする。	
⑧	[テーマ] 芝生の虫害防除、芝草学会講師による講義 [内容] 1. 害虫とは、2. 芝草害虫の種類、3. 重要害虫の種類、発生消長及び防除法、4. 芝草管理と害虫 [授業外学修] 構内芝生管理の授業外実習に積極的に参加する		⑯	[テーマ] 学外施設見学会および実習＝スポーツターフ施設管理の実際 [内容] 土曜日2コマ分の所要時間で20人位ずつの参加人数に組み分けて⑮と⑯を連続で実施する。2回実施の中から都合の良い時に参加する。 [授業外学修] 上記と同じ	
成績評価方法(方針)					
定期試験を1回実施、実技テストおよび授業内レポート提出(小テスト)を実施する。授業外レポート(課題)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。定期試験問題・解答は返却しないが、自己採点出来る様に解説する。小テストは解説をしながら返却する。出席は欠格条件となる。欠席届(0.4ポイント扱い)と自習成果表(0.4から0.6ポイント扱い)を提出する。授業外実習(約60分)は0.7ポイントとする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験	◎	○	○		60%
授業内レポート	◎	○	○		20%
授業外レポート	◎	◎	◎		20%
演習・実技		○	○	◎	減点あり
授業態度			○		減点あり
出席					欠格条件
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・同名 I を先に受講する事が出来る ・2/3以上の出席が無い学生は、単位を修得することができない ・授業中の私語厳禁(指定席制も実施予定) ・出席や小テストの点数などが不足するときは相談する、救済策は提出物や構内実習の追加などで用意するので簡単に諦めない ・授業計画は、授業の進み方や構内実習の日の天候により、多少変更あり ・資格取得希望者は二つの団体が主催する研修会を受講し認定試験を受験して資格を取得する。認定校申請準備中					
関連科目	スポーツターフ管理概論 I、スポーツ施設管理概論 I、スポーツ施設管理概論 II、スポーツ施設の経営管理			関連資格	芝草管理技術者資格3級、スポーツターフ管理士(準備中)
教科書	各種協会・団体・各講師編集のテキスト(授業中に配布)			参考書	*カーベントグラス*芝生の校庭*園芸療法とリハビリテーション *目で見えるゴルフ場の芝草病害*ほか
オフィスアワー	A棟1階営繕管理室内:火曜日10:20~11:50			その他	Email:fn-ojima@sendai-u.ac.jp TEL:0224-55-1579

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	アスレティックトレーニング論 I Athletic Training I (L)			担当教員	山口貴久/小田桂吾/高橋陽介/小勝健司
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツトレーナーに必要な不可欠な運動器の機能解剖について、実務経験を活かしてスポーツトレーナーの観点から講義する。					i
授業の一般目標					
関連分野へ応用できる程度まで運動器の機能解剖を理解する。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	様々な身体運動について解剖学的観点から説明できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
概論に続き、各論では身体部位ごとに、1)骨 2)関節と靭帯 3)筋・腱 4)その他の重要な軟部組織について解説する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(山口) [内容] 教員紹介、授業概要とスケジュール、授業ポリシー、成績評価方法、教科書についての説明を行う [授業外学修] 教科書p2-26を熟読し理解してくる			⑨	[テーマ] 体幹の機能解剖 I (山口) [内容] 頸部の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p41-44を熟読し理解してくる
②	[テーマ] 概論 I (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する [授業外学修] 骨・関節・靭帯の概論について事前に調べてくる			⑩	[テーマ] 体幹の機能解剖 II (山口) [内容] 胸部の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p45-54を熟読し理解してくる
③	[テーマ] 概論 II (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する [授業外学修] 骨格筋の概論について事前に調べてくる			⑪	[テーマ] 体幹の機能解剖 III (山口) [内容] 腰部の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p55-64を熟読し理解してくる
④	[テーマ] 概論 III (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について解説する [授業外学修] 教科書p106-123を熟読し理解してくる			⑫	[テーマ] 上肢の機能解剖 I (小勝) [内容] 肩関節の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p55-64を熟読し理解してくる
⑤	[テーマ] 下肢の機能解剖 I (高橋) [内容] 足部・足関節・下腿の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p96-105を熟読し理解してくる			⑬	[テーマ] 上肢の機能解剖 II (小勝) [内容] 肩関節の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p65-77を熟読し理解してくる
⑥	[テーマ] 下肢の機能解剖 II (高橋) [内容] 膝関節の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p90-105を熟読し理解してくる			⑭	[テーマ] 上肢の機能解剖 III (小勝) [内容] 肘関節の解剖と機能について解説する [授業外学修] 教科書p78-89を熟読し理解してくる
⑦	[テーマ] 下肢の機能解剖 III (高橋) [内容] 股関節・大腿の解剖と機能について解説する [授業外学修] 中間テストに備える			⑮	[テーマ] 上肢の機能解剖 IV (小勝) [内容] 手関節と手の解剖と機能について解説する [授業外学修] 期末テストに備える
⑧	[テーマ] 中間試験(山口) [内容] 運動器の機能解剖の概論と下肢の機能解剖に関する筆記試験 [授業外学修] 教科書p27-40を熟読し理解してくる			⑯	[テーマ] 期末試験(山口) [内容] 体幹と上肢の機能解剖に関する筆記試験 [授業外学修] 期末試験の振り返りを実施すること
成績評価方法(方針)					
中間および期末試験の結果に基づき評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					評価対象外
出席					欠格条件
関連科目	JSPO-AT必修の各科目			関連資格	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー、JPSUスポーツトレーナー
教科書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト②			参考書	
オフィスアワー	山口:第4体育館1階 水曜日 12時40分~14時10分			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	トレーニング方法論				担当教員	柴山一仁/門野洋介/黒澤尚
	Training Methods					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	実務経験の有無	-
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						DPとの関連性(表紙裏参照)
本講義では、トレーニングの一般原則ならびに競技力向上を狙いと各種トレーニングの方法論を概説する。また、実際にトレーニング計画を立案する際に問題となる、個々のトレーニングをいかに組み合わせ、配置するかについて、トレーニング構成の諸原則に基づき説明する。						i
授業の一般目標						
主に競技力向上を目指した各種トレーニングの一般理論およびそれらの具体的な方法論を理解する。また、短期、中期、長期的それぞれの観点に立ったトレーニング構成を理論的に考え、実際の計画立案ができるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツトレーニング理論に基づく各種方法論を説明できる。トレーニング計画の理論的な立案ができるようになる。				
■	情意的領域	スポーツトレーニング理論に関して、積極的な興味関心を持てるようになる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
本講義では、競技力向上を目的とした運動(手段)すべてを「スポーツ・トレーニング」と捉え、筋力、スピード、持久力、柔軟性、調整力を養成する各種体力トレーニングの方法論について講義を行う。その後、個々のトレーニングをいかに構成するかについて、大きく週間、月間、年間でのトレーニング周期に分けて、各々における諸原則を示す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス(柴山) [内容] 担当教員の紹介および授業の内容、成績評価方法等について説明する [授業外学修]シラバスを熟読すること				⑨	[テーマ] スキルの獲得とその獲得過程(黒澤) [内容] スキルの獲得とその獲得過程について説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと
②	[テーマ] トレーニングとは(柴山) [内容] スポーツ・トレーニングの定義を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと				⑩	[テーマ] 技術・戦術トレーニング(黒澤) [内容] 技術・戦術を向上させるためのトレーニングの理論・方法論を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと
③	[テーマ] トレーニングの一般原則(柴山) [内容] トレーニングを遂行する上での一般的な原則を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと				⑪	[テーマ] トレーニング構成の一般原理(黒澤) [内容] トレーニング構成の一般的な諸原理を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと
④	[テーマ] トレーニング負荷(柴山) [内容] トレーニング負荷について量と強度の関係を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと				⑫	[テーマ] 競技的状態(スポーツ・フォーム)(門野) [内容] 競技的状態とは何か、その周期的発達特性を含めて説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと
⑤	[テーマ] 筋力の養成法(柴山) [内容] 筋力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと				⑬	[テーマ] トレーニングの期分け(門野) [内容] トレーニングの期分けについて説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと
⑥	[テーマ] スピード・パワーの養成法(柴山) [内容] スピードおよびパワーの種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと				⑭	[テーマ] 週間、月間、年間のトレーニング構成(門野) [内容] 1週間、1ヶ月、1年間で基本単位としたトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと
⑦	[テーマ] 持久力の養成法(柴山) [内容] 持久力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと				⑮	[テーマ] トレーニング分析と管理(門野) [内容] トレーニングの分析と管理の具体的な方法論を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと
⑧	[テーマ] 巧緻性の養成法(柴山) [内容] 巧緻性とは何か、そしてその具体的な養成法を説明する [授業外学修]配布資料を復習しておくこと				⑯	[テーマ] テスト(全教員) [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるテストを行う [授業外学修]試験内容の確認をしておくこと
成績評価方法(方針)						
試験は期末試験を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内レポートを課す場合がある(評価割合30%)。提出されたレポートは必要に応じて解説しながら返却する。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・私語等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とする。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。 ・授業計画は授業の進み具合により変更する場合がある。
定期試験		◎				
授業内レポート		◎				
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度			○		減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目					関連資格	アスレティックトレーナー
教科書					参考書	
オフィスアワー	柴山研究室 A棟415 オフィスアワー 金曜4限				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ医学A Sports Medicine A (L.)			担当教員	橋本 実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
実務経験の有無					医療現場での実務経験を有する
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたリハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から解説する。					i
授業の一般目標					
スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する。			
■	情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学修] 当日配布するプリントとを参照すること			⑨	[テーマ] 前腕、手指の外傷・障害 [内容] 前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
②	[テーマ] 整形外科学の基礎 [内容] 整形外科学の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 下肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 顔面頸部外傷 [内容] 顔面頸部外傷の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 大腿の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
④	[テーマ] 腰部外傷・障害 [内容] 腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 膝の外傷・障害 [内容] 下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 胸部外傷・障害 [内容] 胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] 下腿、足趾の外傷・障害 [内容] 下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 上肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 小児のスポーツ外傷・障害 [内容] 小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 上腕、肘の外傷・障害 [内容] 上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学修] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学修] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
成績評価方法(方針)					
公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで欠けや受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わらないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			95%
授業内レポート					
授業外レポート		○			5%
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目					
教科書	スポーツ医学A 講義ノート			参考書	特になし
オフィスアワー	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50			その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	スポーツ医学B Sports Medicine B			担当教員	柴原茂樹／橋本 実
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
スポーツによって引き起こされる内科的疾患と、生活習慣病の運動療法について取り上げる。					i
授業の一般目標					
スポーツによって引き起こされる内科的疾患とスポーツを安全に行うためのメディカルチェックを理解させる。生活習慣病の運動療法についても知識を深める。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツによって引き起こされる内科的疾患と生活習慣病の運動療法について理解する。			
■	情意的領域	スポーツを安全に行えるようにする。生活習慣病の患者に対して、運動療法を指導できるようにする。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
毎回プリントに沿った内容で講義を進める。講義の後半には、小テストを行って、講義内容が理解できているか確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 生活習慣病(1) メタボリックシンドローム [内容] メタボリックシンドロームについて解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。			⑨	[テーマ] 生活習慣病(6) 脂質異常症 [内容] 脂質異常症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
②	[テーマ] 生活習慣病(2) 肥満と肥満症 [内容] 肥満、肥満症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。			⑩	[テーマ] 生活習慣病(7) 糖尿病 [内容] 糖尿病について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
③	[テーマ] 運動療法(1)(柴原) [内容] 運動療法とはどのようなものかを解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。			⑪	[テーマ] 生活習慣病(8) 虚血性心疾患 [内容] 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
④	[テーマ] 運動療法(2)(柴原) [内容] どのような疾患が運動療法の適応になるのかを解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。			⑫	[テーマ] 生活習慣病(9) ガン [内容] ガン(悪性新生物)について解説した後、その予防法などについて解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑤	[テーマ] 服薬者の運動プログラム(柴原) [内容] 服薬者の運動プログラム作成上の注意について解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。			⑬	[テーマ] 生活習慣病に対する運動療法プログラム [内容] 生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成上の注意について解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑥	[テーマ] 生活習慣病(3) 骨粗鬆症(柴原) [内容] ロコモティブシンドロームの骨粗鬆症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。			⑭	[テーマ] 内科的メディカルチェックと循環器疾患 [内容] 突然死を予防するための内科的メディカルチェックとはどのようなものか、運動によって引き起こされる心臓疾患について解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑦	[テーマ] 生活習慣病(4) 関節リウマチと変形性関節症(橋本) [内容] 運動器退行性疾患の関節リウマチと変形性関節症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。			⑮	[テーマ] スポーツによって引き起こされる、呼吸器疾患と血液疾患 [内容] 運動によって誘発される気管支喘息、過換気症候群や貧血について解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。
⑧	[テーマ] 生活習慣病(5) 高血圧症 [内容] 高血圧症について解説した後、その運動療法についても解説する。 [授業外学修] 配布されたプリントでよく復習しておくこと。			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するために、筆記試験を行う。 [授業外学修] 授業内容(配布資料)についてよく復習しておくこと。
成績評価方法(方針)					
授業に2/3以上出席し、試験で60点以上を合格とする。試験結果については、講評と得点分布等を示す予定。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	スポーツ医学概論、スポーツ医学A			関連資格	健康運動指導士、日本スポーツ協会公認AT、JPSUスポーツトレーナー
教科書	特に指定しない。プリントを使用する。			参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト
オフィスアワー				その他	

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	コンディショニング論 Introduction to Conditioning			担当教員	小勝健司／高橋陽介／小田桂吾
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義(L)	実務経験の有無
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
コンディショニングは競技スポーツにおいて勝つための全ての準備といえる。コンディショニングにおいてアスレティックトレーナーが関わる領域を挙げ、それらの主要な内容を実務経験を活かして具体的な事例を交え解説する。					i、ii、iii
授業の一般目標					
コーチ、医科学スタッフらとも連携し、競技者に対し最適なコンディショニングプランを提供できるように、その調整方法を幅広い領域から学習し、習得する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	コンディショニングの基礎的事項を説明できる。			
□	情意的領域				
■	技能表現的領域	アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。			
授業計画(全体)					
授業テーマに合わせたパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。テーマにより実技を行い理解を深める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(小勝) [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学修]シラバスの熟読			⑨	[テーマ] トレーニング計画②(高橋) [内容] トレーニング計画の立案、設計について説明 [授業外学修]教科書p70-84を読んで予習と復習をする
②	[テーマ] コンディショニングとは(小田) [内容] コンディショニングの概念、目的について説明 [授業外学修]教科書p2-10を読んで復習と予習をする			⑩	[テーマ] ストレッチング(小勝) [内容] ストレッチングの方法、目的、基礎知識について説明 [授業外学修]教科書p178-208;p272-277を読んで復習と予習をする
③	[テーマ] コンディショニングの要素①(小田) [内容] コンディショニングに関わる身体的因子について説明 [授業外学修]教科書p6-21を読んで復習と予習をする			⑪	[テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン(小勝) [内容] ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学修]教科書p272-277;p93-97を読んで復習と予習をする
④	[テーマ] コンディショニングの要素②(小田) [内容] コンディショニングに関わる環境的因子、心理的因子について説明 [授業外学修]教科書p12-24を読んで復習と予習をする			⑫	[テーマ] レジスタンス・パワートレーニング①(小田) [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学修]教科書p95-97;p120-135を読んで復習と予習をする
⑤	[テーマ] コンディショニング評価①(高橋) [内容] コンディショニング評価の目的、方法について説明 [授業外学修]教科書p27-50を読んで復習と予習をする			⑬	[テーマ] レジスタンス・パワートレーニング②(小田) [内容] レジスタンス・パワートレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学修]教科書p120-135;p87-93;p139-147を読んで復習と予習をする
⑥	[テーマ] コンディショニング評価②(高橋) [内容] コンディショニング評価の目的、方法について説明 [授業外学修]教科書p35-59を読んで復習と予習をする			⑭	[テーマ] アジリティ・スタビライゼーショントレーニング(小田) [内容] アジリティ・スタビライゼーショントレーニングの方法、実施時の注意点について説明 [授業外学修]教科書p87-93;p139-147を読んで復習する
⑦	[テーマ] トレーニングの基礎(高橋) [内容] トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学修]教科書p52-64を読んで復習と予習をする			⑮	[テーマ] 総括・復習(小勝) [内容] これまでの講義内容を復習し、テストに備える [授業外学修]これまでカバーした教科書の内容を復習する
⑧	[テーマ] トレーニング計画①(高橋) [内容] トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明 [授業外学修]教科書p60-76を読んで復習と予習をする			⑯	[テーマ] 期末試験(小勝) [内容] 授業理解度の確認のため、筆記試験をおこなう [授業外学修]
成績評価方法(方針)					
評価は筆記試験(評価割合100%)のみとし、原則として再試・追試は行わないものとする。試験については、必要に応じ解説をしながら返却する。出席は評価割合に加え、欠格条件とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					評価対象外
出席					欠格条件
関連科目	コンディショニング実習			関連資格	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、JPSUスポーツトレーナー
教科書	日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑥			参考書	
オフィスアワー	水曜日12:40～14:10			その他	連絡先:第2体育館2階 小勝研究室

2020年度 スポーツ情報マスメディア学科

授業科目名	コンディショニング実習 Conditioning Practicum			担当教員	小勝健司・山口貴久・高橋陽介・小田桂吾
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	実習	実務経験の有無
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					DPとの関連性(表紙裏参照)
この実習は日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成専門カリキュラムに基づき、競技力向上および傷害予防を目的としたコンディショニング指導に必要な知識と技術の向上を図る。					i、iii、v
授業の一般目標					
アスレティックトレーナーによる実務経験を生かし、その観点からアスレティックトレーナーとして種目別の競技特性を理解し、実際に指導を実践できることを目標とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る知識を習得する。				
■ 情意的領域	選手、スタッフ、他領域の専門家とコミュニケーションが取れるようにする。				
■ 技能表現的領域	アスレティックトレーナーに必要なコンディショニング指導が出来る技術を習得する。				
授業計画(全体)					
各テーマに合わせた内容の実習を行う。各実習終了後、実技テストを行い理解度、到達度の確認を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明 [授業外学修]シラバスの熟読			⑨	[テーマ] サーキットトレーニング [内容] サーキットトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書162～168ページを参照に復習する。
②	[テーマ]コンディショニング概論 [内容] コンディショニングの基礎知識を学ぶ。 [授業外学修]配布資料を参照に復習する。			⑩	[テーマ] ストレッチング [内容] ストレッチングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書178～213ページを参照に復習する。
③	[テーマ] 代謝系トレーニング [内容] 代謝系トレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書91～97ページを参照に復習する。			⑪	[テーマ] ウォーミングアップとクーリングダウン [内容] ウォーミングアップとクーリングダウンの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書272～279ページを参照に復習する。
④	[テーマ] コーディネーショントレーニング [内容] コーディネーショントレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書119～126ページを参照に復習する。			⑫	[テーマ] フィットネスチェック(基礎体力チェック) [内容] フィットネスチェックの基礎知識を学び、フィットネステストの企画、運営、測定が出来るようにする。 [授業外学修]教科書280～288ページを参照に復習する。
⑤	[テーマ] スタビリティトレーニング [内容] スタビリティトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書127～135ページを参照に復習する。			⑬	[テーマ] フィールドテスト(専門体力テスト) [内容] フィールドテストの基礎知識を学び、フィールドテストの企画、運営、測定が出来るようにする。 [授業外学修]教科書289～294ページを参照に復習する。
⑥	[テーマ] アジリティトレーニング [内容] アジリティトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書139～147ページを参照に復習する。			⑭	[テーマ] 身体測定 [内容] 身体組成測定の基礎知識を学び、身体組成検査の企画、運営、測定が出来るようにする。 [授業外学修]教科書295～302ページを参照に復習する。
⑦	[テーマ] スプリントトレーニング [内容] スプリントトレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書149～158ページを参照に復習する。			⑮	[テーマ] 実技テスト① [内容] 授業理解度の確認のため上肢の実技試験を行なう [授業外学修]テストに備え全範囲を復習する
⑧	[テーマ] エンデュランストレーニング [内容] エンデュランストレーニングの基礎知識を学び、指導できるよう実技を行う。 [授業外学修]教科書158～161ページを参照に復習する。			⑯	[テーマ] 実技テスト② [内容] 授業理解度の確認のため下肢の実技試験を行なう [授業外学修]テストに備え全範囲を復習する
成績評価方法(方針)					
評価は実技試験の結果に基づき評価する。試験については授業内で解説しながらフィードバックする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	○				20%
演習・実技	◎	◎	◎		80%
授業態度	○	○	○		減点あり
出席					欠格条件
関連科目	コンディショニング論、アスレティックトレーニング論Ⅰ				関連資格
教科書	日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト⑥				参考書
オフィスアワー	担当:小勝(水曜日12:40～14:10)				その他
					・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・ ・JPSUスポーツトレーナー
					日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト①～⑤、⑦～⑨
					連絡先:第2体育館2階 小勝研究室